

---

平成 16 年度

学位論文

兵庫教育大学大学院

論文題目

生涯学習につながる  
中学校音楽科の教育効果について

主任指導教員  
兵庫教育大学大学院  
教科・領域教育専攻  
M 03188 J

鈴木 寛  
学校教育研究科  
芸術系コース（音楽）  
市原 智子

---

---

## 目次

ページ

### はじめに

### 第1章 研究仮説の形成

第1節	生涯教育、生涯学習の概念	3
	生涯学習と音楽	4
	生涯学習社会における学校の音楽教育	6
第2節	[生きる力]と音楽の学習	7
第3節	仮説の形成	8

### 第2章 予備調査

第1節	調査の目的	9
第2節	調査の方法	9
第3節	予備調査における考察	14

### 第3章 本調査

第1節	調査の目的	24
第2節	調査の方法	24
第3節	調査結果	28
	平均値と標準偏差・分散分析	28
	%表示と比率の差の検定	32
第4節	被験者の再グループ分け	52
	平均値と分散分析	57
	異なる集団間のt検定	59
	グループ内男女のt検定	60
	因子分析	62

### 第4章 結果と考察

第1節	因子分析結果	73
第2節	仮説の検証	84
第3節	音楽科教育の課題と展望	90

おわりに・謝辞	94
---------	----

参考文献および資料	96
-----------	----

中学校音楽科の本質的意義	144
戦前の音楽教育	145
戦後の音楽教育の流れ	145
学習指導要領音楽科(中学校)の変遷	145

---

## はじめに

今日、教育界にとって大きな変革が求められている。その変革は、生涯学習社会の実現に向けて学校の在り方を見直し「前向きに生きる人間の育ち」を保障できるような、本来あるべき学校の姿に戻ろうとするところにある。それは学力を、従来の「学んだ結果としての力」から「学ぶ力」「学ぼうとする力」へと拡げてとらえようとする学力観に示されている。実際、文部科学省では、2002年度からの新指導要領で新設された「総合的な学習」もそのねらいを「学び方を身につけて」「生きる力」の育成を図ることとしており、これまでの一定の知識や価値を伝えておけばよいとする学校観から、能動的で主体的な人間の育成を求めていく学校観へと方向の転換が図られている。

すなわち、よりよく生きようとする人間の心の教育こそが、生涯学習社会における学校の役割である。またこれは学校を離れてからも人間がもともと持っている「知的好奇心」や「向上心」を発揮して学べるような環境をつくりあげることが、社会の責務であるとする考えに立っている。このような人間形成をめざす学校教育において、音楽科がどう関わることができるか、どう寄与できるかについて考えたい。

音楽科教育の意義は、中学校という多感な時期に、「音楽がわかることの楽しさ」「できることの楽しさ」「音楽との新鮮な出会いから生まれる楽しさ」など、学校であるからこそ得られる音楽の感動体験を通して、音楽活動の喜びを与えるとともに、生涯にわたって音楽に親しむ生徒を育成することである。同時にこのことが音楽科教育の原点である。

マーセル<sup>1</sup> (James L. Mursell 1893-1962) は、こう述べている。

『音楽は、学校と社会を結ぶ鎖の、欠くことのできない大切な一つの輪というべきものです。 (*It provides the necessary, vitalizing link between the school and society.*)  
音楽は、人間生活に役立ってこそ、教育に取り入れる価値があります。

(*All valid educational values are human values. Education exists wholly and solely for the sake of life.*)

音楽経験は、私たちが一緒に楽しむべき大切な人間経験です。

(*Just in proportion as music is apprehended as a significant type of human experience.*)

音楽は人間生活に役立ってこそ教育的な価値がある。人生をよりよいものにするための音楽であって、豊かに生き、より善良な、より暖かい心の人間になるためのものなのである。』

本研究では、学校修了後も音楽の「楽しさ」を求めて活動をしようという人間の欲求の根源は何なのか、そのきっかけはどこからくるものであるかに注目し、中学校時代の音楽科教育が、生徒の心の中でどのように変化し作用していくのかを考察する。そして、最終的には、生活の中で「音楽の楽しさ」を自ら求め、追求していく人間の欲求の根底を探ることにより、芸術教科である音楽が、人間教育に関わることで、人間の心を豊かにするのではないかという、教科としての究極の目標にせまることになると考える。

学校における音楽科教育の意義である「音楽がわかることの楽しさ」「できることの楽しさ」「音楽との新鮮な出会いの楽しさ」と、「学校であるからこそ得られる音楽の感動体験」を、私たち教師が子どもたちに、どのように感得させるかが大きな原点になると考え、学校時代の音楽経験が、その後の生活の中でどのように変化し、行動に影響を及ぼすのか、そして自ら求める音楽活動の背景にある要因とは何かを年代を追って調べ考察してみる。

<sup>1</sup> 『音楽教育と人間形成』 James L. Mursell 著 / 美田節子訳 音楽之友社 1967

原書：『Human Values in Music Education』 by JAMES L. MURSELL SILVER, BURDETT AND COMPANY

マーセルは、『音楽教育と人間形成』James L.Mursell 著 / 美田節子訳 『Human Values in Music Education』) こういう言葉でも述べている。  
この研究のテーマを設定するきっかけとなったマーセルの言葉である。

『音楽教師は、音楽の技術を教えるだけでなく、生徒に多方面な教養を身につけさせ、それによって自己を表現し、社会的に活動する機会を与えることが、すなわち、音楽を教えることである理念を、しっかり把握しているはずだ。』

(*He must plan his work always with an eye to bringing music to the little child not as a series of tasks to be performed, or a series of habits to be set up, but as a many-sided cultural experience and an opportunity for self-expression and social activity.*)

教師の願うことは、生徒の音楽的感受性が鋭敏になり、音楽的洞察力が発達し、視野が広がることです。生徒にとって、よかれ悪しかれ、教師が、大きな影響を与えるものであることを知っていなければならない。』

(*Rather his ambition must be to help such a student to grow in fineness of musical sensibility and responsiveness and in depth and breadth of musical insight and satisfaction of his pupil's musical career.*)

## 第1章 研究仮説の形成

### 第1節 生涯教育、生涯学習の概念

生涯教育... (Life long education) 生涯学習より以前に使われていた言葉で教える側からの言葉。昭和41年頃この言葉はまだアイデアにすぎなかった。

生涯学習... (Life long learning) 昭和56年中教審答申で提唱された。生涯教育と区別した。学ぶ側からの言葉。

『生涯教育とは (Life long education) とは、知育において学校が主役になるのではなく、学校を卒業した後で個々の人間が主役となる。つまり死ぬまで自己を知的に教育することではなければならない。』<sup>2</sup>と佐藤が述べているように、「生涯教育」は学校中心の社会から脱却し、学習を希望するすべての人々に学習機会を提供し、自由に学習する権利を保障しようという考え方に立っている。1965年12月にパリで行われたユネスコの成人教育推進教育委員会において、ポール・ラングラン (Paul Lengrand) から提唱された概念である。この考え方はその後、多くの国々に広まっていった。

わが国では、ユネスコ会議直後に、政府代表の波多野完治によってラングランの生涯教育の考え方が紹介され、そして1970年代から特に行政レベルの制度改革や再編成のために採用され受容、普及していった。その際、学習者を主体とした教育の考え方であることを強調するため、生涯学習 (Life long learning) という表現を用いたため、現在では生涯学習という表現が多用されている。

昭和56年 (1981年) 6月の中央教育審議会の第26回答申で、生涯教育と生涯学習を区別した。第1章 生涯教育の意義 で、

『人々は自己の充実・啓発や生活の向上のため、適切かつ豊かな学習の機会を求めている。これらの学習は、各人が自発的意思に基づいて行うことを基本とするものであり、必要に応じ自己に適した手段・方法はこれを自ら選んで生涯を通じて行うものである。その意味ではこれを生涯学習と呼ぶのがふさわしい。この生涯学習のために、自ら学習する意欲と能力を養い、社会の様々な教育機能を相互の関連性を考慮しつつ総合的に整備・充実しようとするのが生涯教育の考え方である。』

言い換えれば、生涯教育とは国民の一人一人が充実した人生を送ることを目指して生涯にわたって行う学習を助けるために、教育制度全体がその上に打ち立てられるべき基本的な理念である。このような生涯教育の考え方はユネスコが提唱し、近年国際的な大きな流れとして、多数の国々において広く合意を得つつある。

また、OECD (経済協力開発機構、Organisation for Economic Co-operation and Development) が、義務教育終了後における就学の時期や方法を弾力的なものとし、生涯にわたって教育を受けることと労働などの諸活動とを交互に行えるようにする、いわゆる「リカレント教育」<sup>3</sup> (recurrent education) を提唱したのもこの生涯教育の考え方によるものである。また、我が国には、個人が人生の比較的早い時期に得た学歴を社会がややもすれば過大に評価する、いわゆる学歴偏重の社会的風潮があり、そのため過度の受験競争をもたらすなど、教育はもとより社会の諸分野に種々のひずみを生じている。今後、このよ

<sup>2</sup>佐藤三郎：『生涯学習時代の学校教育 共通の基礎・基本とは何か』 1991 東信堂

<sup>3</sup> 1970年パリのOECDで提案された言葉、個人の生涯に亘って継続的に行われるように教育を延長すること。「回帰する・還流 (循環) する教育」と訳される。(川で生まれたサケが海で成長し、またふるさとの川に戻ってくる状況) を想定するとわかりやすい。

うな傾向を改め、広く社会全体が生涯教育の考え方に立って、人々の生涯を通ずる自己向上の努力を尊び、それを正当に評価する、いわゆる学習社会の方向を目指すことが望まれる』と、示されている。

このように、わが国において生涯教育 / 生涯学習の考え方が広く受容された。

その要因として以下のような現代人を取りまく状況があげられる。

科学の進歩などによる急激な社会構造の変化に対応することが人々に求められたこと。物質的な豊かさから心の豊かさを求める時代へと変化し、人々が精神面の充実を図ろうとするようになったこと。

知育偏重や学歴社会による弊害を抱えた教育全体を改革するために、新たな教育原理が求められていたこと。

生涯教育 / 生涯学習とはきわめて現代的な背景を持って提唱され、受容・普及した教育理念であるため、古くから言われている「人間は一生勉強である」というような、精神修養的または独学的な考え方と根本的に異なっている。

## 生涯学習と音楽

現在、『生涯学習』『生涯教育』という言葉は、広く世間一般で使われ、学校教育後に再び学習し活動している人たちにとって、自分の活動そのものを誇る言葉としてゆきわたっていると思われる。各自治体において生涯学習課という名で、音楽・文化・美術などの文化的講座、運動施設でのスポーツなど体育的講座・地域の公民館活動に至るまで『生涯教育』がなされており、この国における老後の精神的な活動の場は保証されている様子である。が、あらゆる人が求めるというわけではなかったり、内容面で未消化の部分もあったり、言葉が一人歩きしている面も多々あるようである。

しかし、音楽面においては、1980年代以降、学校を中心とするPTAコーラス、地域での合唱団グループ、音楽グループは、確実に増えてきており、レベルもアップしてきているのが現状である。

姫路市においても、ホール専属の合唱団、市民合唱団、女声合唱団を中心地として各小・中学校のPTAコーラス、児童合唱団、考古学園コーラス部、生涯大学校コーラス部、ミュージカルグループ、公民館コーラス等、合唱活動だけに限っても、幅広い年代を通して数多くの人々が活動している。また、個人・グループ活動としての音楽会、小会場でのコンサートも2000年を前後して非常に増えてきている。公的な管轄は、教育委員会の生涯学習課、文化課を中心になされているが、ホールの企画等は文化振興財団が行っている。どの自治体においても、現在の市民の生涯音楽活動は確実に浸透してきており、幼児期から、学童期、青年期、学校教育後の成人、熟年に至るまで、生涯において学習機会・余暇活動機会と、人の学習欲求・要求が一致すれば、生涯につながる音楽活動は十分可能であると考えられる。

なぜこのように音楽活動を求めている人が増え続けるのか、物質的に恵まれた今の時代に求められる精神的なゆとりとは何か、活動意欲はどこから生まれてくるのかなど、疑問は多いが、音楽の本質は変わらない。音楽は人のこころをとらえ、魅了する。またリラックス効果もある。生涯にわたって「音・音楽」に触れ、こころ安らぐひとときを音楽に求める人たちの欲求に答えるべく音楽は存在するのである。この音楽のもつ本質がどう関わってくるのか。そして、人が音・音楽との交流によって美的感情を形成し、また音楽美を追究することによって自己形成をすることは、人間存在の本質の一側面である。

それゆえいつの時代においても自由に音楽を享受し表現、創造することは、人間の自由な音楽活動であり基本である。

生涯学習社会における音楽活動を生涯音楽学習(Life long music learning)と称した場合、その定義は『生涯音楽学習とは、すべての人々が生涯にわたって、そしてあらゆる次元で行う、自由な音楽活動(音楽の享受・表現・創造)そのものを意味する概念であるとともに、その自由な音楽活動を権利として保障するための理念でもある。』ここでは、人間が音・音楽との交流によって美的感情を形成し、そしてさらに音楽美を追究することは人間の自然な営みであるとする考えが根底になっている。<sup>4</sup> この生涯学習の概念を、構造的に把握するために生涯教育では、人間の一生にわたる発達段階などの時系列に沿った垂直的次元と、個人や社会全体にわたる水平的次元において、必要な統合を達成することが重視されている。

ここでの垂直的次元における統合とは、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期などの統合を意味する。水平的次元での統合とは、家庭教育、学校教育、社会教育などに代表される教育機会の統合のことである。そして、この二つの次元をクロスさせ統合することが生涯教育の考え方では強調されている。このような統合の原理にしたがって生涯音楽

<sup>4</sup>丸林実千代：『生涯音楽学習入門』1999 音楽之友社

学習を構造的にとらえると、学童期や学校教育を中心に進められてきた音楽教育研究は、対象とする分野を拡大せざるを得なくなる。成人期や老年期における音楽学習、家庭や社会における音楽学習などには、今後追求すべき多くの課題が潜在していることに気づくと思われる。

## 生涯学習社会における学校の音楽教育

生涯学習社会において、学校の音楽の授業や音楽活動は、人々の一生涯にわたる自由な音楽活動の中心では決してない。生涯教育という考え方は、学校中心の考え方からの脱却であって、学校の音楽授業や音楽活動は、生涯音楽学習の一部ととらえるべきである。しかしそれは、単なる一部ではなく重要な一部である。生涯学習社会を展望して学校の音楽教育には、多様な音楽ジャンルを学習内容とすることや、地域（社会）や家庭と連携することが強調されているが、しかし単に多くの音楽ジャンルを授業に取り入れたり、即興演奏を重視したり、地域で行われてきた音楽活動を音楽授業や総合的な学習の時間に経験させることによって、学校の音楽教育が生涯学習社会を展望したものなるという考えは短絡的である。

学校の音楽教育は、生涯音楽学習の一部であることを認識し計画・実行されなければならない。そして、音楽そのものの美しさ、良さをもっと生徒に伝えなければならない。これらは基本のことであるが、教師は、自分の担当する生徒が、就学前にどのような音楽活動を経験してきたか、また卒業後にどのような音楽活動を経験する可能性があるのだろうか、などを考慮して音楽教育をとらえているのだろうか。また、学校以外の家庭や地域（社会）でどのような音楽活動をしているのかを把握することも重要であり、何十年後の音楽行動の実態までも含め、今の学校音楽教育がどう機能していくのか調査していかねばならない。

学校教育と違う音楽教室の教育を受けた子供も含めた、すなわち、生徒を取り巻く様々な次元での音楽活動を構造的に把握し、生徒の学校でしか経験できない音楽活動や、その年齢に最も必要とされる音楽活動の機会を優先的に提供すること、そして人間的なつながりの中で得られる音楽の素晴らしさを提供することが、今の学校の音楽教育には求められている。

教師にとって、中学校という多感な時期に、音楽がわかることの楽しさ、できることの楽しさ、音楽との新鮮な出会いから生まれる楽しさなどを、学校であるからこそ得られる音楽の感動体験を通して、生徒に感得させることが音楽科教育の原点である。それが生涯にわたっての「生きる力」の育成を図ることに繋がるものと考えられる。



## 第2節 [生きる力]と音楽の学習

西暦2000年代を迎えた今日、日本の社会は国際化、情報化、科学技術の発展、環境問題、少子・高齢化など、様々な面で大きく変化しており、これを踏まえた新しい時代の教育のあり方が問われている。このような現代の教育課題に対して、中学校音楽科の改訂を受けて、これからの音楽科教育はいったいどのような意味と役割を持っているのだろうか。

### (1) 人間関係の基盤をつくる

これからの変化の激しい社会においては、いかなる場面でも他人と協調しつつ自律的に社会生活を営んでいけるような、人間としての実践的な能力が必要である。そうした能力を育てるためには、協調性、自律性、社会性などを根底から支える人間関係基盤に着目しなければならない。その基盤とは、コミュニケーションの能力である。その過程では情報伝達や意思疎通の手段として、言語、音声、視覚的刺激、記号など、様々な媒介手段が用いられる。音や音楽はそうしたメディアの中でもとりわけ非言語的意味世界において、コミュニケーションを成立させる意味深い機能を持っている。音楽の持つこのようなコミュニケーション機能に支えられて、生徒たちは様々な音楽活動の中で人間関係の中で基盤を形成し、「生きる力」の原動力をはぐくんでいくことができる。

### (2) 人間らしい心をはぐくむ

「生きる力」の中には、正義感や公正さを重んじる心、生命を大切にし、人権を尊重する心などの基本的な倫理観や、他人を思いやる心や優しさ、相手の立場になって考えたり、共感したりすることのできる温かい心などが含まれている。こうした人間らしい心をはぐくむ源として、音楽は無限ともいえる可能性を持っている。

なぜなら、音楽の幅広い活動、とりわけ、技能習得の過程、音楽美の享受過程の中には、知的なものと感覚的なものの調和、困難を乗り越えていく意志と集中力部分と全体の統一といった人間らしい心をはぐくむ基盤が含まれているからである。こうして今日の中学生はそれぞれの発達段階に応じて、音楽活動に宿る連帯感に支えられながら、「感動体験の共有」という音楽科固有の価値の実現を通して、「心の教育」に深く関与することができるであろう。

### (3) 価値観を拡げる

これからの社会においては、国際化や情報化の進展に伴って、あらゆる情報の中から自分に本当に必要なもの、自分にとって意味あるものを選択し、それらを生かして主体的に自分を築き上げていく力がますます必要となっている。科学技術が高度に発達した現在、マスコミの高質な伝達手段を通して、今や世界中のあらゆる音楽情報が私たちの手元に届くようになった。そうした情報の選択と活用能力の基盤となるものは「価値観」である。音楽の学習は、芸術や文化の領域で、未来の音や音楽との出会いを起点として、生徒たちの価値観を育て、広げていく意味深い場を提供することになる。

### 第3節 仮説の形成

以上、生涯教育、生涯学習の概念、生涯学習と音楽、生涯学習社会における学校の音楽教育でそれぞれ大きな特徴を捉えてきたが、「物質的な豊かさ」から「心の豊かさ」を求める時代へと変わり、人々が精神面の充実を図ろうとするようになったことは大きな変化である。

学校は、様々な音楽活動の中で人間関係の基盤を形成し、「生きる力」の原動力をはぐくんでいくことができ、「感動体験の共有」という音楽科固有の価値の実現を通して、「心の教育」に深く関与することができる。芸術や文化の領域で、未来の音や音楽との出会いを起点として、生徒たちの価値観を育て、拡げていく意味深い場でもある。

学校であるからこそ得られる音楽の感動体験を通して、音楽の素晴らしさを感じさせることが音楽科教育の原点であり、これらの教育的活動が、生涯にわたっての「生きる力」の育成を図ることに繋がるものと考え。生きる力に繋がる中学校音楽科の、根底にある意義を確かめていくため次の仮説を設定した。

「生涯にわたっての音楽行動は、

学校教育における音楽の学習体験に起因する」

さまざまな問題をかかえた今の学校教育の中で、教育というものの自体を模索する中学校音楽科のこれからのあり方、生き方の指針となる新しい音楽科のとらえ方を、上記の仮説を検証することで探っていきたいと考える。

## 第2章 予備調査

### 第1節 予備調査の目的

中学校での音楽の学習経験・学習体験が、将来どういう行動となって音楽活動に生かされていくのか？生涯に亘る音楽活動の背景を探るため、中学生から成人まで幅広い年代層を対象とした、アンケートを行いたいが、まず質問項目を精選するために予備調査を行う。

音楽を職業としている現場の音楽教師から、この職業を選んだ動機・過去の音楽教育からの経験・現在の音楽に関する行動等を、一方、音楽のプロパーでない人、学校教育を離れた世代として、生涯大学校で音楽講座を受講している音楽愛好者から、過去の音楽教育からの経験、現在の音楽に関する行動等のアンケートをとる。

そして、中学1.2年生より2クラス抽出し、現在の学習体験、音楽経験、今の音楽に対する意識等をアンケートで探ってみる。

3つの集団のアンケート結果から、音楽経験、音楽活動等の実態を把握し、生涯に繋がる音楽経験、音楽意識の関連性を調査する。

### 第2節 調査の方法

質問紙によるアンケート調査

#### (1) 被験者

<b>被験者</b>	・・・兵庫県姫路市中学校音楽科教員、各中学校音楽科担当者代表		
	<b>男子 5名</b>	<b>女子 25名</b>	<b>合計 30名</b>
年代内訳	昭和19年～昭和29年生まれ	現在50歳～60歳	《 2名 》
	昭和30年～昭和39年生まれ	現在40歳～49歳	《 6名 》
	昭和40年～昭和48年生まれ	現在31歳～39歳	《 16名 》
	昭和49年～昭和56年生まれ	現在23歳～30歳	《 6名 》

<b>被験者</b>	・・・姫路市立生涯学習大学校 音楽コース受講学生		
	<b>男子 7名</b>	<b>女子 33名</b>	<b>合計 40名</b>
年代内訳	大正12年～	現在81歳～	《 1名 》
	大正13年～昭和8年生まれ	現在71歳～80歳	《 10名 》
	昭和9年～昭和18年生まれ	現在61歳～70歳	《 20名 》
	昭和19年～昭和29年生まれ	現在50歳～60歳	《 8名 》
	昭和30年～昭和39年生まれ	現在40歳～49歳	《 1名 》

<b>被験者</b>	・・・姫路市立安室中学校 1.2年生各1クラス		
	<b>男子 38名</b>	<b>女子 34名</b>	<b>合計 72名</b>
学年内訳	1年生	男子 19名 女子 17名	合計 36名
	2年生	男子 19名 女子 17名	合計 36名

## (2) 予備質問紙

音楽に関する質問は4つのカテゴリーで分類した。

音楽科授業や部活動の経験  
日常生活と音楽(家庭・社会)  
個人の嗜好(自発性)・心的効果  
将来の楽しみ方・展望

上のようなカテゴリーで各分野にわたる質問紙を作った。質問方法は、中学校音楽教員、一般、中学生と対象が異なるため、対象によって多少質問の仕方を変えた。それぞれのカテゴリーの中で質問項目を作成し、(はい、いいえ)で答える質問と、5段階の評定尺度により回答する形式で行った。そしてそれぞれを得点化し数値データとした。

## 被験者 音楽科教員(資料1)

質問項目は30項目と自由記述2問で、分類は次の通りである。

## 音楽科授業や部活動の経験

1.2.3(授業の楽しさ)	4(楽しかった授業内容)	5(楽しかった理由)
6(音楽経験の印象)	7(音楽活動からの学び)	8(指導の音楽嗜好への影響)
9(教師からの影響)	10.11.12(音楽活動実態)	13-1(音楽活動理由)
13-2(活動実態)	20(既習曲記憶)	

## 日常生活と音楽(家庭・社会)

14(音楽活動開始時期)	15(音楽活動内容)	16(音楽活動開始年齢)
17(歌うことの楽しさ)	18(音楽の好み)	21(音楽活動実態)
22-1(過去の音楽活動時期)	22-2(過去の音楽活動理由)	24(演奏会参加)
28(生活の中での音楽愛好)	30(現在の音楽活動実態)	

## 個人の嗜好(自発性)・心的効果

19(音楽の効果)	23(音楽愛好の意志)	25(普段歌う音楽)
26(音楽聴取方法)	27(共に歌う楽しさ)	

## 将来の楽しみ方・展望

29(教師を職業として選んだ理由) (音楽愛好の意志) (音楽教師を志した動機)

## 被験者 一般（資料2）

一般高齢者の対象も含まれるため、回答は、（あてはまる どちらともいえない あてはまらない）と3段階の評定尺度により回答する形式で行った。そしてそれぞれを得点化し数値データとした。質問項目は29項目で、分類は次の通りである。

## 音楽科授業や部活動の経験

- |               |                  |                |
|---------------|------------------|----------------|
| 1.2.3（授業の楽しさ） | 4（楽しかった授業内容）     | 5（楽しかった理由）     |
| 6（音楽経験の印象）    | 7（音楽活動からの学び）     | 8（指導の音楽嗜好への影響） |
| 9（教師からの影響）    | 10.11.12（音楽活動実態） | 13-1（音楽活動理由）   |
| 13-2（活動実態）    | 20（既習曲記憶）        |                |

## 日常生活と音楽（家庭・社会）

- |              |                |              |
|--------------|----------------|--------------|
| 14（音楽活動開始時期） | 15（音楽活動内容）     | 16（音楽活動開始年齢） |
| 17（歌うことの楽しさ） | 18（音楽の好み）      | 21（音楽活動実態）   |
| 23（演奏会参加）    | 27（生活の中での音楽愛好） |              |

## 個人の嗜好（自発性）・心的効果

- |            |             |            |
|------------|-------------|------------|
| 19（音楽の効果）  | 22（音楽愛好の意志） | 24（普段歌う音楽） |
| 25（音楽聴取方法） | 26（共に歌う楽しさ） |            |

## 将来の楽しみ方・展望

- |                        |
|------------------------|
| 28（この講座を選んだ理由,音楽愛好の意志） |
| 29（人の生活の中での音楽の効果）      |

## 被験者 中学生（資料3）

質問項目は34項目で、それぞれのカテゴリーの中で質問項目を作成し、(はい、いいえ)で答える質問と、5段階の評定尺度により回答する形式で行った。そしてそれぞれを得点化し数値データとした。分類は次の通りである。

## 音楽科授業や部活動の経験

1.2 (授業の楽しさ)	3 (楽しかった授業内容)	4 (楽しかった理由)
6 (音楽活動からの学び)	7 (音楽経験の印象)	
8.9.10.11.12.13.14.15. (音楽の基礎学力)		5.16-1 (人からの影響)
16-2 (音楽嗜好)	27.28 (音楽活動実態)	29-1 (音楽活動理由)
29-2 (活動実態)		

## 日常生活と音楽（家庭・社会）

17.18.19 (家庭の音楽環境)	30 (音楽活動実態)	30-1 (音楽活動内容)
30-2 (音楽活動開始年齢)	30-3 (活動期間)	

## 個人の嗜好（自発性）・心的効果

20.23.24.26 (音楽の効果)	21 (音楽の好み)	22.25 (音楽愛好の意志)
30-4 (活動のきっかけ)	31 (歌う楽しさ)	

## 将来の楽しみ方・展望

32 (音楽の価値)	33 (音楽活動の意志)	34 (意識的な音楽生活)
------------	--------------	---------------

## (3) 調査の手続き及び日程

**被験者 音楽科教員の調査**

調査者が事前に直接、音楽科担当校長に調査の目的、方法について説明し、協力を依頼した。当日研修場所を訪問し、調査の目的、依頼のお願いをし、調査者立ち会いのもと、調査者がアンケートを実施した。

日程・・・平成14年(2004)5月18日(火) 4:00～

**被験者 一般の調査**

調査者が事務局を訪問、昨年度まで姫路市音楽科担当校長であった担当者に調査の目的、方法について説明し、調査を依頼した。日程の調整をし、当日調査者が学校を訪問し、担当講師に調査の目的、依頼のお願いをし、調査者立ち会いのもと、当日の講座修了後、調査者がアンケートを行った。

日程・・・平成14年(2004)6月28日(月) 12:15～

**被験者 中学生の調査**

調査者の現任校であるため、事前に校長の了解を得ており、音楽担当者にも依頼してあった。1年2年共に音楽教師の担任クラスで、音楽の授業時間の中で実施してもらった。

日程・・・平成14年(2004)6月1日(火)～6月4日(金)

## (4) 回答方法

(2)の質問紙で、は5つの項目で

- 5・・・よくあてはまる
- 4・・・少しあてはまる
- 3・・・どちらともいえない
- 2・・・あまりあてはまらない
- 1・・・全くあてはまらない

から当てはまると思われる数字に をつけて回答してもらった。

また、高齢者も含む生涯学習大学校の人には、3つの項目

(あてはまる      どちらともいえない      あてはまらない)

で回答してもらった。そして

(      はい      ・      いいえ      )

で答える質問と、自由回答は文章で記述してもらった。各項目の数値をそれぞれ得点化し数値データとした。

調査者が、回答が難しいときは調査者が説明をし、回答の時間的制限は行わず、答えられる時間を設定し回答をしてもらった。

### 第3節 予備調査における考察

#### 調査対象者の検討

調査対象者は、直接教育にあたる音楽科教員（被験者 ）、生涯学習大学校で自ら音楽講座を選択した一般（熟年）世代（被験者 ）そして現役の中学生（被験者 ）におこなった。データを比較すると、下の表のように「中学校の授業」「まわりの影響」「歌う楽しさ」の質問で現役の中学生Cと大人A Bの平均値に大きな差が見られた。また、回答方法の違いはあるが「音楽の効果」「音楽愛好の意志」においては、一般Bグループで大きな差が見られた。「音楽の効果」中学生Cにおいては非常に高い数値を示した。したがってアンケートを採る対象として、中学生から成人、熟年世代にわたるまでどう数値が変化していくのかを知るため、年代をおって中学、高校、大学、一般、（20歳代半ばから70歳代）のデータの採取が必要と考えられる。

	平均値			
	A(音楽教員)	B(一般)3段階	B(一般)5段階	C(中学生)
中学校の授業	4.33	2.65	4.30	3.70
まわりの影響	3.43	2.20	3.40	2.81
歌う楽しさ	3.8	2.81	4.62	3.64
音楽の効果	4.33	2.93	4.85	0.91
音楽愛好の意志	4.35	2.72	4.44	0.78

0.91 0.78は(はい、いいえ)回答で(1.0)での平均値

しかし、今回調査した3グループは、教育を受ける立場の中学生・教育する立場の教員・音楽講座を受講している一般成人の世代とそれぞれ立場が違う異質な集団であるが、現場で教育にあたる職業としてのプロの背景から得られることも多く、また、生涯大学校の音楽講座の受講者からも、実際に音楽にふれた生活を過ごしている立場からの現実感あふれる意見が得られた。現役の中学生からは生の声が得られ、どの集団からも貴重な意見、データが得られたので、その結果を基に本調査に向けて、再検討し調査を進めていく。

#### 質問内容、項目の検討

（音楽科教員グループの質問、一般グループの質問、中学生グループの質問とする）

事前の調査としての一番の失敗は、項目比較がしにくかったこと。質問内容において、各集団での質問、項目が一致していなかったためデータの比較可能な質問に限られた。さらに質問項目が多いため、内容が重複している質問があった。質問項目は、各要因別に有効かつ最小の数にしなければならない。以下、比較検討できる質問項目で検討してみた。

#### 【質問1～3】 【質問1～2】

「授業の楽しさ」については、小、中、高校時代をまとめて、「学校時代の楽しさ」としてまとめることとする。したがって中学生にとっては、小学校の授業の楽しさと今の中学校での授業の中身を問うことになる。



## 【質問 4.5】 【質問 3.4】

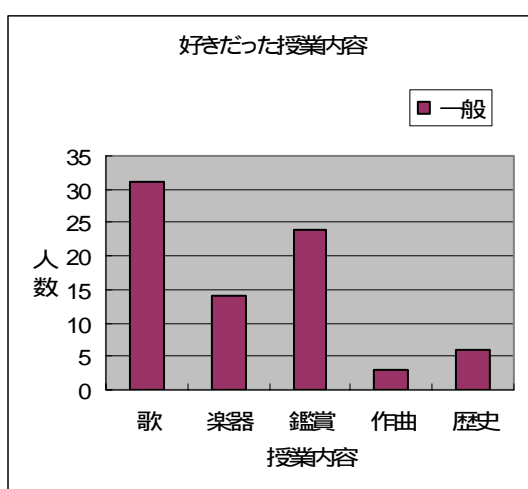
「主に好きだった授業内容」を問う質問は、年代をこえて様々な指導内容から回答にばらつきが見られるので、他の質問方法で「歌うこと」「合唱・合奏」「楽器」の質問方法に変える。「好きだった授業内容」は、

一般においては(図1)「歌」が一番多く、「鑑賞」「器楽」と続く、学校での授業の中で「歌」が、年代を経ても心をとらえている活動といえる。

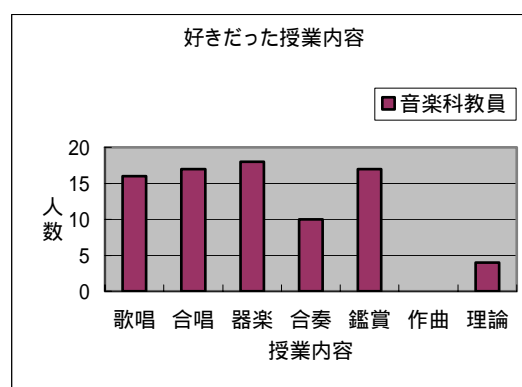
音楽科教員(図2)においても「歌唱」「合唱」「器楽」「鑑賞」とそれぞれの分野において平均的な人数である。

反面、中学生(図3)にとって「合奏」「鑑賞」「合唱」「器楽」「鑑賞」と「主に好きだった授業内容」は、相違がみられる。

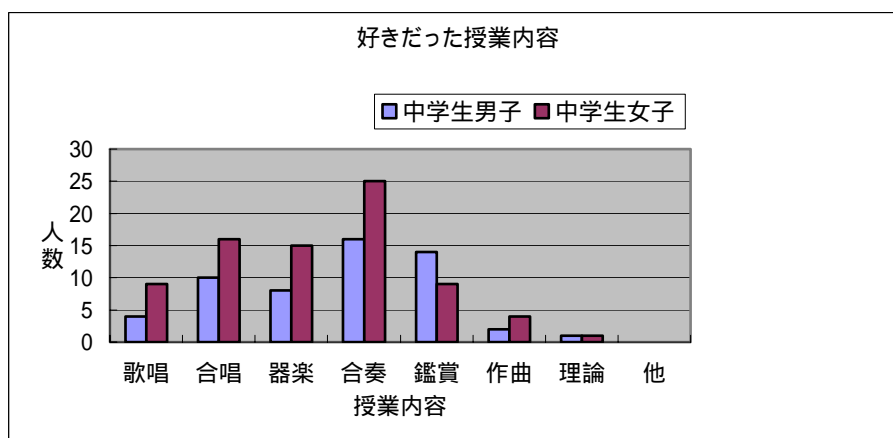
いわゆる大人にとっては、学校での授業の中で「歌」が学校修了後に好きな意識として残っていく数字といえる。このことから「歌」「歌う」ことに絞った質問項目を加える必要があると思われる。



(図1)



(図2)



(図3)

## 【質問 6.7】 【質問 5.6】

「音楽経験の印象」「音楽活動からの学び」の質問は、今回の調査の重要な質問項目なので本調査での質問項目の主軸とする。

**【質問 8.9】 【質問 5】**

「まわりからの影響」に関する質問は、一般(図4)においては平均値が2.46 2.20  
音楽科教員(図5)は3.79 3.43 中学生(図6)は男子2.84 女子2.77 男女2.81  
と、集団によってばらつきがあるので、再度調査すべき質問項目である。

	質問8	質問9
回答者数	29	30
合計数	110	103
平均値	3.79	3.43
標準偏差	1.06	1.36

(図4)

質問8	質問9
39	40
96	88
2.46	2.20
0.63	0.68

(図5)

学校教育		質問5
性別		
男	合計数	108
	平均値	2.84
	標準偏差	0.99
女	合計数	97
	平均値	2.77
	標準偏差	1.33
男女	合計数	205
	平均値	2.81
	標準偏差	1.17

(図6)

**【質問 10~16】 【質問 27~30】**

「学校時代のクラブ経験、理由、活動内容、開始時期、期間」「学校以外での音楽経験」は、回答が詳細にわたり、今回の調査目的に付随的に影響されるものと思われるので、質問項目から削除する。

【質問 17】「学校時代に、歌うことは好きだった」は、生活の中の音楽の習慣性なのでこの質問については【質問 4.5.】 【質問 3.4】 につながる質問で、適切な質問事項である。

**【質問 20】**

「実際にまわりの人が、歌ってくれる環境にある」また、「幼い頃の歌ってもらえる環境にあったか」ということは、まわりの人の影響で、という質問と重複するので本調査で削除する。

**【質問 18.19.】 【質問 21.23】**

「歌の習慣性」「心理的効果」は、重要質問であるので再度、質問項目とする。また、中学生の質問項目【質問 8~15】は、「基礎知識の定着度」を学校現場で把握しておくべき数値である。したがって、「学校時代の音楽の基礎学力」を問う質問は、音楽学習領域の最小範囲におさえるべきである。

**【質問 20】**

「童謡」と限定されるため、年代によっては、時代に音楽環境の変化があるため、削除することが賢明であると思われる。

**【質問 21.22】【質問 30】 【質問 30】**

音楽教員の「現在の活動状況」を聞く質問は重複している。「なぜ活動するのか」の背景を知りたいのであるから、結果としての行動なので、この質問項目は削除する。

**【質問 23】 【質問 22】 【質問 34】**

「何らかの音楽に関わって生活したい」は、この論文の最重要テーマである。したがっ

て、どの集団においても再度アンケートし結果分析することで、より詳しいデータを得なければならない。

**【質問 24.25.26】 【質問 23.24.25】 【質問 17.18.19】**

「音楽習慣を自ら求めているか」の質問は、生徒と、収入のある大人との生活の質の比較はできないので、家庭での音楽環境を問う質問にしぼる方が賢明である。

**【質問 27】**は、「共に音楽することの楽しみ」の心情を問うものであるので**【質問 7.27】**に含める。

## まとめ

質問内容は、誰が読んでも理解しやすい言葉で、どの年代でも理解しやすい質問項目にしなければならない。そして、質問の数は、被験者の緊張感が持続する5分程度が望ましい。予備調査では、一般の被験者からは、質問内容を理解できずに無回答となったり、高齢者は学校時代の質問が、国民学校、尋常小学校であるため、「中学校時代に」という質問には答えられなかったり、不都合が一般の被験者から多く出てきた。

中学生の被験者は、質問に対して多様な種類の回答が得られ、豊かな音楽環境で育った時代の違い、音楽の好みにおいても違いが、感じられた。

## 自由記述からの検討項目

被験者		音楽科教員
「あなたが日常生活の中で音楽を楽しむとしたら、どんなことがしたいですか」		「あなたが音楽教師をめざした動機は何ですか？」
鑑賞	4	得意だったので
コンサートに出かける	4	中学の時ピアノが好きだったので
演奏活動	4	中学の時、吹奏楽部で音楽教師をめざす
合唱活動で人の輪を広げたい	4	小学の時、ピアノ講師
生徒といっしょに楽器演奏、合奏	3	学校の先生になりたかったので
ピアノを弾きたい	3	高校での音楽教師の意志を継ぐ
歌を習いたい、歌いたい	2	中学の時音楽関係の仕事に就こうと思っていた
アンサンブル	2	中学の時、本格的な勉強をはじめた
合唱		中学の時の音楽の先生の様になりたかった
バンドを組んで演奏活動		中学の時、男女平等、自分の勉強もでき、やりがいがあるから
音楽の流れる生活を送る		20歳リコーダーの音色に感動して
家族と一緒に歌ったり、合奏したい		中学の時、合唱を聴いてハーモニーの美しさを感じた
仲間と歌いたい		高校で合唱と出会った、教師に出会った合唱が教師という職業に生かせると思っ 中学の時器楽が楽しかった 日々変化する子どもといっしょに学び楽しむことが素晴らしいことだ 子どもたちと一緒に好きな音楽をやりたい

音楽教師からは、「子どもに音楽の楽しさ、喜びを伝えたいから」という教育者としての使命が感じられる。「生徒と共に」「仲間と共に」という項目が多いのが特徴である。この集団の音楽することは「共に音楽する」がキーワードである。この調査項目も質問項目として有効である。また、その活動が生涯に亘って音楽を愛好する行動へ繋がる質問へと、ひろげていく必要性がある。

## 被験者 一般

質問28	質問29
1楽しい好き	32 一生音楽が身近にある生活ができるが良い
2教師	3 腹筋を使って歌うことは、健康にもストレス解消にも良い、人間に備ったこの楽器を大切にしたい
3家族	1 音楽がない生活は考えられない
4通しやすい	6 心が優しくなる。精神的に落ち着いて楽しく豊かな気分を毎日過ごせる。
5友人	7 とても精神的に良いことだと思う
6他	深く学びたかった 気持ちにゆとりが感じられる
	心の安らぎのため、生きがい 音楽を聴いたり、歌ったりしてリラックスできる。
	社交ダンスの音楽をよりよく知りたい 音楽は生活の中で必須のものである。人の感性に関して大変重要である。
	音楽の色々な分野に触れたい。 生活のうまいゆとりにつながると思える。
	音楽とリズムの勉強をしたが、生活にはリズムが大切と思う。
	とても良いことだと思う。
	精神生活に大いにかかわると思う。
	音のない生活は考えられない。3
	絶対に必要、日常生活に不可欠。
	心がやすらぐ
	心を癒せる何かが音楽にはある。
	戦争中は西洋の音楽にふれることは無かった。箏や邦楽は触れていた。音楽は感性を養うのですばらしいと思
	心を和やかにする。
	たいへん良いことだと思う。生活にうまいができる。
	音楽をしていると心が癒される。
	心が豊かになるし、悲しい時にも自然と音が聞こえてくる時には顔が上向きになりホットする気持ちがする。
	楽しい時には身体が自然に動きます。理論ではないと思う。
	感性の豊かさである。
	音楽に触れる生活は、健康で楽しく暮らせる事と思う。
	癒しが必要とされる現代、音楽のある生活が大きくポイントを占める。
	一生音楽はふれていたいと思う。
	ピアノを教えている中でピアノを続けられた子どもは一生の宝としてピアノを学んだ事を誇りにしていると思う。
	発表会でのソロは生涯を通して生涯の誇りになっている。その経験があって年を重ねるエネルギーがわいている。
	心豊かな人生になること。すべての事柄において。
	生活に追われた日常だったが、この年になり時間ができたので受講している。学ぶことは楽しいです。

音楽講座を選んだ理由としては、「音楽が楽しい、好きだから」が大部分を占めた。これはやはり音楽のもつ大きな力「楽しい」「好きだ」という感情が、人の心に大きく影響する項目であるのでどの年代においてもこの調査項目は重要でかつ有効である。

自由記述での「人が生涯において音楽にふれて生活することは、人生の中でどのような効果があらわれるか」の質問では、**被験者 一般**は、熟年の方が多くだけに年代を経た経験からの音楽に対する思い、様々な意見、生き方、人生における指針等がよく分かる記述が得られた。

この調査項目は「これからの音楽の方向性」を問う質問に置きかえて、妥当な質問と判断する。

## 統計処理の問題

教師（5段階） 一般（3段階） 中学生（5段階）での回答方法をとった。

	平均値				標準偏差			
	A(音楽教員)	B(一般)3段階	B(一般)5段階	C(中学生)	A(音楽教員)	B(一般)3段階	B(一般)5段階	C(中学生)
中学校の授業	4.33	2.65	4.30	3.70	1.01	0.58	1.18	1.00
音楽経験の印象	4	2.60	4.20	4.19	1.18	0.66	1.34	0.90
音楽活動からの学び	4	2.58	4.15	4.01	1.03	0.59	1.19	1.09
指導者の影響	3.79	2.46	3.92	0.53	1.06	0.63	1.29	0.50
まわりの影響	3.43	2.20	3.40	2.81	1.36	0.68	1.37	1.17
音楽の効果	4.33	2.93	4.85	0.91	0.82	0.26	0.53	0.29
音楽愛好の意志	4.35	2.72	4.44	0.78	0.62	0.56	1.13	0.41
歌う楽しさ	3.8	2.81	4.62	3.64	1.01	0.46	0.92	1.32

上記の表のように、同じ質問内容の項目をとりあげて、数値によるグループ別比較を試みたが、質問によっては質問項目が各グループごとに一致しないことや、解答方法を統一していなかったため、中学生の3項目（上記の表の赤の数値）においても正しい数値が得られなかった。

一般グループは高齢者が多かったので、回答方法を5項目から3項目に変えたことも含めて、比較するため再度3項目を5項目に置き換えて数値を出したが、正しい数値が得られないので、数値による検討ができなかった。

したがって本調査では、どの被験者においても質問内容の一致、回答方法の統一がなされなければならない。

## 質問数の検討

被験者 音楽科教員、被験者 一般、被験者 中学生において実際に予備調査アンケートを実施してみて、質問項目が多ければ回答に対して緊張感が持続しないことが分かった。自由回答は、このアンケートを好意的に受け止めてくれている人が、より多く記入してくれていた。被験者 一般は、比較的好意的で自由回答も多く得られた。被験者 中学生は、授業の一つとしてのアンケートであったため丁寧な回答であった。したがって、質問は要因がすべて含まれるようにし、質問数は最少に、目標を20項目とする。

## 予備質問項目のグループ別比較

すべての質問が一致しないため、質問項目別に、わかりやすく並べてみた。

質問を4つのカテゴリーで分類した。

音楽科授業や部活動の経験  
日常生活と音楽（家庭・社会）  
個人の嗜好（自発性）・心的効果  
将来の楽しみ方・展望

### 音楽科教員の質問（緑）

### 一般の質問（青）

### 中学生の質問（赤）

#### 音楽科授業や部活動の経験

1.2.3（授業の楽しさ）	1.2.3（授業の楽しさ）	1.2（授業の楽しさ）
4（楽しかった授業内容）	4（楽しかった授業内容）	3（楽しかった授業内容）
5（楽しかった理由）	5（楽しかった理由）	4（楽しかった理由）
6（音楽経験の印象）	6（音楽経験の印象）	7（音楽経験の印象）
7（音楽活動からの学び）	7（音楽活動からの学び）	6（音楽活動からの学び）
		8.9.10.11.12.13.14.15.（音楽の基礎学力）
8（指導の音楽嗜好への影響）	8（指導の音楽嗜好への影響）	16-2（音楽嗜好）
9（教師からの影響）	9（教師からの影響）	5.16-1（人からの影響）
10.11.12（音楽活動実態）	10.11.12（音楽活動実態）	27.28（音楽活動実態）
13-1（音楽活動理由）	13-1（音楽活動理由）	29-1（音楽活動理由）
13-2（活動実態）	13-2（活動実態）	29-2（活動実態）
20（既習曲記憶）	20（既習曲記憶）	

#### 日常生活と音楽（家庭・社会）

14（音楽活動開始時期）	14（音楽活動開始時期）	17.18.19（家庭の音楽環境）
15（音楽活動内容）	15（音楽活動内容）	30-1（音楽活動内容）
16（音楽活動開始年齢）	16（音楽活動開始年齢）	30-2（音楽活動開始年齢）
17（歌うことの楽しさ）	17（歌うことの楽しさ）	
18（音楽の好み）	18（音楽の好み）	
21（音楽活動実態）	21（音楽活動実態）	30（音楽活動実態）
22-1（過去の音楽活動時期）		30-3（活動期間）
22-2（過去の音楽活動理由）		
24（演奏会参加）	23（演奏会参加）	
28（生活の中での音楽愛好）	27（生活の中での音楽愛好）	
30（現在の音楽活動実態）		

#### 個人の嗜好（自発性）・心的効果

19（音楽の効果）	19（音楽の効果）	20.23.24.26（音楽の効果）
23（音楽愛好の意志）	22（音楽愛好の意志）	22.25（音楽愛好の意志）
25（普段歌う音楽）	24（普段歌う音楽）	21（音楽の好み）
26（音楽聴取方法）	25（音楽聴取方法）	
27（共に歌う楽しさ）	26（共に歌う楽しさ）	31（歌う楽しさ）
		30-4（活動のきっかけ）

#### 将来の楽しみ方・展望

29（教師を職業として選んだ理由）	28（この講座を選んだ理由,音楽愛好の意志）	
		32（音楽の価値）
		33（音楽活動の意志）
		34（意識的な音楽生活）

## 予備調査から本調査に向けて

以上の予備調査を検討することで、要因の絞り込み、質問の精選、質問数の数の絞り込みができた。音楽の学習経験・学習体験が、将来どういう行動になって音楽活動に生かされるのか？中学生、高校生、大学生、一般と幅広い年代層を対象とする調査は、過去の音楽教育からの経験、現在の音楽に関する行動等、年月を越えて音楽をどのようにとらえ、体験しているのか、生涯に繋がる音楽行動の背景、実態の中からそれぞれの要因を検討し直してみた。

### ハルの学習理論について

ハル(Hull, C.L. 1952)<sup>5</sup>は、学習の動機づけの理論である刺激 反応(S-R)理論をもとに媒介変数(O)を加える必要があると考え、S-O-R理論を提起した。そして、学習行動の動因は低減によってもたらされるとした動因低減(drive reduction)説を重視し、行動を定量的関数関係で表すことを主張し、次のような理論式を提起した。

$$\text{実行(行動化)} = \text{習慣強度} \times \text{動因} \times \text{誘因} \times \text{反応制止} \times \text{刺激の強さ}$$

またハルは、『行動の力は、学習された刺激・反応結合の強さと、その時の動因の積である。』<sup>6</sup>とし、動因(エネルギー)と習慣(方向づけ)の強度と誘因(報酬)とが相乗的にはたらき、誘因量の変化が動機づけの変化を生み、遂行水準を変化させるとした。

これらの要因はそれぞれが独立変数であり、これらの変数の積により実行(行動化)が見られることになる。

橋本<sup>7</sup>によると、『子どもたちは、同じ授業を受けても、同じ行動をするとは限らない。子どもたちが音楽学習へかりたてられる状態、つまり妨げられない状態であるかを確かめる必要がある。』と述べている。

このように、それぞれの因子が音楽行動を喚起する内的な動機付けとして成立するか、ハルの理論に照らし合わせて検証する。それぞれが相乗的にはたらいて、実行(行動化)をもたらすのである。どの要因が欠けても実行(行動化)は、妨げられる。これらそれぞれの因子のどれ一つが欠けてのも、生涯に亘る音楽的行動にはつながらないことになる。また、その大きさは、ハルが述べているように『行動の力は、学習された刺激、反応結合の強さと、その時の動因の積である。』

そこで、このハルの学習理論を本研究の音楽アンケートの実施に置き換えて考えると、次のようになると考えられる。

$$\text{生涯に亘る音楽的行動} = \text{習慣強度(習慣性の強さ)} \times \text{動因} \times \text{誘因} \times \text{反応制止} \times \text{刺激の強さ}$$

ここでいう習慣とは、学習を通して身につけられた習慣的行動と獲得された概念や意味を

<sup>5</sup> 莊巖舜哉：『ヒトの行動とコミュニケーション』p25-26 1986 福村出版

<sup>6</sup> 奥田真丈・河野重男監修：現代学校教育大辞典 p492 1993 ぎょうせい

<sup>7</sup> 橋本里美：『音楽学習を妨げとなる要因の研究』兵庫教育大学大学院修士論文 p32 1995

も含まれるものと考えられる。すなわち教育における個人の発達水準や学習のための知識や技能といったレディネス (readiness)<sup>8</sup>だと捉えられる。反応制止は、人の行動をおさえとどめることをいう。

「中学校の音楽教育」に限定して考えてみると、

**生涯に亘っての音楽的行動** 従属変数・・・実行(行動化)されるということは、何が原因なのか。また、実行(行動化)されないということは、何が欠如しているのか。その要因・因子として次の5つの項目をあげる。

**1. 習慣強度(習慣性の強さ) 独立変数**・・・学校でどういう学習がなされたか、学習を通して身につけられた習慣的反応。獲得された知識、技能も含まれる。学校での授業、部活動に限定し、恥ずかしかったこと、できなかった理由を探る。楽器、基礎知識、合唱などの活動の強さを問う。習慣強度(習慣性の強さ)とは、主に知識、技能の定着度を意味する。

**2. 動因(drive) 独立変数**・・・「楽器を演奏したい、歌が歌えるようになりたい」という要求が、**行動へのエネルギー**としてはたらく。『**行動の原動力となる要因**』<sup>9</sup>、本来もっているエネルギーを問う～したいの気持ち。音楽活動を始めようとするときにこの「動因」が存在しなければ、活動は成り立たない。

**3. 誘因(incentive) 独立変数**・・・生徒が音楽学習へかりたてられる状態、妨げのない音楽活動へのきっかけ。『**環境からの刺激で生徒にはたらきかけて行動を誘因する要因**』、モチベーション(動機)になる。

**4. 反応制止 独立変数**・・・「音楽を楽しむ時間がとれない」「音楽を楽しもうとする気になれない」など、原因がある。音痴だと言われた、恥ずかしい等。

**5. 刺激の強さ 独立変数**・・・授業、教師、教材、行事、環境といろいろな面で、この刺激が強いと音楽的行動への関心がより高まり、弱いと音楽への意識が薄れる。

そこで、これら5つの要因を調べるための質問項目を次のように20項目とし本調査に入る。

5 段階(5 大変よくあてはまる 4 少しあてはまる 3 どちらでもない 2 あまりあてはまらない 1 全くあてはまらない)で回答し、それぞれを得点化し数値データとした。

<sup>8</sup> 生徒が困難なく学習できる状態になっていること。すなわち教育を受ける心身の準備が整っていること。学習に対する適合と成熟の状態。(広辞苑)

<sup>9</sup> 細谷俊夫・奥田真丈・河野重男編集：教育学大事典 第2巻 p511 1978 第一法規出版株式会社



## 要因別

### 1. 習慣強度（習慣性の強さ）

- 【質問 10】曲を聞いた時、その曲が学校で習った曲であると分かる。
- 【質問 12】学校で学習した知識が（記号や、音符など）今でも役に立っている。
- 【質問 11】習った曲の楽譜をみて歌ったり、演奏したりできる。
- 【質問 13】歌をうたうとき、無理なく声を出することができる。
- 【質問 14】簡単な楽譜が、階名で（ドレミ～）で読める。
- 【質問 15】学校で習った楽器（リコーダー・鍵盤ハーモニカ等）の指使いがわかる。
- 【質問 18】音楽が流れていると、こころがリラックスする。

### 2. 動因

- 【質問 2】学校時代に歌うことは好きだった。
- 【質問 9】学校時代の音楽の活動が、音楽を理解したり愛好したりするきっかけとなった。
- 【質問 19】楽器を演奏したり、歌ったりできるようになりたいという思いがある。
- 【質問 20】これから、何らかの音楽にかかわって、（音楽にふれた）生活がしたいと思う。

### 3. 誘因

- 【質問 1】音楽の授業が楽しかったから、授業が待ち遠しかった。
- 【質問 6】みんなで合唱したり合奏したりすることはよい体験だった。
- 【質問 16】家で音楽が聞ける機器（テレビ、ラジオ、CD,MD）や楽器などが身近にある。

### 4. 反応制止

- 【質問 4】学校時代に、音楽で恥ずかしい思いをしたことがあった。
- 【質問 8】音楽に対して、学校時代、苦手な意識や劣等感があった。

### 5. 刺激の強さ

- 【質問 7】学校で出会った音楽の指導者の影響で音楽を好きになった。
- 【質問 3】今も印象に残っている中学校時代の音楽の行事があった。
- 【質問 5】学校時代の友人・先輩・家族の刺激を受けて音楽を好きになったといえる。
- 【質問 17】中学校時代に習った曲で、今も印象（心）に残っている曲がある。

これらの要因別質問項目を、答えやすい質問順にし、本調査アンケートとした。一般の対象者は高齢の方も含まれているので、アンケート紙の質問項目を中学校時代に限定せず、学校時代に置きかえるなど年代にあった質問項目とした。

- 例：音楽の授業が楽しかったから、授業が待ち遠しかった  
歌を歌う時間が楽しかったから、その時の事をよく覚えている。
- 例：学校で学習した音楽の知識が（記号や、音符など）今でも役に立っている。  
かつて教えてもらったことや、知っていた音楽の知識が（記号や、音符など）今も役に立っている。
- 例：学校で習った楽器（リコーダー・鍵盤ハーモニカ等）の指使いがわかる。  
何か楽器が演奏できる。（ピアノ・笛・三味線・尺八。箏など）

## 第3章 本調査

### 第1節 調査の目的

予備調査を検討することで、要因の絞り込み、質問の精選、質問数の数の絞り込みができた。要因を、習慣強度（習慣性の強さ）、動因、誘因、反応制止、刺激の強さとし、音楽の学習経験・学習体験が、将来どういう行動になって音楽活動に生かされるのかについて、中学生、高校生、大学生、一般と幅広い年代層を対象とする調査とした。過去の音楽教育からの経験、現在の音楽に関する行動等、年月を越えて音楽をどのようにとらえ、体験しているのか、また、学校教育後の音楽的行動は、どういう要因によっておこりうるのか。グループ間別に、生涯に繋がる音楽行動の実態を明らかにし、それぞれの要因を検討する。

### 第2節 調査の方法

質問紙法によるアンケート調査を行った。調査対象者を、中学生、高校生、大学生、一般（12歳～80歳）とし、非常に幅広い年代層を対象とした。回答数772を次のように分類した。（有効回答数758）

#### (1) 被験者グループ

被験者 . . . . . 調査期間 2004年7月12日（月）～16日（金）

（中学生）	姫路市立林田中学校	1.2.3年生		
	（男子 38名	女子 46名	合計	84名）
	姫路市立安室中学校	1.2.3年生		
	（男子 57名	女子 49名	合計	106名）
	合計 男子 95名	女子 95名	合計	190名

被験者 . . . . . 調査期間 2004年7月12日（月）～20日（火）

（高校生）	兵庫県立姫路西高等学校	1年生		
	（男子 54名	女子 59名	合計	113名）
	姫路市立姫路高等学校	1.2.3年生		
	（男子 26名	女子 90名	合計	116名）
	合計 男子 80名	女子 149名	合計	229名

被験者 . . . . . 調査期間 2004年7月13日（火）～16日（金）

（大学生）	兵庫教育大学 学部生			
	合計 男子 22名	女子 87名	合計	109名

被験者

（大学院生） . . . . . 調査期間 2004年7月13日（火）～16日（金）

兵庫教育大学 大学院生			
（男子 31名	女子 33名	合計	64名）

（一般） . . . . . 調査日 2004年7月17日（土）

余部小学校PTAコーラス部			
（男子 2名	女子 19名	合計	21名）
音楽教室レッスン生			
（男子 1名	女子 17名	合計	18名）

- (生涯大学) . . . . . 調査日 2004年7月12日(月)  
 姫路市立生涯学習大学校 コーラス部  
 (男子 6名 女子 53名 合計 59名)
- (生涯大学) . . . . . 調査日 2004年9月7日(火)  
 兵庫県立うれしの学園大学 1年生  
 (男子 30名 女子 34名 合計 64名)
- (揖保川町ふるさと祭り参加者) . . . . . 調査日 2004年10月23日(土)  
 (男子 7名 女子 11名 合計 18名)  
**合計 男子 77名 女子 167名 合計 244名**

(2) 全調査対象者

グループ人数

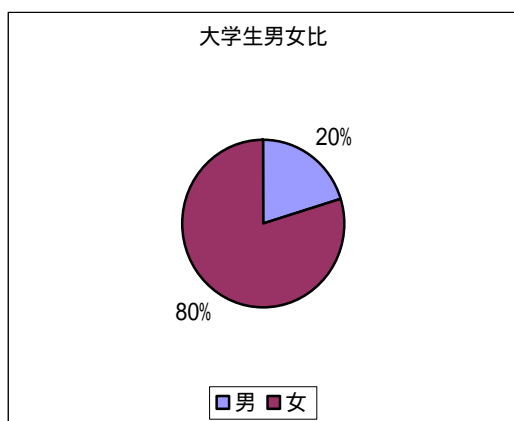
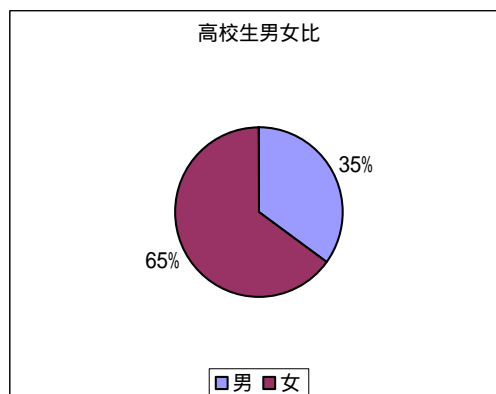
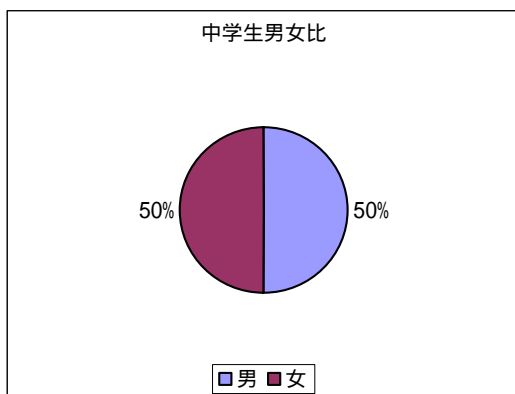
中学生	・ ・ ・ 190名	
高校生	・ ・ ・ 229名	
大学生	・ ・ ・ 109名	
一般	・ ・ ・ 144名	合計 772名

男女別人数

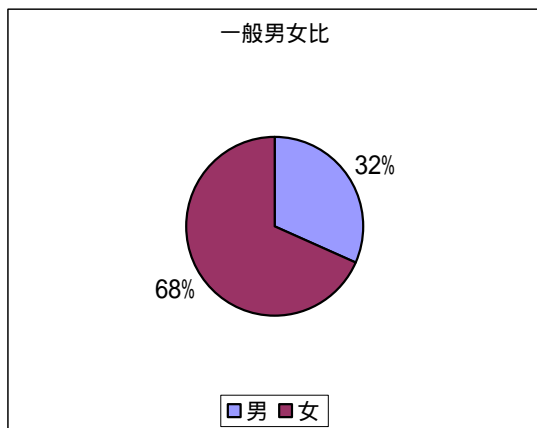
男子	・ ・ ・ ・ 275名	
女子	・ ・ ・ ・ 497名	合計 772名

(うち有効回答数 758)

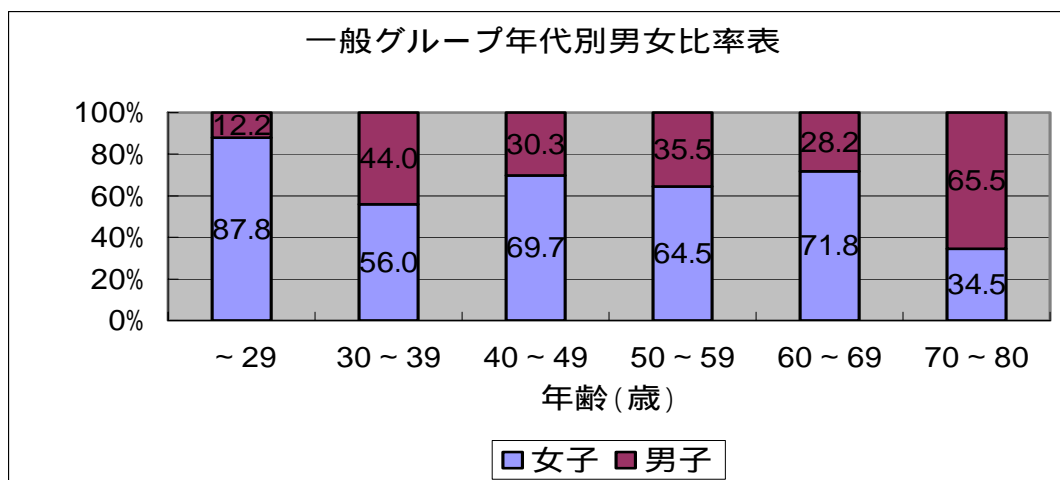
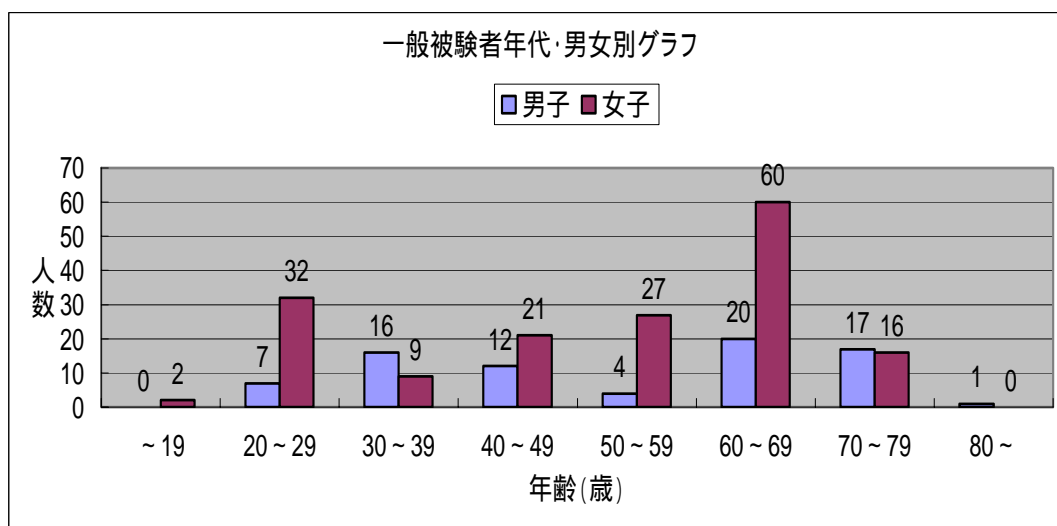
(3) 中学・高校・大学グループ男女比率



(3) 一般グループ年代別男女人数



年代	男	女	計
～19	0	2	2
20～29	7	32	39
30～39	16	9	25
40～49	12	21	33
50～59	4	27	31
60～69	20	60	80
70～79	17	16	33
80～	1	0	1
合計人数	77	167	244



## (4) 要因別質問項目

## 1. 習慣強度 (習慣性の強さ)

- 【質問 10】曲を聞いた時、その曲が学校で習った曲であると分かる。  
 【質問 11】習った曲の楽譜をみて歌ったり、演奏したりできる。  
 【質問 12】学校で学習した知識が (記号や、音符など) 今でも役に立っている。  
 【質問 13】歌をうたうとき、無理なく声を出すことができる。  
 【質問 14】簡単な楽譜が、階名で (ドレミ～) で読める。  
 【質問 15】学校で習った楽器 (リコーダー・鍵盤ハーモニカ等) の指使いがわかる。  
 【質問 18】音楽が流れていると、こころがリラックスする。

## 2. 動因

- 【質問 2】学校時代に歌うことは好きだった。  
 【質問 9】学校時代の音楽の活動が、音楽を理解したり愛好したりするきっかけとなった。  
 【質問 19】楽器を演奏したり、歌ったりできるようになりたいという思いがある。  
 【質問 20】これから、何らかの音楽にかかわって、(音楽にふれた) 生活がしたいと思う。

## 3. 誘因

- 【質問 1】音楽の授業が楽しかったから、授業が待ち遠しかった。  
 【質問 6】みんなで合唱したり合奏したりすることはよい体験だった。  
 【質問 16】家で音楽が聞ける機器 (テレビ、ラジオ、CD,MD) や楽器などが身近にある。

## 4. 反応制止

- 【質問 4】学校時代に、音楽で恥ずかしい思いをしたことがあった。  
 【質問 8】音楽に対して、学校時代、苦手な意識や劣等感があった。

## 5. 刺激の強さ

- 【質問 3】今も印象に残っている中学校時代の音楽の行事があった。  
 【質問 5】学校時代の友人・先輩・家族の刺激を受けて音楽を好きになったといえる。  
 【質問 7】学校で出会った音楽の指導者の影響で音楽を好きになった。  
 【質問 17】中学校時代に習った曲で、今も印象 (心) に残っている曲がある。

## (5) 質問項目の得点化

質問項目の得点化をし、4. 反応制止の要因【質問 4】【質問 8】は、逆転項目なので項目得点を逆転させた。

	得点項目	逆転項目 [4] [8]
大変よくあてはまる	5	1
少しあてはまる	4	2
どちらでもない	3	3
あまりあてはまらない	2	4
全くあてはまらない	1	5

### 第3節 調査結果

#### 【分析方法】

##### (1) 平均値と標準偏差

質問項目の平均値と標準偏差(一覧表)

中学	標本数	平均	標準偏差	分散	中央値	最頻値
【質問1】	190	3.289	1.096	1.201	3	3
【質問2】	190	3.753	1.153	1.330	4	4
【質問3】	190	3.579	1.104	1.219	4	4
【質問4】	190	3.358	1.325	1.755	3	5
【質問5】	190	2.784	1.384	1.916	3	1
【質問6】	190	4.158	1.006	1.012	4	5
【質問7】	190	2.616	1.287	1.656	3	3
【質問8】	190	3.037	1.295	1.676	3	3
【質問9】	190	3.116	1.153	1.330	3	3
【質問10】	190	4.237	1.030	1.060	5	5
【質問11】	190	3.305	1.244	1.547	3	3
【質問12】	190	3.163	1.243	1.545	3	3
【質問13】	190	3.274	1.163	1.353	3	4
【質問14】	190	4.126	1.253	1.571	5	5
【質問15】	190	4.042	1.126	1.268	4	5
【質問16】	190	4.737	0.646	0.417	5	5
【質問17】	190	4.005	1.129	1.275	4	5
【質問18】	190	4.047	1.070	1.146	4	5
【質問19】	190	3.921	1.238	1.533	4	5
【質問20】	190	3.505	1.225	1.500	3.5	3

質問項目の平均値と標準偏差(一覧表)

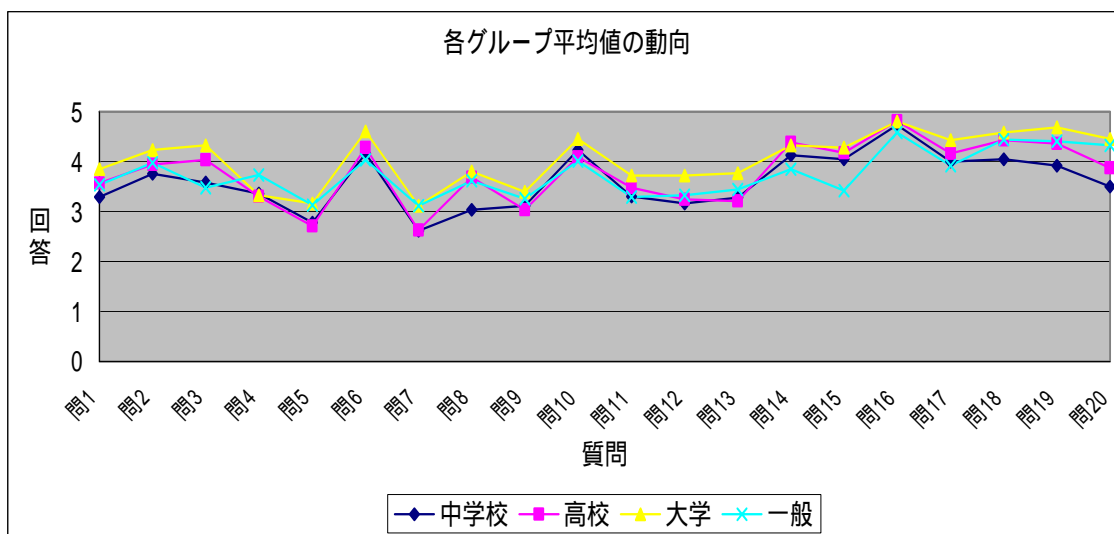
高校	標本数	平均	標準偏差	分散	中央値	最頻値
【質問1】	229	3.568	1.170	1.369	4	4
【質問2】	229	3.943	1.174	1.378	4	5
【質問3】	229	4.039	1.219	1.485	5	5
【質問4】	229	3.301	1.354	1.834	3	4
【質問5】	229	2.707	1.290	1.664	3	3
【質問6】	229	4.284	0.992	0.985	5	5
【質問7】	229	2.624	1.354	1.832	3	1
【質問8】	229	3.690	1.241	1.539	4	5
【質問9】	229	3.035	1.188	1.411	3	3
【質問10】	229	4.092	0.911	0.829	4	4
【質問11】	229	3.476	1.212	1.470	4	4
【質問12】	229	3.245	1.254	1.572	3	3
【質問13】	229	3.210	1.084	1.175	3	3
【質問14】	229	4.384	0.978	0.957	5	5
【質問15】	229	4.170	1.010	1.019	4	5
【質問16】	229	4.812	0.588	0.346	5	5
【質問17】	229	4.166	1.096	1.200	5	5
【質問18】	229	4.428	0.822	0.676	5	5
【質問19】	229	4.362	0.929	0.864	5	5
【質問20】	229	3.869	1.084	1.176	4	5

質問項目の平均値と標準偏差(一覧表)

大学	標本数	平均	標準偏差	分散	中央値	最頻値
【質問1】	109	3.844	1.195	1.429	4	5
【質問2】	109	4.229	1.160	1.345	5	5
【質問3】	109	4.321	1.088	1.183	5	5
【質問4】	109	3.321	1.360	1.850	3	5
【質問5】	109	3.165	1.456	2.121	3	5
【質問6】	109	4.606	0.805	0.648	5	5
【質問7】	109	3.119	1.386	1.921	3	3
【質問8】	109	3.798	1.238	1.533	4	5
【質問9】	109	3.394	1.354	1.834	3	5
【質問10】	109	4.450	0.897	0.805	5	5
【質問11】	109	3.716	1.277	1.631	4	5
【質問12】	109	3.725	1.311	1.720	4	5
【質問13】	109	3.771	1.094	1.197	4	4
【質問14】	109	4.330	1.195	1.427	5	5
【質問15】	109	4.284	1.055	1.113	5	5
【質問16】	109	4.807	0.569	0.324	5	5
【質問17】	109	4.431	0.985	0.970	5	5
【質問18】	109	4.587	0.735	0.541	5	5
【質問19】	109	4.688	0.729	0.531	5	5
【質問20】	109	4.450	0.787	0.620	5	5

質問項目の平均値と標準偏差(一覧表)

一般	標本数	平均	標準偏差	分散	中央値	最頻値
【質問1】	243	3.531	1.111	1.234	4	3
【質問2】	244	3.975	1.147	1.316	4	5
【質問3】	242	3.475	1.339	1.794	4	5
【質問4】	240	3.733	1.295	1.678	4	5
【質問5】	241	3.124	1.403	1.968	3	3
【質問6】	241	4.037	1.130	1.278	4	5
【質問7】	241	3.120	1.319	1.740	3	3
【質問8】	239	3.619	1.303	1.699	4	5
【質問9】	242	3.252	1.332	1.774	3	3
【質問10】	243	4.008	1.004	1.008	4	4
【質問11】	244	3.291	1.355	1.837	3	4
【質問12】	244	3.324	1.339	1.792	4	4
【質問13】	244	3.443	1.123	1.260	4	4
【質問14】	243	3.848	1.255	1.576	4	5
【質問15】	238	3.416	1.432	2.050	4	5
【質問16】	241	4.577	0.771	0.595	5	5
【質問17】	243	3.914	1.141	1.302	4	5
【質問18】	243	4.440	0.813	0.661	5	5
【質問19】	244	4.410	0.945	0.893	5	5
【質問20】	244	4.328	0.960	0.921	5	5



各グループ間の各質問における平均値の動向を見ると、【質問5】学校時代の友人・先輩・家族の刺激を受けて音楽を好きになったといえる。と【質問7】学校で出会った音楽の指導者の影響で音楽を好きになった。においてどのグループも平均値が低く、【質問6】みんなで合唱したり合奏したりすることはよい体験だった。【質問10】曲を聞いた時、その曲が学校で習った曲であると分かる。【質問14】簡単な楽譜が、階名で読める。【質問16】家で音楽が聞ける機器や楽器などがある。の質問は比較的どのグループも平均値が高い。その中でも【質問16】は、一番高い数値を表しており、各家庭での音楽を聞く機器の充実や音楽環境の良さがうかがえる。

どのグループも平均値の動きに大きな差異はないが、質問間の数値の差異やグループによって平均値の入れ替わりがみられる。このアンケートの回答により得られた5段階の評定尺度のデータを得点化し、各グループ、質問の基本統計量で平均値の差を検定し、これをもとにグループ間がそれぞれ独立したグループかどうかを調べるために分散分析を行った。



## (2) 基本統計の結果から分散分析

平均	中学校	高校	大学	一般
問1	3.289474	3.567686	3.844037	3.530864
問2	3.752632	3.943231	4.229358	3.97541
問3	3.578947	4.039301	4.321101	3.475207
問4	3.357895	3.30131	3.321101	3.733333
問5	2.784211	2.707424	3.165138	3.124481
問6	4.157895	4.283843	4.605505	4.037344
問7	2.615789	2.624454	3.119266	3.120332
問8	3.036842	3.689956	3.798165	3.619247
問9	3.115789	3.034934	3.394495	3.252066
問10	4.236842	4.091703	4.449541	4.00823
問11	3.305263	3.475983	3.715596	3.290984
問12	3.163158	3.244541	3.724771	3.32377
問13	3.273684	3.209607	3.770642	3.442623
問14	4.126316	4.384279	4.330275	3.847737
問15	4.042105	4.170306	4.284404	3.415966
問16	4.736842	4.812227	4.807339	4.576763
問17	4.005263	4.165939	4.431193	3.91358
問18	4.047368	4.427948	4.587156	4.440329
問19	3.921053	4.362445	4.688073	4.409836
問20	3.505263	3.868996	4.449541	4.327869

分散分析：一元配置

概要

グループ	標本数	合計	平均	分散
中学	20	72.052632	3.602631579	0.300354279
高校	20	75.406114	3.770305677	0.366821059
大学	20	81.036697	4.051834862	0.278589654
一般	20	74.865973	3.743298651	0.207363522

分散分析表

変動要因	変動	自由度	分散	観測された分散比	P-値	F境界値
グループ間	2.12434	3	0.708113456	2.456321034	0.069425	2.724946
グループ内	21.90944	76	0.288282129			
合計	24.03378	79				

$P=0.0694 < 0.1$  (有意水準) ゆえに P 値 (有意差があるとはいえない危険率の確率) は、10%水準でグループ間には有意差がある。

したがって、分散分析の結果から、この4つの被験者グループは異質なグループであると判断できる。

P 値において有意な差があるので、グループ間でさまざまな音楽体験差、音楽意識差や能力差があると考えられる。さらに、すべての質問項目について、詳しく検定をすすめる。質問項目によっては、数値的回答方法では本当の尺度は予測できない質問項目があるが、回答者の質的背景も念頭において、各質問項目を比較してみる。

(3) %表示の比率の差の検定

基本統計量の結果から、各グループの被験者人数が異なっているため、各質問のグループ間の回答を%表示で比較した。そして、各質問項目別の異なる4つのグループ実測値から期待値を出し、比率の差の検定(χ<sup>2</sup>検定 CHITEST)をして、グループ間の有意差を確認した。

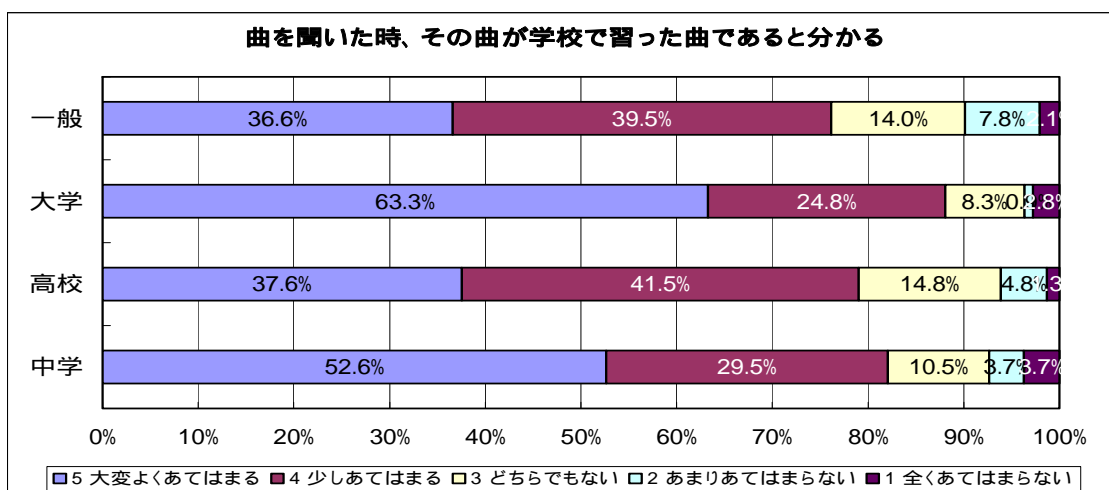
有意確率 = P 値 (有意差があるとはいえない危険率の確率)

E-n は、小数点以下の桁数を表す。5.67E-07 は、0.000000567 を意味する。

有意差 \*\*\*0.01(1%水準) \*\*0.05(5%水準) \*0.1(10%水準)と表示する。

1. 習慣強度 (習慣性の強さ)

【質問 10】 曲を聞いた時、その曲が学校で習った曲であると分かる。

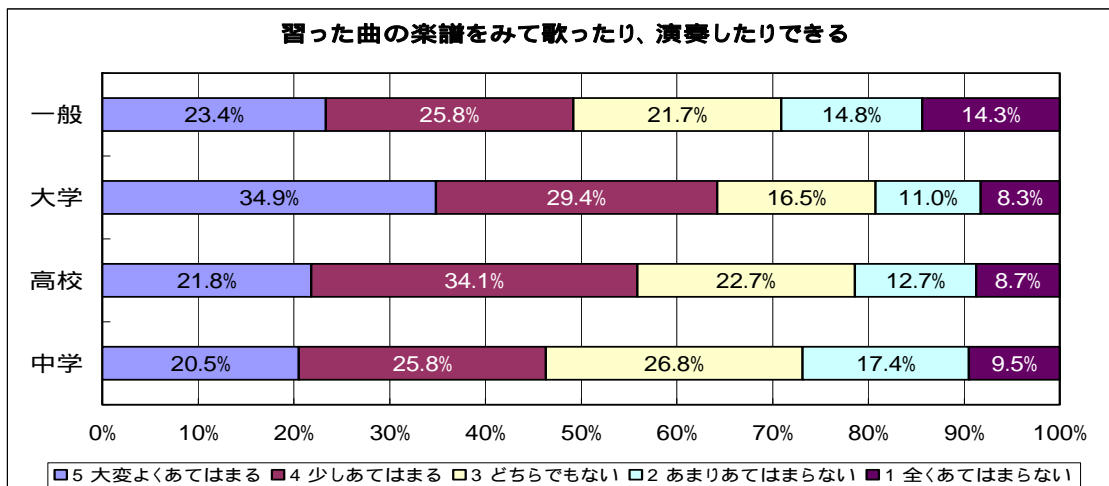


【質問10】	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	100	86	69	89	344
4 少しあてはまる	56	95	27	96	274
3 どちらでもない	20	34	9	34	97
2 あまりあてはまらない	7	11	1	19	38
1 全くあてはまらない	7	3	3	5	18
計	190	229	109	243	771
【質問10】(期待値)	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	84.8	102.2	48.6	108.4	344
4 少しあてはまる	67.5	81.4	38.7	86.4	274
3 どちらでもない	23.9	28.8	13.7	30.6	97
2 あまりあてはまらない	9.4	11.3	5.4	12.0	38
1 全くあてはまらない	4.4	5.3	2.5	5.7	18
計	190	229	109	243	771
有意確率	5.4735E-05 ***				

中学	高校	中学	大学	中学	一般
84.8	102.2	84.8	48.6	84.8	108.4
67.5	81.4	67.5	38.7	67.5	86.4
23.9	28.8	23.9	13.7	23.9	30.6
9.4	11.3	9.4	5.4	9.4	12.0
4.4	5.3	4.4	2.5	4.4	5.7
190	229	190	109	190	243
0.00659946 ***		5.61219E-05 ***		0.002356702 ***	

どの世代も%値が高く、学校教育での指導は、年月を経ても心に残っていく教育の効果が明らかに表れている。学校教育における学習の重要さ、音楽学習経験の大切さは明らかである。どのグループ間においても、この質問項目の回答には有意差がある。

【質問 11】 習った曲の楽譜をみて歌ったり、演奏したりできる。

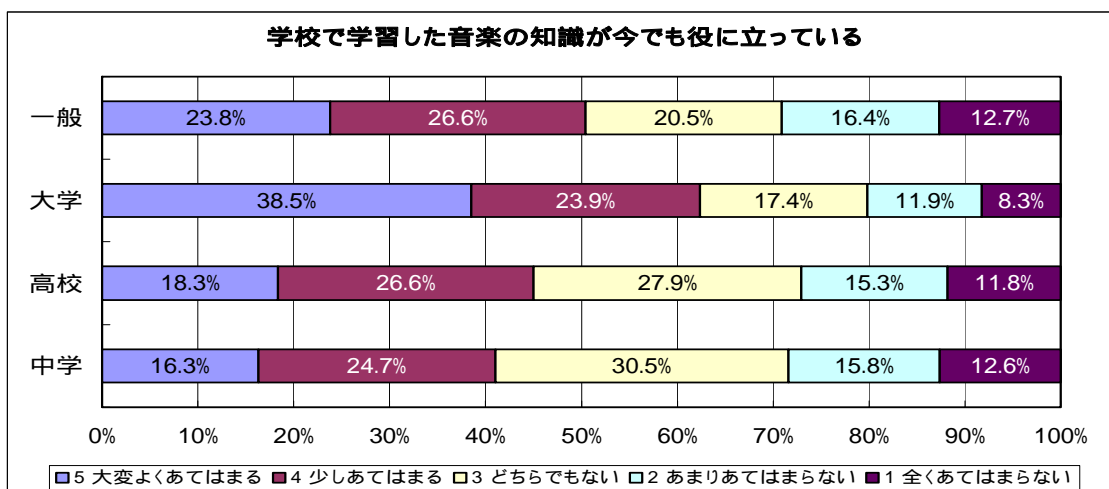


【質問11】	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	39	50	38	57	184
4 少しあてはまる	49	78	32	63	222
3 どちらでもない	51	52	18	53	174
2 あまりあてはまらない	33	29	12	36	110
1 全くあてはまらない	18	20	9	35	82
計	190	229	109	244	772
【質問11】(期待値)	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	45.3	54.6	26.0	58.2	184
4 少しあてはまる	54.6	65.9	31.3	70.2	222
3 どちらでもない	42.8	51.6	24.6	55.0	174
2 あまりあてはまらない	27.1	32.6	15.5	34.8	110
1 全くあてはまらない	20.2	24.3	11.6	25.9	82
計	190	229	109	244	772
有意確率	0.048776684	**			

中学	高校	中学	大学	中学	一般
45.3	54.6	45.3	26.0	45.3	58.2
54.6	65.9	54.6	31.3	54.6	70.2
42.8	51.6	42.8	24.6	42.8	55.0
27.1	32.6	27.1	15.5	27.1	34.8
20.2	24.3	20.2	11.6	20.2	25.9
190	229	190	109	190	244
0.079599006	*	0.010087739	**	0.071837661	*

この質問では、前の質問と違うのは、演奏できるかという実技面の力が問われる。【質問 10】に比べ、5 大変よくあてはまる 4 少しあてはまる の%数値が低くなっている。分かる、知っている、演奏できるというのは違う能力である。どのグループ間においても、この質問項目の回答には有意差がある。

【質問12】 学校で学習した知識が（記号や、音符など）今でも役に立っている。

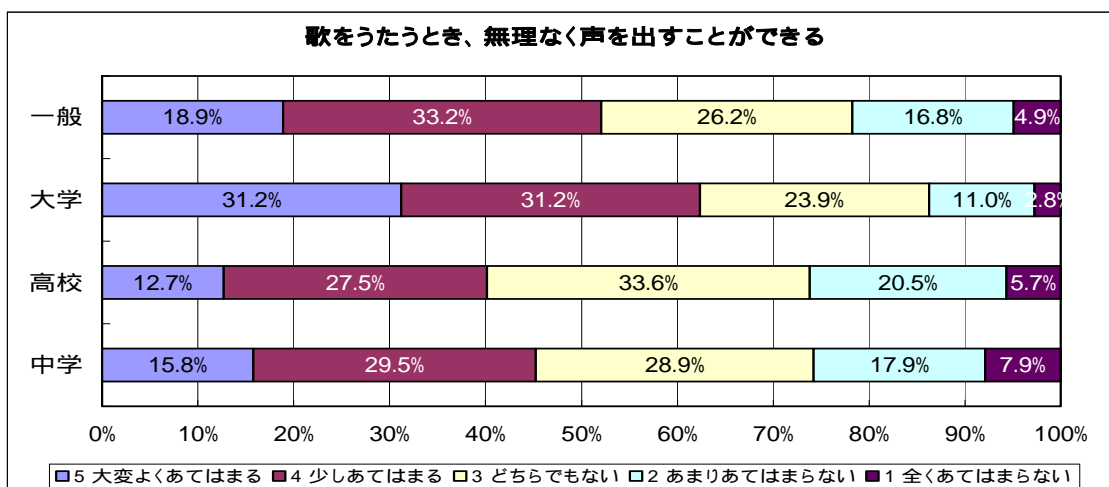


【質問12】	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	31	42	42	58	173
4 少しあてはまる	47	61	26	65	199
3 どちらでもない	58	64	19	50	191
2 あまりあてはまらない	30	35	13	40	118
1 全くあてはまらない	24	27	9	31	91
計	190	229	109	244	772
【質問12】(期待値)	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	42.6	51.3	24.4	54.7	173
4 少しあてはまる	49.0	59.0	28.1	62.9	199
3 どちらでもない	47.0	56.7	27.0	60.4	191
2 あまりあてはまらない	29.0	35.0	16.7	37.3	118
1 全くあてはまらない	22.4	27.0	12.8	28.8	91
計	190	229	109	244	772
有意確率	0.005191213	***			

中学	高校	中学	大学	中学	一般
42.6	51.3	42.6	24.4	42.6	54.7
49.0	59.0	49.0	28.1	49.0	62.9
47.0	56.7	47.0	27.0	47.0	60.4
29.0	35.0	29.0	16.7	29.0	37.3
22.4	27.0	22.4	12.8	22.4	28.8
190	229	190	109	190	244
0.070352373	*	0.000123392	***	0.078993477	*

大学は、他のグループに比べ高い数値である。被験者の大学が教育大学であるため音楽知識が高く、高い数値が出ているものと思われる。他グループは5.4.3で70%をこえ、学校教育での音楽の基礎知識は定着していると判断できる。どのグループ間においても、この質問項目の回答には有意差がある。

【質問13】歌をうたうとき、無理なく声を出することができる。



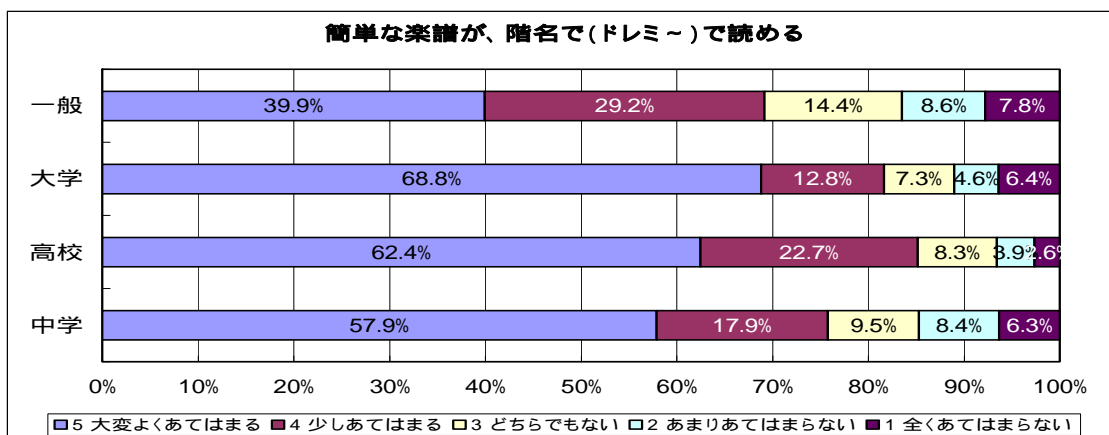
【質問13】	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	30	29	34	46	139
4 少しあてはまる	56	63	34	81	234
3 どちらでもない	55	77	26	64	222
2 あまりあてはまらない	34	47	12	41	134
1 全くあてはまらない	15	13	3	12	43
計	190	229	109	244	772
【質問13】(期待値)	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	34.2	41.2	19.6	43.9	139
4 少しあてはまる	57.6	69.4	33.0	74.0	234
3 どちらでもない	54.6	65.9	31.3	70.2	222
2 あまりあてはまらない	33.0	39.7	18.9	42.4	134
1 全くあてはまらない	10.6	12.8	6.1	13.6	43
計	190	229	109	244	772
有意確率	0.007814743	***			

中学	高校	中学	大学	中学	一般
34.2	41.2	34.2	19.6	34.2	43.9
57.6	69.4	57.6	33.0	57.6	74.0
54.6	65.9	54.6	31.3	54.6	70.2
33.0	39.7	33.0	18.9	33.0	42.4
10.6	12.8	10.6	6.1	10.6	13.6
190	229	190	109	190	244
0.042582003	**	0.001238838	***	0.408927669	

有意確率 = 0.4089 > 有意水準 = 0.1  
したがって、中学と一般のグループには有意差があるとはいえない

どの世代も、大変よくあてはまる、少しあてはまるが50%前後である。中学のグループで全くあてはまらないが一番多く、男子の変声期が原因の一つであるようだ。中でも大学のグループで数値が一番高い。中学・高校、中学・大学のグループ間において、この質問項目の回答には有意差がある。しかし、中学・一般のグループ間は、有意差があるとはいえなかった。

【質問14】簡単な楽譜が、階名で(ドレミ～)で読める。

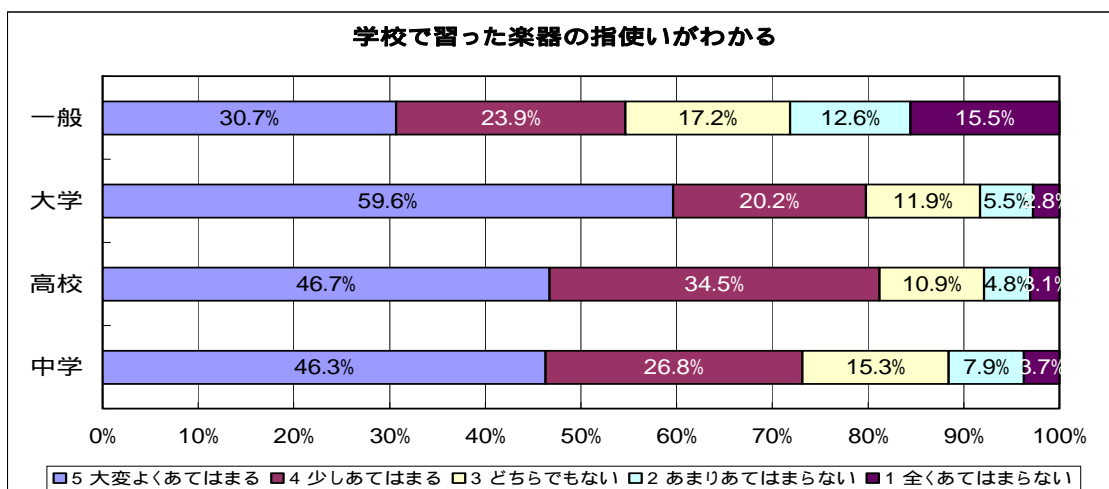


【質問14】	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	110	143	75	97	425
4 少しあてはまる	34	52	14	71	171
3 どちらでもない	18	19	8	35	80
2 あまりあてはまらない	16	9	5	21	51
1 全くあてはまらない	12	6	7	19	44
計	190	229	109	243	771
【質問14】(期待値)					実測値(人)
5 大変よくあてはまる	104.7	126.2	60.1	133.9	425
4 少しあてはまる	42.1	50.8	24.2	53.9	171
3 どちらでもない	19.7	23.8	11.3	25.2	80
2 あまりあてはまらない	12.6	15.1	7.2	16.1	51
1 全くあてはまらない	10.8	13.1	6.2	13.9	44
計	190	229	109	243	771
有意確率	9.77734E-06	***			

中学	高校	中学	大学	中学	一般
104.7	126.2	104.7	60.1	104.7	133.9
42.1	50.8	42.1	24.2	42.1	53.9
19.7	23.8	19.7	11.3	19.7	25.2
12.6	15.1	12.6	7.2	12.6	16.1
10.8	13.1	10.8	6.2	10.8	13.9
190	229	190	109	190	243
0.013546489	**	0.012423282	**	3.35326E-05	***

この項目は、明らかに高齢者を含む一般に大きな差異が見られる。全くあてはまらないが数値が高く、教育体制の中での指導内容が影響していると思われる。他のグループでは現在の学校教育における音楽の指導が徹底している%数値である。グループ間においての、この質問項目の回答には有意差がある。

【質問15】 学校で習った楽器（リコーダー・鍵盤ハーモニカ等）の指使いがわかる。

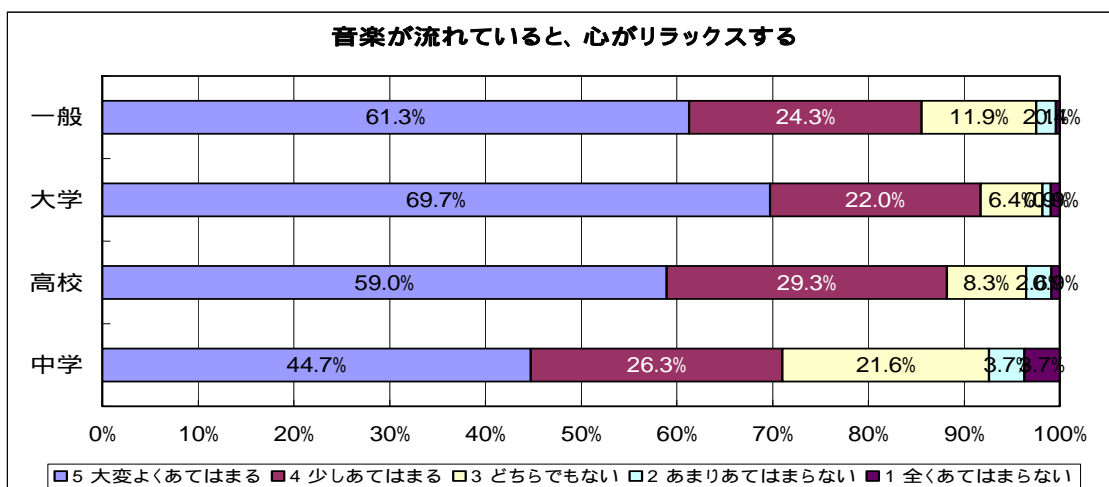


【質問15】	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	88	107	65	73	333
4 少しあてはまる	51	79	22	57	209
3 どちらでもない	29	25	13	41	108
2 あまりあてはまらない	15	11	6	30	62
1 全くあてはまらない	7	7	3	37	54
計	190	229	109	238	766
【質問15】(期待値)	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	82.6	99.6	47.4	103.5	333
4 少しあてはまる	51.8	62.5	29.7	64.9	209
3 どちらでもない	26.8	32.3	15.4	33.6	108
2 あまりあてはまらない	15.4	18.5	8.8	19.3	62
1 全くあてはまらない	13.4	16.1	7.7	16.8	54
計	190	229	109	238	766
有意確率	8.54826E-11 ***				

中学	高校	中学	大学	中学	一般
82.6	99.6	82.6	47.4	82.6	103.5
51.8	62.5	51.8	29.7	51.8	64.9
26.8	32.3	26.8	15.4	26.8	33.6
15.4	18.5	15.4	8.8	15.4	19.3
13.4	16.1	13.4	7.7	13.4	16.8
190	229	190	109	190	238
0.001020232 ***		0.002645257 ***		3.04159E-09 ***	

この項目に関しても、特に、幅広い年代層の一般のグループでは、学校教育での指導内容の違いが表れている。授業での楽器の導入の違いが原因している結果と考えられる。どのグループ間においても、この質問項目の回答には有意差がある。

【質問 18】音楽が流れていると、こころがリラックスする。



【質問18】	中学	高校	大学	一般	実測値(人) 計
5 大変よくあてはまる	85	135	76	149	445
4 少しあてはまる	50	67	24	59	200
3 どちらでもない	41	19	7	29	96
2 あまりあてはまらない	7	6	1	5	19
1 全くあてはまらない	7	2	1	1	11
計	190	229	109	243	771
【質問18】(期待値)	中学	高校	大学	一般	実測値(人) 計
5 大変よくあてはまる	109.7	132.2	62.9	140.3	445
4 少しあてはまる	49.3	59.4	28.3	63.0	200
3 どちらでもない	23.7	28.5	13.6	30.3	96
2 あまりあてはまらない	4.7	5.6	2.7	6.0	19
1 全くあてはまらない	2.7	3.3	1.6	3.5	11
計	190	229	109	243	771
有意確率	4.03031E-05 ***				

中学	高校	中学	大学	中学	一般
109.7	132.2	109.7	62.9	109.7	140.3
49.3	59.4	49.3	28.3	49.3	63.0
23.7	28.5	23.7	13.6	23.7	30.3
4.7	5.6	4.7	2.7	4.7	6.0
2.7	3.3	2.7	1.6	2.7	3.5
190	229	190	109	190	243
3.17219E-06 ***		7.40898E-07 ***		7.89609E-06 ***	

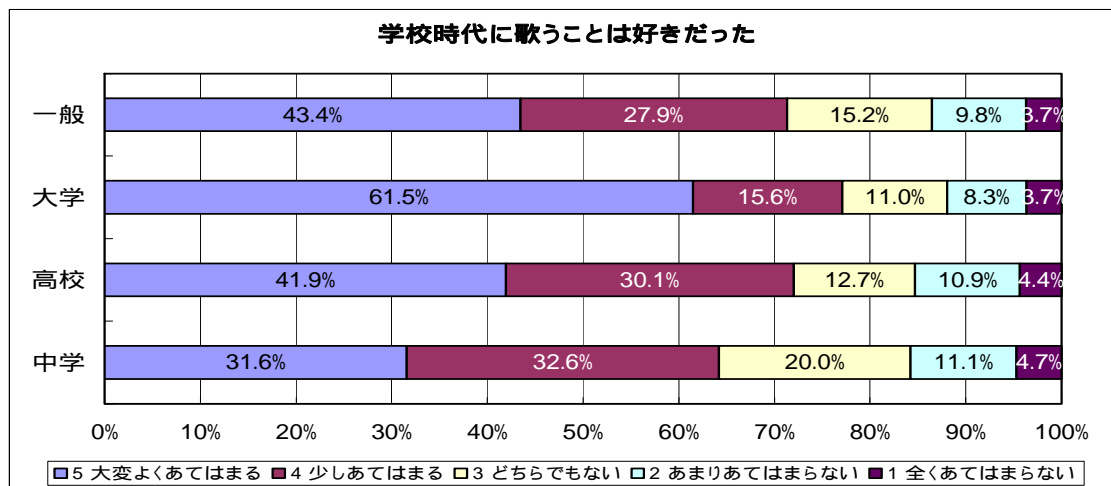
明らかにどのグループも高い数値で、5.4.3 だけでも 100%近い。音楽の効果の心的効果の背景をさらに深く探っていく。習慣性の強さを大きく左右する質問項目である。どのグループ間においても、この質問項目の回答には有意差がある。

以上のように、「生涯に亘っての音楽行動」の要因の独立変数の一つである習慣強度（習慣性の強さ）を問う質問項目【質問 10】【質問 11】【質問 12】【質問 13】(中学と一般グループを除く)【質問 14】【質問 15】【質問 18】すべてにおいて、グループ間の%表示の比率の差に有意な差があったので、これらの質問は、習慣強度（習慣性の強さ）を問う質問として妥当であった。



2. 動因

【質問2】学校時代に歌うことは好きだった。

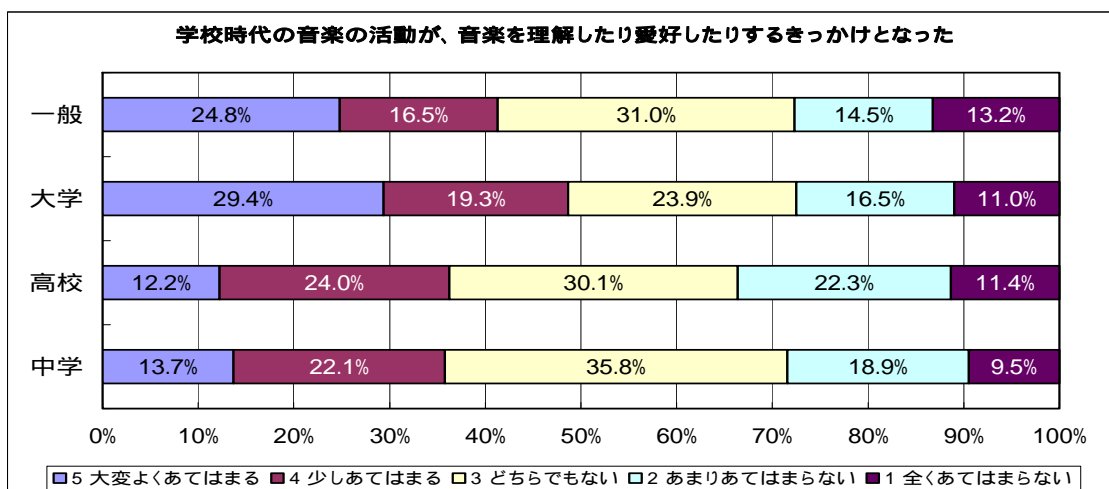


【質問2】	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	60	96	67	106	329
4 少しあてはまる	62	69	17	68	216
3 どちらでもない	38	29	12	37	116
2 あまりあてはまらない	21	25	9	24	79
1 全くあてはまらない	9	10	4	9	32
計	190	229	109	244	772
【質問2】(期待値)	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	81.0	97.6	46.5	104.0	329
4 少しあてはまる	53.2	64.1	30.5	68.3	216
3 どちらでもない	28.5	34.4	16.4	36.7	116
2 あまりあてはまらない	19.4	23.4	11.2	25.0	79
1 全くあてはまらない	7.9	9.5	4.5	10.1	32
計	190	229	109	244	772
有意確率	0.004493374 ***				

中学	高校	中学	大学	中学	一般
81.0	97.6	81.0	46.5	81.0	104.0
53.2	64.1	53.2	30.5	53.2	68.3
28.5	34.4	28.5	16.4	28.5	36.7
19.4	23.4	19.4	11.2	19.4	25.0
7.9	9.5	7.9	4.5	7.9	10.1
190	229	190	109	190	244
0.019708673 **	1.96592E-05 ***			0.032541367 **	

大学グループは、高い%数値であるのは、被験者が教育大学に限っていたため、音楽を必修科目としての学んでいる、その背景が影響していると思われる。『歌』に関しては、どのグループも5.4.3の人数が高く、80%をこえている。反面、1の全くあてはまらないはどのグループも4%前後と少ない。どのグループ間においても、この質問項目の回答には有意差がある。

【質問9】 学校時代の音楽の活動が、音楽を理解したり愛好したりするきっかけとなった。

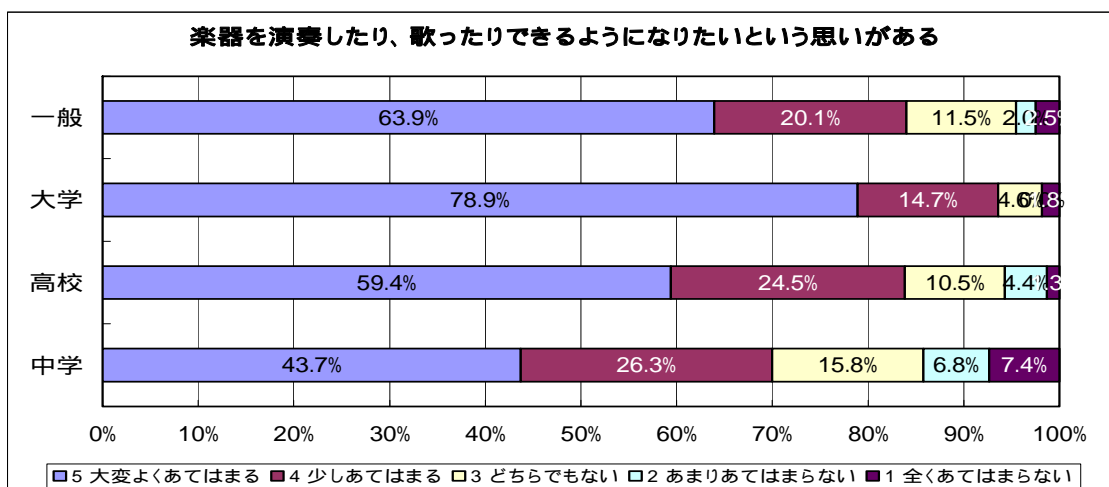


【質問9】	中学	高校	大学	一般	実測値(人) 計
5 大変よくあてはまる	26	28	32	60	146
4 少しあてはまる	42	55	21	40	158
3 どちらでもない	68	69	26	75	238
2 あまりあてはまらない	36	51	18	35	140
1 全くあてはまらない	18	26	12	32	88
計	190	229	109	242	770
【質問9】(期待値)	中学	高校	大学	一般	実測値(人) 計
5 大変よくあてはまる	36.0	43.4	20.7	45.9	146
4 少しあてはまる	39.0	47.0	22.4	49.7	158
3 どちらでもない	58.7	70.8	33.7	74.8	238
2 あまりあてはまらない	34.5	41.6	19.8	44.0	140
1 全くあてはまらない	21.7	26.2	12.5	27.7	88
計	190	229	109	242	770
有意確率	0.001864102	***			

中学	高校	中学	大学	中学	一般
36.0	43.4	36.0	20.7	36.0	45.9
39.0	47.0	39.0	22.4	39.0	49.7
58.7	70.8	58.7	33.7	58.7	74.8
34.5	41.6	34.5	19.8	34.5	44.0
21.7	26.2	21.7	12.5	21.7	27.7
190	229	190	109	190	242
0.006748905	***	0.009394633	***	0.007532608	***

どの世代も大きな差は見られない。5の回答は特に大学、一般に多い。%数値はどのグループも低く、学校現場以外での背景が影響していると思われる。どのグループ間においても、この質問項目の回答には有意差がある。

【質問 19】 楽器を演奏したり、歌ったりできるようになりたいという思いがある。

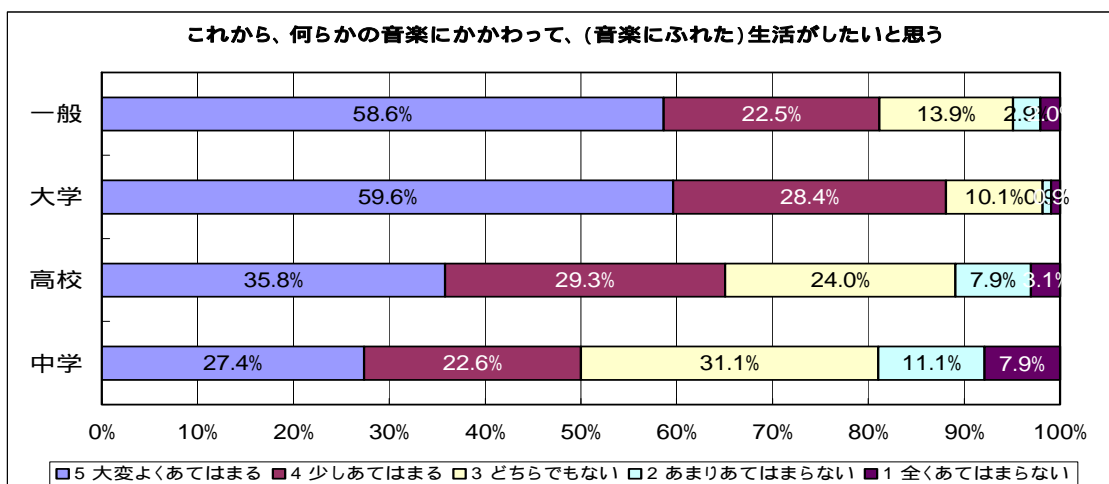


【質問19】	中学	高校	大学	一般	実測値(人) 計
5 大変よくあてはまる	83	136	86	156	461
4 少しあてはまる	50	56	16	49	171
3 どちらでもない	30	24	5	28	87
2 あまりあてはまらない	13	10	0	5	28
1 全くあてはまらない	14	3	2	6	25
計	190	229	109	244	772
【質問19】(期待値)					実測値(人) 計
	中学	高校	大学	一般	
5 大変よくあてはまる	113.5	136.7	65.1	145.7	461
4 少しあてはまる	42.1	50.7	24.1	54.0	171
3 どちらでもない	21.4	25.8	12.3	27.5	87
2 あまりあてはまらない	6.9	8.3	4.0	8.8	28
1 全くあてはまらない	6.2	7.4	3.5	7.9	25
計	190	229	109	244	772
有意確率	2.8153E-07 ***				

中学	高校	中学	大学	中学	一般
113.5	136.7	113.5	65.1	113.5	145.7
42.1	50.7	42.1	24.1	42.1	54.0
21.4	25.8	21.4	12.3	21.4	27.5
6.9	8.3	6.9	4.0	6.9	8.8
6.2	7.4	6.2	3.5	6.2	7.9
190	229	190	109	190	244
1.75158E-06 ***		1.57476E-09 ***		2.03075E-06 ***	

この項目は、どのグループも非常に高い数値である。「できるようになりたい」という音楽を求める意欲は、どの世代も共通している結果である。音楽を求める意欲、積極的な行動がどう生涯に現れていくのか、重要な項目である。どのグループ間においても、この質問項目の回答には有意差がある。

【質問 20】これから、何らかの音楽にかかわって、(音楽にふれた)生活がしたいと思う。



【質問20】	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	52	82	65	143	342
4 少しあてはまる	43	67	31	55	196
3 どちらでもない	59	55	11	34	159
2 あまりあてはまらない	21	18	1	7	47
1 全くあてはまらない	15	7	1	5	28
計	190	229	109	244	772
【質問20】(期待値)	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	84.2	101.4	48.3	108.1	342
4 少しあてはまる	48.2	58.1	27.7	61.9	196
3 どちらでもない	39.1	47.2	22.4	50.3	159
2 あまりあてはまらない	11.6	13.9	6.6	14.9	47
1 全くあてはまらない	6.9	8.3	4.0	8.8	28
計	190	229	109	244	772
有意確率	4.70973E-14 ***				

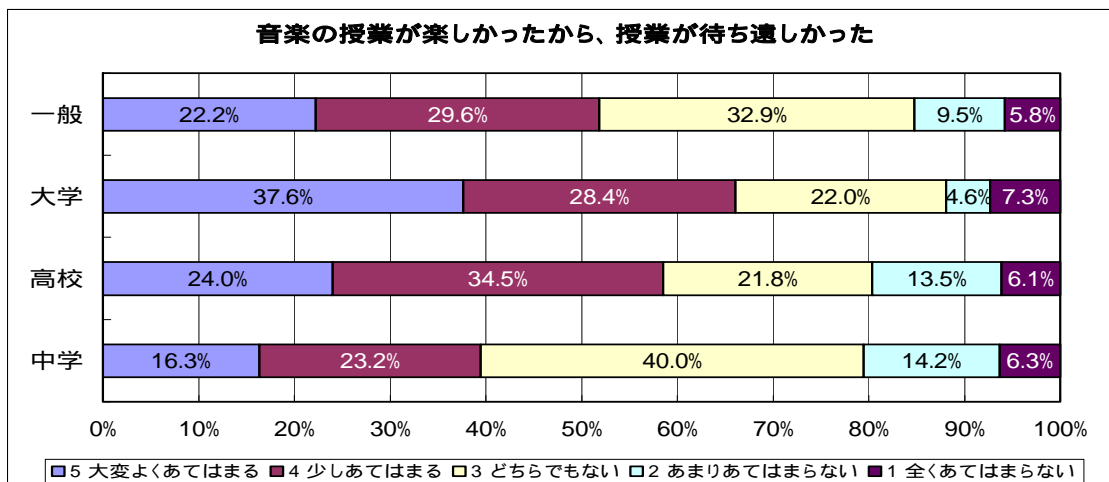
中学	高校	中学	大学	中学	一般
84.2	101.4	84.2	48.3	84.2	108.1
48.2	58.1	48.2	27.7	48.2	61.9
39.1	47.2	39.1	22.4	39.1	50.3
11.6	13.9	11.6	6.6	11.6	14.9
6.9	8.3	6.9	4.0	6.9	8.8
190	229	190	109	190	244
9.656E-10 ***		4.26766E-12 ***		5.8037E-13 ***	
大学	一般	高校	一般		
48.3	108.1	101.4	108.1		
27.7	61.9	58.1	61.9		
22.4	50.3	47.2	50.3		
6.6	14.9	13.9	14.9		
4.0	8.8	8.3	8.8		
109	244	229	244		
1.55031E-08 ***		3.20271E-06 ***			

この質問は、年代が進むにつれて、どう音楽的行動となって現れるのか、その心情を問う質問である。中学校を経て年代を重ねた大学、一般の「大変よくあてはまる」が60%近い、非常に高い数値である。この背景は何か。音楽への思いが年代を重ねるにつれ増えているこの現状を検証していくことでさらに内面的な原因を探ることが可能であると考えられる。どのグループ間においても、この質問項目の回答には有意差があり、【質問 20】における、人の「音楽」に対する期待、欲求の背景をさらに他の検定で進めていく。

以上のように、「生涯に亘っての音楽行動」の要因の独立変数の一つである動因を問う質問項目【質問2】【質問9】【質問19】【質問20】すべてにおいて、グループ間の%表示の比率の差に有意な差があったので、これらの質問は、動因を問う質問として妥当であった。

### 3. 誘因

【質問1】音楽の授業が楽しかったから、授業が待ち遠しかった。

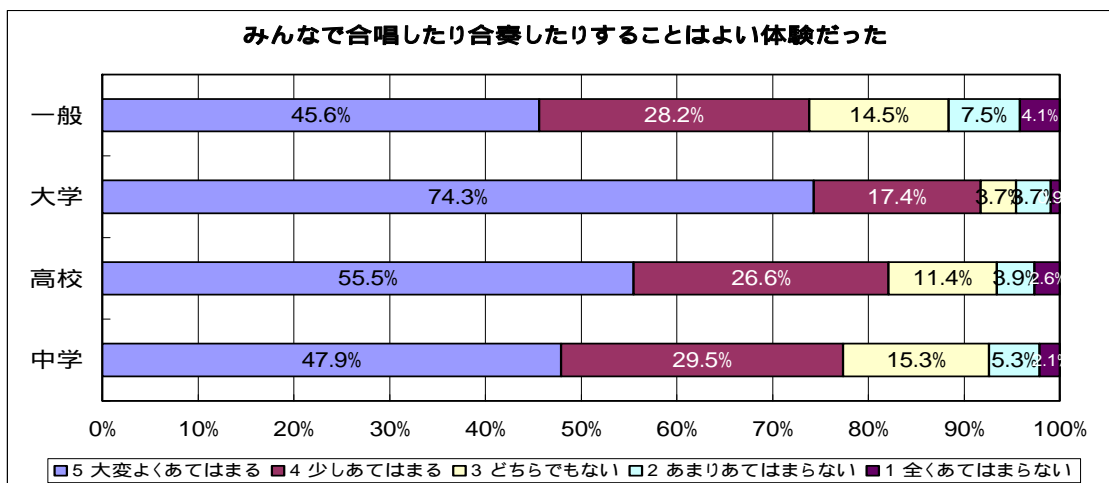


【質問1】	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	31	55	41	54	181
4 少しあてはまる	44	79	31	72	226
3 どちらでもない	76	50	24	80	230
2 あまりあてはまらない	27	31	5	23	86
1 全くあてはまらない	12	14	8	14	48
計	190	229	109	243	771
【質問1】(期待値)	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	44.6	53.8	25.6	57.0	181
4 少しあてはまる	55.7	67.1	32.0	71.2	226
3 どちらでもない	56.7	68.3	32.5	72.5	230
2 あまりあてはまらない	21.2	25.5	12.2	27.1	86
1 全くあてはまらない	11.8	14.3	6.8	15.1	48
計	190	229	109	243	771
有意確率	5.67151E-05	***			

中学	高校	中学	大学	中学	一般
44.6	53.8	44.6	25.6	44.6	57.0
55.7	67.1	55.7	32.0	55.7	71.2
56.7	68.3	56.7	32.5	56.7	72.5
21.2	25.5	21.2	12.2	21.2	27.1
11.8	14.3	11.8	6.8	11.8	15.1
190	229	190	109	190	243
0.000127041	***	3.43336E-06	***	0.00248349	***

大学グループまでは、昭和64年(平成元年)(1989)の『中学校指導要領』にそっての授業を受けているため、比較的高い%数値である。一般のグループは年代が幅広いため、「音楽の授業」そのものの、時代ごとの違いが%数値に表れたと思われる。3以上がどのグループも80%を上回っている数値から、教科の中での「音楽」の重要性が表れている。どのグループ間においても、この質問項目の回答には有意差がある。

【質問6】 みんなで合唱したり合奏したりすることはよい体験だった。



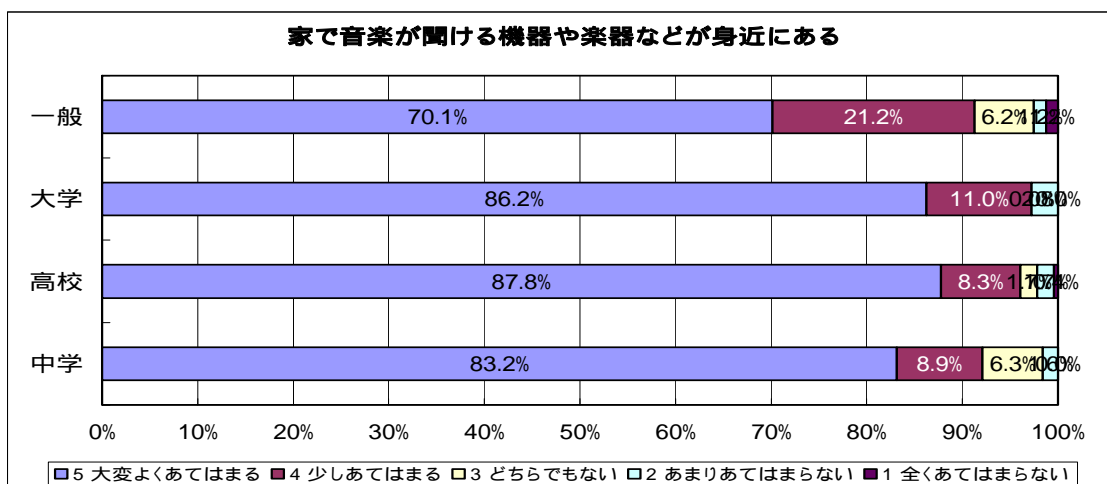
【質問6】	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	91	127	81	110	409
4 少しあてはまる	56	61	19	68	204
3 どちらでもない	29	26	4	35	94
2 あまりあてはまらない	10	9	4	18	41
1 全くあてはまらない	4	6	1	10	21
計	190	229	109	241	769
【質問6】(期待値)	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	101.1	121.8	58.0	128.2	409
4 少しあてはまる	50.4	60.7	28.9	63.9	204
3 どちらでもない	23.2	28.0	13.3	29.5	94
2 あまりあてはまらない	10.1	12.2	5.8	12.8	41
1 全くあてはまらない	5.2	6.3	3.0	6.6	21
計	190	229	109	241	769
有意確率	0.000894669	***			

中学	高校	中学	大学	中学	一般
101.1	121.8	101.1	58.0	101.1	128.2
50.4	60.7	50.4	28.9	50.4	63.9
23.2	28.0	23.2	13.3	23.2	29.5
10.1	12.2	10.1	5.8	10.1	12.8
5.2	6.3	5.2	3.0	5.2	6.6
190	229	190	109	190	241
0.336582078		7.01804E-05	***	0.025993308	**

有意確率 = 0.3365 > 有意水準 = 0.1  
したがって、中学と高校のグループは有意差があるとはいえない

学校教育の中で、「みんなで音楽する」ということが、良い効果を出す。この質問でこれだけの高い数値が出ていると言うことは、音楽教育は、生涯に亘って大きく作用する、重要な教科であるということが断言できる。中学・大学、中学・一般のグループ間において、この質問項目の回答には有意差がある。しかし、中学・高校のグループ間には有意差がない。

【質問16】家で音楽が聞ける機器（テレビ、ラジオ、CD,MD）や楽器などが身近にある。



【質問16】	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	158	201	94	169	622
4 少しあてはまる	17	19	12	51	99
3 どちらでもない	12	4	0	15	31
2 あまりあてはまらない	3	4	3	3	13
1 全くあてはまらない	0	1	0	3	4
計	190	229	109	241	769
【質問16】(期待値)	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	153.7	185.2	88.2	194.9	622
4 少しあてはまる	24.5	29.5	14.0	31.0	99
3 どちらでもない	7.7	9.2	4.4	9.7	31
2 あまりあてはまらない	3.2	3.9	1.8	4.1	13
1 全くあてはまらない	1.0	1.2	0.6	1.3	4
計	190	229	109	241	769
有意確率	3.08621E-05 ***				

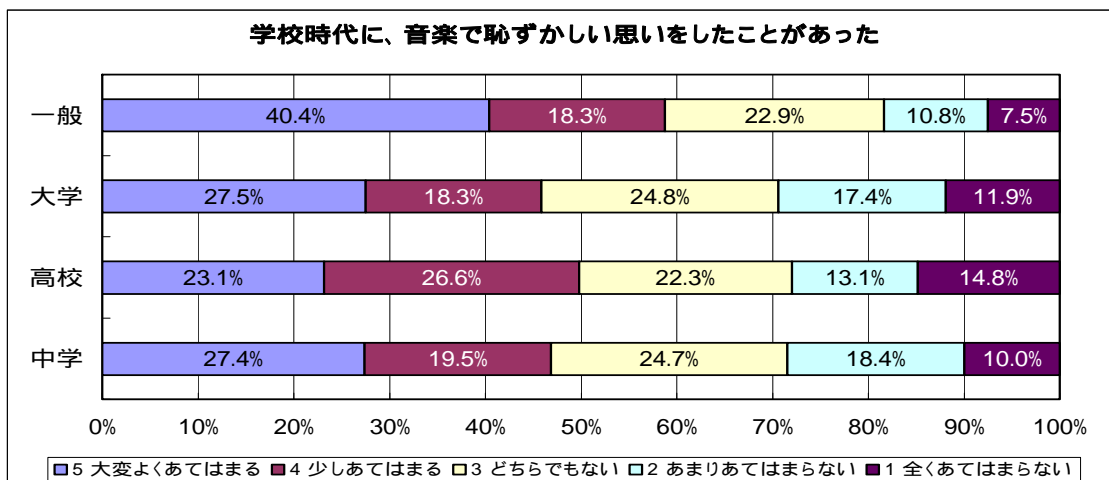
中学	高校	中学	大学	中学	一般
153.7	185.2	153.7	88.2	153.7	194.9
24.5	29.5	24.5	14.0	24.5	31.0
7.7	9.2	7.7	4.4	7.7	9.7
3.2	3.9	3.2	1.8	3.2	4.1
1.0	1.2	1.0	0.6	1.0	1.3
190	229	190	109	190	241
0.00752687 ***		0.015735916 **		1.39605E-05 ***	

非常に高い数値である。豊かな生活の中で音楽を聴いたり、鑑賞したりできる機器が各家庭に行き渡っていると考えられる。どのグループ間においても、この質問項目の回答には有意差がある。

以上のように、「生涯に亘っての音楽行動」の要因の独立変数の一つである誘因を問う質問項目【質問1】【質問6】(中学と高校グループを除く)【質問16】すべてにおいて、グループ間の%表示の比率の差に有意な差があったので、これらの質問は、誘因を問う質問として妥当であった。

4. 反応制止

【質問4】学校時代に、音楽で恥ずかしい思いをしたことがあった。



【質問4】	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	52	53	30	97	232
4 少しあてはまる	37	61	20	44	162
3 どちらでもない	47	51	27	55	180
2 あまりあてはまらない	35	30	19	26	110
1 全くあてはまらない	19	34	13	18	84
計	190	229	109	240	768
【質問4】(期待値)	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	57.4	69.2	32.9	72.5	232
4 少しあてはまる	40.1	48.3	23.0	50.6	162
3 どちらでもない	44.5	53.7	25.5	56.3	180
2 あまりあてはまらない	27.2	32.8	15.6	34.4	110
1 全くあてはまらない	20.8	25.0	11.9	26.3	84
計	190	229	109	240	768
有意確率	0.00352434	***			

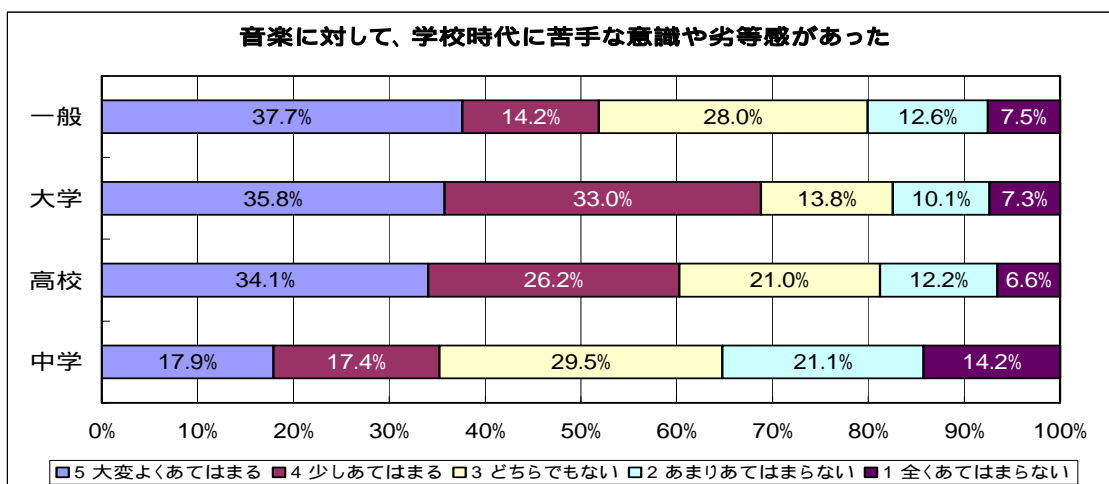
中学	高校	中学	大学	中学	一般
57.4	69.2	57.4	32.9	57.4	32.9
40.1	48.3	40.1	23.0	40.1	23.0
44.5	53.7	44.5	25.5	44.5	25.5
27.2	32.8	27.2	15.6	27.2	15.6
20.8	25.0	20.8	11.9	20.8	11.9
190	229	190	109	190	109
0.007446688	***	0.305608078		3.07087E-40	***

有意確率 = 0.3056 > 有意水準 = 0.1  
したがって、中学と高校のグループは有意差があるとはいえない

この項目は、どの年代においても、常に教師側、生徒同士が心得ておかなければならない一生音楽に対する意識を左右する項目である。この「恥ずかしい」という思いは、一般が40.4%と多い。3.4.5を含めると、どの世代も半数近くは「恥ずかしい」という思いを経験している数値が出ている。中学・高校、中学・一般のグループ間において、この質問項目の回答には有意差がある。しかし、中学・大学のグループ間には有意差があるとはいえない。



【質問8】音楽に対して、学校時代、苦手な意識や劣等感があった。



【質問8】	中学	高校	大学	一般	実測値(人) 計
5 大変よくあてはまる	34	78	39	90	241
4 少しあてはまる	33	60	36	34	163
3 どちらでもない	56	48	15	67	186
2 あまりあてはまらない	40	28	11	30	109
1 全くあてはまらない	27	15	8	18	68
計	190	229	109	239	767
【質問8】(期待値)	中学	高校	大学	一般	実測値(人) 計
5 大変よくあてはまる	59.7	72.0	34.2	75.1	241
4 少しあてはまる	40.4	48.7	23.2	50.8	163
3 どちらでもない	46.1	55.5	26.4	58.0	186
2 あまりあてはまらない	27.0	32.5	15.5	34.0	109
1 全くあてはまらない	16.8	20.3	9.7	21.2	68
計	190	229	109	239	767
有意確率	4.62861E-08 ***				

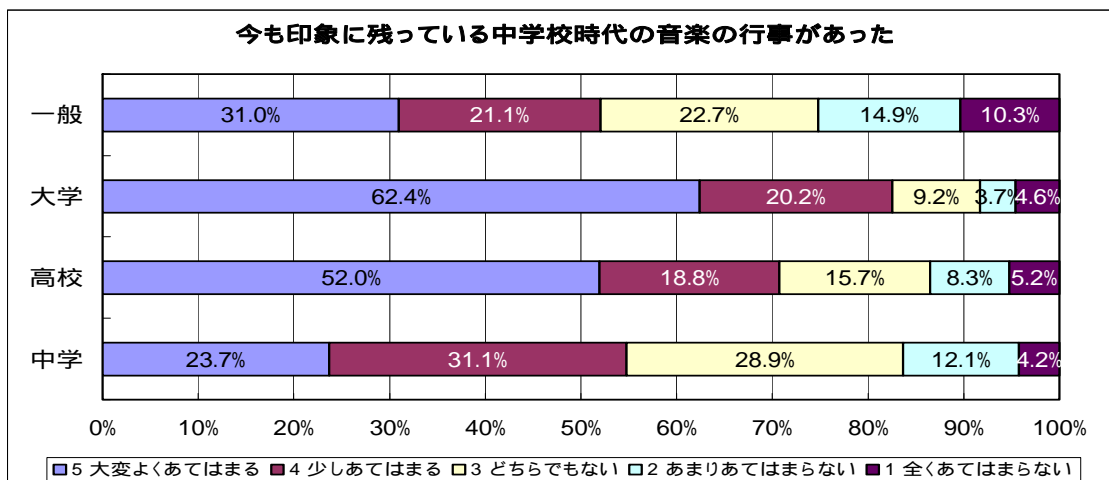
中学	高校	中学	大学	中学	一般
59.7	72.0	59.7	34.2	59.7	75.1
40.4	48.7	40.4	23.2	40.4	50.8
46.1	55.5	46.1	26.4	46.1	58.0
27.0	32.5	27.0	15.5	27.0	34.0
16.8	20.3	16.8	9.7	16.8	21.2
190	229	190	109	190	239
1.12992E-06 ***		2.40431E-08 ***		1.23722E-07 ***	

この項目は、中学を除いてどの世代も3.4.5が80%と高い数値である。何がそうさせたのか、この背景を探っていかなければならない。どのグループ間においても、この質問項目の回答には有意差がある。

以上のように、「生涯に亘っての音楽行動」の要因の独立変数の一つである反応抑制を問う質問項目【質問4】(中学と大学グループを除く)【質問8】において、グループ間の表示の比率の差に有意な差があったので、これらの質問は、反応抑制を問う質問として妥当であった。

5. 刺激の強さ

【質問3】今も印象に残っている中学校時代の音楽の行事があった。

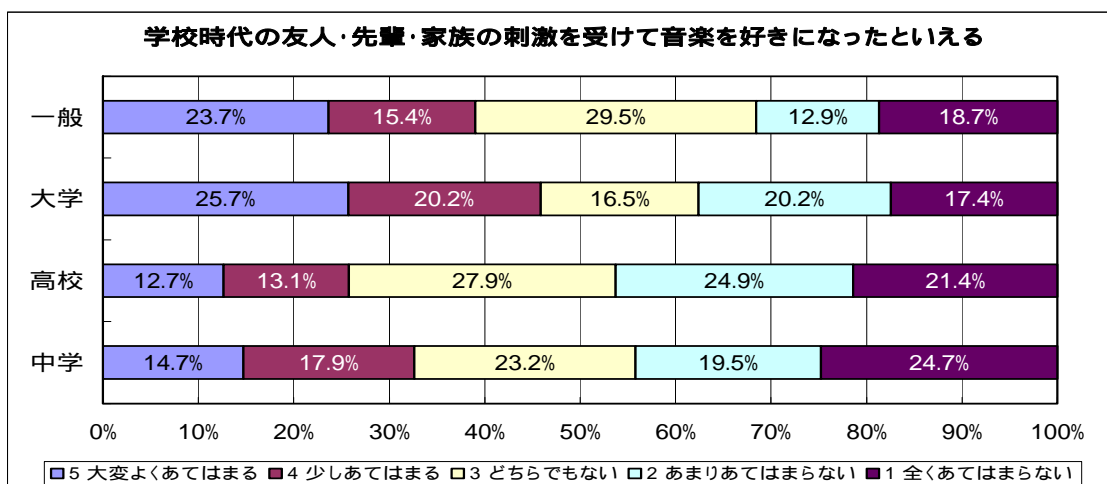


【質問3】	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	45	119	68	75	307
4 少しあてはまる	59	43	22	51	175
3 どちらでもない	55	36	10	55	156
2 あまりあてはまらない	23	19	4	36	82
1 全くあてはまらない	8	12	5	25	50
計	190	229	109	242	770
【質問3】(期待値)	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	75.8	91.3	43.5	96.5	307
4 少しあてはまる	43.2	52.0	24.8	55.0	175
3 どちらでもない	38.5	46.4	22.1	49.0	156
2 あまりあてはまらない	20.2	24.4	11.6	25.8	82
1 全くあてはまらない	12.3	14.9	7.1	15.7	50
計	190	229	109	242	770
有意確率	1.08518E-12 ***				

中学	高校	中学	大学	中学	一般
75.8	91.3	75.8	43.5	75.8	96.5
43.2	52.0	43.2	24.8	43.2	55.0
38.5	46.4	38.5	22.1	38.5	49.0
20.2	24.4	20.2	11.6	20.2	25.8
12.3	14.9	12.3	7.1	12.3	15.7
190	229	190	109	190	242
2.32085E-08 ***		6.26736E-11 ***		1.24668E-08 ***	

中学、高校、大学と順に 5.4 の回答者が増え、3 の回答者を含めると 90%近い数値である。一般は、十分な音楽活動がなされていなかった時代の大人が多く含まれている。現在の指導要領での教育で行事が大きな印象となって残っていていると考えられる。どのグループ間においても、この質問項目の回答には有意差がある。

【質問5】 学校時代の友人・先輩・家族の刺激を受けて音楽を好きになったといえる。

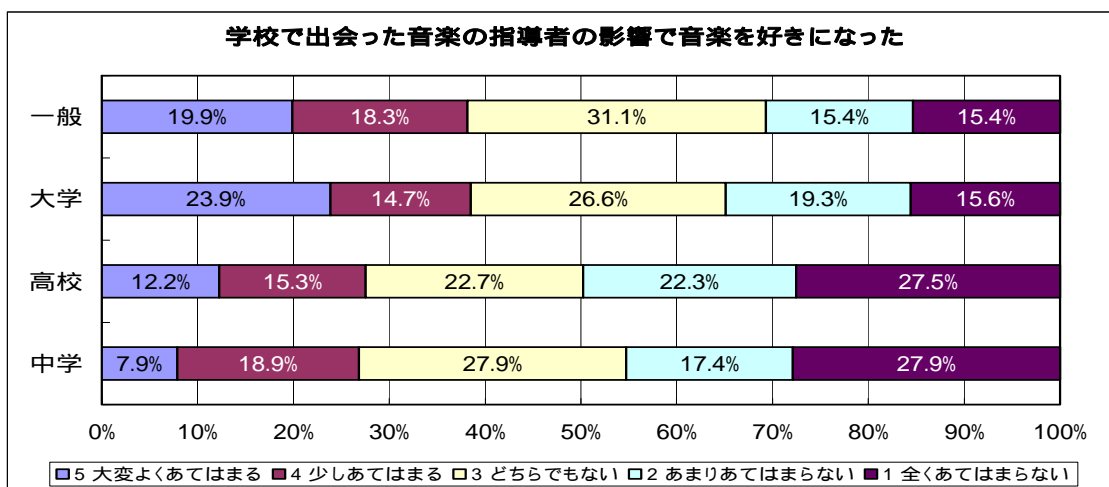


【質問5】	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	28	29	28	57	142
4 少しあてはまる	34	30	22	37	123
3 どちらでもない	44	64	18	71	197
2 あまりあてはまらない	37	57	22	31	147
1 全くあてはまらない	47	49	19	45	160
計	190	229	109	241	769
【質問5】(期待値)	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	35.1	42.3	20.1	44.5	142
4 少しあてはまる	30.4	36.6	17.4	38.5	123
3 どちらでもない	48.7	58.7	27.9	61.7	197
2 あまりあてはまらない	36.3	43.8	20.8	46.1	147
1 全くあてはまらない	39.5	47.6	22.7	50.1	160
計	190	229	109	241	769
有意確率	0.001155608	***			

中学	高校	中学	大学	中学	一般
35.1	42.3	35.1	20.1	35.1	44.5
30.4	36.6	30.4	17.4	30.4	38.5
48.7	58.7	48.7	27.9	48.7	61.7
36.3	43.8	36.3	20.8	36.3	46.1
39.5	47.6	39.5	22.7	39.5	50.1
190	229	190	109	190	241
0.008594577	***	0.015959704	**	0.006832671	***

この質問は、3.4.5を含めると半数であるが、2.1も大きな数値が出ており、まわりの人以外に何が音楽を好きにさせたのか、後の検証で明らかにすべき項目である。どのグループ間においても、この質問項目の回答には有意差がある。

【質問7】 学校で出会った音楽の指導者の影響で音楽を好きになった。

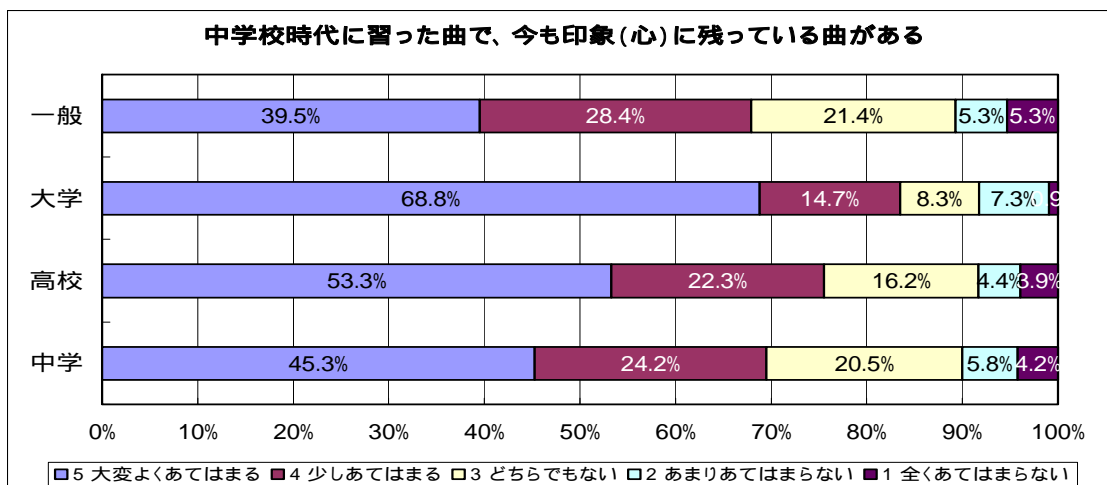


【質問7】	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	15	28	26	48	117
4 少しあてはまる	36	35	16	44	131
3 どちらでもない	53	52	29	75	209
2 あまりあてはまらない	33	51	21	37	142
1 全くあてはまらない	53	63	17	37	170
計	190	229	109	241	769
【質問7】(期待値)	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	28.9	34.8	16.6	36.7	117
4 少しあてはまる	32.4	39.0	18.6	41.1	131
3 どちらでもない	51.6	62.2	29.6	65.5	209
2 あまりあてはまらない	35.1	42.3	20.1	44.5	142
1 全くあてはまらない	42.0	50.6	24.1	53.3	170
計	190	229	109	241	769
有意確率	0.000180425	***			

中学	高校	中学	大学	中学	一般
28.9	34.8	28.9	16.6	28.9	36.7
32.4	39.0	32.4	18.6	32.4	41.1
51.6	62.2	51.6	29.6	51.6	65.5
35.1	42.3	35.1	20.1	35.1	44.5
42.0	50.6	42.0	24.1	42.0	53.3
190	229	190	109	190	241
0.001031085	***	0.001244995	***	0.000255733	***

音楽を好きになる要因は、音楽の指導者だけではない。何が好きにさせるのか、背景を後の検定で明らかにする。どのグループ間においても、この質問項目の回答には有意差がある。

【質問 17】 中学校時代に習った曲で、今も印象（心）に残っている曲がある。



【質問17】	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	86	122	75	96	379
4 少しあてはまる	46	51	16	69	182
3 どちらでもない	39	37	9	52	137
2 あまりあてはまらない	11	10	8	13	42
1 全くあてはまらない	8	9	1	13	31
計	190	229	109	243	771
【質問17】(期待値)	中学	高校	大学	一般	実測値(人)
5 大変よくあてはまる	93.4	112.6	53.6	119.5	379
4 少しあてはまる	44.9	54.1	25.7	57.4	182
3 どちらでもない	33.8	40.7	19.4	43.2	137
2 あまりあてはまらない	10.4	12.5	5.9	13.2	42
1 全くあてはまらない	7.6	9.2	4.4	9.8	31
計	190	229	109	243	771
有意確率	0.000618635	***			

中学	高校	中学	大学	中学	一般
93.4	112.6	93.4	53.6	93.4	119.5
44.9	54.1	44.9	25.7	44.9	57.4
33.8	40.7	33.8	19.4	33.8	43.2
10.4	12.5	10.4	5.9	10.4	13.2
7.6	9.2	7.6	4.4	7.6	9.8
190	229	190	109	190	243
0.512179032		0.000151809	***	0.023141188	**

有意確率 = 0.5121 > 有意水準 = 0.1  
したがって、中学と高校のグループは有意差があるとはいえない

この項目は、中学、高校、大学において順次増えている数値である。高い数値で、学校教育の中の音楽の占める位置は大きい。一般においても他グループと比較的変わらない数値が出ている。中学・高校のグループ間には有意差があるとはいえないが、他の中学・大学、中学・一般のグループ間において、この質問項目の回答には有意差がある。

以上のように、「生涯に亘る音楽行動」の要因の独立変数の一つである刺激の強さを問う質問項目【質問 3】【質問 5】【質問 7】【質問 17】(中学と高校グループを除く)において、グループ間の%表示の比率の差に有意な差があったので、これらの質問は、刺激の強さを問う質問として妥当であった。

従って、%表示の表、比率の差の検定(χ<sup>2</sup>検定 CHITEST)より、各質問をグループごとに比較、検討し、特徴をあげて質問の妥当性を検定してみた結果「生涯に亘る音楽行動」につながる5つの要因の質問としてすべての質問は妥当であったので、次の検定に進む。

## 第4節 被験者の再グループ分け

【質問20】これから、何らかの音楽にかかわって、(音楽にふれた)生活がしたいと思う。

この項目において、全有効データを生涯に亘る音楽活動に積極的か、消極的か、中立か。この3グループにデータを再度分けて検定を進めることで、生涯に亘る音楽活動への意欲、原動力となっていることは何なのか？消極的グループでは、生涯に亘る音楽活動を阻害しているものは何なのか？また、中立グループに関しては、どのような項目を改善すれば、積極的グループに移行し得るのか？結果から、3つのグループ間の関係を再度検定した。

【質問20】の回答で、5・4・・・・・・積極的グループ  
2・1・・・・・・消極的グループ  
3・・・・・・中立グループ

全有効データ 758名 内訳

全有効データ

	男	女	計
中学	95	95	190
高校	80	149	229
大学	22	87	109
一般	76	154	230
総計	273	485	758

全有効データ グループ別人数

積極的グループ・・・・・・ 526名 (69%)

消極的グループ・・・・・・ 75名 (10%)

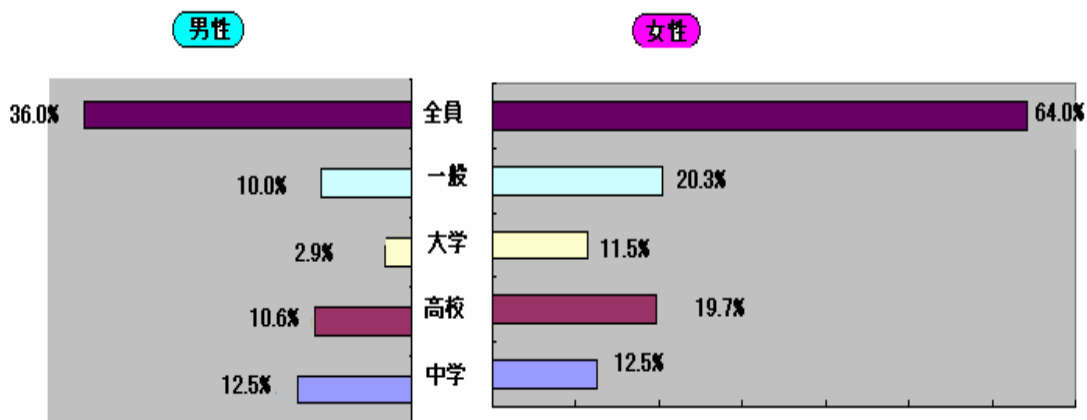
中立グループ・・・・・・ 157名 (21%)

積極的：消極的：中立 = 約7：1：2の割合になった。

全有効データ男女別、グループ別 内訳

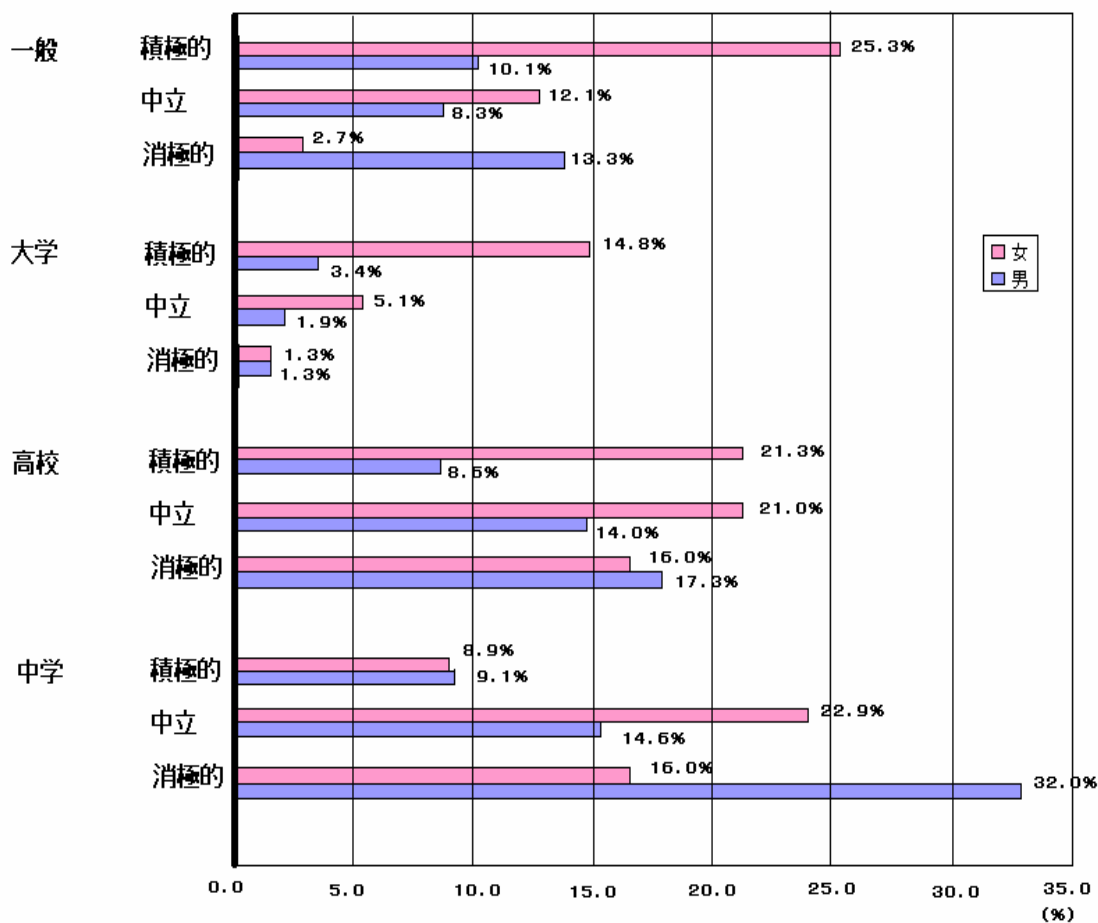
全有効データ (人)				全有効データ (%)			
	男	女	計		男	女	計
中学	95	95	190	中学	12.5	12.5	25.1
高校	80	149	229	高校	10.6	19.7	30.2
大学	22	87	109	大学	2.9	11.5	14.4
一般	76	154	230	一般	10.0	20.3	30.3
総計	273	485	758	総計	36.0	64.0	100.0

全データグループ別男女比率表



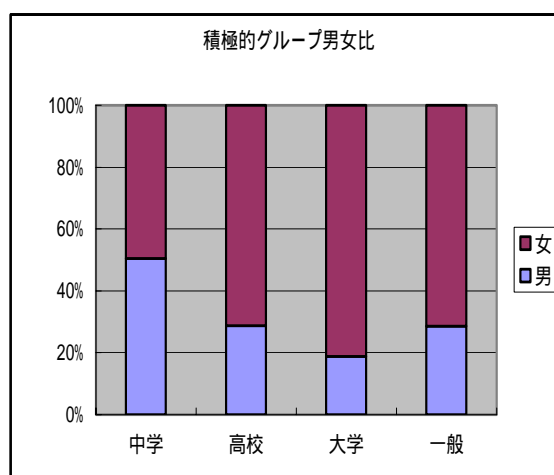
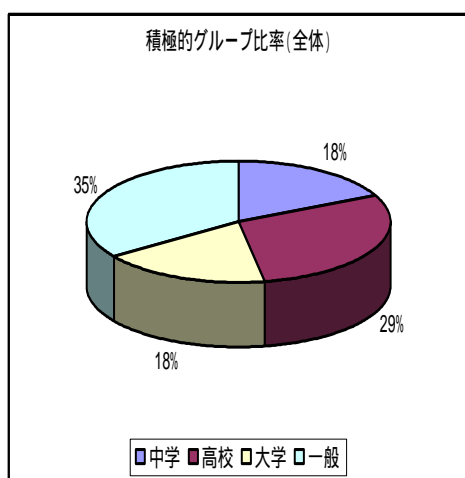
全有効データは、男女別比率で見ると女性が64.0%と多く、また、グループ別では大学グループが14.4%と他のグループと比べるとデータ数の比率は低い。この%は【質問20】での再グループ分けにおいて男女別、グループ別において問題のない比率と判断し、次の調査を進めていく。

《集団内 意識比率 一覧表》



## 積極的グループデータ 内訳

積極的グループ人数 (人)				(%)			
	男	女	計		男	女	計
中学	48	47	95	中学	9.1	8.9	18.1
高校	45	112	157	高校	8.6	21.3	29.8
大学	18	78	96	大学	3.4	14.8	18.3
一般	53	133	186	一般	10.1	25.3	35.4
総計	164	362	526	総計	31.2	68.8	100

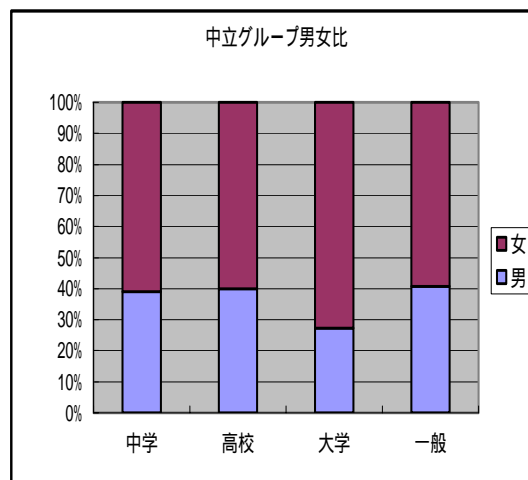
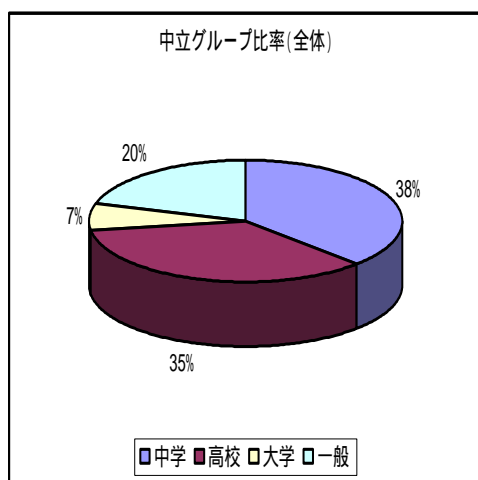


積極的グループは、一般グループが35.4%と最も比率が多く、次に多いのは高校グループである。男女差については中学で同じ比率で、他のグループでは女性が多い。



## 中立グループデータ 内訳

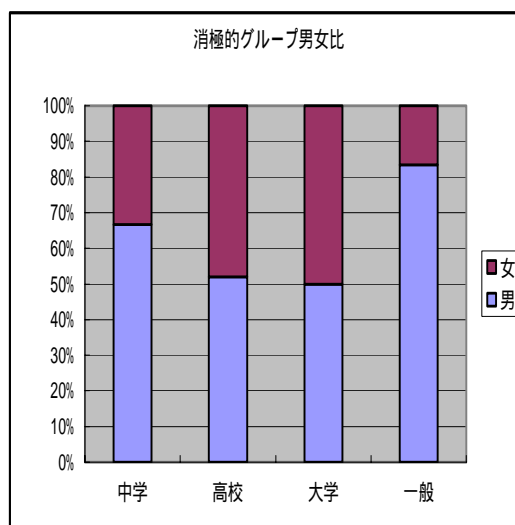
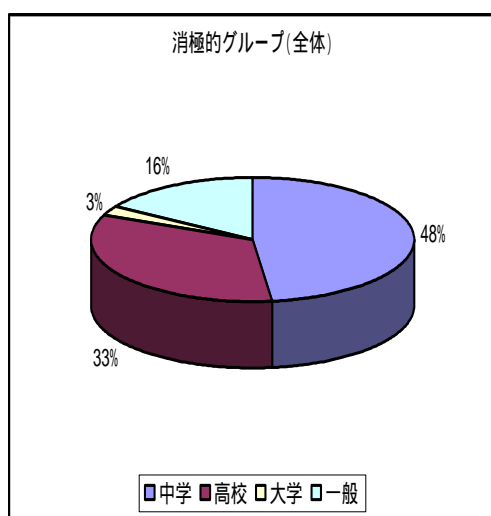
中立グループ人数 (人)			中立グループ比率 (%)				
	男	女	計		男	女	計
中学	23	36	59	中学	14.6	22.9	37.6
高校	22	33	55	高校	14.0	21.0	35.0
大学	3	8	11	大学	1.9	5.1	7.0
一般	13	19	32	一般	8.3	12.1	20.4
総計	61	96	157	総計	38.9	61.1	100



中立グループは、中学グループの37.6%と高校グループの35.0%が多く、現在の学校教育世代に「中立」という曖昧な、回答をしている者が多い。ということは、言い換えるならば、音楽に接する機会を増やし音楽の良さを発見しうるならば、プラスの方向に回答は十分に変わる可能性があるということである。また、マイナスにも変わりうる。中立グループは将来に向けて、音楽に対してどういう意識を持ち、どう音楽行動に移行するかは未知数であるということが言える。このグループにおける行動は、注意深く検討する余地のある重要なポイントであると思われる。

## 消極的グループデータ 内訳

消極的グループ人数 (人)				消極的グループ人数 (%)			
	男	女	計		男	女	計
中学	24	12	36	中学	32.0	16.0	48.0
高校	13	12	25	高校	17.3	16.0	33.3
大学	1	1	2	大学	1.3	1.3	2.7
一般	10	2	12	一般	13.3	2.7	16.0
総計	48	27	75	総計	64	36	100



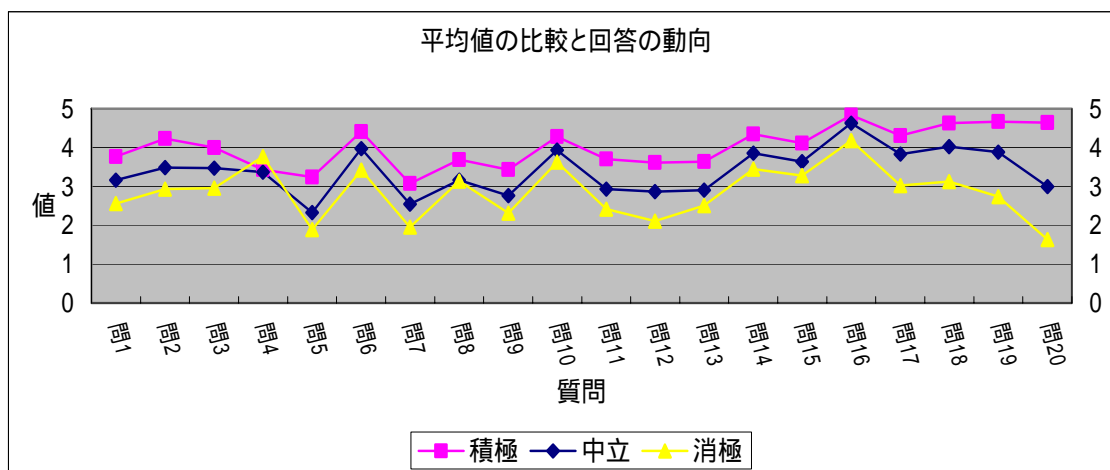
消極的グループは、中学・高校グループにおいて%数値が高く、「音楽」を受け入れてはみたが、どう自分自身が整理し、判断し、行動に移していくか「試行錯誤」の年代と思われる。もちろん学校教育時代に、プラスにもマイナスにも他のグループに移行することは十分あるだろうし、学校教育終了後においても他のグループに十分変わりうる。このグループにおいても、これからの音楽に対する意識、変革は可能である。

## 平均値と分散分析

下の表は、再グループ分けでの基本統計の平均値である。

基本統計での結果から			
平均	積極	中立	消極
問1	3.768061	3.165605	2.56
問2	4.224335	3.477707	2.933333
問3	4.001901	3.464968	2.96
問4	3.43346	3.363057	3.76
問5	3.241445	2.33121	1.893333
問6	4.408745	3.974522	3.413333
問7	3.077947	2.547771	1.96
問8	3.690114	3.165605	3.133333
問9	3.425856	2.764331	2.32
問10	4.279468	3.936306	3.626667
問11	3.695817	2.929936	2.413333
問12	3.617871	2.872611	2.106667
問13	3.634981	2.904459	2.506667
問14	4.338403	3.859873	3.44
問15	4.108365	3.636943	3.28
問16	4.826996	4.630573	4.173333
問17	4.304183	3.828025	3.026667
問18	4.63308	4.019108	3.12
問19	4.665399	3.88535	2.733333
問20	4.636882	3	1.626667

グループの回答者が、順次各質問に答えていく平均値の推移を表で比較してみた。



\*積極的グループの回答の意識動向は、常に高い平均値を示しており

後半[質問16]以降これからの音楽活動により前向きな高数値が出ている。

\*消極的グループの回答の意識動向は、[質問16]に向かって高くなり家で音楽が聞ける機器があるのは、

今やどの過程においてもよい環境にあると分かる。しかし、

過去の印象を問われたり、日頃から音楽を聴いたりこれからの音楽の行動化に向けての質問に関しては下がる傾向が

\*消極的グループは、[質問4]学校時代に、音楽で恥ずかしい思いをした。で一番高い数値が出ており

音楽に関する知識や他の質問においてもタグループより全体に低い平均値であり、

これからの活動については、最低平均値である。

\*中立グループの回答の意識動向は、多くの質問に共通して積極的グループと消極的グループの間の数値の動きである

\*\*\*3グループに共通した回答の動向は、[質問6][質問10][質問16]にピークがあり、これからの音楽活動意識に関する[質問20]でより、音楽に対しての意識の差が決定的に分かれた。

## 基本統計の結果から

分散分析：一元配置

概要

グループ	標本数	合計	平均	分散
積極	20	80.01331	4.000665	0.265535852
中立	20	67.75796	3.387898	0.341979924
消極	20	56.98667	2.849333	0.45683462

分散分析表

変動要因	変動	自由度	分散	観測された分散比	P-値	F境界値
グループ間	13.27401	2	6.637004	18.70719742	5.67E-07	3.158843
グループ内	20.22266	57	0.354783			
合計	33.49667	59				

( E-n は、小数点以下の桁数を表す。5.67E-07 は、0.000000567 を意味する。)  
 $P=5.67E-07 < 0.01$  (有意水準) ゆえに P 値 (有意差があるとはいえない危険率の確率) は、1%水準でそれぞれグループ間に、きわめて有意な差が見られる。

以上のグループ別因子の検討を、《積極的グループ》《消極的グループ》《中立グループ》に分け、質問ごとの平均点を算出し t 検定を行った。

## 異なる集団間の t 検定

異なる集団間における t 検定一覧 (平均値のみ表示)

	積極	消極	積極	中立	消極	中立
問1	3.768	2.560	3.768	3.166	2.560	3.166
問2	4.224	2.933	4.224	3.478	2.933	3.478
問3	4.002	2.960	4.002	3.465	2.960	3.465
問4	3.433	3.760	3.433	3.363	3.760	3.363
問5	3.241	1.893	3.241	2.331	1.893	2.331
問6	4.409	3.413	4.409	3.975	3.413	3.975
問7	3.078	1.960	3.078	2.548	1.960	2.548
問8	3.690	3.133	3.690	3.166	3.133	3.166
問9	3.426	2.320	3.426	2.764	2.320	2.764
問10	4.279	3.627	4.279	3.936	3.627	3.936
問11	3.696	2.413	4.279	3.936	2.413	2.930
問12	3.618	2.107	3.618	2.873	2.107	2.873
問13	3.635	2.507	3.635	2.904	2.507	2.904
問14	4.338	3.440	4.338	3.860	3.440	3.860
問15	4.108	3.280	4.108	3.637	3.280	3.637
問16	4.827	4.173	4.827	4.631	4.173	4.631
問17	4.304	3.027	4.304	3.828	3.027	3.828
問18	4.633	3.120	4.633	4.019	3.120	4.019
問19	4.665	2.733	4.665	3.885	2.733	3.885

p<0.01    
 p<0.05    
 有意差なし

上の表は、【質問 20】の項目での、《積極的グループ》《消極的グループ》《中立グループ》この3つのグループにおいて他のすべての質問項目で t 検定を行った。それぞれの平均値を表示した表に、t 検定の結果を有意水準においての色別に示してみた。それぞれ集団間に有意な差がでておりこの3つのグループ分けは、正しいと判断できる。

《積極的グループ》と《消極的グループ》の平均値の t 検定結果から、平均値は、明らかに《積極的グループ》は、他のグループに比べ、数値が高く、《中立グループ》《消極的グループ》の順である。

《積極的グループ》と《消極的グループ》の結果は、すべての質問項目において、平均値の有意な差がみられた。

《積極的グループ》《中立グループ》の結果の【質問 4】(学校時代に、音楽で恥ずかしい思いをしたことがあった。)では、グループ間に平均値の有意な差は見られなかった。音楽に対して、絶対感じさせてはならない「恥ずかしいという思い」である。教師の言動なり、周囲の者の言動が、大きく音楽への思いを遮断する現状が分かる。【質問 4】以外は、全ての質問に《積極的グループ》《消極的グループ》、《積極的グループ》《中立グループ》間に、平均値の有意差が見られた。

《消極的グループ》《中立グループ》においては、【質問 8】(音楽に対して、学校時代に苦手な意識や劣等感があった。)と【質問 15】(学校で習った楽器(リコーダー・鍵盤ハーモニカ等)の指使いがわかる。)において、平均値の有意差は見られなかった。この項目を学校教育で改善していけば、この項目で、《消極的グループ》《中立グループ》は《積極的グループ》に変わりうるということが読み取れる。

## グループ内男女の t 検定

異なる集団間内男女における t 検定一覧 (平均値のみ表示)						
平均値	積極的グループ		消極的グループ		中立グループ	
	積極的(女)	積極的(男)	消極的(女)	消極的(男)	中立(女)	中立(男)
問1	3.909	3.457	3.037	2.292	3.229	3.066
問2	4.359	3.927	3.556	2.583	3.521	3.410
問3	4.177	3.616	3.296	2.771	3.531	3.361
問4	3.470	3.354	3.296	4.021	3.313	3.443
問5	3.331	3.043	2.185	1.729	2.323	2.344
問6	4.572	4.049	3.630	3.292	4.094	3.787
問7	3.144	2.933	2.222	1.813	2.583	2.492
問8	3.762	3.530	3.111	3.146	3.052	3.344
問9	3.486	3.293	2.481	2.229	2.844	2.639
問10	4.356	4.110	3.889	3.479	4.042	3.770
問11	3.942	3.152	3.000	2.083	3.198	2.508
問12	3.834	3.140	2.630	1.813	3.042	2.607
問13	3.649	3.604	2.630	2.438	2.854	2.984
問14	4.561	3.848	4.037	3.104	4.156	3.393
問15	4.210	3.884	3.704	3.042	3.927	3.180
問16	4.845	4.787	4.593	3.938	4.688	4.541
問17	4.412	4.067	3.444	2.792	3.833	3.820
問18	4.666	4.561	3.407	2.958	4.042	3.984
問19	4.749	4.482	3.148	2.500	3.948	3.787

 p<0.01

 p<0.05

### 《積極的グループ》内の男女間で有意差のあった項目

- 【質問 1】音楽の授業が楽しかったから、授業が待ち遠しかった。
- 【質問 2】学校時代に歌うことは好きだった。
- 【質問 3】今も印象に残っている中学校時代の音楽の行事があった。
- 【質問 5】学校時代の友人・先輩・家族の刺激を受けて音楽を好きになったといえる。
- 【質問 6】みんなで合唱したり合奏したりすることはよい体験だった
- 【質問 10】曲を聞いた時、その曲が学校で習った曲であると分かる。
- 【質問 11】習った曲の楽譜をみて歌ったり、演奏したりできる。
- 【質問 12】学校で学習した音楽の知識が（記号や、音符など）今でも役に立っている。
- 【質問 14】簡単な楽譜が、階名で（ドレミ～）で読める。
- 【質問 15】学校で習った楽器（リコーダー・鍵盤ハーモニカ等）の指使いがわかる。
- 【質問 17】中学校時代に習った曲で、今も印象（心）に残っている曲がある。
- 【質問 19】楽器を演奏したり、歌ったりできるようになりたいという思いがある。

以上の質問項目は、《積極的グループ》男女間の平均値において有意差があった。

### 《消極的グループ》内の男女間で有意差のあった項目

- 【質問 11】習った曲の楽譜をみて歌ったり、演奏したりできる。
- 【質問 12】学校で学習した音楽の知識が（記号や、音符など）今でも役に立っている。
- 【質問 14】簡単な楽譜が、階名で（ドレミ～）で読める。

【質問 15】学校で習った楽器（リコーダー・鍵盤ハーモニカ等）の指使いがわかる。

以上の質問項目は、《消極的グループ》男女間の平均値において有意差があった。

#### 《中立グループ》内の男女間で有意差のあった項目

【質問 1】音楽の授業が楽しかったから、授業が待ち遠しかった。

【質問 2】学校時代に歌うことは好きだった。

【質問 4】学校時代に、音楽で恥ずかしい思いをしたことがあった。

【質問 11】習った曲の楽譜をみて歌ったり、演奏したりできる。

【質問 12】学校で学習した音楽の知識が（記号や、音符など）今でも役に立っている。

【質問 14】簡単な楽譜が、階名で（ドレミ～）で読める。

【質問 15】学校で習った楽器（リコーダー・鍵盤ハーモニカ等）の指使いがわかる。

【質問 16】家で音楽が聞ける機器（テレビ、ラジオ、CD,MD）や楽器などが身近にある。

【質問 19】楽器を演奏したり、歌ったりできるようになりたいという思いがある。

以上の質問項目は、《中立グループ》男女間の平均値において有意差があった。

3つのグループ内で、《消極的グループ》においては、有意差の無い質問項目が多くあったが、《消極的グループ》《中立グループ》《積極的グループ》それぞれにおいて、有意確率（P値）の数値の差はあるが、各グループの男女間にも、有意差があると判断されたので、次の分析へと進める。

分散分析：一元配置

#### 概要

グループ	標本数	合計	平均	分散
積極的(女)	19	77.4337	4.075458	0.260909866
積極的(男)	19	70.83537	3.728177	0.281823467
消極的(女)	19	61.2963	3.226121	0.389863548
消極的(男)	19	52.02083	2.737939	0.454104735
中立(女)	19	66.21875	3.485197	0.386421149
中立(男)	19	62.45902	3.287317	0.349827359

#### 分散分析表

変動要因	変動	自由度	分散	観測された分散比	P-値	F境界値
グループ間	19.93447	5	3.986894	11.26798289	9.33E-09	2.298431
グループ内	38.2131	108	0.353825			
合計	58.14757	113				

P=9.33E-09

P<0.01

ゆえに1%水準で、グループ間には有意差がある。

## 因子分析

全調査者を【質問20】の回答で、《全データ》《積極的グループ》と《消極的グループ》《中立グループ》の分け、質問項目の中から、因子を（ファクター）を抽出する。そして調査項目の背景にある直接には観測できない概念を特定し、質問項目のグループ間だけで密接に関連する因子を見つけることを目的に、因子分析を行った。

意味のある因子を探すのに、ある因子に対して高い負荷を持つ変数の数を最小化する回転の手法（バリマックス回転）を用いた。

### 【因子分析の結果】

《全データによる因子分析の結果》

因子負荷量: 回転後 (バリマックス法)					
全データ					
質問	因子 1	因子 2	因子 3	因子 4	因子 5
【質問8】学校で出会った音楽の指導者の影響で音楽を好きになった。	0.648031	0.0678	0.034166	0.206569	0.031815
【質問9】学校時代の音楽の種が、音楽を理解したり愛好したりするきっかけとなった。	0.647893	0.15124	0.116769	0.217034	-0.00317
【質問10】学校時代の友人・先輩・家族の刺激を受けて音楽を好きになったといえる。	0.559013	0.222212	0.070311	0.092441	0.012669
【質問11】音楽の授業が楽しかったから、授業が待ち遠しかった。	0.551126	0.137713	0.171637	0.375069	0.310858
【質問12】楽器を演奏したり、歌ったりできるようになりたいという思いがある。	0.166647	0.674075	0.190201	0.190158	0.086208
【質問13】これから、何らかの音楽にかかわって、(音楽こぼれた)生活がしたいと思う。	0.358873	0.654133	0.20264	0.068088	0.101196
【質問14】音楽が流れていると、こころがリラックスする。	0.233913	0.627209	0.144635	0.203945	-0.00144
【質問15】家で音楽が聞ける機器(テレビ、ラジオ、CD、MD)や楽器などが身近にある。	-0.055	0.422059	0.242984	0.27653	0.04366
【質問16】簡単な楽譜が、階名で(ドレミ-)で読める。	0.034587	0.178521	0.718841	0.147675	0.142071
【質問17】学校で習った楽器(リコーダー・鍵盤ハーモニカ等)の指使いがわかる。	0.018417	0.135648	0.663268	0.207732	0.099085
【質問18】習った曲の楽譜をみて歌ったり、演奏したりできる。	0.273489	0.211707	0.589591	0.129887	0.171116
【質問19】学校で学習した音楽の知識が(記号や、音符など)今でも役に立っている。	0.436167	0.243427	0.484402	0.086611	0.106526
【質問20】みんなで合唱したり合奏したりすることはよい体験だった。	0.322787	0.236515	0.179505	0.560501	0.092405
【質問21】今も印象に残っている中学校時代の音楽の行事があった。	0.301787	0.163866	0.258502	0.540036	0.008727
【質問22】中学校時代に習った曲で、今も印象(心)に残っている曲がある。	0.298142	0.305069	0.176635	0.469065	-0.05965
【質問23】曲を聞いた時、その曲が学校で習った曲であると分かる。	0.222845	0.196282	0.281823	0.352822	-0.02908
【質問24】音楽に対して、学校時代に苦手な意識や劣等感があった。	0.090879	0.064283	0.206778	0.076241	0.58247
【質問25】学校時代に歌うこと好きだった。	0.34533	0.304103	0.09234	0.384895	0.444612
【質問26】学校時代に、音楽で恥ずかしい思いをしたことがあった。	-0.07824	-0.04916	0.005283	-0.09059	0.428671
【質問27】歌をうたうとき、無理なく声を出すことができる。	0.227577	0.297557	0.178355	0.159514	0.421025

### 固有値表: 回転後 (バリマックス法)

因子	二乗和	寄与率	累積寄与率
因子 1	2.456059	12.28%	12.28%
因子 2	2.105906	10.53%	22.81%
因子 3	2.038117	10.19%	33.00%
因子 4	1.625101	8.13%	41.13%
因子 5	1.099017	5.50%	46.62%

固有値・・・因子の数を決めるための一つのモデル、一つの規準は、1より大きい分散(固有値が1より大きい)を説明する因子だけを含めるということ

累積寄与率・・・説明することに寄与している分散の累積率

因子・・・固有値が1.0以上であること



【質問】項目 20 を、《エクセル 2004 統計》を使ってバリマックス法の因子分析を行った結果、次の 5 因子に分類することができる。

#### 因子 No.1

第 1 因子は、

- 【質問 7】学校で出会った音楽の指導者の影響で音楽を好きになった。(0.648)  
【質問 9】学校時代の音楽の活動が、音楽を理解したり愛好したりするきっかけとなった。(0.647)  
【質問 5】学校時代の友人・先輩・家族の刺激を受けて音楽を好きになったといえる。(0.559)  
【質問 1】音楽の授業が楽しかったから、授業が待ち遠しかった。(0.551)
- が共に高い負荷量を示した。これらの質問は、過去の経験や体験記憶からくる音楽愛好の意志、嗜好、知覚を温存し継続させる過去の因子である。また、人的影響の要素が含まれているプラス刺激の因子でもある。

#### 因子 No.2

第 2 因子は、

- 【質問 19】楽器を演奏したり、歌ったりできるようになりたいという思いがある。(0.674)  
【質問 20】これから、何らかの音楽にかかわって、(音楽にふれた)生活がしたいと思う。(0.654)  
【質問 18】音楽が流れていると、こころがリラックスする。(0.627)  
【質問 16】家で音楽が聞ける機器(テレビ、ラジオ、CD,MD)や楽器などが身近にある。(0.422)
- が高い負荷量を示した。これらの質問は、～したいという人間の内面の欲求が含まれ、自分の意志によって自発的な行動発展、精神的平穏を音楽に求める心につながる因子である。

#### 因子 No.3

第 3 因子は、

- 【質問 14】簡単な楽譜が、階名で(ドレミ～)で読める。(0.718)  
【質問 15】学校で習った楽器(リコーダー・鍵盤ハーモニカ等)の指使いがわかる。(0.663)  
【質問 11】習った曲の楽譜をみて歌ったり、演奏したりできる。(0.589)  
【質問 12】学校で学習した音楽の知識が(記号や、音符など)今でも役に立っている。(0.484)
- が高い負荷量を示した。これらの質問は、中学校時代の学習からくる因子で、音楽活動の基礎力である。これらの学習の知識、演奏力は自ら求めようとする音楽活動の心理的での意志に、大きく左右すると思われる因子である。

#### 因子 No.4

第 4 因子は、

- 【質問 6】みんなで合唱したり合奏したりすることはよい体験だった。(0.560)  
【質問 3】今も印象に残っている中学校時代の音楽の行事があった。(0.540)  
【質問 17】中学校時代に習った曲で、今も印象(心)に残っている曲がある。(0.469)

---

【質問 10】曲を聞いた時、その曲が学校で習った曲であると分かる。(0.352)  
が高い負荷量を示した。これらの質問は、中学校時代の音楽活動の体験からくるもので、それら音楽体験が強く温存され継続し、プラスの刺激として今も残っているということである。またこの中には、良い音楽だった。快く音楽活動が出来た、教師の教えが良かった、仲間と共に活動した、という、良き音楽との出会い、人とのふれあいも大きな要素として含まれている。

### 因子 No.5

第5因子は、

【質問 8】音楽に対して、学校時代に苦手な意識や劣等感があった。(0.582)  
が、高い負荷量を示した。学校時代の苦手な意識、劣等感、人として生涯心に残るもので、このマイナス刺激は、ぬぐい去ることは容易でない。そして、次にあがっている

【質問 2】学校時代に歌うことは好きだった。(0.444)

【質問 4】学校時代に、音楽で恥ずかしい思いをしたことがあった。(0.428)

【質問 13】歌をうたうとき、無理なく声を出すことができる。(0.421)

は、「歌うこと」についての苦手意識、「声を出しにくい」、マイナス刺激である「学校時代に音楽で恥ずかしい思いをした」が因子に含まれていることに注目したい。この因子は、音楽を楽しいものと受け入れる意識にマイナスに左右する因子で、認知を阻害するものである。

## 《積極的グループ》

因子負荷量: 回転後 (バリマックス法)					
(積極的グループ)					
質問	因子 1	因子 2	因子 3	因子 4	因子 5
【質問9】 学校時代の音楽の種が、音楽を理解したり愛好したりするきっかけとなった。	0.643186	0.080085	0.201989	0.139287	0.031499
【質問7】 学校で出会った音楽の指導者の影響で音楽を好きになった。	0.632869	0.027112	0.181776	0.005472	0.058295
【質問1】 音楽の授業が楽しかったから、授業が待ち遠しかった。	0.506824	0.175287	0.392416	0.025193	0.363597
【質問5】 学校時代の友人・先輩・家族の刺激を受けて音楽を好きになったといえる。	0.493604	0.020595	0.129326	0.169668	0.055418
【質問4】 簡単な楽譜が、階名で(ドレミ-)で読める。	0.011371	0.726193	0.119774	0.124817	0.187802
【質問6】 学校で習った楽器(リコーダー・鍵盤ハーモニカ等)の指使いがわかる。	0.008058	0.646414	0.186448	0.053886	0.126441
【質問11】 習った曲の楽譜をみて歌ったり、演奏したりできる。	0.148057	0.606594	0.086289	0.255592	0.193723
【質問2】 学校で学習した音楽の知識が(記号や 音符など)今でも役に立っている。	0.375557	0.46237	0.088567	0.317788	0.167176
【質問8】 みんなで合唱したり合奏したりすることはよい体験だった。	0.260753	0.14011	0.574907	0.223311	0.105448
【質問10】 今も印象に残っている中学校時代の音楽の行事があった。	0.234919	0.229177	0.546288	0.14924	-0.00945
【質問17】 中学校時代に習った曲で、今も印象(心)に残っている曲がある。	0.268022	0.104436	0.49764	0.195442	-0.0552
【質問12】 学校時代に歌うことが好きだった。	0.249461	0.057648	0.472085	0.111559	0.463302
【質問9】 楽器を演奏したり、歌ったりできるようになりたいという思いがある。	0.024242	0.084457	0.134601	0.548007	0.141255
【質問20】 これから、何らかの音楽にかかわって、(音楽にふれた)生活したいと思う。	0.163068	0.11666	0.011276	0.501398	0.109696
【質問8】 音楽が流れていると、ところがリラックスする。	0.192235	0.035036	0.105463	0.421328	-0.00985
【質問6】 家で音楽が聞ける機器(テレビ、ラジオ、CD、MD)や楽器などが身近にある。	-0.10415	0.170759	0.208806	0.379905	0.003065
【質問10】 曲を聞いた時、その曲が学校で習った曲であると分かる。	0.209587	0.194151	0.28763	0.311398	-0.03384
【質問10】 音楽に対して、学校時代に苦手な意識や劣等感があった。	0.026695	0.239433	0.090847	0.083784	0.574471
【質問4】 学校時代に、音楽で恥ずかしい思いをしたことがあった。	-0.01968	0.046161	-0.14242	0.034781	0.432096
【質問3】 歌をうたうとき、無理なく声を出すことができる。	0.160949	0.177147	0.140699	0.066224	0.393731

## 固有値表: 回転後 (バリマックス法)

因子	二乗和	寄与率	累積寄与率
因子 1	1.881044	9.41%	9.41%
因子 2	1.831295	9.16%	18.56%
因子 3	1.612444	8.06%	26.62%
因子 4	1.339576	6.70%	33.32%
因子 5	1.190288	5.95%	39.27%

音楽にかかわって(音楽にふれた)生活したいと願う《積極的グループ》の各因子の関わりを見ると、

## 因子 No.1

第1因子は、

【質問9】 学校時代の音楽の活動が、音楽を理解したり愛好したりするきっかけとなった。(0.643)

【質問7】 学校で出会った音楽の指導者の影響で音楽を好きになった。(0.632)

【質問1】 音楽の授業が楽しかったから、授業が待ち遠しかった。(0.506)

【質問5】 学校時代の友人・先輩・家族の刺激を受けて音楽を好きになったといえる。(0.493)

が共に高い負荷量を示した。これらの質問は、過去の経験や体験記憶からくる音楽愛好の意志、嗜好、知覚を温存させる過去の因子である。また、音楽指導者の影響の要素も含まれているプラス刺激の因子である。

#### 因子 No.2

第2因子は、

- 【質問 14】簡単な楽譜が、階名（ドレミ～）で読める。（0.726）
- 【質問 15】学校で習った楽器（リコーダー・鍵盤ハーモニカ等）の指使いがわかる。（0.646）
- 【質問 11】習った曲の楽譜をみて歌ったり、演奏したりできる。（0.606）
- 【質問 12】学校で学習した音楽の知識が（記号や、音符など）今でも役に立っている。（0.462）

が高い負荷量を示した。これらの質問は、「わかる」「できる」が自信につながり、音楽愛好への橋がかりとなる学校指導要領の根幹にせまるものである。

#### 因子 No.3

第3因子は、

- 【質問 6】みんなで合唱したり合奏したりすることはよい体験だった。（0.574）
- 【質問 3】今も印象に残っている中学校時代の音楽の行事があった。（0.546）
- 【質問 17】中学校時代に習った曲で、今も印象（心）に残っている曲がある。（0.497）
- 【質問 2】学校時代に歌うことは好きだった。（0.472）

が高い負荷量を示した。これらの質問は、中学校時代の学習からくる経験と音楽体験にかかわるプラス刺激の因子で、《全データ》の第4因子と同様の作用をする。良い音楽に出会った、印象に残る教師に出会った、仲間と共に活動したという要素も大きい。

#### 因子 No.4

第4因子は、

- 【質問 19】楽器を演奏したり、歌ったりできるようになりたいという思いがある。（0.548）
  - 【質問 20】これから、何らかの音楽にかかわって、（音楽にふれた）生活がしたいと思う。（0.501）
  - 【質問 18】音楽が流れていると、こころがリラックスする。（0.421）
  - 【質問 16】家で音楽が聞ける機器（テレビ、ラジオ、CD,MD）や楽器などが身近にある。（0.379）
  - 【質問 10】曲を聞いた時、その曲が学校で習った曲であると分かる。（0.311）
- が高い負荷量を示した。これらの質問は、「～したい」という音楽に求める行動欲求が含まれている。自分の意志によって自発的な行動発展を音楽に求める因子である。

#### 因子 No.5

第5因子は、

- 【質問 8】音楽に対して、学校時代に苦手な意識や劣等感があった。（0.574）
- 【質問 4】学校時代に、音楽で恥ずかしい思いをしたことがあった。（0.432）
- 【質問 13】歌をうたうとき、無理なく声を出すことができる。（0.393）

が、高い負荷量を示した。《全データ》の第5因子と同様の作用をする。学校時代の苦手な意識、劣等感、人として生涯心に残るもので、このマイナス刺激は、ぬぐい去ることは容易でない。これは、音楽を楽しみしいものと受け入れる意識にマイナスに左右する因子で、音楽に対する意識を阻害するものである。

## 《消極的グループ》

因子負荷量:回転後(ハリマックス法)					
(消極グループ)					
質問	因子 1	因子 2	因子 3	因子 4	因子 5
【質問3】今も印象に残っている中学校時代の音楽の行事があった。	0.685774	0.257292	0.175105	-0.02099	0.009838
【質問17】中学校時代に習った曲で、今も印象(心)に残っている曲がある。	0.600125	0.165313	0.081393	-0.24417	0.139382
【質問10】曲を聞いた時、その曲が学校で習った曲であると分かる。	0.580062	0.470447	0.157007	0.100932	0.059949
【質問9】学校時代の音楽の活動が、音楽を理解したり愛好したりするきっかけとなった。	0.529919	-0.00036	0.236493	-0.17017	0.166652
【質問18】音楽が流れていると、こころがリラックスする。	0.501218	0.324131	0.227533	0.026912	0.030506
【質問5】みんなで合唱したり合奏したりすることはよい体験だった。	0.494254	0.303725	0.474349	0.083091	0.015726
【質問7】学校で出会った音楽の指導者の影響で音楽を好きになった。	0.438756	0.054731	0.109616	-0.22681	0.217267
【質問4】簡単な楽譜が、階名で(ドレミ~)で読める。	0.05462	0.739852	0.067623	-0.01447	0.132054
【質問5】学校で習った楽器(リコーダー・鍵盤ハーモニカ等)の指使いがわかる。	0.254884	0.737537	0.019329	0.091054	0.071164
【質問6】家で音楽が聞ける機器(テレビ、ラジオ、CD、MD)や楽器などが身近にある。	0.124632	0.452438	0.412219	-0.03006	-0.18
【質問11】習った曲の楽譜をみて歌ったり、演奏したりできる。	0.218504	0.270342	0.132397	-0.0032	0.139391
【質問2】学校時代に歌うことが好きだった。	0.168621	0.114408	0.753896	-0.04116	0.212485
【質問3】歌をうたうとき、無理なく声を出すことができる。	0.118048	0.159133	0.570952	0.328339	0.081427
【質問1】音楽の授業が楽しかったから、授業が待ち遠しかった。	0.290895	0.010021	0.479703	-0.18276	0.241061
【質問9】楽器を演奏したり、歌ったりできるようになりたいと思うことがある。	0.321504	0.378718	0.449085	-0.08022	-0.13008
【質問4】学校時代の友人・先輩・家族の刺激を受けて音楽を好きになったといえる。	0.125638	-0.12943	0.275155	-0.33542	0.05485
【質問4】学校時代に、音楽で恥ずかしい思いをしたことがあった。	0.022824	-0.04153	0.007799	0.656599	-0.09153
【質問2】音楽に対して、学校時代に苦手な意識や劣等感があった。	-0.20912	0.02695	0.154512	0.450653	0.190802
【質問20】これから、何らかの音楽がかわって、(音楽にふれた)生活したいと思う。	0.382063	-0.02384	0.088501	-0.40737	0.343718
【質問2】学校で学習した音楽の知識が(記号や、音符など)今でも役に立っている。	0.218983	0.15977	0.147501	-0.00685	0.610753

## 固有値表:回転後(ハリマックス法)

因子	二乗和	寄与率	累積寄与率
因子 1	2.75128	13.76%	13.76%
因子 2	2.111518	10.56%	24.31%
因子 3	2.054432	10.27%	34.59%
因子 4	1.229743	6.15%	40.73%
因子 5	0.839373	4.20%	44.93%

音楽にかかわって(音楽にふれた)生活したいと願う《消極的グループ》の各因子の関わりを見ると、

## 因子 No.1

第1因子は、

【質問3】今も印象に残っている中学校時代の音楽の行事があった。(0.685)

【質問17】中学校時代に習った曲で、今も印象(心)に残っている曲がある。(0.600)

【質問10】曲を聞いた時、その曲が学校で習った曲であると分かる。(0.580)

【質問9】学校時代の音楽の活動が、音楽を理解したり愛好したりするきっかけとなった。(0.529)

【質問18】音楽が流れていると、こころがリラックスする。(0.501)

【質問6】みんなで合唱したり合奏したりすることはよい体験だった。(0.494)

【質問7】学校で出会った音楽の指導者の影響で音楽を好きになった。(0.438)

が共に高い負荷量を示した。これらの質問は、過去の経験や体験記憶、良い曲との出会い、既習曲記憶からくる自信がそれぞれプラス刺激となっている。中学校時代の音楽体験、良い曲との出会い、教師の指導力の重要性が問われる因子である。

#### 因子 No.2

第2因子は、

【質問14】簡単な楽譜が、階名(ドレミ～)で読める。(0.739)

【質問15】学校で習った楽器(リコーダー・鍵盤ハーモニカ等)の指使いがわかる。(0.737)

【質問16】家で音楽が聞ける機器(テレビ、ラジオ、CD,MD)や楽器などが身近にある。(0.452)

【質問11】習った曲の楽譜をみて歌ったり、演奏したりできる。(0.270)

は、極めて高い負荷量を示した。これらの質問は、《全データ》の第3因子と同様の作用をする。指使いが「わかる」楽譜が「よめる」が自信につながり、音楽への関心を大きくする橋がかりとなる因子である。

#### 因子 No.3

第3因子は、

【質問2】学校時代に歌うことは好きだった。(0.753)

【質問13】歌をうたうとき、無理なく声を出することができる。(0.570)

【質問1】音楽の授業が楽しかったから、授業が待ち遠しかった。(0.479)

【質問19】楽器を演奏したり、歌ったりできるようになりたいという思いがある。(0.449)

【質問5】学校時代の友人・先輩・家族の刺激を受けて音楽を好きになったといえる。(0.275)

が高い負荷量を示した。これらの質問は、中学校時代の学習からくる「歌う」体験に大きく関係する。「歌が歌える」「声を無理なく出せる」という「声」と「歌」に関する劣等感、自信の無さが、消極的な行動に左右するということが分かる因子である。

#### 因子 No.4

第4因子は、

【質問4】学校時代に、音楽で恥ずかしい思いをしたことがあった。(0.656)

【質問8】音楽に対して、学校時代に苦手な意識や劣等感があった。(0.450)

が高い負荷量を示した。この質問は、学校時代に「恥ずかしい思いをした」という体験がマイナスの作用を起こしている。

【質問20】これから、何らかの音楽にかかわって、(音楽にふれた)生活がしたいと思う。(-0.407)

が、マイナスの高い負荷量を示しているが、生涯にわたって強く残る音楽忌避の因子である。学校現場では絶対避けなければならない指導者の言動、または周りの仲間の言動が大きく作用する因子である。

#### 因子 No.5

第5因子は、

【質問12】学校で学習した音楽の知識が(記号や、音符など)今でも役に立っている。(0.610)

---

が、高い負荷量を示した。この質問は、中学校時代の音楽の基礎学力が作用している。学習した音楽の知識が今でも役立っているということは、音楽的活動は苦手であるが、知識には自信があるということを示している。

以上のように、《消極的グループ》の 因子 No.4 【質問 20】これから、何らかの音楽にかかわって、(音楽にふれた)生活がしたいと思う。が、マイナスの負荷量を示しているということは、ハルの学習理論に照らし合わせた「生涯に亘っての音楽的行動は、習慣強度(習慣性の強さ) 動因、誘因、反応制止、刺激の強さの積である」の考えにあてはめると、《消極的グループ》の人は、この質問に対して明らかに拒否の意思表示を示しており、この 因子 No.4 があることによって「生涯に亘っての音楽的行動」は、他の要因がそろうていたとしてもこの行動は、打ち消されることとなる。  
第4因子は、生涯に亘っての音楽的行動を妨げる決定的な因子であるといえる。

## 《中立グループ》

因子負荷量:回転後(ハ'リマックス法)					
(中立グループ)					
質問	因子 1	因子 2	因子 3	因子 4	因子 5
【質問7】学校で出会った音楽の指導者の影響で音楽が好きになった。	0.708837	-0.07722	0.110571	-0.03536	0.153877
【質問9】学校時代の音楽の活動が、音楽を理解したり愛好したりするきっかけとなった。	0.617473	0.066483	-0.01044	0.043415	0.136162
【質問1】音楽の授業が楽しかったから、授業が待ち遠しかった。	0.597077	0.183549	0.384002	0.206215	-0.13246
【質問5】学校時代の友人・先輩・家族の刺激を受けて音楽が好きになったといえる。	0.530833	0.032063	-0.12964	-0.05602	-0.00854
【質問6】みんなで合唱したり合奏したりすることはよい体験だった。	0.456851	0.162753	0.131814	0.253905	0.118055
【質問8】今も印象に残っている中学校時代の音楽の行事があった。	0.392677	0.292193	0.184216	0.277949	0.290174
【質問5】学校で習った楽器(リコーダー・鍵盤ハーモニカ等)の指使いがわかる。	-0.11521	0.717409	0.025977	0.222782	0.098943
【質問4】簡単な楽譜が、階名で(ドレミ~)で読める。	-0.08319	0.709536	0.063539	0.223679	0.106307
【質問11】習った曲の楽譜をみて歌ったり、演奏したりできる。	0.344184	0.669241	0.170611	-0.01019	0.039591
【質問2】学校で学習した音楽の知識(記号や、音符など)今でも役に立っている。	0.264245	0.479855	-0.0732	-0.06446	0.052882
【質問8】音楽に対して、学校時代に苦手な意識や劣等感があった。	-0.00095	0.048478	0.617704	-0.04195	0.0451
【質問2】学校時代に歌うことが好きだった。	0.332147	0.145227	0.595406	0.212582	-0.22851
【質問3】歌をうたうとき、無理なく声を出すことができる。	0.100731	0.089261	0.579763	0.199505	0.148313
【質問4】学校時代に、音楽で恥ずかしい思いをしたことがあった。	-0.29507	-0.18189	0.453572	-0.10417	0.143087
【質問8】音楽が流れていると、こころがリラックスする。	0.147252	-0.02306	0.032062	0.61604	0.139031
【質問9】楽器を演奏したり、歌ったりできるようになりたいという思いがある。	0.020339	0.073114	0.002679	0.515725	-0.11958
【質問6】家で音楽が聞ける機器(テレビ、ラジオ、CD、MD)や楽器などが身近にある。	-0.13016	0.216286	0.11314	0.471435	0.177682
【質問7】中学校時代に習った曲で、今も印象(心)に残っている曲がある。	0.215227	0.185148	0.101662	0.360728	0.441688
【質問10】曲を聞いた時、その曲が学校で習った曲であると分かる。	0.237602	0.284236	0.083847	0.003713	0.389988

## 固有値表:回転後(ハ'リマックス法)

因子	二乗和	寄与率	累積寄与率
因子 1	2.442752	12.86%	12.86%
因子 2	2.085448	10.98%	23.83%
因子 3	1.576209	8.30%	32.13%
因子 4	1.389916	7.32%	39.44%
因子 5	0.692527	3.64%	43.09%

音楽にかかわって(音楽にふれた)生活したいと願う《中立グループ》の各因子の関わりを見ると、

## 因子 No.1

第1因子は、

【質問7】学校で出会った音楽の指導者の影響で音楽を好きになった。(0.708)

【質問9】学校時代の音楽の活動が、音楽を理解したり愛好したりするきっかけとなった。(0.617)

【質問1】音楽の授業が楽しかったから、授業が待ち遠しかった。(0.597)

【質問5】学校時代の友人・先輩・家族の刺激を受けて音楽を好きになったといえる。(0.530)

【質問6】みんなで合唱したり合奏したりすることはよい体験だった。(0.456)



【質問3】今も印象に残っている中学校時代の音楽の行事があった。(0.392)  
 が共に高い負荷量を示した。これらの質問は、過去の経験や体験記憶からくる音楽愛好の意志、嗜好、知覚を温存させる過去の因子である。《全データ》の第1因子と同様の作用をする。音楽指導者の影響の要素も含まれているプラス刺激の因子である。

#### 因子 No.2

第2因子は、

【質問15】学校で習った楽器(リコーダー・鍵盤ハーモニカ等)の指使いがわかる。(0.717)

【質問14】簡単な楽譜が、階名(ドレミ～)で読める。(0.709)

【質問11】習った曲の楽譜をみて歌ったり、演奏したりできる。(0.669)

【質問12】学校で学習した音楽の知識が(記号や、音符など)今でも役に立っている。

(0.479)

は、極めて高い負荷量を示した。これらの質問は、《全データ》の第3因子と同様の作用をする。中学校時代の学習からくる因子で、音楽活動の基礎力である。指使いが「わかる」、楽譜が「よめる」が自信につながり、音楽への関心を大きくする橋がかりとなる因子である。

#### 因子 No.3

第3因子は、

【質問8】音楽に対して、学校時代に苦手な意識や劣等感があった。(0.617)

が、高い負荷量を示した。学校時代の苦手な意識、劣等感、人として生涯心に残るもので、このマイナス刺激である。《全データ》の第5因子と同様の働きをする因子である。

【質問2】学校時代に歌うことは好きだった。(0.595)

【質問13】歌をうたうとき、無理なく声を出することができる。(0.579)

【質問4】学校時代に、音楽で恥ずかしい思いをしたことがあった。(0.453)

も高い負荷量を示しており、これらの質問は、中学校時代の学習からくる「歌う」体験に大きく関係する。「歌が歌える」「声を無理なく出せる」という「声」と「歌」に関する苦手意識、劣等感、自信の無さが、音楽を楽しいものと受け入れる意識にマイナスに左右する因子である。《消極的グループ》第3因子と同様の働きをする因子で、異質の因子が複合している。

#### 因子 No.4

第4因子は、

【質問18】音楽が流れていると、こころがリラックスする。(0.616)

【質問19】楽器を演奏したり、歌ったりできるようになりたいという思いがある。(0.515)

【質問16】家で音楽が聞ける機器(テレビ、ラジオ、CD,MD)や楽器などが身近にある。

(0.471)

が、高い負荷量を示した。これらの質問は、《全データ》の第2因子と同様の作用をし、精神的平穏を音楽に求める心につながる因子である。音楽そのものの人に及ぼす効果が大きいということである。そして、「～したい」という人間の欲求が含まれており、演奏したり、歌ったり自発的な行動に発展する因子である。

---

## 因子 No.5

第5因子は、

【質問 17】中学校時代に習った曲で、今も印象（心）に残っている曲がある。（0.441）

【質問 10】曲を聞いた時、その曲が学校で習った曲であると分かる。（0.389）

が、高い負荷量を示した。他のグループにはない因子である。中学校時代の記憶に残っている曲、習った曲が聴いたときに分かる既習曲記憶。これは、学校時代の音楽の刺激がプラスであったと理解できる。数値は高くないが、この質問は見逃せない項目である。「印象に残っている」「わかる」「覚えている」という記憶が発端となって音楽に意識が向き、活動に至ることは可能である。

## 第4章 結果と考察

### 第1節 因子分析結果

因子分析によりグループごとの因子を検討したが、《積極的グループ》の因子の構成質問項目が他のグループではどういう配置となって表れるかを表に示してみると因子のまとまりや散らばり具合の特徴がよく分かる。また、グループになくはならない因子、欠けている因子、なぜなくてはならないのか、なぜ欠けているのか、それぞれのグループにおいての特徴と因子の背景をこの表をもとに考察してみる。

	積極的グループ		消極的グループ		中立グループ		全グループ	
	質問	因子負荷量	質問	因子負荷量	質問	因子負荷量	質問	因子負荷量
第1因子	【質問9】	0.643	【質問3】	0.686	【質問7】	0.709	【質問7】	0.648
	【質問7】	0.633	【質問17】	0.600	【質問9】	0.617	【質問9】	0.648
	【質問1】	0.507	【質問10】	0.580	【質問1】	0.597	【質問1】	0.559
	【質問5】	0.494	【質問5】	0.530	【質問5】	0.531	【質問1】	0.551
			【質問18】	0.501	【質問5】	0.457		
			【質問5】	0.494	【質問5】	0.393		
		【質問7】	0.439					
第2因子	【質問14】	0.726	【質問14】	0.740	【質問15】	0.717	【質問19】	0.674
	【質問15】	0.646	【質問15】	0.738	【質問14】	0.710	【質問20】	0.654
	【質問11】	0.607	【質問16】	0.452	【質問11】	0.669	【質問18】	0.627
	【質問12】	0.462	【質問11】	0.270	【質問12】	0.480	【質問16】	0.422
第3因子	【質問6】	0.575	【質問2】	0.754	【質問8】	0.618	【質問14】	0.719
	【質問3】	0.546	【質問13】	0.571	【質問2】	0.595	【質問15】	0.663
	【質問17】	0.498	【質問1】	0.480	【質問13】	0.580	【質問11】	0.590
	【質問2】	0.472	【質問19】	0.449	【質問4】	0.454	【質問12】	0.484
			【質問5】	0.275				
第4因子	【質問19】	0.548	【質問4】	0.657	【質問18】	0.616	【質問5】	0.561
	【質問20】	0.501	【質問3】	0.451	【質問19】	0.516	【質問3】	0.540
	【質問18】	0.421	【質問20】	-0.407	【質問16】	0.471	【質問17】	0.469
	【質問16】	0.380					【質問10】	0.353
	【質問10】	0.311						
第5因子	【質問3】	0.574	【質問12】	0.611	【質問17】	0.442	【質問5】	0.582
	【質問4】	0.432			【質問10】	0.390	【質問2】	0.445
	【質問13】	0.394					【質問4】	0.429
							【質問13】	0.421

【質問20】は除外

### 寄与率と累積寄与率のグループ別比較

因子	積極的グループ		消極的グループ		中立グループ		全グループ	
	寄与率	累積寄与率	寄与率	累積寄与率	寄与率	累積寄与率	寄与率	累積寄与率
因子 1	9.41%	9.41%	13.76%	13.76%	12.86%	12.86%	12.28%	12.28%
因子 2	9.16%	18.56%	10.56%	24.31%	10.98%	23.83%	10.53%	22.81%
因子 3	8.06%	26.62%	10.27%	34.59%	8.30%	32.13%	10.19%	33.00%
因子 4	6.70%	33.32%	6.15%	40.73%	7.32%	39.44%	8.13%	41.13%
因子 5	5.95%	39.27%	4.20%	44.93%	3.64%	43.09%	5.50%	46.62%

各グループ間因子比較表から、一番の特徴は、因子の構成項目がよく分かる。《積極的グループ》の各因子を色別にし、その因子が他のグループではどう変化するかをのちらばり具合が見て取れる。各因子の寄与率は違うが、《積極的グループ》と《全グループ》の因子では第4因子の【質問10】と、第5因子に【質問2】が入っているものの、どの因子も構成されている質問項目は同一である。《中立グループ》の第2.4因子の構成も同一である。これはグループの特徴を示す内面の質が同一であり、グループは違っても同じ因子が存在しているものと考えられる。グループ内での寄与率の違いは、因子の影響力の違いとして判断される。

《消極的グループ》は、各因子構成質問に大きく差異が見受けられる。他のグループにない種類の因子として複雑な心理的内容を含むものと思われる。

《積極的グループ》の各因子は、寄与率での大きな数値の差異がなく、比較的平均した数値である。このことは《積極的グループ》の因子は、5つの因子それぞれが比較的均等に影響しあい行動を左右するということが推測される。また、《中立グループ》の因子の構成は第1.3.5因子について因子の構成が異なっている。したがってこれらの因子についても内面を探るべき意味深い因子であると考えられる。これらのそれぞれのグループでの因子を検討し、命名していくことで仮説の検証へと進める。

## 因子名の命名

### 《全データ》の因子分析結果

#### 《全データ》第1因子

質問	因子負荷量	ハルの理論	キーワード	要素名
【質問7】	0.648	刺激の強さ	指導者の影響、尊敬、良い印象、出来るようになりたい	教師刺激
【質問9】	0.648	動因	学校の活動、出来る、分かる、嬉しい、楽しい、音楽好き	活動経験
【質問5】	0.559	刺激の強さ	友人・先輩・家族の影響、刺激、良い印象、出来るようになりたい	周囲からの刺激
【質問1】	0.551	誘因	授業が楽しい、待ち遠しい、音楽が好き、先生が好き	音楽経験期待

《積極的グループ》の第1因子と、因子構成項目は同じである。因子寄与率は、12.28%と高い数値で、学校時代の活動や経験からくる体感的な刺激、外からの強い刺激を通じてもたらされた記憶が継続している因子である。周りからの刺激、特に教師、友人、先輩、家族の影響が大きい。熱力学でいう「エントロピー」<sup>10</sup>である。「エントロピー」とは、熱が高い方から低い方に移動する力を指す。教育は教師の熱い思いや教材の魅力が高いほど生徒につたわるので、温度差が大きいほどエントロピーは大きくなる。しかし、エントロピーが大きくても学習者に伝わらない場合がある。それは学習者がその教師の熱意を感じないか教材の魅力を感じないか、拒否する場合である。<sup>11</sup>授業が楽しくて待ち遠しいという音楽愛好の意志、期待感も含まれている。このエントロピーの温度差が高いほど、この因子がきっかけとなって、生活している中で何らかの形となり音楽活動に発展していくというプラス刺激の因子である。過去の経験・記憶が潜在的に維持され継続していくのである。

そこで、この因子を『**出会いの因子**』と命名する。

<sup>10</sup> entropy: ドイツの物理学者クラウジウスによる物理量、系の乱雑さ、無秩序さ、不規則さの度合いを表す量

<sup>11</sup> 鈴木 寛: 『音楽科教育におけるFD 授業を失敗させる方法の研究』実技教育研究第18号 p48 2004

## 《全データ》第2因子

質問	因子負荷量	ハルの理論	キーワード	要素名
【質問19】	0.674	動因	好きだ、楽しい、達成感、 <b>出来るようになりたい</b> 、満足感、向上心	活動欲求
【質問20】	0.654	動因	<b>音楽にふれた生活がしたい</b> 、欲望、向上心、心を安らげたい、充実	音楽の生活化
【質問18】	0.627	習慣強度	<b>リラックスする</b> 、ほっとする、落ち着く、美しい、いい音だ、いい声だ	心的平穩
【質問16】	0.422	誘因	聴きたい、好きな音楽がある、機器が扱える、 <b>身近に機器・楽器が</b>	音楽環境

《積極的グループ》の第4因子と、因子構成項目は同じである。因子負荷量は共に高く寄与率も、10.53%と高い。この因子は「できる」という自信を含む「～したい」の欲求が大きく、音楽の機能<sup>12</sup>の中の生理的な機能として活性化エネルギーの働きをする。そして社会的機能として活動そのものに対する期待感、コミュニケーションとしての役割を果たすエネルギーとしての働きをする。そして自ら心的平穩を求める自発的な意識、心理的機能としての意味を含む因子である。

これら3つの音楽の機能のすべてを含むもので、その人が身近に音楽が求められる環境にあり、求めたときにそれによってリラックスできたり、「知っている曲」であったらなおさら人は**音楽を求め活性化したい欲求が高まる**のである。

そこで、この因子を『**音楽願望の因子**』と命名する。

## 《全データ》第3因子

質問	因子負荷量	ハルの理論	キーワード	要素名
【質問14】	0.719	習慣強度	<b>楽譜</b> が分かる、 <b>階名が読める</b>	学習記憶
【質問15】	0.663	習慣強度	楽器が演奏できる、指使いが <b>わかる</b> 、音を出したことがある	演奏能力記憶
【質問11】	0.590	習慣強度	覚えている、楽譜がわかる、歌える、 <b>演奏できる</b>	学習記憶
【質問12】	0.484	習慣強度	覚えている、授業で学習し理解できている、 <b>役にたっている</b>	学習記憶

この因子の構成項目は《積極的グループ》《中立グループ》の第2因子と、全く同じである。《消極的グループ》は1項目のみの相違で、すべてのグループにおいて同じような背景が考えられる因子である。寄与率は《全データ》が10.19%、《積極的グループ》が9.16%と《消極的グループ》は10.56%、《中立グループ》は10.98%とすべてのグループにおいて高い寄与率である。この項目はすべて習慣強度の変数であり、これらの学習記憶と演奏技能は、学校時代には一番必要とされる「**音楽の学習**」の教科目標そのものの因子である。時間が経過しても、この項目は学習の結果として残り、音楽が「できる」「わかる」という継続された自信と、まわりに対する「**自負心**」<sup>13</sup>の表れである。活動したいときにこの音楽の基礎能力、自信が欠けていたならば活動は実行しにくく、不可能なものとなる。活動欲求がおきた時、実行したい時の**心理面での自信の後押し**をする絶対不可欠な因子である。

そこで、この因子を『**形成的能力の因子**』と命名する。

## 《全データ》第4因子

質問	因子負荷量	ハルの理論	キーワード	要素名
【質問6】	0.561	誘因	好意的記憶、仲間意識、 <b>よい体験</b> 、達成感	音楽体験記憶
【質問3】	0.540	刺激の強さ	<b>印象に残っている</b> 、経験、思い出、達成感	音楽体験記憶
【質問17】	0.469	刺激の強さ	<b>心に残っている</b> 、好きだった、印象深かった、	知覚経験記憶
【質問10】	0.353	習慣強度	分かる、覚えている、 <b>習った曲だった</b>	学習経験記憶

<sup>12</sup> <http://hb8.seikyoku.ne.jp/home/pianomed/338.htm>

<sup>13</sup> 自分の才能に自信や誇りをもつ心

この因子は、寄与率が《全データ》が8.13%《積極的グループ》が8.06%とほぼ同じ数値である。【質問6.3.17】の音楽の体験記憶は、学校教育でないと経験できない、また中学校という年代でのみ強烈に印象づけられる音楽学習からの新鮮な記憶である。仲間とともに体験し、曲を作り上げる楽しさがあり、教師とともに音楽を作り上げる楽しさ、達成感、またうまくいかない時がある中で、共に目標に向けて練習したり学ぶ体験は、学習記憶以上に学ぶべきことは多い。その学校時代の経験が強烈に潜在意識として肯定的に心に残り続けているのである。非常に好印象な形で記憶に残っている。

「また音楽がしたい」という学校時代を懐かしむ強い欲求である。これは次へ行動への原動力になる。時間の経過と共に**潜在意識として再び体験したい過去の自分をよく評価したい**という思いが含まれている。

そこで、この因子を『**好印象記憶の因子**』と命名する。

### 《全データ》第5因子

質問	因子負荷量	ハルの理論	キーワード	要素名
【質問8】	0.582	反応制止	劣等感、出来ない、 <b>苦手</b>	意識制御
【質問2】	0.445	動因	楽しい、 <b>歌が好き</b> 、音楽好き	体験記憶
【質問4】	0.429	反応制止	<b>恥ずかしい</b> 思い、意識、 <b>苦手</b>	経験制御
【質問13】	0.421	習慣強度	歌える、 <b>無理なく声が出る</b>	行動記憶

この因子は、寄与率が、《全データ》が、5.50%《積極的グループ》が5.95%とほぼ同じ数値である。この因子に含まれている。意識や経験が制御されていることと行動の記憶が混在している意味は何か。「歌える」「無理なく声が出せる」「歌が好き」は苦手意識を打ち消す最大のキーポイントで、「歌える」自信が少しでも持てること、プライド・自尊心を持つことで、で音楽全般への苦手な感情・意識は克服されるのではないかと思われる。

その**基準となるのは「歌」**である。「歌う」ことは、音楽行動の中で誰もがすぐに行動をとることが出来るという利点がある。カラオケであっても、コーラスであっても身近にすぐ体験できるのである。

反対に、「歌うこと」についての苦手意識があり、歌が歌えないと言うことは、あたかも自分のプライドを傷つけられるかのごとく意識を音楽阻止の方向へもって行ってしまいうのである。「できる」ことを認めてもらいたい。これは人間が誰しも本来持っている心理である。しかし、一度自分のプライドを傷つけられたなら、音楽への警戒心は増え、音楽阻止の行動へと気持ちは移る。この心理は、相反する意識で、音楽行動への欲求を阻止するか、容認させるかの因子である。

そこで、この因子を『**プライドの因子**』と命名する。

## 《積極的グループ》の因子分析結果

## 《積極的グループ》第1因子

質問	因子負荷量	ハルの理論	キーワード	要素名
【質問9】	0.643	動因	学校の活動、出来る、分かる、嬉しい、楽しい、音楽好き	活動経験
【質問7】	0.633	刺激の強さ	指導者の影響、尊敬、良い印象、出来るようになりたい	教師刺激
【質問1】	0.507	誘因	授業が楽しい、待ち遠しい、音楽が好き、先生が好き	音楽経験期待
【質問5】	0.494	刺激の強さ	友人・先輩・家族の影響、刺激、良い印象、出来るようになりたい	周囲からの刺激

《全データ》の第1因子と、因子構成項目は同じである。因子寄与率は、9.41%である。同じ因子構成項目で、寄与率の違いはあるものの、第1因子としてあがってきているこの因子は、以降に出てくる因子の中で最も重要な存在であり、生涯にわたっての音楽活動の根幹を成す因子である。

そこで、この因子を『**出会いの因子**』と命名する。

## 《積極的グループ》第2因子

質問	因子負荷量	ハルの理論	キーワード	要素名
【質問14】	0.726	習慣強度	楽譜が分かる、階名が読める	学習記憶
【質問15】	0.646	習慣強度	楽器が演奏できる、指使いがわかる、音を出したことがある	演奏能力記憶
【質問11】	0.607	習慣強度	覚えている、楽譜がわかる、歌える、演奏できる	学習記憶
【質問12】	0.462	習慣強度	覚えている、授業で学習し理解できている、役にたっている	学習記憶

この因子は《全データ》と順序が同じ因子負荷量で、寄与率が9.16%である。どちらのグループにおいても、この因子には同じ背景が考えられる。すべて習慣からくる学習結果からくる変数であり、活動欲求がおきた時、実行したい時の心理面での自信の後押しをする絶対不可欠な因子である。

そこで、この因子を『**形成的能力の因子**』と命名する。

## 《積極的グループ》第3因子

質問	因子負荷量	ハルの理論	キーワード	要素名
【質問6】	0.575	誘因	好意的記憶、仲間意識、よい体験、達成感	音楽体験記憶
【質問3】	0.546	刺激の強さ	印象に残っている、経験、思い出、達成感	音楽体験記憶
【質問17】	0.498	刺激の強さ	心に残っている、好きだった、印象深かった、	知覚経験記憶
【質問2】	0.472	動因	楽しい、歌が好き、音楽好き	体験記憶

この因子は、寄与率が8.06%と《全データ》8.13%とほぼ同じ数値である。学校時代の経験が強烈に潜在意識として心に残り「また音楽がしたい」という強い欲求である。これは次の行動への原動力になり、時間の経過と共に**潜在意識として再び体験したい**という願いである。

そこで、この因子を『**好印象記憶の因子**』と命名する。

## 《積極的グループ》第4因子

質問	因子負荷量	ハルの理論	キーワード	要素名
【質問19】	0.548	動因	好きだ、楽しい、達成感、 <b>出来るようになりたい</b> 、満足感、向上心	活動欲求
【質問20】	0.501	動因	<b>音楽にふれた生活がしたい</b> 、欲望、向上心、心を安らげたい、充実感	音楽の生活化
【質問18】	0.421	習慣強度	<b>リラックスする</b> 、ほっとする、落ち着く、美しい、いい音だ、いい声だ	心的平穩
【質問16】	0.380	誘因	聴きたい、好きな音楽がある、機器が扱える、 <b>身近に機器・楽器があ</b>	音楽環境
【質問10】	0.311	習慣強度	分かる、覚えている、 <b>習った曲だった</b>	学習経験記憶

寄与率は、6.70%と低く、《積極的グループ》では《全データ》ほど影響力は大きくない。この因子は「～したい」の欲求が大きく**音楽の機能**の中の**生理的機能**の働きをする。そこで、この因子を『**音楽願望の因子**』と命名する。

## 《積極的グループ》第5因子

質問	因子負荷量	ハルの理論	キーワード	要素名
【質問8】	0.574	反応制止	<b>劣等感</b> 、出来ない、 <b>苦手</b>	意識制御
【質問4】	0.432	反応制止	<b>恥ずかしい思い</b> 、意識、苦手	経験制御
【質問13】	0.394	習慣強度	歌える、 <b>無理なく声が出る</b>	行動記憶

この因子は、寄与率が、5.95%《全データ》が、5.50%とほぼ同じ数値である。この心理は音楽行動の欲求を大きく左右する関係をつくっている。「できる」ことを認めてもらいたい。これは人間が誰しも本来持っている心理である。しかし、一度自分のプライドを傷つけられたなら、音楽への警戒心は増え、音楽阻止の行動へと気持ちは移る。この心理は、相反する意識で、音楽行動への欲求を阻止するか、容認させるかの因子である。

そこで、この因子を『**プライドの因子**』と命名する。



## 《消極的グループ》の因子分析結果

## 《消極的グループ》第1因子

質問	因子負荷量	ハルの理論	キーワード	要素名
【質問3】	0.686	刺激の強さ	印象に残っている、経験、思い出、達成感	音楽体験記憶
【質問17】	0.600	刺激の強さ	心に残っている、好きだった、印象深かった、	知覚経験記憶
【質問10】	0.580	習慣強度	分かる、覚えている、習った曲だった	学習経験記憶
【質問9】	0.530	動因	学校の活動、出来る、分かる、嬉しい、楽しい、音楽好き	活動経験
【質問18】	0.501	習慣強度	リラックスする、ほっとする、落ち着く、美しい、いい音だ、いい声だ	心的平穩
【質問6】	0.494	誘因	好意的記憶、仲間意識、よい体験、達成感	音楽体験記憶
【質問7】	0.439	刺激の強さ	指導者の影響、尊敬、良い印象、出来るようになりたい	教師刺激

ハルの理論でいう独立変数4種類が混在する。この因子が占める6/7の質問は、過去の経験や体験記憶、良い曲との出会い、指導者の影響、既習曲記憶と、学校時代の様々なことが含まれている。前に述べたエントロピーの効果である。そして、現在の「音楽が流れているところがリラックスする」心境も含まれている。この因子は、中学校時代の音楽体験、良い曲との出会い、教師の影響が重要なことを示している。言い換えれば、生涯に亘っての「音楽」に対する意識、感性等は、学校教育に大きく依存されておりその学校時代の経験が強烈に潜在意識として肯定的に心に残り続けているのである。「また音楽がしたい」という学校時代を懐かしむ強い欲求があり次の行動へ移る原動力になる。時間の経過と共に潜在意識として再び体験したい過去の自分をよく評価したいという思いが含まれている。そして、「できる」という自信を含む「～したい」の欲求が含まれており、活性化エネルギーの働き、社会的機能として活動そのものに対する期待感、コミュニケーションとしての役割を果たすエネルギー、自ら心的平穩を求める自発的な意識、これらが総合的に含まれている因子である。この因子は、寄与率が13.76%で、あらゆるグループの中の因子全てにおいて最も数値が高い。《消極的グループ》において独特な複合された因子と見なされる。

そこで、この因子を『好印象記憶・音楽願望の因子』と命名する。

## 《消極的グループ》第2因子

質問	因子負荷量	ハルの理論	キーワード	要素名
【質問14】	0.740	習慣強度	楽譜が分かる、階名が読める	学習記憶
【質問15】	0.738	習慣強度	楽器が演奏できる、指使いがわかる、音を出したことがある	演奏能力記憶
【質問16】	0.452	誘因	聴きたい、好きな音楽がある、機器が扱える、身近に機器・楽器がある	音楽環境
【質問11】	0.270	習慣強度	覚えている、楽譜がわかる、歌える、演奏できる	学習記憶

《積極的グループ》、《中立グループ》の第2因子、《全データ》の第3因子と同じ因子構成質問が含まれているが、【質問2】「歌の体験記憶」がなく【質問16】「音楽環境」が加わっている。この項目の内面は、学校時代の学習記憶の中で、鑑賞の分野への依存心が含まれている。なぜなら、楽器に関する演奏能力、基礎学力が自信につながり、「わかる」「読める」「聴ける」行為が含まれるものと考えられる。その中に「うたう」行為は含まれない。寄与率は10.56%である。

そこで、この因子を『形成的能力の因子』と命名する。

## 《消極的グループ》第3因子

質問	因子負荷量	ハルの理論	キーワード	要素名
【質問2】	0.754	動因	楽しい、歌が好き、音楽好き	体験記憶
【質問13】	0.571	習慣強度	歌える、無理なく声が出る	行動記憶
【質問1】	0.480	誘因	授業が楽しい、待ち遠しい、音楽が好き、先生が好き	音楽経験期待
【質問19】	0.449	動因	好きだ、楽しい、達成感、出来るようになりたい、満足感、向上心	活動欲求
【質問5】	0.275	刺激の強さ	友人・先輩・家族の影響、刺激、良い印象、出来るようになりたい	周囲からの刺激

第1因子と同じく4種類の独立変数が含まれており、他のグループ、因子には見られない混在型の因子である。主たる因子負荷量は「うた」「音楽」に関する意識である。これらの質問は、中学校時代の学習からくる授業体験に大きく関係しており、これらの学校時代の体験からくる劣等感、自信の無さが、消極的な行動となってあらわれると思われる。学校教育時代の経験・意識からくる「歌が好き」「音楽が好き」だった記憶を打ち消してしまいそれが評価されなかった、プライドを傷つけられたという気持ちも含まれている。このようにいろんな要素が含まれており、音楽を好きにさせる嗜好形成のため、学校現場ではあらゆる音楽経験をさせ、その活動から得られる音楽に対する自信がもてるように授業がなされなくてはならない。寄与率も、10.27%と高い数値を示している。

そこで、この因子を『嗜好形成の因子』と命名する。

## 《消極的グループ》第4因子

質問	因子負荷量	ハルの理論	キーワード	要素名
【質問4】	0.657	反応制止	恥ずかしい思い、意識、苦手	経験制御
【質問8】	0.451	反応制止	劣等感、出来ない、苦手	意識制御
【質問20】	-0.407	動因	音楽にふれた生活がしたい、欲望、向上心、心を安らげたい、充実感	音楽の生活化

寄与率が6.15%と低くなり、マイナスの負荷量が含まれているが、相対的なものなので解釈上は0.407と同じである。因子自体の負荷量は「反応制止」の項目で判断でき、学校時代の「恥ずかしい思い」がこの因子の特徴を示している。「音楽がわかる」「できる」の自分自身の存在感を誇示する気持ち、また、そのプライドを著しく傷つけられた。いわゆる学校現場で絶対にあってはならない指導者の言動や周りの仲間の言動、雰囲気である。「できる」ことを認めてもらいたい。これは人間が誰しも本来持っている心理で、一度自分のプライドを傷つけられたなら、音楽への警戒心は増え、音楽阻止の行動へと気持ちは移る。《消極的グループ》にあって確実に音楽に対する意識、行動を阻害する因子である。しかしその内面には、本当は「～したい」という人間の欲求が含まれているものと推測できる。また、精神的平穏を音楽に求めたいという心情が推測できる。

そこで、この因子を『プライドの因子』と命名する。

## 《消極的グループ》第5因子

質問	因子負荷量	ハルの理論	キーワード	要素名
【質問12】	0.611	習慣強度	覚えている、授業で学習し理解できている、役にたっている	学習記憶

寄与率が4.20%と低く、5つの因子の中では上の第4因子と同様に《消極的グループ》の中で第1～3因子ほど大きな影響を及ぼさない因子と判断できる。この質問は、中学校時代の音楽の基礎学力が作用している。学習した音楽の知識が今でも役立っているということは、音楽的活動には消極的であるが、学習した知識には自信がある。ということを示している。学校教育における基礎学力の定着が、《消極的グループ》の人にもあらわれている。しかも独立した因子としてあがってきている。

そこで、この因子を『**依存の因子**』と命名する。

以上のように、《消極的グループ》の『**プライドの因子**』【質問20】これから、何らかの音楽にかかわって、(音楽にふれた)生活がしたいと思う。が、マイナスの負荷量を示しているということは、ハルの学習理論に照らし合わせた

生涯に亘っての音楽的行動 = 習慣強度(習慣性の強さ) × 動因 × 誘因 × 反応制止 × 刺激の強さ

の考えにあてはめると、《消極的グループ》の人は、この質問に対して明らかに拒否の意思表示を示しており、寄与率の数値は比較的低いものの、《消極的グループ》の人は、この『**プライドの因子**』があることによって「生涯に亘っての音楽的行動」は、たとえ他の要因がそろっていたとしても 生涯に亘っての音楽的行動は、打ち消されることとなる。したがって、《消極的グループ》の『**プライドの因子**』は、全ての因子の中で決定的な因子であると判断できる。

## 《中立グループ》の因子分析結果

## 《中立グループ》第1因子

質問	因子負荷量	ハルの理論	キーワード	要素名
【質問7】	0.709	刺激の強さ	指導者の影響、尊敬、良い印象、出来るようになりたい	教師刺激
【質問9】	0.617	動因	学校の活動、出来る、分かる、嬉しい、楽しい、音楽好き	活動経験
【質問1】	0.597	誘因	授業が楽しい、待ち遠しい、音楽が好き、先生が好き	音楽経験期待
【質問5】	0.531	刺激の強さ	友人・先輩・家族の影響、刺激、良い印象、出来るようになりたい	周囲からの刺激
【質問6】	0.457	誘因	好意的記憶、仲間意識、よい体験、達成感	音楽体験記憶
【質問3】	0.393	刺激の強さ	印象に残っている、経験、思い出、達成感	音楽体験記憶

《積極的グループ》と《全データ》の第1因子と4項目は同じである。寄与率も12.86%と高い数値である。この第1因子は他グループと違って【質問6.3】が加わっている。この違いは、学校時代の活動や経験からくる「知覚」が生活している中で何らかの形となり音楽活動に発展していくプラス刺激の因子で、エントロピーの作用が大きい。さらに学校時代の音楽体験記憶が肯定的に加わり追憶の因子の要素も含まれる。

そこで、この因子を『**出会いの因子**』と命名する。

## 《中立グループ》第2因子

質問	因子負荷量	ハルの理論	キーワード	要素名
【質問15】	0.717	習慣強度	楽器が演奏できる、指使いがわかる、音を出したことがある	演奏能力記憶
【質問14】	0.710	習慣強度	楽譜が分かる、階名が読める	学習記憶
【質問11】	0.669	習慣強度	覚えている、楽譜がわかる、歌える、演奏できる	学習記憶
【質問12】	0.480	習慣強度	覚えている、授業で学習し理解できている、役にたっている	学習記憶

《積極的グループ》の第2因子と《全データ》の第3因子と、同じである。寄与率は10.98%と高い数値である。

そこで、この因子を『**形成的能力の因子**』と命名する。

## 《中立グループ》第3因子

質問	因子負荷量	ハルの理論	キーワード	要素名
【質問8】	0.618	反応制止	劣等感、出来ない、苦手	意識制御
【質問2】	0.595	動因	楽しい、歌が好き、音楽好き	体験記憶
【質問13】	0.580	習慣強度	歌える、無理なく声が出る	行動記憶
【質問4】	0.454	反応制止	恥ずかしい思い、意識、苦手	経験制御

《全データ》の第5因子と同じである。寄与率は8.30%となっている。

そこで、この因子を『**プライドの因子**』と命名する。

## 《中立グループ》第4因子

質問	因子負荷量	ハルの理論	キーワード	要素名
【質問18】	0.616	習慣強度	リラックスする、ほっとする、落ち着く、美しい、いい音だ、いい声だ	心的平穩
【質問19】	0.516	動因	好きだ、楽しい、達成感、出来るようになりたい、満足感、向上心	活動欲求
【質問16】	0.471	誘因	聴きたい、好きな音楽がある、機器が扱える、身近に機器・楽器があ	音楽環境

《全データ》の第2因子、《積極的グループ》の第4因子と項目の数は減るが同じである。寄与率は7.32%である。

そこで、この因子を『音楽願望の因子』と命名する。

## 《中立グループ》第5因子

質問	因子負荷量	ハルの理論	キーワード	要素名
【質問17】	0.442	刺激の強さ	心に残っている、好きだった、印象深かった、	知覚経験記憶
【質問10】	0.390	習慣強度	分かる、覚えている、習った曲だった	学習経験記憶

他のグループにはない因子で、習った曲が心に残っている。習った曲であると分かる。学習経験による既習曲の記憶は、潜在的に残り授業での教育結果が出ている。現在好意的な記憶として残り、学校時代の学習が今でも「わかる」という自信につながる意識も含まれており「わかる」ことが精神的な支えとなって「～したい」の意識へとつながると考えられる。数値的には、因子負荷量が0.442,0.390と小さく、グループの中での寄与率も3.64%で因子の中では影響力は少ないものと考えられる因子である。

そこで、この因子を『好印象記憶の因子』と命名する。

## 第2節 仮説の検証

因子分析の結果より、生涯にわたっての音楽行動に、学校教育での音楽体験がどのように関わっているのか、考察することで仮説の検証を行う。

### 《積極的グループ》と《全グループ》について

(積極的グループ)

因子名	質問	負荷量
出会いの因子	【質問9】	0.643
	【質問7】	0.633
	【質問1】	0.507
	【質問5】	0.494
形成的能力の因子	【質問14】	0.726
	【質問15】	0.646
	【質問11】	0.607
	【質問12】	0.462
好印象記憶の因子	【質問6】	0.575
	【質問3】	0.546
	【質問17】	0.498
	【質問2】	0.472
音楽願望の因子	【質問19】	0.548
	【質問20】	0.501
	【質問18】	0.421
	【質問16】	0.380
	【質問10】	0.311
プライドの因子	【質問8】	0.574
	【質問4】	0.432
	【質問13】	0.394

(全グループ)

因子名	質問	負荷量
出会いの因子	【質問7】	0.648
	【質問9】	0.648
	【質問5】	0.559
	【質問1】	0.551
音楽願望の因子	【質問19】	0.674
	【質問20】	0.654
	【質問18】	0.627
	【質問16】	0.422
形成的能力の因子	【質問14】	0.719
	【質問15】	0.663
	【質問11】	0.590
	【質問12】	0.484
好印象記憶の因子	【質問6】	0.561
	【質問3】	0.540
	【質問17】	0.469
	【質問10】	0.353
プライドの因子	【質問8】	0.582
	【質問2】	0.445
	【質問4】	0.429
	【質問13】	0.421

上の表より《積極的グループ》の因子と《全グループ》の因子は負荷量の差異があるものの5因子ともに同一である。『**出会いの因子**』は、第1因子としてあがってきており、これらの因子の中でも重要な因子だと解釈できる。どちらも寄与率(p72)が因子の中で最も大きい。学校時代の教材との出会いや教師との出会い、強烈な印象や刺激が、音楽的行動となってあらわれる。『**出会いの因子**』は、学校教育で大きな影響を及ぼす因子である。『**形成的能力の因子**』については中学校時代の学習効果があらわれている因子で、理解度が自信となって大きく精神的な面で左右していく。

『**好印象記憶の因子**』は、中学校時代の音楽経験・体験からくるもので、良き思い出となってまた再び経験したい、体験したいという気持ちの表れがでてくる。

『**音楽願望の因子**』人間は自ら「～したい」という願望があることで活動意欲が促進され、まわりから認められ、自分の存在を知って貰うことでまた、意欲が促進されるのである。大人であっても褒められ、認められたいのである。中学校の生徒ならもっとその欲求が強いであろうと思われる。学校以外の場でもあらわれる因子で、人間が本来持っている欲求の土台となる意味合いの因子である。

『**プライドの因子**』は、学校以外でも多く体験する。カラオケで恥ずかしい思いをしたりすることは、マイナスに作用する。ひとたび嫌な経験があると生涯にわたってマイナスの意識が継続されていくのである。その間、何らかのきっかけで「良き体験・良き出会い」等がある場合、そのマイナスの意識が改善される可能性は十分にあると考えられる。

## 《消極的グループ》と《中立グループ》について

(消極的グループ)			(中立グループ)		
因子	質問	負荷量	因子名	質問	負荷量
好印象記憶・音楽願望の因子	【質問3】	0.686	出会いの因子	【質問7】	0.709
	【質問17】	0.600		【質問9】	0.617
	【質問10】	0.580		【質問1】	0.597
	【質問9】	0.530		【質問5】	0.531
	【質問18】	0.501		【質問6】	0.457
	【質問6】	0.494		【質問3】	0.393
	【質問7】	0.439		【質問15】	0.717
形成的能力の因子	【質問14】	0.740	形成的能力の因子	【質問14】	0.710
	【質問15】	0.738		【質問11】	0.669
	【質問16】	0.452		【質問12】	0.480
	【質問11】	0.270		【質問8】	0.618
嗜好形成の因子	【質問2】	0.754	プライドの因子	【質問2】	0.595
	【質問13】	0.571		【質問13】	0.580
	【質問1】	0.480		【質問4】	0.454
	【質問19】	0.449		【質問18】	0.616
	【質問5】	0.275	音楽願望の因子	【質問19】	0.516
	【質問4】	0.657		【質問16】	0.471
プライドの因子	【質問8】	0.451	好印象記憶の因子	【質問17】	0.442
	【質問20】	-0.407		【質問10】	0.390
	依存の因子	【質問12】	0.611		

《消極的グループ》の因子においては、『形成的能力の因子』『プライドの因子』以外は他とは異なる因子である。これは何を意味するか、『好印象記憶・音楽願望の因子』『嗜好形成の因子』『依存の因子』これらは消極的な行動になってしまう《消極的グループ》においてのみの性質をもつ因子である。

《中立グループ》の因子は、上で述べたように5つの因子がそろっており、寄与率(p72)が小さい数値があるものの、《積極的グループ》と同じ因子である。

《中立グループ》の因子は、《積極的グループ》と《消極的グループ》の間に、位置し、何らかのきっかけで、あるいは何らかの刺激によってどちらにも変わる可能性をもつ因子である。この「中立」という立場をとる人の心はどういう心理なのだろうか。このグループの存在をさらに検討しなければならない。

上で述べたようにこれらの因子は、それぞれのグループの特徴をはっきり表している。また、これらの因子は、寄与率が少なく因子負荷量が少ないほどグループ間で変わる可能性があるといえる。このことから、全ての因子は変動可能型因子とも捉えることができる。しかし、この考察ではグループにおける因子に限って考察するものとする。

学校教育での効果は、どの因子に主たる作用を及ぼしているのか、さらに焦点化するため、各因子の因子負荷量の平均値を2乗することで、数値的差をはっきり出して一覧表とした。

大きくプラスに作用する因子  
 プラスに作用する因子  
 作用しない因子  
 マイナスに作用する因子 ×  
 大きくマイナスに作用する因子 ××

(各因子の質問項目の因子負荷量の平均値を2乗した数値により判断した)

(表1)

グループ 因子	《積極的グループ》			《中立グループ》			《消極的グループ》		
	因子名	平均*平均	判定	因子名	平均*平均	判定	因子名	平均*平均	判定
第1因子	出会いの因子	0.3239		出会いの因子	0.3032		好印象記憶 音楽願望の因子	0.2994	
第2因子	形成的能力の因子	0.3726		形成的能力の因子	0.4147		形成的能力の因子	0.3025	
第3因子	好印象記憶の因子	0.2732		プライドの因子	0.3154		嗜好形成の因子	0.2558	×
第4因子	音楽願望の因子	0.1870	×	音楽願望の因子	0.2856		プライドの因子	0.0544	××
第5因子	プライドの因子	0.2179	×	好印象記憶の因子	0.1729	×	依存の因子	0.3733	

判定基準は、( >0.35 · 0.35> >0.3 · 0.3> >0.27 · 0.27>×>0.1 · 0.1>×× ) とした。

(結果)

大きくプラスに作用する因子・・・『形成的能力の因子』『依存の因子』  
 プラスに作用する因子・・・『出会いの因子』『形成的能力の因子』『プライドの因子』  
 作用しない因子・・・『好印象記憶の因子』『音楽願望の因子』『好印象記憶・音楽願望の因子』  
 マイナスに作用する因子・・・『音楽願望の因子』『プライドの因子』  
 『好印象記憶の因子』『嗜好形成の因子』  
 大きくマイナスに作用する因子・・・『プライドの因子』

1.(表1)の判定から、学校教育に関係する因子で一番影響力のある因子は『**形成的能力の因子**』である。「音楽的能力」が絶対的に高いので「～わかる」「できる」が、強い裏付けとなってあらわれている。学習指導要領の根幹にせまる因子内容である。したがって《積極的グループ》《中立グループ》において大きくプラスの作用となり、積極的な音楽活動に絶対不可欠である。《消極的グループ》においても行動化はされていないが、プラスの作用として潜在的に存在している。

他に、学校教育に大きく関係する因子は『**出会いの因子**』である。この因子は学校時代の活動や体験からくる体感的な刺激によってもたらされた記憶が大きく作用している。良い音楽との出会い、教師との出会いも含めて、強い刺激であればあるほど強烈に記憶が継続していく。やはり、学校時代の影響が殆どであると思われる。この表の中の《消極的グループ》のみに出ている『**依存の因子**』は、学校時代に学習した



ことを覚えている、役に立っていると自覚している心理である。「知覚」「体験」「歌唱体験」「知識」の学習分野で、現在ではできれば音楽行動をしたくない思いを「学校時代はできた」「よい体験だった」「歌が歌えた」と、過去の良き思い出や好印象の経験に依存し、今の消極的な行動に隠れた「～したい」の気持を代弁しようとしている。また、現在の自分の行動に安心感を持っているように思われる。また、自信が無いのでまわりに頼りたい、誰かとなら行動を起こせるかもしれないという心理も存在する。この心理は、判定からも明らかである。『**依存の因子**』がこの《消極的グループ》で最も強く作用する因子である。この因子も学校教育での学習からくるものである。

これら3つの因子『**形成的能力の因子**』『**出会いの因子**』『**依存の因子**』は、中学校での音楽教育に関係する因子で、生涯につながる不可欠な因子と見なすことができる。

2.(表1)の判定から、《消極的グループ》で大きなマイナスの作用を及ぼす『**プライドの因子**』について考察してみる。なぜ消極的行動になってしまうのか。原因として考えられることは、学校教育現場はもちろん一般生活の中においても経験する「自信が無い」「恥ずかしい」「カラオケで歌えない」等、著しくプライドを傷つけられたり、恥ずかしい思いがあるからである。

《消極的グループ》の人にとってこの気持ちが消極的行動の原因となり、この因子が決定的な影響力でグループを決定づけている。《消極的グループ》においては、この因子によって全ての音楽行動が打ち消される(p20 ハルの学習理論)決定的な音楽忌避の心理状態である。

《積極的グループ》においては、マイナスの作用で、音楽行動化には直接影響がないものと判断できる。

《中立グループ》については、プラスに作用する。

グループによって、プラス・マイナス両面で作用する特徴があり、グループの違いで複雑な心理を反映している。

『**プライドの因子**』は、《消極的グループ》の人から取り除かなければならない大きなマイナスの因子である。中学校での音楽教育だけでなく一般の生活の中でも作用する因子であるので、仮説成立の因子ではない。

3.(表1)の判定から、《消極的グループ》の『**好印象記憶・音楽願望の因子**』は、《積極的グループ》の『**好印象記憶の因子**』《中立グループ》の『**音楽願望の因子**』と共に音楽の行動化に作用しないと判定された。因子の中で最も多くの要素を含む因子で、複雑な心理が存在していることを証明している。学校現場だけでは体験できない刺激、学習、心的平穩、体験記憶など、あらゆる場面で経験することができる因子なのである。したがって学校教育の関係だけで形成される因子ではないということが決定づけられる。

『**好印象記憶・音楽願望の因子**』『**好印象記憶の因子**』『**音楽願望の因子**』は、どのグループにおいても主に学校教育でプラスに作用しない因子であるので、仮説成立の因子ではない。

4.(表1)の判定から、《積極的グループ》の『音楽願望の因子』《中立グループ》の『好印象記憶の因子』《消極的グループ》の『嗜好形成の因子』は、ともにマイナスに作用する。

「～したい」の欲求は、学校現場だけでなくあらゆる生活の中で起こりうる欲求であるため、学校で経験した欲求を上回る事象がある。例えば、DTM<sup>14</sup>であったり、CD、DVDなどあらゆる音楽環境が身近にある最近の生活の中で音楽に対する魅力は、学校現場以上である。あらゆるジャンルの音楽が存在し、それを身近に感じ、接することができる今日、生徒は恵まれた環境の中で生き生きしている。ある意味で学校は、それらの音楽とは違った方向で音楽教育をおこなっている「場」なのかも知れない。そう危惧される状況にあるのかもしれない。また、嗜好の形成も学校現場だけでなく上で述べたあらゆるジャンルの音楽によって個性に応じた選択を生徒はするであろうと思われる。したがって、これらの因子は、学校教育現場より以上に、その周りから得られるであろう背景がある。

『好印象記憶の因子』『音楽願望の因子』『嗜好形成の因子』は、マイナスに作用する因子で、中学校での音楽教育だけでなく一般の生活の中で、より効果的に作用するであろうと思われる因子である。したがって、仮説成立の因子ではない。

5.《中立グループ》の『プライドの因子』は、他のグループと違ってプラスに作用するという判定結果であった。これは、このグループのみで、なぜこういう判定が出たのか疑問である。『出会いの因子』『形成的能力の因子』は、《積極的グループ》と同じである。

はたして、「中立」という言葉に惑わされてはいないだろうか？いずれにもかたよらずに中正の立場なのか。あるいはもう一方の意味である、いずれにも味方せず、いずれにも敵対しないこと。関与しないこと。なのであろうか。この判定で、後者の意味であるように思うのである。距離的に中間であろうと判断し、考察してきたがこの疑問によって、言葉の解釈にとどまらず、どちらにも属さない、属したくない独特なこのグループの人のもっと内面を探らなければならない気がしている。『出会いの因子』『形成的能力の因子』の判定では、当然《積極的グループ》なのである。さらに、このグループにおける詳しい調査が必要であると判断する。

以上、5項目の考察より、生涯にわたっての音楽行動に、

『出会いの因子』『形成的能力の因子』は、不可欠な因子ある。

消極的な人にとって、

『依存の因子』は、行動化のきっかけとなる不可欠な因子である。

『形成的能力の因子』は、不可欠な因子である。

『プライドの因子』は、除去されなければいけない因子である。

<sup>14</sup> コンピュータ：desk top music の略

---

よって、《積極的グループ》《消極的グループ》《中立グループ》の3つのグループそれぞれに、学校教育に関する因子（『出会いの因子』『形成的能力の因子』『依存の因子』）が存在する。

このことから上記3つの因子が各グループに存在することにより、どのグループにおいても、学校教育現場における教育効果に関する因子が確実に存在し、大きく作用している実態が明らかになった。

このことで学校教育での音楽の学習体験は、生涯にわたっての音楽行動に関係することが立証された。

したがって、これまでの調査結果および考察から

仮説

**「生涯にわたっての音楽行動は、  
学校教育における音楽の学習体験に起因する」**

は、検証された。

### 第3節 音楽科教育の課題と展望

我々音楽科教員は学校教育において生徒に何を期待するのか。今現在の音楽嗜好にかかわらず、これから歩いていくであろう長い人生の中で「音楽に親しむ」意識・行為が、こころにゆとりを与え、精神的に充足された生活のきっかけとなれば、音楽教員としてこの上のない教育効果である。教育することにより、生徒が長期的な展望をもって「音楽行動」に繋がり音楽願望がふくらむことを願って教育に当たらなくてはならない。

キャンベルは、「何百万もの神経単位がたったひとつの経験（音楽経験）で活発化させられる」<sup>15</sup>と指摘している。このことは、音楽体験そのものが生理的に機能を発達させ脳を活性化させる働きを有している。人間がバランスよく成長・発達するためには、生理的欲求や刺激を考慮したトータルな音楽経験が必要である。

その経験が中学校時代、大きく言えば学校教育時代、さらにさかのぼると家庭教育を根幹とする「人間教育」のスタートになるのではないかと考える。

「感動体験の共有」という音楽科固有の価値の実現を通して、「心の教育」に深く関与することができる我々音楽科教員にとって、学校であるからこそ得られる音楽の感動体験を通して、生徒に感得させることが音楽科教育の原点であり、これらの教育的活動が、生涯にわたっての「生きる力」の育成を図ることに繋がるものと考えられる。

人の音楽行動は、学校教育時代に身に付いた学力、技能、知覚、感性、人間どうしのふれあいの中で、培われることがいかに多いか、生涯に亘っての音楽的行動は、この検証によっても明らかにされる部分が多い。

鈴木<sup>16</sup>によると**音楽科と音楽教師のなかで、日本の教育制度は、音楽科の指導要領で等しく教育がなされようとしている、この教育制度は、外国から見れば奇異に映るらしい。音楽という個性的な能力を画一的に同じレベルまで上げようとする教育行為はある意味反省しなければならない。しかし共通のコミュニケーション手段として歌を歌い、楽譜が読めるほうがより豊かな社会生活を送ることができるであろう。**と述べている。

中学校音楽科の教科の目標は、指導要領では、「表現および鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う。」となっている。（平成10年文部科学省中学校指導要領）

表現および鑑賞の幅広い活動  
音楽を愛好する心情  
音楽に対する感性  
音楽活動の基礎的能力  
豊かな情操

という5つの目標は、日々の音楽の授業では、教材に隠れてしまったり、全面に「音楽的感性」や「音楽的情操」などとは考えずに進められている。すべては「幅広い活動」の中で行われている。つまり、音楽科の授業の成立は、「表現および鑑賞」という活動に集約されているのである。したがって、この年代の「活動」に含まれる意味は生涯にわたって音楽的行動、活動を支配する大きな意味合いをもつ。

音楽科としての機能は、表現と鑑賞の幅広い活動の中で、音楽的技術や知識を学習する。

<sup>15</sup> ドン・G・キャンベル、北山敦康訳：『音楽脳入門』p33 音楽之友社 1997

<sup>16</sup> 鈴木 寛：音楽教育におけるFD「授業を失敗させる方法の研究」実技教育研究 第18号 2004

教材は 曲そのもの 曲に付随する情報 曲を表現するのに必要な実技能力 楽譜やCDなどの教材があるが、最大の教材は 媒介としての教師である。つまり自学自習でない限り、教師の媒介や声や楽器という媒体を教材として学習されるのが音楽科である。したがって音楽教育がその目的を達成する要素は、

- 1.教育対象となる生徒
- 2.指導技術・内容の確かな教師
- 3.学力向上に不可欠な教材
- 4.良好な環境
- 5.学んだことが活かせる社会環境
- 6.文化としての個性化

である。その橋渡しをする**教師の存在が生涯にわたる音楽の接し方に大きく作用している**。「音楽が嫌い」という生徒がいる現実、学校教育の授業で何がそうさせているのか。鈴木は、「授業を失敗させる方法」の音楽教育における行動主義の中で、あらゆる学習の結果形成された能力は「行動化」されなければならない。と鈴木は述べている。また、

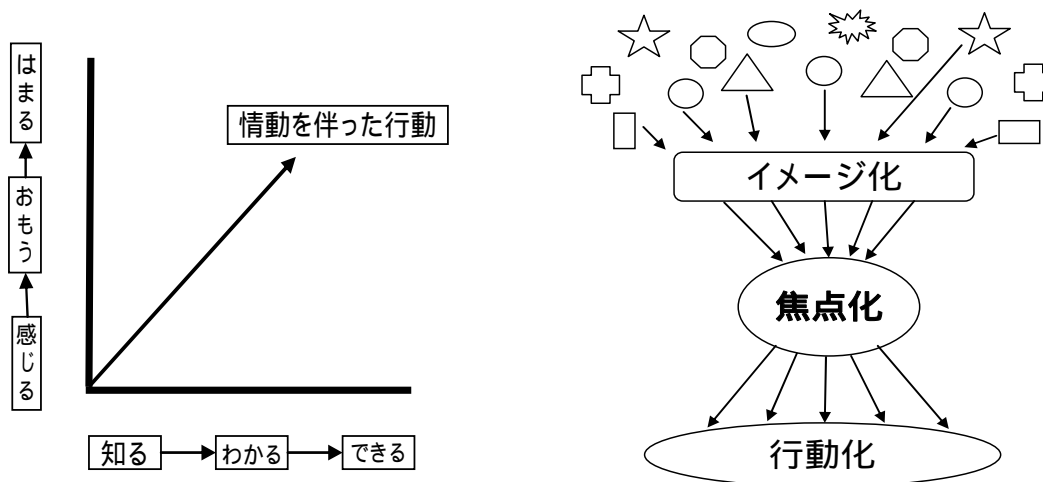
$$\text{行動} = ((\text{教材} \times \text{教師の働き}) \div (\text{学習者の能力})) \times \text{メソッド}$$

の式に置き換え、分母である学習者の能力はゼロではない。残る変数はすべて何かゼロまたは負になると、行動はゼロかマイナスになるという説明をしている。そして、この式はすべてが「**教師の意志決定**」に関わるという。意志決定とは、

- 1 教材の選択
- 2 生徒に対する理解と評価
- 3 処方を選択・決定

の3点である。「確かな意志決定ができる教師」こそが理想的な教師で、音楽嫌い、音楽が苦手という生徒をまず学校時代につくり出さないことが音楽教師としての最低限の責務である。

その《消極的グループ》の意識は、下の表にあるように



《消極的グループ》の因子に見られた、『**好印象記憶・音楽願望の因子**』『**嗜好形成の因子**』『**依存の因子**』は、このグループのみに見られる。「知覚」「体験」「歌唱体験」「知識」の因子で、自分自信に依存する心がうかがえる。「音楽がしたい」という欲求を置きかえて、「学校時代はできた」「よい体験だった」「歌が歌えた」と過去の経験に依存し、今の気持ちを代弁させようとしていると思われる。音楽行動に移ろうという意識は、すでに学校教育時代の「知る」「わかる」「できる」の音楽学習の経験があってこそ成り立つ。X軸とは主に学校教育の教育目標の達成によって成り立つのである。

Y軸の「感じる」「思う」「はまる」は、その経験の内面、情動喚起の流れであると鈴木は提起している。

その深さによって「行動化」の傾斜は変化する。音楽に限らず何かが「わかる」「できる」の意識は、鈴木「できる」から「はまる」学習の理論<sup>17</sup>に当てはまる。

学校教育での、「音楽との出会い」は、まず「知る」ことから「行動化」へのスタートが切られる。様々な教材・指導法によって音楽を「感じる」。そして人はイメージ化をはかる。それは個人の音楽経験や感じ方によって個人的に異なる。そして、いろいろな他の行動が色々な要素と絡み合って内面で総合的に「焦点化」される。それが「行動化」となって表面化していく。個人によっての差異はあるもののこの意識の流れで「行動化」がおこなわれる。この大切な地固めを担っているのが学校音楽科教育なのである。

マーセル<sup>18</sup>によると音楽的成長の原動力は、「発達の経験」(developmental experience)と意味づけし、音楽的成長は

『音楽的意識の発達 音楽的自主性の発達 音楽的識別力の発達 音楽的洞察力の発達 音楽技術の発達』

これらが音楽的成長に至る道である。と、この5つの観点に現れるとしている。

このようにマーセルの「発達の経験」を重視する音楽的成長の論理は、音楽科の授業成立の「表現および鑑賞の幅広い活動」に集約されており、この学校時代の「活動」に含まれる意味は生涯にわたって音楽的行動、活動を支配することとなる。

学校で学ぶべき学習内容や学習経験は、「残さなければならない文化」である。「生涯学習」「文化」「生きがい」「音」「音楽」文化としての音楽を「行動化」できる学習体験を、さらに範囲を広げて検討していかなければならない。

また、マーセルは、「歌唱経験」において次のように述べている。

歌唱の主な利点は『表現的価値と詩的内容に重点をおいて歌うことによって、音楽に付いての意識が発達する』『歌唱によって音楽的自主性が促進される』『歌唱経験が音楽的識別力の発達を促す』『歌唱経験は音楽的洞察力の発達』『芸術的にすぐれた歌を歌う経験は音楽の技術を発達させる』とある。

以上、これまでに述べてきたことは、音楽教育の発達の体系が、人間の音楽的成長という立場から計画され、組織されるべきである。

『教育者の責任は、教育の全課程を通して最善の教育的影響を用意し、学習者のすべてが、音楽の道を迷わず進んで行けるように、また、誰もが音楽のすばらしい贈り物が受けられるように、助け導くことである。』『音楽についての意識、自主性、識別力、洞察力、技術はそれぞれ個別的に発達するものでなく、全体的な音楽的成長と有機的に結びついて発達するものであり、どれをおろそかにしても、全体が弱くなってしまい、円満な音楽的成長は望むべくもないのである。』

時間削減の対象としてとらえられている音楽科は、楽しみながら学ぶことが大切である、また、ゆとりを持って教育されるべきであるといった考えで進められている学校教育の中で大きな危機をむかえている。

我々教師は、「発達の経験」をふまえた「音楽的成長」を長い将来の生活を豊かに過ごすことの出来る「音楽科」としての自覚を持ち、生涯にわたっての目標を持って教育がなされなければならない。実践されなければならないのである。

国連加盟国が2002年10月現在で190ヶ国あるが、その中で義務教育の必修科目とし

<sup>17</sup> 鈴木 寛：S.M.L.の音楽教育( )「できる」学習から「はまる」学習へ:実技教育研究 第17号 2004

<sup>18</sup> Mursell,L.James：1971『音楽的成長のための教育』(美田節子訳)p146～音楽之友社  
[ Mursell,L.James：“Education for Music Growth” Ginn and Company 1948 ]

て音楽を教えている国は20ヶ国にも満たない。音楽の宝庫であるイタリアにおいても小・中学校に音楽の時間は無いのである。音楽は学校でやらなくても、家庭や社会の音楽的環境が音楽的才能をそだてているという社会教育<sup>19</sup>としてのとらえ方である。

日本において、この大切にされなければならない義務教育の中で、我々音楽教師は学校であるからこそ教育できる、ただ「知る」「わかる」「できる」だけでなく「感じる」「思う」「はまる」という「音楽を感じて」・「はまる」・いつでも「行動化できる」行動化できるチャンスを持つ「人の教育」を大切にし教育の質を高めていかなければならない。人は人間らしい豊かな感性を大切に生活へと導かれなくてはならないのである。

我々が今日の教育を考えるためのより良い方法を簡潔にいうと、『学ぶことは教えることよりもはるかに強い力を持っている』人は皆、発見して関係づけるその能力でエネルギーを解放することによって、ダイナミックな生命力を持つのです。教師と生徒のインターフェイスは、大きな身体と小さな身体が協力し、促進し、直面し、刺激し、愛し、戦い、実現を助けることができるように—しかし決して学習のエネルギーを止めないように—学習環境の中で組織される必要があります。子どものエネルギーは外に出て、教師とともに環境と素材に關与する。これを生じさせる複合的な環境を作ることが、我々大人の仕事です。

『教育と芸術についてのエリン・ドウ・ポーポート博士とジェーン・プリティマン氏との対談』より……内容詳細サタデー・レビューのミード・スクールに関する記事(1977年9月3日、pp.11-16) 参照

<sup>19</sup> 関 計夫:「新しい音楽心理学」p202 音楽之友社 1967

## おわりに

学校教育を終えた人が、その後生活する中で、どういうふうに音楽に親しみ音楽を楽しんでいるのか、また年代をこえてコーラスに親しんでいる人々の生き生きとした行動力の奥に流れているのはどういう心情であるのか。様々な年代をこえて「音楽の行動化」の背景を探ることでこの研究をスタートした。

音楽的な基礎能力や生活行動の中に、年代による差異があったり積極的な行動を起こそうとするグループと反対に、消極的なグループ、中立的な立場をとるグループなどと様々な背景の裏に、学校時代の経験や体験が起因していることを実証するため、研究仮説を立てて研究を進めてきた。

調査結果から見られた被験者グループごとの差異、そして音楽にふれた生活を望む《積極的グループ》《消極的グループ》《中立グループ》と意識において異なったグループごとの差異、さらに因子分析により内面の関係を探った。

その裏に流れているのものは、学校教育時代に学習したこと、体験したこと、印象深かったこと、恥ずかしかった思いなど、殆どは学校時代に起因するという結果となった。音楽が苦手という意識も多くの場合、学校時代に経験している。現場の教師にとってはこのことを肝に命じて教育にあたらねばならない。それに加え音楽科教育の土台となる「音楽を愛好する心情」の育成は、目標として大切なことであるが、そのこと以上にそれに携わっている教師が、「生涯にわたっても音楽を愛好できる生徒を育成する」という長期的展望をもち、音楽教育にあたらねばならない。我々音楽教師は、これらのことを再認識しなければならない。

昨今のブーム的言葉となっている「生涯学習」、そして教育界での「生きる力」を身につけさせようという教育のあり方、音楽を自らの興味や関心において楽しめる音楽的能力の育成、これらはまさに「生きる力」を育む基であり、豊かな人間形成の礎である。

音楽活動での感動体験を通し、教師が上で述べたような意図的な教育信念をもって教育に当たること。そして、人が生活の中で心を解放し音とのコミュニケーションをはかることで仲間と共に「音楽に親しむ」ことができること。これらのような人が、音楽を媒体とした豊かな社会生活を営めることを切に願いたい。「この上ない心の豊かさとは、音楽と共にある」と言いきたいのである。

また、研究の基になったアンケート調査の貴重な結果は全てを分析できていないが、今後も他の分析方法で活用していきたい。今回の研究は、まだスタートの段階であり、日々変容し発展している音楽科教育についても、まだまだ研究を深める余地は多大である。現場での実践を真摯に受け止め、さらなる研究へと進めていきたいと考えている。



## 謝辞

現場を離れ、教える側から、教わる側になったことは、今までの人生において一大変化でした。マンネリ化した授業ではダメだ、時代にそぐわない音楽教育では魅力がない。と再び学びたいという気持ちが大きくふくれあがって、ようやく願いが叶っての入学でした。

教育における原理・心理・方法・コンピュータの扱い等、学ばねばならないことばかりでとても新鮮に受け入れることができました。「学ぶ」ということがとても嬉しく、ありがたく思ったことは「時間がある」ということでした。じっくりと物事を考える時間すらなく忙しく動き回っていた自分が、コンピュータを長時間扱ったり、実技では何十年ぶりの緊張を味わい、気持ちは大学時代に戻ったかのように充実していました。

その中で、研究テーマを考えることとなりました。

世間では、コーラスの活動や演奏会が盛んに行われている状況があり、また、「知的好奇心」旺盛な母の姿にいつも接している私にとって、その生き生きとした活動は何がそうさせているのだから、常に何かを学び続けている姿から何がそうさせるのだろうか。

これらの疑問を音楽活動に焦点をあてて考えてみることにしました。

部活動の指導は、長年合唱に関わってきており、生徒の合唱活動の経験が後に、専門に音楽を学ぶようになったり、違った形で音楽に関わったりと教え子の学校卒業後の動向もテーマを決めるきっかけとなりました。

鈴木先生からの適切な助言をいただきこのテーマを決め研究を進めていく中で、なかなかコンピュータの扱いが分からず苦難の連続でした。いつもの確かな助言と指導をしていただき、ともすれば自分の前しか見えなくなる私を「大きく鳥瞰図的になって見渡すこと」と常に言って頂き、着陸地点が霧に包まれてしまってもきちんと滑走路をひいて下さいました。ようやく研究も終わりに近づき、まだまだ残したことはたくさんあるけれども、自分で研究し、自分で道を開いていくこと。そして、自分で目標に到達するという研究の大切さを教えて頂きました。本当にありがとうございました。

研究するという姿勢を常にもって教育にあたっておられる鈴木先生の後ろ姿を見習って、今後も研究する姿勢を忘れないようにし、この大学で学んだことを大切に、将来を見守った教育実践に生かせるよう努力を重ねていきたいと思えます。

また、常に若い力で元気を下さった同期の北川さん、ありがとうございました。

研究のスタートとなった調査のアンケートを引き受けて下さった姫路市音楽科教員の皆さん、姫路市生涯大学校音楽講座受講生・コーラス部の皆さん、姫路市立安室中学校・林田中学校の皆さん、兵庫県立姫路西高等学校・姫路市立姫路高等学校の皆さん、兵庫教育大学学部生・大学院生の皆さん、県立うれしの学園生涯大学1年生の皆さん、余部小学校PTAコーラス部の皆さん、アミーチ・デッラ・リリカの皆さん、揖保川町ふるさと音楽祭に参加の皆さん、多くの人々に協力をいただき本当にありがとうございました。

最後に、このような貴重な研究の機会を与えて下さった姫路市教育委員会、ならびに勤務校である姫路市立安室中学校の上山恭三校長先生、職員の方々に心より感謝を申し上げます。

市原 智子  
平成 16 年 12 月 21 日

## 参考文献および資料

\* 掲載は年代順

## 《引用文献》

- Mursell, L. James : “ Human values in Music Education ” 1934  
 [ 『音楽教育と人間形成』 (美田節子訳) 音楽之友社 1967 ]  
 佐藤三郎 : 1991 『生涯学習時代の学校教育 共通の基礎・基本とは何か』 東信堂  
 奥田真丈・河野重男監修 : 1993 現代学校教育大辞典 ぎょうせい  
 ドン・G・キャンベル 北山敦康訳 : 1997 『音楽脳入門』 音楽之友社  
 丸林実千代 : 1999 『生涯音楽学習入門』 音楽之友社

## 《参考文献》

- 野村良雄 : 1965 『音楽教育学とは』 音楽之友社  
 関 計夫 : 1967 『新しい音楽心理学』 音楽之友社  
 梅澤忠夫 : 1969 『知的生産の技術』 岩波書店  
 Mursell, L. James : 1967 『音楽教育と人間形成』 (美田節子訳) 音楽之友社  
 [ Mursell, L. James : “ Human values in Music Education ” 1934 ]  
 Mursell, L. James : 1971 『音楽的成長のための教育』 (美田節子訳) 音楽之友社  
 [ Mursell, L. James : “ Education for Music Growth ” Ginn and Company 1948 ]  
 園部三郎 : 1978 『教育についての対話おとなはみな子どもの時を忘れてる』 音楽之友社  
 波多野勤子 : 1982 『中学生の心理』 小学館  
 子安美智子 : 1984 『私とシュタイナー教育』 学陽書房  
 松本恒敏、山本文茂 : 1985 『創造的音楽学習の試み：この音でいいかな?』 音楽之友社  
 荘巖舜哉 : 1986 『ヒトの行動とコミュニケーション』 福村出版  
 高橋 巖 : 1989 『シュタイナーの治療教育』 角川選書  
 全国実行委員会 : 1991 『日本のうた ふるさとのうた』 講談社  
 日本音楽教育学会編 : 1991 『音楽教育学の展望 (上)』 音楽之友社  
 岡田昌大 : 1992 『人と音楽のかかわり 右脳のタイプと左脳タイプ』 音楽之友社  
 梶田叡一 : 1993 『生き方の人間教育を 自己実現の力を育む』 金子書房  
 中田喜直 : 1994 『音楽と人生』 音楽之友社  
 苅谷剛彦 : 1995 『大衆教育社会のゆくえ』 中公新書  
 河口道朗 : 1995 『音楽教育入門 基本理念の構築』 音楽之友社  
 子安ふみ : 1998 『いつも音楽があった』 音楽之友社  
 水野信男 : 1998 『地球音楽紀行』 音楽之友社  
 片岡徳雄 : 1998 『心を育て感性を生かす』 黎明書房  
 文部省 : 1999 『中学校学習指導要領解説 音楽編』 教育芸術社  
 吉富功修 他 6 名 : 1999 『音楽教師のための行動分析』 北大路書房  
 川野辺 敏 山本慶裕 : 1999 『生涯学習論』 福村出版  
 安田 寛 : 1999 『日韓唱歌の源流 すると彼らは新しい歌をうたった』 音楽之友社  
 谷口高士 : 2000 『音は心の中で音楽になる [音楽心理学への招待]』 北大路書房  
 中学校音楽科教育実践研究会 : 2000 『中学校学習指導要領の解説』 明治図書  
 日本音楽教育学会 : 2000 『音楽教育学研究 2 (音楽教育の実践研究)』 音楽之友社  
 村田千尋 : 2000 『音楽の思考術 より深く音楽を知るための実践的技法』 音楽之友社  
 谷川健一 : 2000 『歌と日本人』 講談社現代新書  
 彌政きょう介 : 2001 『新しい時代の学力づくり授業づくり資質能力を育てる中学校音楽編』 明治図書  
 新井郁男 : 2001 『ゆとりの学び ゆとりの文化』 21 世紀の学習社会 教育出版  
 岡田暁生 : 2001 『オペラの運命 19 世紀を魅了した「一夜の夢」』 中公新書

- 大熊藤代子 内田有一 葉袋 貴：2002 『危機に立つ音楽科教育』 遊タイム出版  
 中等科音楽教育研究会編：2002 『中等科音楽教育法』 音楽之友社  
 河合隼雄他3名：2002 『声の力 歌・語り・子ども』 岩波書店  
 峯岸 創：2002 『音楽教育が変わる「遙かなる過去の呼び声」と感心する音楽教育』 音楽之友社  
 浜田寿美男 小沢牧子 佐々木 賢：2003 『学校という場で人はどう生きているのか』 北大路書房  
 谷岡一郎：2003 『「社会調査」のウソ』 文春新書  
 市川昶史 代表：2003 『21世紀の音楽入門1．人間・音・響き』 教育芸術社  
 『21世紀の音楽入門2．リズム』  
 『21世紀の音楽入門3．うた』  
 鈴木松美：2003 『日本人の声』 洋泉社  
 日本学校音楽教育実践学会：2003 『音楽の授業における楽しさの仕組み』 日本学校音楽育実践学会  
 原 清治・山内乾史・杉本 均編：2004 『教育の比較社会学』 学文社  
 真篠 将：2004 『世界音楽教育めぐり』 株式会社トーオン

### 《論文》

- 橋本里美：1995 『音楽の妨げとなる要因の研究』 兵庫教育大学大学院学位論文  
 大熊藤代子：1997 『戦後音楽科教育の変遷とその教育効果について』 兵庫教育大学大学院学位論文  
 葉袋 貴：1997 『内的聴覚とスキーマの形成について』 兵庫教育大学大学院学位論文  
 鈴木 寛：1998 『S.M.L.の音楽科教育( )』 わかるとは 鈴木ゼミ研究紀要第8号  
 尾崎公紀：1999 『絶対音感にみる音楽認知の傾向と問題』 兵庫教育大学大学院学位論文  
 内田有一：1999 『創作学習のイメージ形成におけるレディネスについて』 兵庫教育大学大学院学位論文  
 鈴木 寛：2003 『S.M.L.の音楽科教育( )』 「できる」学習から「はまる」学習へ 実技教育研究 17号  
 鈴木 寛：2004 『音楽科教育におけるFD』 授業を失敗させる方法 実技教育研究第18号

### 《辞典・辞書》

- 教育学大事典：1978 第一法規出版株式会社  
 広辞苑：第五版 岩波書店

### 《資料》

- 田中 正：1985 『新しい音楽教育研究法 心理学・統計学に基づく』 音楽之友社  
 立花俊一・田川正賢・成田清正：1996 『エクササイズ確率・統計』 共立出版  
 内田 治：1997 『すぐわかる EXCEL によるアンケートの調査・集計・解析 [第2版]』 東京図書  
 鈴木ゼミ研究紀要 第6号  
 鈴木ゼミ研究紀要 第8号  
 鈴木ゼミ研究紀要 第10号

### 《ホームページ》

- <http://www.ceser.hyogo-u.ac.jp/naritas/spss/factor/factor.htm>  
<http://osak.u-shizuoka-ken.ac.jp/~tateyama/lecture/STAT/func/chitest.html>

# 資料

	ページ
資料 1 予備調査 音楽科教員アンケート . . . . .	99
資料 2 予備調査 一般アンケート . . . . .	102
資料 3 予備調査 中学生アンケート . . . . .	105
予備調査結果 音楽科教員 . . . . .	108
予備調査結果 一般 . . . . .	110
予備調査結果 中学生 . . . . .	112
資料 4 本調査 質問紙 . . . . .	115
本調査 基本統計結果 . . . . .	117
本調査 基本統計グループ別結果 . . . . .	122
本調査 グループ別質問項目の t 検定結果 . . . . .	127
本調査 グループ間%比較表 . . . . .	133
本調査 グループ内男女 t 検定結果 . . . . .	139

資料 1 . . . . . 予備調査 被験者 音楽科教員 . . . . .

(音楽教員)

**音楽アンケート用紙**

これから、音楽に関する質問をいくつかさせていただきます。記入していただいたこのアンケート用紙については名前をのせて公開することはありません。思ったり、感じたことについて答えてください。どうぞよろしくお願いいたします。

最初にあなたの年代、性別を教えてください。(印で記入して下さい。)

年代	昭和 19 年～昭和 29 年生まれ	現在 50 歳～60 歳	《	》
	昭和 30 年～昭和 39 年生まれ	現在 40 歳～49 歳	《	》
	昭和 40 年～昭和 48 年生まれ	現在 31 歳～39 歳	《	》
	昭和 49 年～昭和 56 年生まれ	現在 23 歳～30 歳	《	》
性別	《 男 ・ 女 》			

\* これからいくつか質問をさせていただきます。それぞれの質問に答えて下さい。  
5つの回答項目から当てはまるとされる数字に をつけてください。なお、5つの項目は以下のようになっています。

よくあてはまる . . . . . 5  
 少しあてはまる . . . . . 4  
 どちらともいえない . . . . . 3  
 あまりあてはまらない . . . . . 2  
 全くあてはまらない . . . . . 1

また、( はい ・ いいえ ) で答える質問もあります。

【質問 1】小学校の音楽の授業は好きだった。( 5 4 3 2 1 )

【質問 2】中学校の音楽の授業は好きだった。( 5 4 3 2 1 )

【質問 3】高校の音楽の授業は好きだった。( 5 4 3 2 1 )

【質問 4】主に好きだった授業内容は何ですか。 をつけて下さい。複数可  
 [ 歌唱、合唱、器楽、合奏、鑑賞、作曲、理論、その他 ( ) ]

【質問 5】主に好きだった理由は何ですか。 をつけて下さい。複数可  
 [ 1 音楽が好きだから 2 音楽が得意だから 3 先生が好きだから  
 4 授業が楽しかったから 5 友達といっしょにできたから  
 6 その他 ( ) ]

【質問 6】音楽会や合唱コンクールなど行事の音楽経験が印象に残っている。  
 ( 5 4 3 2 1 )

【質問 7】音楽の授業、活動を通して、みんなで合唱したり合奏したりして協力することの楽しさ、大切さを学んだ。( 5 4 3 2 1 )

【質問 8】自分が受けたような音楽の授業は、将来子どもの音楽の嗜好に影響すると思いますか。( 5 4 3 2 1 )

【質問 9】担任の先生や音楽の先生の影響で音楽が好きになった。  
 ( 5 4 3 2 1 )

【質問 10】小学校で音楽のクラブに入っていた。 ( はい ・ いいえ )

【質問 11】中学校で音楽のクラブに入っていた。 ( はい ・ いいえ )

【質問 12】高校で音楽のクラブに入っていた。 ( はい ・ いいえ )

【質問 13】【質問 10.11.12】のいずれかで(はい)と答えた人に訊きます。

【質問 13-1】クラブに入っていた理由は、何ですか。 複数可

[ 1 音楽が好きだから 2 音楽が得意だから 3 顧問の先生が好きだから  
4 活動が楽しかったから 5 友達といっしょにできたから 6 授業と違うことができたから 7 その他  
( ) ]

【質問 13-2】活動していたクラブは何ですか。 複数可

[ 1 吹奏楽 2 管弦楽 3 合唱 4 箏曲(邦楽) 5 軽音楽  
6 マンドリン 7 その他( ) ]

【質問 14】あなたはどの時期に、楽器(歌も含む)を始めたのですか。

[ 幼少期、 小学校 123 年、 小学校 456 年、 中学校、 高校、 他( ) ]

【質問 15】あなたは、音楽の何について習っていたのか、または習っているのか、教えてください。  
(例：楽器名ギターなど 歌、合唱も含みます)

習っていたもの・習っているもの ( ) ( ) ( )

【質問 16】また、どのくらいの期間習っていた(習っている)のか教えてください。

あてはまる年齢の数字を <sup>ピアノ</sup> で示す。(中断、再開、継続中も含む)

3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 ( )  
(歳)

【質問 17】学校時代に、歌うことは好きだった。 ( 5 4 3 2 1 )

【質問 18】ふと口ずさんでいる曲はどんな曲ですか。(複数可)

[ ポップス、 歌謡曲、 クラシック、 演歌、 童謡唱歌、 ロック、 民謡、  
その他( ) ( ) ]

【質問 19】音楽が流れていると、心がリラックスする。 ( 5 4 3 2 1 )

【質問 20】季節のうたや学校で学習した「海」や「赤とんぼ」「春が来た」など童謡を口ずさむことはあるか。 ( 5 4 3 2 1 )

【質問 21】地域(学校以外)で吹奏楽、管弦楽、合唱団、バンドなど、に入って活動していた。 ( はい ・ いいえ )

【質問 22】【質問 21】で(はい)と答えた人にききます。

【質問 22-1】それは、いつですか。(複数可)

[ 小学校 1.2.3 年、 小学校 4.5.6 年、 中学校、 高校、 大学、 社会人 ]

【質問 22-2】それは、なぜですか。(複数可)

[ 1 授業と違うことができたから 2 音楽が好きだから  
3 友達がいっしょだから 4 指導者が好きだから  
5 家の人のおすすめで 6 その他 ( ) ]

【質問 23】何らかの音楽に関わって生活がしたい。 ( 5 4 3 2 1 )

【質問 24】演奏会、コンサートによく行く。 ( 5 4 3 2 1 )

【質問 25】家でよく歌ったり、カラオケで歌う。 ( 5 4 3 2 1 )

【質問 26】CD、MDなど音楽のソフトをよく買う、あるいはレンタルする。  
( 5 4 3 2 1 )

【質問 27】人といっしょに歌うと楽しい。(二人で、みんなで)( 5 4 3 2 1 )

【質問 28】仕事以外の日常生活の中でほとんど音楽にふれる機会がない。  
( 5 4 3 2 1 )

【質問 29】生涯にわたっての職業として、なぜ音楽教師を選んだのですか?(複数可)

[ 1 自分のやってきたことを生かすため  
2 自分の出会った音楽教師、(音楽指導者)に影響されて

- 3 子どもに音楽の楽しさ、喜びを伝えたいから
- 4 家の人や音楽指導者のすすめで
- 5 その他 ( ) ]

【質問 30】現在どのような音楽活動をしていますか？(複数可)

[ 吹奏楽、 管弦楽、 合唱、 バンド、 邦楽、 作曲、 していない、  
その他 ( ) ( ) ]

自由記述「あなたが日常生活の中で音楽を楽しむとしたら、どんなことがしたいですか？」

--

自由記述「あなたが音楽教師をめざした動機は何ですか？」(いつ頃、どこで、何を、どう?)

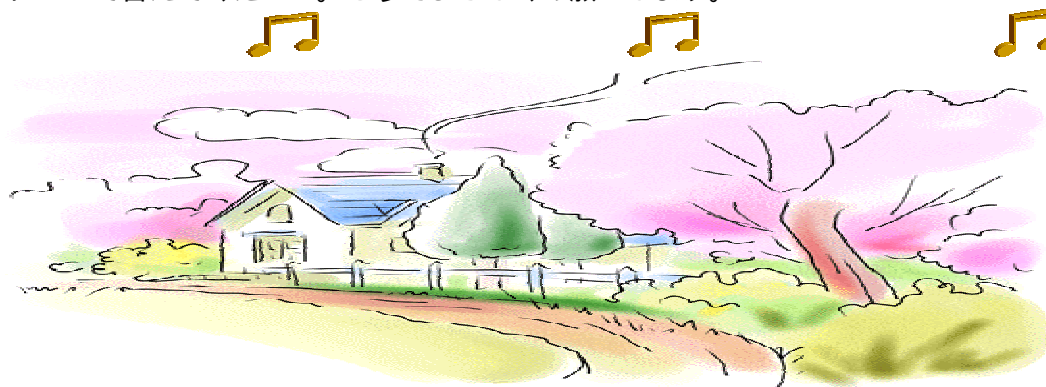
--

資料2 . . . . . 予備調査 被験者 一般 . . . . .

(一般)

### 音楽アンケート用紙

これから、音楽に関する質問をいくつかさせていただきます。記入していただいたこのアンケート用紙については名前をのせて公開することはありません。思ったり、感じたことについて教えてください。どうぞよろしくお願いいたします。



最初にあなたの年代、性別を教えてください。(印で記入して下さい。)

年代	大正 12 年 ~	現在 81 歳 ~	《	》
	大正 13 年 ~ 昭和 8 年生まれ	現在 71 歳 ~ 80 歳	《	》
	昭和 9 年 ~ 昭和 18 年生まれ	現在 61 歳 ~ 70 歳	《	》
	昭和 19 年 ~ 昭和 29 年生まれ	現在 50 歳 ~ 60 歳	《	》
	昭和 30 年 ~ 昭和 39 年生まれ	現在 40 歳 ~ 49 歳	《	》
	昭和 40 年 ~ 昭和 48 年生まれ	現在 31 歳 ~ 39 歳	《	》
	昭和 49 年 ~ 昭和 56 年生まれ	現在 23 歳 ~ 30 歳	《	》
性別	《 男 ・ 女 》			

\* これからいくつか質問をさせていただきます。3つの回答項目から当てはまるところをつけてください。なお、3つの項目は以下のようになっています。

(あてはまる                      どちらともいえない                      あてはまらない)

\* また、( はい ・ いいえ )で答える質問もあります。

【質問1】小学校の音楽の授業は好きだった。(あてはまる      どちらともいえない      あてはまらない)

【質問2】中学校の音楽の授業は好きだった。(あてはまる      どちらともいえない      あてはまらない)

【質問3】高校の音楽の授業は好きだった。(あてはまる      どちらともいえない      あてはまらない)

【質問4】主に好きだった授業内容は何ですか。をつけて下さい。(複数可)

[ 歌を歌うこと                      楽器を演奏すること                      曲を鑑賞すること

曲をつくること                      音楽の歴史や作曲者について知ること

その他(

)]

【質問5】主に好きだった理由は何ですか。をつけて下さい。(複数可)

[ 1 音楽が好きだから      2 音楽が得意だから      3 先生が好きだから

4 授業が楽しかったから      5 友達といっしょにできたから

6 その他(

)]



【質問 6】音楽会や合唱コンクールなど行事の音楽経験が印象に残っている。

(あてはまる どちらともいえない あてはまらない)

【質問 7】音楽の授業、活動を通して、みんなで合唱したり合奏したりして協力することの楽しさ、大切さを学んだ。

(あてはまる どちらともいえない あてはまらない)

【質問 8】あなたが受けたような音楽の授業を、今の子どもが受けた場合、音楽に対する好き嫌いによい影響を与えますか。

(あてはまる どちらともいえない あてはまらない)

【質問 9】担任の先生や音楽の先生の影響で音楽が好きになった。

(あてはまる どちらともいえない あてはまらない)

【質問 10】小学校で音楽のクラブに入っていた。

( はい ・ いいえ )

【質問 11】中学校で音楽のクラブに入っていた。

( はい ・ いいえ )

【質問 12】高校で音楽のクラブに入っていた。

( はい ・ いいえ )

【質問 13】【質問 10.11.12】のいずれかで(はい)と答えた人にききます。

【質問 13-1】クラブに入っていた理由は、何ですか。(複数可)

- [ 1 音楽が好きだったから      2 音楽が得意だったから      3 顧問の先生が好きだったから  
4 活動が楽しかったから      5 友達といっしょにできたから      6 先生にすすめられたから      7 その他  
( ) ]

【質問 13-2】活動していたクラブは何ですか。(複数可)

- [ 1 吹奏楽      2 管弦楽      3 合唱      4 邦楽(三味線、箏、尺八など)  
5 軽音楽(ジャズなど)      6 その他( ) ]

【質問 14】あなたはどの時期に、音楽活動(この講座を受けられていることも含めて)を始められたのですか。

[ 幼少期、小学校、中学校、高校、大学、大人( )歳代から ]

【質問 15】あなたは、音楽のどの分野(この講座の内容も含みます)について習っていたのか、または習っているのか、教えてください。

(例:ピアノ、ギター、三味線、箏など、歌、民謡、合唱、理論、音楽史なども含みます)

習っていたもの・習っているもの (      X      X      )

【質問 16】また、どのくらいの期間習っていた(習っている)のか教えてください。

[ 数ヶ月、1年程度、2~3年、4~5年、5~10年、10年以上、20年以上 ]

【質問 17】学校時代に、歌うことは好きだった。

(あてはまる どちらともいえない あてはまらない)

【質問 18】ふと口ずさんでいる曲はどんな曲ですか。(複数可)

[ 歌謡曲、クラシック、演歌、童謡唱歌、民謡、その他( ) ]

【質問 19】音楽が流れていると、心がリラックスする(心がやすらぐ)。

(あてはまる どちらともいえない あてはまらない)

【質問 20】季節のうたや学校で学習した「海」や「赤とんぼ」「春が来た」など童謡を口ずさむことがある。

(あてはまる どちらともいえない あてはまらない)

【質問 21】学校卒業後、地域で吹奏楽、管弦楽、合唱団、文化クラブ、公民館活動など、に入って活動していたことがある。(現在も活動している)

(あてはまる どちらともいえない あてはまらない)

【質問 22】何らかの音楽に関わって生活がしたい。

(あてはまる どちらともいえない あてはまらない)

【質問 23】演奏会、コンサートによく行く。(あてはまる どちらともいえない あてはまらない)

【質問 24】家でよく歌ったり、カラオケで歌う。

(あてはまる どちらともいえない あてはまらない)

【質問 25】音楽に関するテープ、テレビ、などをよく見たり聴いたりする。

(CD、MD、DVDなど音楽のソフトをよく聴く)

(あてはまる どちらともいえない あてはまらない)

【質問 26】人と一緒に歌うと楽しい。(二人で、みんなで)

(あてはまる どちらともいえない あてはまらない)

【質問 27】仕事以外の日常生活の中で、音楽にふれる機会がある。

(あてはまる どちらともいえない あてはまらない)

【質問 28】なぜ、この講座を選びましたか？。(複数可)

- 1 音楽が楽しいから、好きだから
- 2 自分の出会った音楽教師、(音楽指導者)に影響されて
- 3 子どもや家族のすすめで
- 4 通いやすいところに学校があるから
- 5 友人と一緒に楽しめるから
- 6 その他 ( )

【質問 29】人が生活の中で何らかの形で、音楽にふれて生活することについて、どう思われますか？

資料3・・・予備調査 被験者 中学生・・・

(中学生)

### 音楽アンケート用紙

これから、音楽に関する質問をいくつかします。これはテストではありませんので、リラックスして答えてください。記入していただいたこのアンケート用紙については名前をのせて公開することはありません。思ったり、感じたことについて答えてください。どうぞよろしくをお願いします。



最初にあなたの学年、性別を教えてください。

( )年( )組 性別《 男 ・ 女 》

- \* これからいくつか質問をさせていただきます。それぞれの質問に答えて下さい。  
5つの回答項目から当てはまると思われる数字に をつけてください。  
なお、5つの項目は以下のようになっています。

(5・・・よくあてはまる、4・・・少しあてはまる、3・・・どちらともいえない  
2・・・あまりあてはまらない、1・・・全くあてはまらない)

また、( はい ・ いいえ )で答える質問もあります。

【質問1】小学校の音楽の授業は好きだった。 ( 5 4 3 2 1 )

【質問2】中学校の音楽の授業は好きだ。 ( 5 4 3 2 1 )

【質問3】主に好きな授業内容は何ですか。 をつけて下さい。(複数可)

[ 歌唱、合唱、器楽、合奏、鑑賞、作曲、理論、その他( ) ]

【質問4】主に好きだった(好きな)理由は何ですか。 をつけて下さい。(複数可)

[ 1 音楽が好きだから 2 音楽が得意だから 3 先生が好きだから

4 授業が楽しかったから 5 友達といっしょにできたから

6 その他( ) ]

【質問5】担任の先生や音楽の先生の影響で音楽が好きになった。

( 5 4 3 2 1 )

【質問6】音楽の授業、活動を通して、みんなで合唱したり合奏したりして協力することは

- 楽しくて、大切だと思う。 ( 5 4 3 2 1 )
- 【質問 7】音楽会や合唱コンクールなど行事の事が印象に残っている。 ( 5 4 3 2 1 )
- 【質問 8】音名(ハニホ)と階名(ドレミ)の違いがわかる。 (はい・いいえ)
- 【質問 9】ある音を聞くとその音の高さがわかる。 (はい・いいえ)
- 【質問 10】楽譜をみて演奏することができる。 (はい・いいえ)
- 【質問 11】季節のうたや学校で学習した「海」や「赤とんぼ」「春が来た」など童謡を口ずさむことがある。 (はい・いいえ)
- 【質問 12】メロディーを聴いてすぐ覚えられる。 (はい・いいえ)
- 【質問 13】合唱で、他のパートによくつられる。 (はい・いいえ)
- 【質問 14】学校で習った曲が流れていると習った曲であると分かる。 (はい・いいえ)
- 【質問 15】楽器の種類や音色がだいたい分かる。 (はい・いいえ)
- 【質問 16】誰かから影響を受けて音楽を好きになったといえる。 (はい・いいえ)
- (はい)の人だけ答えて下さい。
- 【質問 16-1】それは誰ですか。 (複数可)  
(学校の教師、 親、 兄弟、 友人、 その他 ( ))
- 【質問 16-2】どんな音楽が好きですか? (複数可)  
(歌謡曲、ロック、ポップス、演歌、クラシック、邦楽、民族音楽、その他)
- 【質問 17】家に楽器(ピアノ、ギター、電子楽器、管楽器 他)があった。 (はい・いいえ)
- 【質問 18】誰かが歌を歌ってくれる、楽器を演奏してくれる環境にあった。 (はい・いいえ)
- 【質問 19】TV、ラジオ、VTR、CD、MD、DVDなど音楽機器が身近にあった。 (はい・いいえ)
- 【質問 20】幼い頃、家で歌を歌ってもらった記憶がある。 (はい・いいえ)
- 【質問 21】ふと口ずさんでいる曲はどんな曲ですか。 (複数可)  
(ポップス、歌謡曲、クラシック、演歌、童謡唱歌、ロック、民謡、その他)
- 【質問 22】好きな曲が流れると自然に拍子をとったり、歌ったりする。 (はい・いいえ)
- 【質問 23】音楽が流れていると、こころがリラックスする。 (はい・いいえ)
- 【質問 24】音楽を聴いてリズムに合わせて体を動かすことがある。 (はい・いいえ)
- 【質問 25】音楽を聴いていい曲だなと思うことがある。 (はい・いいえ)
- 【質問 26】楽しい気分の時など、歌を歌いたくなる。 (はい・いいえ)
- 【質問 27】小学校で音楽のクラブに入っていた。 (はい・いいえ)
- 【質問 28】中学校で音楽のクラブに入っている。 (はい・いいえ)
- 【質問 29】【質問 27.28】のいずれかで(はい)と答えた人にききます。
- 【質問 29-1】クラブに入っていた(いる)理由は、何ですか。 (複数可)  
[ 1 音楽が好きだから 2 音楽が得意だから 3 顧問の先生が好きだから 4 活動が楽しかったから 5 友達といっしょにできたから 6 授業と違うことができたから 7 その他 ( ) ]
- 【質問 29-2】活動していた(いる)クラブは何ですか。 (複数可)  
[ 1 吹奏楽 2 管弦楽 3 合唱 4 箏曲(邦楽) 5 軽音楽 6 その他( ) ]
- 【質問 30】あなたは、学校以外で、音楽の習い事をしていきますか (はい・いいえ)  
(はい)の人だけ答えて下さい
- 【質問 30-1】あなたは、音楽の何について習っていたのか、または習っているのか、教えてください。 (例:楽器名ギターなど 歌、合唱も含みます )  
習っていたもの・習っているもの  
( ) ( ) ( ) ( )

【質問 30-2】あなたはどの時期に、楽器（歌も含む）を始めたのですか。

[ 幼少期、 小学校 123 年、 小学校 456 年、 中学校、 ]

【質問 30-3】また、どのくらいの期間習っていた（習っている）のか教えてください。

あてはまる年齢の数字を <sup>ピアノ</sup> で示す。（中断、再開、継続中も含む）

3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15  
( 歳 )

【質問 30-4】そのうちで初めてやったお稽古については

( ) 親がやらせたから

( ) 自分がやりたいと言ったから どちらかに をつけて下さい。

【質問 31】日常生活の中で歌うこと（カラオケで歌うことも）は好きだ。

( 5 4 3 2 1 )

【質問 32】生活の中で何らかの形で音楽があることは大切だと思う。

( 5 4 3 2 1 )

【質問 33】将来、できるようになりたい音楽活動は何ですか。（複数可）

( 指揮、作曲、弾き語り、即興演奏、吹奏楽、管弦楽、合唱、歌唱、ミュージカル、  
バンド、 ない、 その他 ( ) )

【質問 34】これから、何らかの音楽にかかわって、（音楽にふれた）生活がしたいと思う。

( 5 4 3 2 1 )

..... 予備調査 結果 .....

被験者 音楽科教員

	質問1	質問2	質問3	質問4								質問5					質問6	質問7	質問8	質問9
				歌唱	合唱	器楽	合奏	鑑賞	作曲	理論	音楽好き	得意	先生好き	授業楽し	友達					
回答者数	30	30	29													30	30	29	30	
合計	133	130	121	16	17	18	10	17	0	4	28	16	6	9	2	120	120	110	103	
平均値	4.43	4.33	4.17													4	4	3.79	3.43	
標準偏差	0.96	1.01	0.87													1.18	1.03	1.06	1.36	
	質問10	質問11	質問12	質問13-1							質問13-2									
				好き	得意	顧問好き	楽し	友達	違う事	その他	吹奏楽	管弦楽	合唱	その他						
回答者数	30	30	30							頼まれた										
合計	55	60	61	39	13	4	15	10	4	無理やり	12	2	27	ギター 箏曲						

	質問14			質問15				質問17	質問18							質問19	質問20		
	幼少期	小123年	小456年	中学校	高校	ピアノ	声楽		楽器	他	ポップス	歌謡曲	クラシック	演歌	童謡	ロック	他		
回答者数																		27	26
合計	14	11	1	2	3	27	12	12	3	102	15	11	11	1	10	2	ジャズ		89.00
平均値								チェンバロ		3.92							教科書	4.33	3.42
標準偏差								リコーダー		1.21								0.82	1.12

トランペット  
ホルン  
クラリネット  
チェロ  
サクソ  
ギター  
フルート  
箏 三絃

質問16	開始年齢/楽器	ピアノ	声楽	合唱	Vn	Hr.Tp	Or	Sx	G	El	Fl	箏	三絃
3		1											
4		6											
5		4						1					
6		9										1	
7			1										
8		2											
9		1											
10		1											
11													
12		1	1										
13		1											1
14			1										
15			2						1				
16			4			1							
17		2	1										
18					2			1			1		
19													
20													
21													
22										1			

	質問21	質問23	質問24	質問25	質問26	質問27	質問28	質問29				
								生かすため	出会った教師	子どもに伝えたい	すすめて	他
回答者数	27	26	29	30	30	30	30					
合計	13	113	101	87	104	114	57	22	8	15	4	1
平均値	0.48	4.35	3.48	2.90	3.47	3.80	1.90					
標準偏差	0.5	0.62	0.93	1.01	0.96	1.01	0.91					採用されたので

質問22-1	
小123	0
小456	4
中学校	0
高校	2
大学	2
社会人	7

質問22-2	
1音楽と違うことができたか	2
2音楽が好きだから	9
3友達がいっしょだから	3
4指導者が好きだから	1
5家の人のすすめで	
6その他	指導者の薦め
	部活の指導に生かすため

質問30	
吹奏楽	9
合唱	6
バンド	2
邦楽	3
作曲	1
していない	9
声楽	1
楽器	1
他	1

「あなたが日常生活の中で音楽を楽しむとしたら、どんなことがしたいですか」	「あなたが音楽教師をめざした動機は何ですか？」
鑑賞 4	得意だったので
コンサートに出かける 4	中学の時ピアノが好きだったので
演奏活動 4	中学の時、吹奏楽部で音楽教師をめざす
合唱活動で人の輪を広げたい 4	小学の時、ピアノ講師
生徒といっしょに楽器演奏、合奏 3	学校の先生になりたかったので
ピアノを弾きたい 3	高校での音楽教師の意志を継ぐ
歌を習いたい、歌いたい 2	中学の時音楽関係の仕事に就こうと思っていた
アンサンブル 2	中学の時、本格的な勉強をはじめた
合唱	中学の時の音楽の先生の様になりたかった
バンドを組んで演奏活動	中学の時、男女平等、自分の勉強もでき、やりがいがあるから
音楽の流れる生活を送る	20歳リーダーの音色に感動して
家族と一緒に歌ったり、合奏したい	中学の時、合唱を聴いてハーモニーの美しさを感じた
仲間と歌いたい	高校で合唱と出会った、教師に出会った合唱が教師という職業に生かせると思っ
	中学の時器楽が楽しかった
	日々変化する子どもといっしょに学び楽しむことが素晴らしいことだ
	子どもたちと一緒に好きな音楽をやりたい

被験者 一般

	質問1	質問2	質問3	質問4					質問5					質問6	質問7	質問8	質問9
				歌	楽器	鑑賞	作曲	歴史	1好き	2得意	3先生好き	4楽し	5友達				
回答者数	40	37	34											40	40	39	40
合計数	111	98	87	31	14	24	3	6	32	8	5	11	4	104	103	96	88
平均値	2.78	2.65	2.56											2.60	2.58	2.46	2.20
標準偏差	0.47	0.58	0.69											0.66	0.59	0.63	0.68

	質問10	質問11	質問12	質問13-1						質問13-2				
				好き	得意	先生好き	楽し	友達	先生	吹奏	管弦	合唱	邦楽	軽音楽
回答者数	37	35	34	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
合計数	13	10	11	15	5	2	4	4	5	0	1	16	1	1
平均値	0.35	0.29	0.32											

質問14	
幼少期	4
小学校	10
中学校	6
高校	4
大学	4
20歳代～	3
30歳代～	2
40歳代～	1
50歳代～	4
60歳代～	3
70歳代～	1

質問15	
Cho	19
P	15
Vo	10
理論	7
民謡	5
音楽史	3
大正琴	2
三味線	2
G	1
EI	1
シャンソン	1
Vn	1
箏	1
詩吟	1

質問16	
数ヶ月	3
1年程度	2
2～3年	8
4～5年	7
5～10年	6
10年以上	6
20年以上	3

	質問17	質問18					質問19	質問20	質問21	質問22	質問23	質問24	質問25	質問26	質問27
		歌謡曲	クラシ	演歌	唱歌	民謡									
回答者数	38						40	40	37	36	38	40	39	37	37
合計数	105	20	15	11	29	8	117	117	88	98	100	96	110	104	97
平均値	2.76						2.93	2.93	2.38	2.72	2.63	2.40	2.82	2.81	2.62
標準偏差	0.43						0.26	0.35	0.91	0.56	0.62	0.80	0.45	0.46	0.71



質問28		質問29	
1楽しい好き	32	1	一生音楽が身近にある生活ができるが良い
2教師		3	腹筋を使って歌うことは、健康にもストレス解消にも良い、人間に備わったこの楽器を大切にしたい
3家族		1	音楽がない生活は考えられない
4通しやすい		6	心が優しくなる。精神的に落ち着いて楽しく豊かな気分で毎日を過ごせる。
5友人		7	とても精神的に良いことだと思う
6他	深く学びたかった		気持ちにゆとりが感じられる
	心の安らぎのため、生きがい		音楽を聴いたり、歌ったりしてリラックスできる。
	社交ダンスの音楽をよりよく知りたい		音楽は生活の中で必須のものである。人の感性に関して大変重要である。
	音楽の色々な分野に触れたい。		生活のうまいゆとりにつながると思う。
			音楽とリズムの勉強をしたが、生活にはリズムが大切と思う。
			とても良いことだと思う。
			精神生活に大いにかかわると思う。
			音のない生活は考えられない。3
			絶対に必要、日常生活に不可欠。
			心がやすらぐ
			心を癒せる何かがある。
			戦争中は西洋の音楽にふれることは無かった。箏や邦楽は触れていた。音楽は感性を養うのですばらしいと
			心を和やかにする。
			たいへん良いことだと思う。生活にうまいができる。
			音楽をしていると心が癒される。
			心が豊かになるし、悲しい時にも自然と音が聞こえてくる時には顔が上向きになりホットする気持ちがある。
			楽しい時には身体が自然に動きます。理論ではないと思う。
			感性の豊かさである。
			音楽に触れる生活は、健康で楽しく暮らせる事と思う。
			癒しが必要とされる現代、音楽のある生活が大きくポイントを占める。
			一生音楽はふれていたいと思う。
			ピアノを教えている中でピアノを続けられた子どもは一生の宝としてピアノを学んだ事を誇りにしていると思う。
			発表会でのソロは生涯を通して生涯の誇りになっている。その経験があって年を重ねるエネルギーがわいている。
			心豊かな人生になること。すべての事柄において。
			生活に追われた日常だったが、この年になり時間ができたので受講している。学ぶことは楽しいです。

## 被験者 中学生

学校教育	性別	男			女			男女		
		合計数	平均値	標準偏差	合計数	平均値	標準偏差	合計数	平均値	標準偏差
質問1		123	3.24	1.01	136	3.78	1.16	259	3.50	1.12
質問2		137	3.61	1.09	137	3.81	0.88	274	3.70	1.00
質問3	歌唱	4			9			13		
	合唱	10			16			26		
	器楽	8			15			23		
	合奏	16			25			41		
	鑑賞	14			9			23		
	作曲	2			4			6		
	理論	1			1			2		
	他	0			0			0		
質問4	好き	8			26			34		
	得意	2			5			7		
	先生好き	3			4			7		
	楽し	15			13			28		
	友達	10			6			16		
	他	ストレス発散で声を思い切り出せるから			楽しい気分になる					
		面白いから								
	鑑賞が好きだから									
	歌うのが好きだから									
質問5		108	2.84	0.99	97	2.77	1.33	205	2.81	1.17
質問6		159	4.18	0.85	147	4.20	0.95	306	4.19	0.90
質問7		136	3.68	1.23	157	4.36	0.79	293	4.01	1.09

理論	男			女			男女		
	回答者数	平均値	標準偏差	回答者数	平均値	標準偏差	回答者数	平均値	標準偏差
質問8	37	0.27	0.44	36	0.81	0.40	73	0.53	0.50
質問9	38	0.33	0.46	36	0.64	0.48	74	0.48	0.50
質問10	38	0.12	0.31	36	0.82	0.36	74	0.46	0.48
質問11	38	0.16	0.36	36	0.29	0.45	74	0.22	0.41
質問12	38	0.39	0.49	36	0.63	0.46	74	0.51	0.49
質問13	38	0.50	0.50	36	0.49	0.49	74	0.49	0.50
質問14	38	0.82	0.39	36	0.94	0.23	74	0.88	0.33
質問15	38	0.17	0.37	36	0.40	0.47	74	0.28	0.44

全分野		0.34	0.42	36	0.63	0.42	73.88	0.48	0.46
-----	--	------	------	----	------	------	-------	------	------

		男				女				男女			
		回答者数	合計数	平均値	標準偏差	回答者数	合計数	平均値	標準偏差	回答者数	合計数	平均値	標準偏差
質問16		38	11	0.29	0.45	36	15	0.42	0.49	74	26	0.35	0.48
質問16-1	教師		3				5				8		
	兄弟		4				3				7		
	友人		2				4				6		
	親		3				1				4		
	歌手		0				1				1		
	声優		0				1				1		
質問16-2	歌謡曲		2				4				6		
	ロック		2				6				8		
	ポップス		4				11				15		
	演歌		0				1				1		
	クラシック		1				3				4		
	他		2				3				5		
質問17		38	29	0.76	0.43	36	35	0.97	0.16	74	138	0.86	0.34
質問18		38	6	0.16	0.36	35	19	0.54	0.50	73	98	0.34	0.47
質問19		38	32	0.84	0.36	36	35	0.97	0.16	74	141	0.91	0.29
質問20		36	19	0.53	0.50	36	16	0.44	0.50	72	107	0.49	0.50
質問21	ポップス		7				19				26		
	歌謡曲		8				8				16		
	クラシック		1				4				5		
	演歌		1				1				2		
	唱歌		2				1				3		
	ロック		4				5				9		
	他		14				12				26		
質問22		38	26	0.68	0.46	36	32	0.89	0.31	74	132	0.78	0.41
質問23		38	28	0.74	0.44	36	31	0.86	0.35	74	59	0.80	0.40
質問24		38	6	0.16	0.36	36	14	0.39	0.49	74	20	0.27	0.44
質問25		38	37	0.97	0.16	36	36	1.00	0.00	74	73	0.99	0.12
質問26		38	23	0.61	0.49	36	25	0.69	0.46	74	48	0.65	0.48

音楽活動	性別	男				女				男女			
		回答者数	合計数	平均値	標準偏差	回答者数	合計数	平均値	標準偏差	回答者数	合計数	平均値	標準偏差
質問27		38	1	0.03	0.16	36	2	0.06	0.23	74	3	0.04	0.20
質問28		34	3	0.09	0.28	32	3	0.09	0.29	66	6	0.09	0.29
質問29-1	音楽好き		3				2				5		
	得意		1								1		
	先生好き						1				1		
	楽しい		3				2				5		
	友達						1				1		
	違う事						2				2		
	他												
質問29-2	吹奏楽		3				2				5		
	管弦楽												
	合唱												
	箏曲						2				2		
	軽音楽												
質問30		37	5	0.14	0.34	34	21	0.62	0.49	71	26	0.37	0.48
質問30-1	種類 P		3				18				21		
	G		1								1		
	EI		1				4				5		
	Or		1								1		
	箏						1				1		
質問30-2	時期 幼少期		1				12				13		
	小123～		3				7				10		
	小456～		1				2				3		
質問30-3	開始年齢3.4.5～		2				8				10		
	6.7.8～		2				10				12		
	9.10.11～		1				3				4		
質問30-4	親		2				6				8		
	自分		1				16				17		

【質問30-1】複数回答含む

将来	性別	男				女				男女			
		回答者数	合計数	平均値	標準偏差	回答者数	合計数	平均値	標準偏差	回答者数	合計数	平均値	標準偏差
質問31		37	118	3.19	1.35	36	148	4.11	1.10	73	266	3.64	1.32
質問32		38	147	3.87	1.17	36	155	4.31	0.94	74	302	4.08	1.09
質問33	指揮						1				1		
	作曲		1				3				4		
	弾き語り		1				2				3		
	即興演奏		1								1		
	吹奏楽		3				8				11		
	管弦楽												
	合唱		1				3				4		
	歌唱						3				3		
	ミュージカル		1				6				7		
	バンド		6				9				15		
質問34		37	123	3.32	1.21	36	136	3.78	1.06	73	259	3.55	1.16

【質問33】複数回答含む

資料4 . . . . . **本調査質問紙** . . . . .

## 質問紙（高校、大学生、一般用）

**中学校時代のことでお聞きします**

- 【質問1】音楽の授業が楽しかったから、授業が待ち遠しかった。 . . . (5 4 3 2 1)
- 【質問2】学校時代に歌うことは好きだった。 . . . . . (5 4 3 2 1)
- 【質問3】今も印象に残っている中学校時代の音楽の行事があった。 . (5 4 3 2 1)
- 【質問4】学校時代に、音楽で恥ずかしい思いをしたことがあった。 . (5 4 3 2 1)
- 【質問5】学校時代の友人・先輩・家族の刺激を受けて音楽を好きになったといえる。 . . . . . (5 4 3 2 1)
- 【質問6】みんなで合唱したり合奏したりすることはよい体験だった (5 4 3 2 1)
- 【質問7】学校で出会った音楽の指導者の影響で音楽を好きになった (5 4 3 2 1)
- 【質問8】音楽に対して、学校時代に苦手な意識や劣等感があった。 (5 4 3 2 1)

**今の気持ち、思いはどうか？**

- 【質問9】学校時代の音楽の活動が、音楽を理解したり愛好したりするきっかけとなった。 . . . . . (5 4 3 2 1)
- 【質問10】曲を聞いた時、その曲が学校で習った曲であると分かる。 (5 4 3 2 1)
- 【質問11】習った曲の楽譜をみて歌ったり、演奏したりできる。 . . . (5 4 3 2 1)
- 【質問12】学校で学習した音楽の知識が（記号や、音符など）今でも役に立っている。 . . . . . (5 4 3 2 1)
- 【質問13】歌をうたうとき、無理なく声を出すことができる。 . . . . (5 4 3 2 1)
- 【質問14】簡単な楽譜が、階名で（ドレミ～）で読める。 . . . . . (5 4 3 2 1)
- 【質問15】学校で習った楽器（リコーダー・鍵盤ハーモニカ等）の指使いがわかる。 . . . . . (5 4 3 2 1)
- 【質問16】家で音楽が聞ける機器（テレビ、ラジオ、CD,MD）や楽器などが身近にある。 . . . . . (5 4 3 2 1)
- 【質問17】中学校時代に習った曲で、今も印象（心）に残っている曲がある。 . . . . . (5 4 3 2 1)
- 【質問18】音楽が流れていると、こころがリラックスする。 . . . . . (5 4 3 2 1)
- 【質問19】楽器を演奏したり、歌ったりできるようになりたいという思いがある。 . . . . . (5 4 3 2 1)
- 【質問20】これから、何らかの音楽にかかわって、（音楽にふれた）生活がしたいと思う。 . . . . . (5 4 3 2 1)

## 質問紙（中学生用）

- 【質問1】音楽の授業が楽しいから、授業が待ち遠しい。・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問2】歌を歌うことは好きだ。・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問3】学校の音楽の行事が印象に残っている。・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問4】授業や、部活動、行事などの音楽で恥ずかしい思いをしたことがある。・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問5】友人・先輩・家族の刺激を受けて音楽を好きになったといえる。・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問6】みんなで合唱したり合奏したりすることはよい体験だ。・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問7】学校で出会った音楽の指導者の影響で音楽を好きになった(5 4 3 2 1)
- 【質問8】音楽に対して、苦手な意識や劣等感がある。・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問9】音楽の活動が、音楽を理解したり愛好したりするきっかけとなった。・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問10】曲を聞いた時、その曲が学校で習った曲であると分る。・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問11】習った曲の楽譜をみて歌ったり、演奏したりできる。・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問12】学校で学習した音楽の知識が（記号や、音符など）将来、何かの時に役に立つと思う。・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問13】歌をうたうとき、無理なく声を出すことができる。・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問14】簡単な楽譜が、階名で（ドレミ～）で読める。・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問15】学校で習った楽器（リコーダー・鍵盤ハーモニカ等）の指使いがわかる。・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問16】家で音楽が聞ける機器（テレビ、ラジオ、CD,MD）や楽器などが身近にある。・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問17】習った曲の中で、印象（心）に残っている曲がある。・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問18】音楽が流れていると、こころがリラックスする。・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問19】楽器を演奏したり、歌ったりできるようになりたいという思いがある。・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問20】これから、何らかの音楽にかかわって、（音楽にふれた）生活がしたいと思う。・・・(5 4 3 2 1)

・・・・・・・・・・・・・・・・本調査 基本統計結果・・・・・・・・・・・・・・・・

中学校		問1		問2		問3		問4	
平均	3.28947368	平均	3.752632	平均	3.578947	平均	3.357895		
標準誤差	0.0795208	標準誤差	0.083667	標準誤差	0.080086	標準誤差	0.096104		
中央値 (メジアン)	3	中央値 (メジアン)	4	中央値 (メジアン)	4	中央値 (メジアン)	3		
最頻値 (モード)	3	最頻値 (モード)	4	最頻値 (モード)	4	最頻値 (モード)	5		
標準偏差	1.09611857	標準偏差	1.153265	標準偏差	1.103903	標準偏差	1.324701		
分散	1.20147591	分散	1.330019	分散	1.218602	分散	1.754832		
尖度	-0.4697982	尖度	-0.35429	尖度	-0.51641	尖度	-1.11243		
歪度	-0.1332148	歪度	-0.69576	歪度	-0.41695	歪度	-0.22729		
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	4		
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1		
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5		
合計	625	合計	713	合計	680	合計	638		
標本数	190	標本数	190	標本数	190	標本数	190		
		問5		問6		問7		問8	
平均	2.784211	平均	4.157895	平均	2.615789	平均	3.036842		
標準誤差	0.100424	標準誤差	0.072981	標準誤差	0.093354	標準誤差	0.093917		
中央値 (メジアン)	3	中央値 (メジアン)	4	中央値 (メジアン)	3	中央値 (メジアン)	3		
最頻値 (モード)	1	最頻値 (モード)	5	最頻値 (モード)	3	最頻値 (モード)	3		
標準偏差	1.384251	標準偏差	1.005969	標準偏差	1.286792	標準偏差	1.294559		
分散	1.916151	分散	1.011974	分散	1.655834	分散	1.675884		
尖度	-1.20423	尖度	0.751911	尖度	-1.08804	尖度	-1.01732		
歪度	0.164012	歪度	-1.14165	歪度	0.176916	歪度	0.034462		
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	4		
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1		
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5		
合計	529	合計	790	合計	497	合計	577		
標本数	190	標本数	190	標本数	190	標本数	190		
		問9		問10		問11		問12	
平均	3.115789	平均	4.236842	平均	3.305263	平均	3.163158		
標準誤差	0.08368	標準誤差	0.074693	標準誤差	0.09022	標準誤差	0.090166		
中央値 (メジアン)	3	中央値 (メジアン)	5	中央値 (メジアン)	3	中央値 (メジアン)	3		
最頻値 (モード)	3	最頻値 (モード)	5	最頻値 (モード)	3	最頻値 (モード)	3		
標準偏差	1.153446	標準偏差	1.029568	標準偏差	1.243597	標準偏差	1.242846		
分散	1.330437	分散	1.060011	分散	1.546533	分散	1.544667		
尖度	-0.6726	尖度	1.931825	尖度	-0.90694	尖度	-0.85898		
歪度	-0.06147	歪度	-1.51828	歪度	-0.24769	歪度	-0.19699		
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	4		
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1		
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5		
合計	592	合計	805	合計	628	合計	601		
標本数	190	標本数	190	標本数	190	標本数	190		
		問13		問14		問15		問16	
平均	3.273684	平均	4.126316	平均	4.042105	平均	4.736842		
標準誤差	0.084395	標準誤差	0.090938	標準誤差	0.081695	標準誤差	0.046857		
中央値 (メジアン)	3	中央値 (メジアン)	5	中央値 (メジアン)	4	中央値 (メジアン)	5		
最頻値 (モード)	4	最頻値 (モード)	5	最頻値 (モード)	5	最頻値 (モード)	5		
標準偏差	1.163302	標準偏差	1.2535	標準偏差	1.126081	標準偏差	0.645875		
分散	1.353272	分散	1.571261	分散	1.268059	分散	0.417154		
尖度	-0.74379	尖度	0.417166	尖度	0.241942	尖度	5.842843		
歪度	-0.2442	歪度	-1.28395	歪度	-1.04961	歪度	-2.54621		
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	3		
最小	1	最小	1	最小	1	最小	2		
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5		
合計	622	合計	784	合計	768	合計	900		
標本数	190	標本数	190	標本数	190	標本数	190		

	問17	問18	問19	問20
平均	4.005263	平均 4.047368	平均 3.921053	平均 3.505263
標準誤差	0.081921	標準誤差 0.07766	標準誤差 0.089837	標準誤差 0.088852
中央値 (メジアン)	4	中央値 (メジアン) 4	中央値 (メジアン) 4	中央値 (メジアン) 3.5
最頻値 (モード)	5	最頻値 (モード) 5	最頻値 (モード) 5	最頻値 (モード) 3
標準偏差	1.129205	標準偏差 1.070464	標準偏差 1.238312	標準偏差 1.224734
分散	1.275104	分散 1.145893	分散 1.533417	分散 1.499972
尖度	0.157964	尖度 0.470709	尖度 0.041961	尖度 -0.70641
歪度	-0.96857	歪度 -1.01047	歪度 -1.01453	歪度 -0.39652
範囲	4	範囲 4	範囲 4	範囲 4
最小	1	最小 1	最小 1	最小 1
最大	5	最大 5	最大 5	最大 5
合計	761	合計 769	合計 745	合計 666
標本数	190	標本数 190	標本数 190	標本数 190

高校

	問1	問2	問3	問4
平均	3.56768559	平均 3.943231	平均 4.039301	平均 3.30131
標準誤差	0.07732713	標準誤差 0.077582	標準誤差 0.080536	標準誤差 0.089498
中央値 (メジアン)	4	中央値 (メジアン) 4	中央値 (メジアン) 5	中央値 (メジアン) 3
最頻値 (モード)	4	最頻値 (モード) 4	最頻値 (モード) 5	最頻値 (モード) 4
標準偏差	1.17017181	標準偏差 1.174028	標準偏差 1.218725	標準偏差 1.354346
分散	1.36930208	分散 1.378342	分散 1.485291	分散 1.834253
尖度	-0.5537211	尖度 -0.07818	尖度 0.013493	尖度 -1.0378
歪度	-0.5456221	歪度 -0.95545	歪度 -1.05825	歪度 -0.35853
範囲	4	範囲 4	範囲 4	範囲 4
最小	1	最小 1	最小 1	最小 1
最大	5	最大 5	最大 5	最大 5
合計	817	合計 903	合計 925	合計 756
標本数	229	標本数 229	標本数 229	標本数 229

	問5	問6	問7	問8
平均	2.707424	平均 4.283843	平均 2.624454	平均 3.689956
標準誤差	0.085244	標準誤差 0.06558	標準誤差 0.089443	標準誤差 0.08199
中央値 (メジアン)	3	中央値 (メジアン) 5	中央値 (メジアン) 3	中央値 (メジアン) 4
最頻値 (モード)	3	最頻値 (モード) 5	最頻値 (モード) 1	最頻値 (モード) 5
標準偏差	1.28997	標準偏差 0.992406	標準偏差 1.353525	標準偏差 1.240732
分散	1.664024	分散 0.984869	分散 1.832031	分散 1.539416
尖度	-0.89972	尖度 1.820701	尖度 -1.07511	尖度 -0.65538
歪度	0.312785	歪度 -1.4914	歪度 0.333186	歪度 -0.61553
範囲	4	範囲 4	範囲 4	範囲 4
最小	1	最小 1	最小 1	最小 1
最大	5	最大 5	最大 5	最大 5
合計	620	合計 981	合計 601	合計 845
標本数	229	標本数 229	標本数 229	標本数 229

	問9	問10	問11	問12
平均	3.034934	平均 4.091703	平均 3.475983	平均 3.244541
標準誤差	0.078497	標準誤差 0.060177	標準誤差 0.080115	標準誤差 0.08284
中央値 (メジアン)	3	中央値 (メジアン) 4	中央値 (メジアン) 4	中央値 (メジアン) 3
最頻値 (モード)	3	最頻値 (モード) 4	最頻値 (モード) 4	最頻値 (モード) 3
標準偏差	1.187878	標準偏差 0.910644	標準偏差 1.212359	標準偏差 1.253601
分散	1.411055	分散 0.829273	分散 1.469815	分散 1.571516
尖度	-0.84717	尖度 0.833213	尖度 -0.60626	尖度 -0.87343
歪度	-0.03624	歪度 -0.99131	歪度 -0.53193	歪度 -0.26998
範囲	4	範囲 4	範囲 4	範囲 4
最小	1	最小 1	最小 1	最小 1
最大	5	最大 5	最大 5	最大 5
合計	695	合計 937	合計 796	合計 743
標本数	229	標本数 229	標本数 229	標本数 229



問13		問14		問15		問16	
平均	3.209607	平均	4.384279	平均	4.170306	平均	4.812227
標準誤差	0.071636	標準誤差	0.064644	標準誤差	0.06671	標準誤差	0.03888
中央値(メジアン)	3	中央値(メジアン)	5	中央値(メジアン)	4	中央値(メジアン)	5
最頻値(モード)	3	最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	5
標準偏差	1.084053	標準偏差	0.978236	標準偏差	1.009512	標準偏差	0.588358
分散	1.17517	分散	0.956945	分散	1.019114	分散	0.346166
尖度	-0.64916	尖度	2.710227	尖度	1.507513	尖度	16.23947
歪度	-0.09237	歪度	-1.77021	歪度	-1.35407	歪度	-3.84574
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	4
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5
合計	735	合計	1004	合計	955	合計	1102
標本数	229	標本数	229	標本数	229	標本数	229

問17		問18		問19		問20	
平均	4.165939	平均	4.427948	平均	4.362445	平均	3.868996
標準誤差	0.072402	標準誤差	0.05432	標準誤差	0.061412	標準誤差	0.071654
中央値(メジアン)	5	中央値(メジアン)	5	中央値(メジアン)	5	中央値(メジアン)	4
最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	5
標準偏差	1.095634	標準偏差	0.822014	標準偏差	0.929339	標準偏差	1.084318
分散	1.200414	分散	0.675707	分散	0.863671	分散	1.175745
尖度	0.871562	尖度	2.683842	尖度	1.796124	尖度	-0.24031
歪度	-1.26256	歪度	-1.60703	歪度	-1.51054	歪度	-0.69457
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	4
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5
合計	954	合計	1014	合計	999	合計	886
標本数	229	標本数	229	標本数	229	標本数	229

大学

問1		問2		問3		問4	
平均	3.8440367	平均	4.229358	平均	4.321101	平均	3.321101
標準誤差	0.11450548	標準誤差	0.111085	標準誤差	0.104178	標準誤差	0.130266
中央値(メジアン)	4	中央値(メジアン)	5	中央値(メジアン)	5	中央値(メジアン)	3
最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	5
標準偏差	1.19547226	標準偏差	1.159766	標準偏差	1.087647	標準偏差	1.360016
分散	1.42915392	分散	1.345056	分散	1.182977	分散	1.849643
尖度	0.10949742	尖度	0.747703	尖度	2.297156	尖度	-1.14509
歪度	-0.9184829	歪度	-1.36815	歪度	-1.72775	歪度	-0.22138
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	4
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5
合計	419	合計	461	合計	471	合計	362
標本数	109	標本数	109	標本数	109	標本数	109

問5		問6		問7		問8	
平均	3.165138	平均	4.605505	平均	3.119266	平均	3.798165
標準誤差	0.139482	標準誤差	0.077133	標準誤差	0.132749	標準誤差	0.118591
中央値(メジアン)	3	中央値(メジアン)	5	中央値(メジアン)	3	中央値(メジアン)	4
最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	3	最頻値(モード)	5
標準偏差	1.456237	標準偏差	0.805287	標準偏差	1.38594	標準偏差	1.238127
分散	2.120625	分散	0.648488	分散	1.920829	分散	1.53296
尖度	-1.37402	尖度	5.86263	尖度	-1.19944	尖度	-0.19882
歪度	-0.12814	歪度	-2.40984	歪度	-0.02625	歪度	-0.88885
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	4
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5
合計	345	合計	502	合計	340	合計	414
標本数	109	標本数	109	標本数	109	標本数	109

問9		問10		問11		問12	
平均	3.394495	平均	4.449541	平均	3.715596	平均	3.724771
標準誤差	0.129702	標準誤差	0.085954	標準誤差	0.122337	標準誤差	0.125612
中央値(メジアン)	3	中央値(メジアン)	5	中央値(メジアン)	4	中央値(メジアン)	4
最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	5
標準偏差	1.354132	標準偏差	0.897385	標準偏差	1.277235	標準偏差	1.311428
分散	1.833673	分散	0.805301	分散	1.631329	分散	1.719844
尖度	-1.1096	尖度	4.58168	尖度	-0.50409	尖度	-0.67737
歪度	-0.29655	歪度	-2.03869	歪度	-0.75225	歪度	-0.70409
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	4
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5
合計	370	合計	485	合計	405	合計	406
標本数	109	標本数	109	標本数	109	標本数	109

問13		問14		問15		問16	
平均	3.770642	平均	4.330275	平均	4.284404	平均	4.807339
標準誤差	0.104789	標準誤差	0.114417	標準誤差	0.101041	標準誤差	0.054491
中央値(メジアン)	4	中央値(メジアン)	5	中央値(メジアン)	5	中央値(メジアン)	5
最頻値(モード)	4	最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	5
標準偏差	1.094033	標準偏差	1.194548	標準偏差	1.054898	標準偏差	0.568902
分散	1.196908	分散	1.426945	分散	1.11281	分散	0.323649
尖度	-0.47746	尖度	1.956478	尖度	1.381255	尖度	14.81567
歪度	-0.56719	歪度	-1.76313	歪度	-1.46277	歪度	-3.68932
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	3
最小	1	最小	1	最小	1	最小	2
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5
合計	411	合計	472	合計	467	合計	524
標本数	109	標本数	109	標本数	109	標本数	109

問17		問18		問19		問20	
平均	4.431193	平均	4.587156	平均	4.688073	平均	4.449541
標準誤差	0.094323	標準誤差	0.070447	標準誤差	0.069825	標準誤差	0.075426
中央値(メジアン)	5	中央値(メジアン)	5	中央値(メジアン)	5	中央値(メジアン)	5
最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	5
標準偏差	0.984763	標準偏差	0.735489	標準偏差	0.728993	標準偏差	0.787474
分散	0.969759	分散	0.540945	分散	0.531431	分散	0.620116
尖度	1.746977	尖度	5.607186	尖度	11.29904	尖度	2.85573
歪度	-1.67138	歪度	-2.15675	歪度	-3.09169	歪度	-1.56888
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	4
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5
合計	483	合計	500	合計	511	合計	485
標本数	109	標本数	109	標本数	109	標本数	109

一般

問1		問2		問3		問4	
平均	3.5308642	平均	3.97541	平均	3.475207	平均	3.733333
標準誤差	0.07124835	標準誤差	0.073447	標準誤差	0.0861	標準誤差	0.083605
中央値(メジアン)	4	中央値(メジアン)	4	中央値(メジアン)	4	中央値(メジアン)	4
最頻値(モード)	3	最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	5
標準偏差	1.11065188	標準偏差	1.147286	標準偏差	1.339399	標準偏差	1.295201
分散	1.2335476	分散	1.316265	分散	1.793989	分散	1.677545
尖度	-0.3592215	尖度	-0.06434	尖度	-1.02732	尖度	-0.74314
歪度	-0.4341955	歪度	-0.94078	歪度	-0.39585	歪度	-0.63442
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	4
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5
合計	858	合計	970	合計	841	合計	896
標本数	243	標本数	244	標本数	242	標本数	240

問5		問6		問7		問8	
平均	3.124481	平均	4.037344	平均	3.120332	平均	3.619247
標準誤差	0.090361	標準誤差	0.072814	標準誤差	0.084961	標準誤差	0.084313
中央値(メジアン)	3	中央値(メジアン)	4	中央値(メジアン)	3	中央値(メジアン)	4
最頻値(モード)	3	最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	3	最頻値(モード)	5
標準偏差	1.402773	標準偏差	1.130383	標準偏差	1.318949	標準偏差	1.30344
分散	1.967773	分散	1.277766	分散	1.739627	分散	1.698956
尖度	-1.16965	尖度	0.353834	尖度	-1.01678	尖度	-0.96151
歪度	-0.1139	歪度	-1.0861	歪度	-0.1028	歪度	-0.43612
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	4
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5
合計	753	合計	973	合計	752	合計	865
標本数	241	標本数	241	標本数	241	標本数	239

問9		問10		問11		問12	
平均	3.252066	平均	4.00823	平均	3.290984	平均	3.32377
標準誤差	0.085628	標準誤差	0.064412	標準誤差	0.086763	標準誤差	0.085695
中央値(メジアン)	3	中央値(メジアン)	4	中央値(メジアン)	3	中央値(メジアン)	4
最頻値(モード)	3	最頻値(モード)	4	最頻値(モード)	4	最頻値(モード)	4
標準偏差	1.332056	標準偏差	1.00409	標準偏差	1.355283	標準偏差	1.338604
分散	1.774373	分散	1.008196	分散	1.836791	分散	1.791861
尖度	-1.03522	尖度	0.461944	尖度	-1.0786	尖度	-1.06837
歪度	-0.17391	歪度	-0.97967	歪度	-0.3211	歪度	-0.32904
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	4
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5
合計	787	合計	974	合計	803	合計	811
標本数	242	標本数	243	標本数	244	標本数	244

問13		問14		問15		問16	
平均	3.442623	平均	3.847737	平均	3.415966	平均	4.576763
標準誤差	0.071862	標準誤差	0.08053	標準誤差	0.092806	標準誤差	0.049693
中央値(メジアン)	4	中央値(メジアン)	4	中央値(メジアン)	4	中央値(メジアン)	5
最頻値(モード)	4	最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	5
標準偏差	1.122528	標準偏差	1.255346	標準偏差	1.431737	標準偏差	0.771443
分散	1.260069	分散	1.575894	分散	2.049871	分散	0.595124
尖度	-0.68461	尖度	-0.16614	尖度	-1.13446	尖度	5.73193
歪度	-0.33954	歪度	-0.93499	歪度	-0.44711	歪度	-2.23643
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	4
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5
合計	840	合計	935	合計	813	合計	1103
標本数	244	標本数	243	標本数	238	標本数	241

問17		問18		問19		問20	
平均	3.91358	平均	4.440329	平均	4.409836	平均	4.327869
標準誤差	0.07321	標準誤差	0.052143	標準誤差	0.060499	標準誤差	0.061433
中央値(メジアン)	4	中央値(メジアン)	5	中央値(メジアン)	5	中央値(メジアン)	5
最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	5	最頻値(モード)	5
標準偏差	1.141235	標準偏差	0.812823	標準偏差	0.945025	標準偏差	0.959618
分散	1.302418	分散	0.660681	分散	0.893072	分散	0.920866
尖度	0.161574	尖度	1.417313	尖度	2.836551	尖度	1.709638
歪度	-0.9226	歪度	-1.38843	歪度	-1.75817	歪度	-1.45887
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	4
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5
合計	951	合計	1079	合計	1076	合計	1056
標本数	243	標本数	243	標本数	244	標本数	244

・・・・・・・・・・・・・・・・本調査 基本統計グループ別結果・・・・・・・・・・・・・・・・

**積極グループ**

問1		問2		問3		問4	
平均	3.7680608	平均	4.2243346	平均	4.0019011	平均	3.4334601
標準誤差	0.0476005	標準誤差	0.0446901	標準誤差	0.0531805	標準誤差	0.0591806
中央値 (メジアン)	4	中央値 (メジアン)	5	中央値 (メジアン)	4	中央値 (メジアン)	4
最頻値 (モード)	4	最頻値 (モード)	5	最頻値 (モード)	5	最頻値 (モード)	5
標準偏差	1.0917033	標準偏差	1.0249539	標準偏差	1.2196784	標準偏差	1.357288
分散	1.191816	分散	1.0505305	分散	1.4876154	分散	1.8422307
尖度	-0.07675	尖度	0.8605146	尖度	0.0722064	尖度	-1.079553
歪度	-0.720165	歪度	-1.280528	歪度	-1.053227	歪度	-0.370509
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	4
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5
合計	1982	合計	2222	合計	2105	合計	1806
標本数	526	標本数	526	標本数	526	標本数	526

問5		問6		問7		問8	
平均	3.2414449	平均	4.4087452	平均	3.0779468	平均	3.6901141
標準誤差	0.0590325	標準誤差	0.0408634	標準誤差	0.0588318	標準誤差	0.0556914
中央値 (メジアン)	3	中央値 (メジアン)	5	中央値 (メジアン)	3	中央値 (メジアン)	4
最頻値 (モード)	3	最頻値 (モード)	5	最頻値 (モード)	3	最頻値 (モード)	5
標準偏差	1.3538914	標準偏差	0.9371891	標準偏差	1.3492885	標準偏差	1.2772654
分散	1.8330219	分散	0.8783234	分散	1.8205794	分散	1.6314068
尖度	-1.118181	尖度	2.8312678	尖度	-1.120697	尖度	-0.786167
歪度	-0.18603	歪度	-1.775467	歪度	-0.086207	歪度	-0.588277
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	4
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5
合計	1705	合計	2319	合計	1619	合計	1941
標本数	526	標本数	526	標本数	526	標本数	526

問9		問10		問11		問12	
平均	3.4258555	平均	4.2794677	平均	3.6958175	平均	3.6178707
標準誤差	0.0545124	標準誤差	0.0390878	標準誤差	0.0525756	標準誤差	0.052674
中央値 (メジアン)	3	中央値 (メジアン)	4.5	中央値 (メジアン)	4	中央値 (メジアン)	4
最頻値 (モード)	3	最頻値 (モード)	5	最頻値 (モード)	4	最頻値 (モード)	4
標準偏差	1.2502254	標準偏差	0.8964674	標準偏差	1.2058041	標準偏差	1.2080618
分散	1.5630636	分散	0.8036538	分散	1.4539634	分散	1.4594134
尖度	-0.843295	尖度	1.7278866	尖度	-0.342583	尖度	-0.586197
歪度	-0.353218	歪度	-1.359399	歪度	-0.746646	歪度	-0.574019
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	4
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5
合計	1802	合計	2251	合計	1944	合計	1903
標本数	526	標本数	526	標本数	526	標本数	526

問13		問14		問15		問16	
平均	3.63498099	平均	4.338403	平均	4.10836502	平均	4.8269962
標準誤差	0.04494817	標準誤差	0.0461348	標準誤差	0.04987122	標準誤差	0.0221313
中央値 (メジアン)	4	中央値 (メジアン)	5	中央値 (メジアン)	5	中央値 (メジアン)	5
最頻値 (モード)	4	最頻値 (モード)	5	最頻値 (モード)	5	最頻値 (モード)	5
標準偏差	1.03087235	標準偏差	1.0580884	標準偏差	1.14378086	標準偏差	0.5075744
分散	1.06269781	分散	1.119551	分散	1.30823466	分散	0.2576317
尖度	-0.6035296	尖度	2.1787448	尖度	0.78751846	尖度	16.13489
歪度	-0.3655931	歪度	-1.715925	歪度	-1.271361	歪度	-3.685774
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	4
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5
合計	1912	合計	2282	合計	2161	合計	2539
標本数	526	標本数	526	標本数	526	標本数	526

問17		問18		問19		問20	
平均	4.3041825	平均	4.6330798	平均	4.6653992	平均	4.6368821
標準誤差	0.0436158	標準誤差	0.0265176	標準誤差	0.0289292	標準誤差	0.0209881
中央値 (メジアン)	5	中央値 (メジアン)	5	中央値 (メジアン)	5	中央値 (メジアン)	5
最頻値 (モード)	5	最頻値 (モード)	5	最頻値 (モード)	5	最頻値 (モード)	5
標準偏差	1.000315	標準偏差	0.6081736	標準偏差	0.6634833	標準偏差	0.4813562
分散	1.0006301	分散	0.3698751	分散	0.44021	分散	0.2317038
尖度	1.4165965	尖度	2.1056113	尖度	6.1622297	尖度	-1.68047
歪度	-1.429219	歪度	-1.591736	歪度	-2.332539	歪度	-0.570906
範囲	4	範囲	3	範囲	4	範囲	1
最小	1	最小	2	最小	1	最小	4
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5
合計	2264	合計	2437	合計	2454	合計	2439
標本数	526	標本数	526	標本数	526	標本数	526

消極グループ

問1		問2		問3		問4	
平均	2.56	平均	2.9333333	平均	2.96	平均	3.76
標準誤差	0.1204197	標準誤差	0.1462237	標準誤差	0.1348205	標準誤差	0.1379907
中央値 (メジアン)	3	中央値 (メジアン)	3	中央値 (メジアン)	3	中央値 (メジアン)	4
最頻値 (モード)	3	最頻値 (モード)	2	最頻値 (モード)	3	最頻値 (モード)	5
標準偏差	1.0428651	標準偏差	1.2663347	標準偏差	1.1675801	標準偏差	1.1950348
分散	1.0875676	分散	1.6036036	分散	1.3632432	分散	1.4281081
尖度	-0.334837	尖度	-1.069192	尖度	-0.8112	尖度	-0.208275
歪度	0.2402008	歪度	0.1282304	歪度	0.0794665	歪度	-0.73927
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	4
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5
合計	192	合計	220	合計	222	合計	282
標本数	75	標本数	75	標本数	75	標本数	75

問5		問6		問7		問8	
平均	1.8933333	平均	3.4133333	平均	1.96	平均	3.1333333
標準誤差	0.1148024	標準誤差	0.1383211	標準誤差	0.1176956	標準誤差	0.1474508
中央値 (メジアン)	2	中央値 (メジアン)	3	中央値 (メジアン)	2	中央値 (メジアン)	3
最頻値 (モード)	1	最頻値 (モード)	3	最頻値 (モード)	1	最頻値 (モード)	3
標準偏差	0.9942175	標準偏差	1.1978961	標準偏差	1.0192737	標準偏差	1.2769615
分散	0.9884685	分散	1.434955	分散	1.0389189	分散	1.6306306
尖度	-0.46281	尖度	-0.649041	尖度	-0.342987	尖度	-1.02671
歪度	0.812297	歪度	-0.37128	歪度	0.7110121	歪度	-0.096311
範囲	3	範囲	4	範囲	4	範囲	4
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1
最大	4	最大	5	最大	5	最大	5
合計	142	合計	256	合計	147	合計	235
標本数	75	標本数	75	標本数	75	標本数	75

問9		問10		問11		問12	
平均	2.32	平均	3.6266667	平均	2.4133333	平均	2.1066667
標準誤差	0.1172662	標準誤差	0.1417692	標準誤差	0.1288806	標準誤差	0.1323023
中央値 (メジアン)	2	中央値 (メジアン)	4	中央値 (メジアン)	2	中央値 (メジアン)	2
最頻値 (モード)	2	最頻値 (モード)	4	最頻値 (モード)	3	最頻値 (モード)	1
標準偏差	1.0155547	標準偏差	1.2277571	標準偏差	1.1161388	標準偏差	1.1457717
分散	1.0313514	分散	1.5073874	分散	1.2457658	分散	1.3127928
尖度	0.2908721	尖度	-0.402773	尖度	-0.571291	尖度	-0.856444
歪度	0.6664238	歪度	-0.72892	歪度	0.3733661	歪度	0.6167827
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	4
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5
合計	174	合計	272	合計	181	合計	158
標本数	75	標本数	75	標本数	75	標本数	75

問13		問14		問15		問16	
平均	2.5066667	平均	3.44	平均	3.28	平均	4.1733333
標準誤差	0.13338738	標準誤差	0.175263	標準誤差	0.15134234	標準誤差	0.1360622
中央値 (メジアン)	2	中央値 (メジアン)	4	中央値 (メジアン)	4	中央値 (メジアン)	5
最頻値 (モード)	2	最頻値 (モード)	5	最頻値 (モード)	4	最頻値 (モード)	5
標準偏差	1.15516857	標準偏差	1.5178221	標準偏差	1.31066313	標準偏差	1.1783329
分散	1.33441441	分散	2.3037838	分散	1.71783784	分散	1.3884685
尖度	-0.6612209	尖度	-1.167236	尖度	-1.007489	尖度	0.5049789
歪度	0.41566429	歪度	-0.525782	歪度	-0.4281176	歪度	-1.262876
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	4
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5
合計	188	合計	258	合計	246	合計	313
標本数	75	標本数	75	標本数	75	標本数	75

問17		問18		問19		問20	
平均	3.0266667	平均	3.12	平均	2.7333333	平均	1.6266667
標準誤差	0.1643698	標準誤差	0.145763	標準誤差	0.1592022	標準誤差	0.0562278
中央値 (メジアン)	3	中央値 (メジアン)	3	中央値 (メジアン)	3	中央値 (メジアン)	2
最頻値 (モード)	3	最頻値 (モード)	3	最頻値 (モード)	1	最頻値 (モード)	2
標準偏差	1.4234839	標準偏差	1.2623445	標準偏差	1.3787316	標準偏差	0.4869467
分散	2.0263063	分散	1.5935135	分散	1.9009009	分散	0.2371171
尖度	-1.258613	尖度	-0.861621	尖度	-1.119518	尖度	-1.762033
歪度	-0.077	歪度	-0.107538	歪度	0.2434476	歪度	-0.534502
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	1
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1
最大	5	最大	5	最大	5	最大	2
合計	227	合計	234	合計	205	合計	122
標本数	75	標本数	75	標本数	75	標本数	75

## 中立グループ

問1		問2		問3		問4	
平均	3.1656051	平均	3.477707	平均	3.4649682	平均	3.3630573
標準誤差	0.0842133	標準誤差	0.0932938	標準誤差	0.0950037	標準誤差	0.1058292
中央値 (メジアン)	3	中央値 (メジアン)	4	中央値 (メジアン)	3	中央値 (メジアン)	3
最頻値 (モード)	3	最頻値 (モード)	4	最頻値 (モード)	3	最頻値 (モード)	3
標準偏差	1.0551895	標準偏差	1.1689684	標準偏差	1.1903924	標準偏差	1.3260355
分散	1.1134248	分散	1.366487	分散	1.4170341	分散	1.7583701
尖度	-0.146574	尖度	-0.489005	尖度	-0.764357	尖度	-1.046026
歪度	-0.071884	歪度	-0.543119	歪度	-0.320009	歪度	-0.243046
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	4
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5
合計	497	合計	546	合計	544	合計	528
標本数	157	標本数	157	標本数	157	標本数	157

問5		問6		問7		問8	
平均	2.3312102	平均	3.9745223	平均	2.5477707	平均	3.1656051
標準誤差	0.0957996	標準誤差	0.0802927	標準誤差	0.1008076	標準誤差	0.1021759
中央値 (メジアン)	2	中央値 (メジアン)	4	中央値 (メジアン)	3	中央値 (メジアン)	3
最頻値 (モード)	1	最頻値 (モード)	4	最頻値 (モード)	3	最頻値 (モード)	3
標準偏差	1.2003661	標準偏差	1.0060652	標準偏差	1.2631151	標準偏差	1.2802601
分散	1.4408787	分散	1.0121672	分散	1.5954597	分散	1.6390658
尖度	-0.525235	尖度	0.2156128	尖度	-0.901959	尖度	-0.902626
歪度	0.5741857	歪度	-0.866715	歪度	0.3260217	歪度	-0.12917
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	4
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5
合計	366	合計	624	合計	400	合計	497
標本数	157	標本数	157	標本数	157	標本数	157

問9		問10		問11		問12	
平均	2.7643312	平均	3.9363057	平均	2.9299363	平均	2.8726115
標準誤差	0.0818994	標準誤差	0.0806644	標準誤差	0.0965325	標準誤差	0.0920337
中央値 (メジアン)	3	中央値 (メジアン)	4	中央値 (メジアン)	3	中央値 (メジアン)	3
最頻値 (モード)	3	最頻値 (モード)	4	最頻値 (モード)	3	最頻値 (モード)	3
標準偏差	1.0261962	標準偏差	1.0107216	標準偏差	1.2095488	標準偏差	1.1531791
分散	1.0530786	分散	1.0215581	分散	1.4630083	分散	1.329822
尖度	-0.174592	尖度	0.6089429	尖度	-0.818913	尖度	-0.671104
歪度	0.0913393	歪度	-0.927607	歪度	0.0698096	歪度	0.0999469
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	4
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5
合計	434	合計	618	合計	460	合計	451
標本数	157	標本数	157	標本数	157	標本数	157

問13		問14		問15		問16	
平均	2.9044586	平均	3.8598726	平均	3.63694268	平均	4.6305732
標準誤差	0.08704385	標準誤差	0.0979367	標準誤差	0.1050547	標準誤差	0.0529133
中央値 (メジアン)	3	中央値 (メジアン)	4	中央値 (メジアン)	4	中央値 (メジアン)	5
最頻値 (モード)	3	最頻値 (モード)	5	最頻値 (モード)	5	最頻値 (モード)	5
標準偏差	1.09065635	標準偏差	1.2271428	標準偏差	1.31633167	標準偏差	0.6630023
分散	1.18953128	分散	1.5058795	分散	1.73272905	分散	0.4395721
尖度	-0.5727677	尖度	-0.481154	尖度	-0.7365079	尖度	2.9273649
歪度	0.04166368	歪度	-0.782886	歪度	-0.6350426	歪度	-1.828805
範囲	4	範囲	4	範囲	4	範囲	3
最小	1	最小	1	最小	1	最小	2
最大	5	最大	5	最大	5	最大	5
合計	456	合計	606	合計	571	合計	727
標本数	157	標本数	157	標本数	157	標本数	157

	問17	問18	問19	
平均	3.8280255	平均	4.0191083	平均
標準誤差	0.0793872	標準誤差	0.0714239	標準誤差
中央値 (メジアン)	4	中央値 (メジアン)	4	中央値 (メジアン)
最頻値 (モード)	4	最頻値 (モード)	5	最頻値 (モード)
標準偏差	0.994719	標準偏差	0.8949383	標準偏差
分散	0.9894659	分散	0.8009146	分散
尖度	-0.245521	尖度	-0.475675	尖度
歪度	-0.518289	歪度	-0.472531	歪度
範囲	4	範囲	4	範囲
最小	1	最小	1	最小
最大	5	最大	5	最大
合計	601	合計	631	合計
標本数	157	標本数	157	標本数



・・・・・・・・・・本調査 グループ間質問項目の t 検定表・・・・・・・・・・

有意差 \*\*\*0.01(1%水準) \*\*0.05(5%水準) \*0.1(10%水準)  
E-nは、小数点以下の桁数を表す。(例)1.234E-03は、0.001234を意味する。

本調査:積極的グループと消極的グループの検定

t-検定:等分散を仮定した2標本による検定 t-検定:等分散を仮定した2標本による検定 t-検定:等分散を仮定した2標本による検定  
[質問1] [質問2] [質問3]

	積極的	消極的		積極的	消極的		積極的	消極的
平均	3.768061	2.56	平均	4.224335	2.933333	平均	4.001901	2.96
分散	1.191816	1.0875676	分散	1.050531	1.603604	分散	1.487615	1.363243
観測数	526	75	観測数	526	75	観測数	526	75
プールされた分散	1.178937		プールされた分散	1.118857		プールされた分散	1.472251	
仮説平均との差異	0		仮説平均との差異	0		仮説平均との差異	0	
自由度	599		自由度	599		自由度	599	
t	9.014253		t	9.888392		t	6.956999	
P(T<=t) 片側	1.3245E-18		P(T<=t) 片側	9.25E-22		P(T<=t) 片側	4.57E-12	
t 境界値 片側	1.64740186		t 境界値 片側	1.647402		t 境界値 片側	1.647402	
P(T<=t) 両側	2.6491E-18 ***		P(T<=t) 両側	1.85E-21 ***		P(T<=t) 両側	9.14E-12 ***	
t 境界値 両側	1.96393103		t 境界値 両側	1.963931		t 境界値 両側	1.963931	

t-検定:等分散を仮定した2標本による検定 t-検定:等分散を仮定した2標本による検定 t-検定:等分散を仮定した2標本による検定  
[質問4] [質問5] [質問6]

	積極的	消極的		積極的	消極的		積極的	消極的
平均	3.43346	3.76	平均	3.241445	1.893333	平均	4.408745	3.413333
分散	1.842231	1.428108	分散	1.833022	0.988468	分散	0.878323	1.434955
観測数	526	75	観測数	526	75	観測数	526	75
プールされた分散	1.79107		プールされた分散	1.728686		プールされた分散	0.947089	
仮説平均との差異	0		仮説平均との差異	0		仮説平均との差異	0	
自由度	599		自由度	599		自由度	599	
t	-1.97682		t	8.307187		t	8.28693	
P(T<=t) 片側	0.02426		P(T<=t) 片側	3.28E-16		P(T<=t) 片側	3.82E-16	
t 境界値 片側	1.647402		t 境界値 片側	1.647402		t 境界値 片側	1.647402	
P(T<=t) 両側	0.048521 **		P(T<=t) 両側	6.56E-16 ***		P(T<=t) 両側	7.64E-16 ***	
t 境界値 両側	1.963931		t 境界値 両側	1.963931		t 境界値 両側	1.963931	

t-検定:等分散を仮定した2標本による検定 t-検定:等分散を仮定した2標本による検定 t-検定:等分散を仮定した2標本による検定  
[質問7] [質問8] [質問9]

	積極的	消極的		積極的	消極的		積極的	消極的
平均	3.077947	1.96	平均	3.690114	3.133333	平均	3.425856	2.32
分散	1.820579	1.038919	分散	1.631407	1.630631	分散	1.563064	1.031351
観測数	526	75	観測数	526	75	観測数	526	75
プールされた分散	1.724014		プールされた分散	1.631311		プールされた分散	1.497376	
仮説平均との差異	0		仮説平均との差異	0		仮説平均との差異	0	
自由度	599		自由度	599		自由度	599	
t	6.89822		t	3.531849		t	7.321822	
P(T<=t) 片側	6.71E-12		P(T<=t) 片側	0.000222		P(T<=t) 片側	3.96E-13	
t 境界値 片側	1.647402		t 境界値 片側	1.647402		t 境界値 片側	1.647402	
P(T<=t) 両側	1.34E-11 ***		P(T<=t) 両側	0.000444 ***		P(T<=t) 両側	7.92E-13 ***	
t 境界値 両側	1.963931		t 境界値 両側	1.963931		t 境界値 両側	1.963931	

t-検定:等分散を仮定した2標本による検定 t-検定:等分散を仮定した2標本による検定 t-検定:等分散を仮定した2標本による検定  
[質問10] [質問11] [質問12]

	積極的	消極的		積極的	消極的		積極的	消極的
平均	4.279468	3.626667	平均	3.695817	2.413333	平均	3.617871	2.106667
分散	0.803654	1.507387	分散	1.453963	1.245766	分散	1.459413	1.312793
観測数	526	75	観測数	526	75	観測数	526	75
プールされた分散	0.890593		プールされた分散	1.428243		プールされた分散	1.4413	
仮説平均との差異	0		仮説平均との差異	0		仮説平均との差異	0	
自由度	599		自由度	599		自由度	599	
t	5.60438		t	8.694353		t	10.1984	
P(T<=t) 片側	1.6E-08		P(T<=t) 片側	1.67E-17		P(T<=t) 片側	6.28E-23	
t 境界値 片側	1.647402		t 境界値 片側	1.647402		t 境界値 片側	1.647402	
P(T<=t) 両側	3.19E-08 ***		P(T<=t) 両側	3.34E-17 ***		P(T<=t) 両側	1.26E-22 ***	
t 境界値 両側	1.963931		t 境界値 両側	1.963931		t 境界値 両側	1.963931	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 【質問13】 【質問14】 【質問15】

	積極的	消極的
平均	3.634981	2.506667
分散	1.062698	1.334414
観測数	526	75
プールされた分散	1.096265	
仮説平均との差異	0	
自由度	599	
t	8.73089	
P(T<=t) 片側	1.26E-17	
t 境界値 片側	1.647402	
P(T<=t) 両側	2.51E-17 ***	
t 境界値 両側	1.963931	

	積極的	消極的
平均	4.338403	3.44
分散	1.119551	2.303784
観測数	526	75
プールされた分散	1.26585	
仮説平均との差異	0	
自由度	599	
t	6.469435	
P(T<=t) 片側	1.02E-10	
t 境界値 片側	1.647402	
P(T<=t) 両側	2.05E-10 ***	
t 境界値 両側	1.963931	

	積極的	消極的
平均	4.108365	3.28
分散	1.308235	1.717838
観測数	526	75
プールされた分散	1.358837	
仮説平均との差異	0	
自由度	599	
t	5.757373	
P(T<=t) 片側	6.83E-09	
t 境界値 片側	1.647402	
P(T<=t) 両側	1.37E-08 ***	
t 境界値 両側	1.963931	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 【質問16】 【質問17】 【質問18】

	積極的	消極的
平均	4.826996	4.173333
分散	0.257632	1.388468
観測数	526	75
プールされた分散	0.397334	
仮説平均との差異	0	
自由度	599	
t	8.4016	
P(T<=t) 片側	1.6E-16	
t 境界値 片側	1.647402	
P(T<=t) 両側	3.2E-16 ***	
t 境界値 両側	1.963931	

	積極的	消極的
平均	4.304183	3.026667
分散	1.00063	2.026306
観測数	526	75
プールされた分散	1.127341	
仮説平均との差異	0	
自由度	599	
t	9.748209	
P(T<=t) 片側	3.06E-21	
t 境界値 片側	1.647402	
P(T<=t) 両側	6.13E-21 ***	
t 境界値 両側	1.963931	

	積極的	消極的
平均	4.63308	3.12
分散	0.369875	1.593514
観測数	526	75
プールされた分散	0.521042	
仮説平均との差異	0	
自由度	599	
t	16.98289	
P(T<=t) 片側	2.14E-53	
t 境界値 片側	1.647402	
P(T<=t) 両側	4.27E-53 ***	
t 境界値 両側	1.963931	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 【質問19】

	積極的	消極的
平均	4.665399	2.733333
分散	0.44021	1.900901
観測数	526	75
プールされた分散	0.620663	
仮説平均との差異	0	
自由度	599	
t	19.8692	
P(T<=t) 片側	3.64E-68	
t 境界値 片側	1.647402	
P(T<=t) 両側	7.29E-68 ***	
t 境界値 両側	1.963931	

本調査：積極的グループと中立グループとの検定

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 【質問1】 【質問2】 【質問3】

	積極的	中立
平均	3.76806084	3.1656051
分散	1.19181604	1.1134248
観測数	526	157
プールされた分散	1.17385857	
仮説平均との差異	0	
自由度	681	
t	6.11434029	
P(T<=t) 片側	8.1662E-10	
t 境界値 片側	1.6470949	
P(T<=t) 両側	1.6332E-09 ***	
t 境界値 両側	1.96345354	

	積極的	中立
平均	4.224335	3.477707
分散	1.050531	1.366487
観測数	526	157
プールされた分散	1.122908	
仮説平均との差異	0	
自由度	681	
t	7.747548	
P(T<=t) 片側	1.7E-14	
t 境界値 片側	1.647095	
P(T<=t) 両側	3.41E-14 ***	
t 境界値 両側	1.963454	

	積極的	中立
平均	4.001901	3.464968
分散	1.487615	1.417034
観測数	526	157
プールされた分散	1.471447	
仮説平均との差異	0	
自由度	681	
t	4.86721	
P(T<=t) 片側	7.04E-07	
t 境界値 片側	1.647095	
P(T<=t) 両側	1.41E-06 ***	
t 境界値 両側	1.963454	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 [質問4] [質問5] [質問6]

	積極的	中立
平均	3.43346	3.363057
分散	1.842231	1.75837
観測数	526	157
プールされた分散	1.82302	
仮説平均との差異	0	
自由度	681	
t	0.573358	
P(T<=t) 片側	0.283296	
t 境界値 片側	1.647095	
P(T<=t) 両側	0.566591	
t 境界値 両側	1.963454	

	積極的	中立
平均	3.241445	2.33121
分散	1.833022	1.440879
観測数	526	157
プールされた分散	1.743192	
仮説平均との差異	0	
自由度	681	
t	7.580767	
P(T<=t) 片側	5.64E-14	
t 境界値 片側	1.647095	
P(T<=t) 両側	1.13E-13 ***	
t 境界値 両側	1.963454	

	積極的	中立
平均	4.408745	3.974522
分散	0.878323	1.012167
観測数	526	157
プールされた分散	0.908984	
仮説平均との差異	0	
自由度	681	
t	5.008032	
P(T<=t) 片側	3.51E-07	
t 境界値 片側	1.647095	
P(T<=t) 両側	7.01E-07 ***	
t 境界値 両側	1.963454	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 [質問7] [質問8] [質問9]

	積極的	中立
平均	3.077947	2.547771
分散	1.820579	1.59546
観測数	526	157
プールされた分散	1.76901	
仮説平均との差異	0	
自由度	681	
t	4.38316	
P(T<=t) 片側	6.77E-06	
t 境界値 片側	1.647095	
P(T<=t) 両側	1.35E-05 ***	
t 境界値 両側	1.963454	

	積極的	中立
平均	3.690114	3.165605
分散	1.631407	1.639066
観測数	526	157
プールされた分散	1.633161	
仮説平均との差異	0	
自由度	681	
t	4.513056	
P(T<=t) 片側	3.76E-06	
t 境界値 片側	1.647095	
P(T<=t) 両側	7.53E-06 ***	
t 境界値 両側	1.963454	

	積極的	中立
平均	3.425856	2.764331
分散	1.563064	1.053079
観測数	526	157
プールされた分散	1.446239	
仮説平均との差異	0	
自由度	681	
t	6.048646	
P(T<=t) 片側	1.2E-09	
t 境界値 片側	1.647095	
P(T<=t) 両側	2.41E-09 ***	
t 境界値 両側	1.963454	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 [質問10] [質問11] [質問12]

	積極的	中立
平均	4.279468	3.936306
分散	0.803654	1.021558
観測数	526	157
プールされた分散	0.85357	
仮説平均との差異	0	
自由度	681	
t	4.084246	
P(T<=t) 片側	2.47E-05	
t 境界値 片側	1.647095	
P(T<=t) 両側	4.95E-05 ***	
t 境界値 両側	1.963454	

	積極的	中立
平均	4.279468	3.936306
分散	0.803654	1.021558
観測数	526	157
プールされた分散	0.85357	
仮説平均との差異	0	
自由度	681	
t	4.084246	
P(T<=t) 片側	2.47E-05	
t 境界値 片側	1.647095	
P(T<=t) 両側	4.95E-05 ***	
t 境界値 両側	1.963454	

	積極的	中立
平均	3.617871	2.872611
分散	1.459413	1.329822
観測数	526	157
プールされた分散	1.429727	
仮説平均との差異	0	
自由度	681	
t	6.853511	
P(T<=t) 片側	8.08E-12	
t 境界値 片側	1.647095	
P(T<=t) 両側	1.62E-11 ***	
t 境界値 両側	1.963454	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 [質問13] [質問14] [質問15]

	積極的	中立
平均	3.634981	2.904459
分散	1.062698	1.189531
観測数	526	157
プールされた分散	1.091752	
仮説平均との差異	0	
自由度	681	
t	7.687831	
P(T<=t) 片側	2.62E-14	
t 境界値 片側	1.647095	
P(T<=t) 両側	5.24E-14 ***	
t 境界値 両側	1.963454	

	変数 1	変数 2
平均	4.338403	3.859873
分散	1.119551	1.505879
観測数	526	157
プールされた分散	1.208049	
仮説平均との差異	0	
自由度	681	
t	4.787399	
P(T<=t) 片側	1.04E-06	
t 境界値 片側	1.647095	
P(T<=t) 両側	2.07E-06 ***	
t 境界値 両側	1.963454	

	積極的	中立
平均	4.108365	3.636943
分散	1.308235	1.732729
観測数	526	157
プールされた分散	1.405476	
仮説平均との差異	0	
自由度	681	
t	4.37251	
P(T<=t) 片側	7.1E-06	
t 境界値 片側	1.647095	
P(T<=t) 両側	1.42E-05 ***	
t 境界値 両側	1.963454	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 【質問16】 【質問17】 【質問18】

	積極的	中立
平均	4.826996	4.630573
分散	0.257632	0.439572
観測数	526	157
プールされた分散	0.29931	
仮説平均との差異	0	
自由度	681	
t	3.947882	
P(T<=t) 片側	4.35E-05	
t 境界値 片側	1.647095	
P(T<=t) 両側	8.7E-05 ***	
t 境界値 両側	1.963454	

	積極的	中立
平均	4.304183	3.828025
分散	1.00063	0.989466
観測数	526	157
プールされた分散	0.998073	
仮説平均との差異	0	
自由度	681	
t	5.240847	
P(T<=t) 片側	1.07E-07	
t 境界値 片側	1.647095	
P(T<=t) 両側	2.13E-07 ***	
t 境界値 両側	1.963454	

	積極的	中立
平均	4.63308	4.019108
分散	0.369875	0.800915
観測数	526	157
プールされた分散	0.468615	
仮説平均との差異	0	
自由度	681	
t	9.862166	
P(T<=t) 片側	7.76E-22	
t 境界値 片側	1.647095	
P(T<=t) 両側	1.55E-21 ***	
t 境界値 両側	1.963454	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 【質問19】

	積極的	中立
平均	4.665399	3.88535
分散	0.44021	0.94831
観測数	526	157
プールされた分散	0.556603	
仮説平均との差異	0	
自由度	681	
t	11.49692	
P(T<=t) 片側	2.21E-28	
t 境界値 片側	1.647095	
P(T<=t) 両側	4.41E-28 ***	
t 境界値 両側	1.963454	

本調査：消極的グループと中立グループとの検定

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 【質問1】

	消極的	中立
平均	2.56	3.1656051
分散	1.08756757	1.1134248
観測数	75	157
プールされた分散	1.10510551	
仮説平均との差異	0	
自由度	230	
t	-4.1041584	
P(T<=t) 片側	2.8186E-05	
t 境界値 片側	1.65150595	
P(T<=t) 両側	5.6372E-05 ***	
t 境界値 両側	1.97032932	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 【質問2】

	消極的	中立
平均	2.933333	3.477707
分散	1.603604	1.366487
観測数	75	157
プールされた分散	1.442777	
仮説平均との差異	0	
自由度	230	
t	-3.22875	
P(T<=t) 片側	0.000712	
t 境界値 片側	1.651506	
P(T<=t) 両側	0.001425 ***	
t 境界値 両側	1.970329	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 【質問3】

	消極的	中立
平均	2.96	3.464968
分散	1.363243	1.417034
観測数	75	157
プールされた分散	1.399727	
仮説平均との差異	0	
自由度	230	
t	-3.04074	
P(T<=t) 片側	0.001317	
t 境界値 片側	1.651506	
P(T<=t) 両側	0.002634 ***	
t 境界値 両側	1.970329	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 【質問4】

	消極的	中立
平均	3.76	3.363057
分散	1.428108	1.75837
観測数	75	157
プールされた分散	1.652112	
仮説平均との差異	0	
自由度	230	
t	2.200111	
P(T<=t) 片側	0.014397	
t 境界値 片側	1.651506	
P(T<=t) 両側	0.028794 **	
t 境界値 両側	1.970329	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 【質問5】

	消極的	中立
平均	1.893333	2.33121
分散	0.988468	1.440879
観測数	75	157
プールされた分散	1.295321	
仮説平均との差異	0	
自由度	230	
t	-2.74094	
P(T<=t) 片側	0.003304	
t 境界値 片側	1.651506	
P(T<=t) 両側	0.006608 ***	
t 境界値 両側	1.970329	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 【質問6】

	消極的	中立
平均	3.413333	3.974522
分散	1.434955	1.012167
観測数	75	157
プールされた分散	1.148195	
仮説平均との差異	0	
自由度	230	
t	-3.73111	
P(T<=t) 片側	0.00012	
t 境界値 片側	1.651506	
P(T<=t) 両側	0.00024 ***	
t 境界値 両側	1.970329	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 【質問7】 【質問8】 【質問9】

	消極的	中立
平均	1.96	2.547771
分散	1.038919	1.59546
観測数	75	157
プールされた分散	1.416399	
仮説平均との差異	0	
自由度	230	
t	-3.51845	
P(T<=t) 片側	0.000262	
t 境界値 片側	1.651506	
P(T<=t) 両側	0.000523 ***	
t 境界値 両側	1.970329	

	消極的	中立
平均	3.133333	3.165605
分散	1.630631	1.639066
観測数	75	157
プールされた分散	1.636352	
仮説平均との差異	0	
自由度	230	
t	-0.17973	
P(T<=t) 片側	0.428761	
t 境界値 片側	1.651506	
P(T<=t) 両側	0.857523	
t 境界値 両側	1.970329	

	消極的	中立
平均	2.32	2.764331
分散	1.031351	1.053079
観測数	75	157
プールされた分散	1.046088	
仮説平均との差異	0	
自由度	230	
t	-3.09499	
P(T<=t) 片側	0.001106	
t 境界値 片側	1.651506	
P(T<=t) 両側	0.002212 ***	
t 境界値 両側	1.970329	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 【質問10】 【質問11】 【質問12】

	消極的	中立
平均	3.626667	3.936306
分散	1.507387	1.021558
観測数	75	157
プールされた分散	1.177868	
仮説平均との差異	0	
自由度	230	
t	-2.03256	
P(T<=t) 片側	0.021623	
t 境界値 片側	1.651506	
P(T<=t) 両側	0.043246 **	
t 境界値 両側	1.970329	

	消極的	中立
平均	2.413333	2.929936
分散	1.245766	1.463008
観測数	75	157
プールされた分散	1.393113	
仮説平均との差異	0	
自由度	230	
t	-3.11817	
P(T<=t) 片側	0.001026	
t 境界値 片側	1.651506	
P(T<=t) 両側	0.002052 ***	
t 境界値 両側	1.970329	

	消極的	中立
平均	2.106667	2.872611
分散	1.312793	1.329822
観測数	75	157
プールされた分散	1.324343	
仮説平均との差異	0	
自由度	230	
t	-4.7417	
P(T<=t) 片側	1.86E-06	
t 境界値 片側	1.651506	
P(T<=t) 両側	3.72E-06 ***	
t 境界値 両側	1.970329	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 【質問13】 【質問14】 【質問15】

	消極的	中立
平均	2.506667	2.904459
分散	1.334414	1.189531
観測数	75	157
プールされた分散	1.236146	
仮説平均との差異	0	
自由度	230	
t	-2.54893	
P(T<=t) 片側	0.005728	
t 境界値 片側	1.651506	
P(T<=t) 両側	0.011457 **	
t 境界値 両側	1.970329	

	消極的	中立
平均	3.44	3.859873
分散	2.303784	1.505879
観測数	75	157
プールされた分散	1.762597	
仮説平均との差異	0	
自由度	230	
t	-2.25308	
P(T<=t) 片側	0.012598	
t 境界値 片側	1.651506	
P(T<=t) 両側	0.025197 **	
t 境界値 両側	1.970329	

	消極的	中立
平均	3.28	3.636943
分散	1.717838	1.732729
観測数	75	157
プールされた分散	1.727938	
仮説平均との差異	0	
自由度	230	
t	-1.93451	
P(T<=t) 片側	0.027139	
t 境界値 片側	1.651506	
P(T<=t) 両側	0.054277	
t 境界値 両側	1.970329	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 【質問16】 【質問17】 【質問18】

	消極的	中立
平均	4.173333	4.630573
分散	1.388468	0.439572
観測数	75	157
プールされた分散	0.744869	
仮説平均との差異	0	
自由度	230	
t	-3.77434	
P(T<=t) 片側	0.000102	
t 境界値 片側	1.651506	
P(T<=t) 両側	0.000204 ***	
t 境界値 両側	1.970329	

	消極的	中立
平均	3.026667	3.828025
分散	2.026306	0.989466
観測数	75	157
プールされた分散	1.323058	
仮説平均との差異	0	
自由度	230	
t	-4.96334	
P(T<=t) 片側	6.74E-07	
t 境界値 片側	1.651506	
P(T<=t) 両側	1.35E-06 ***	
t 境界値 両側	1.970329	

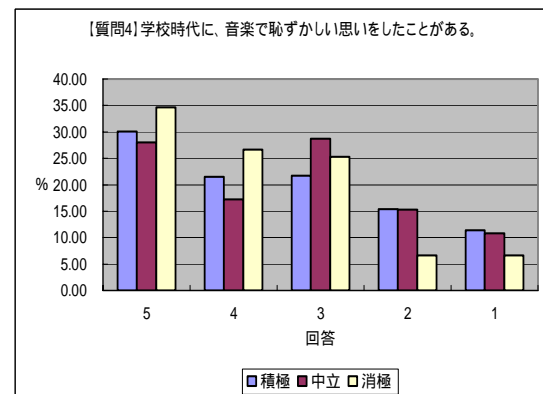
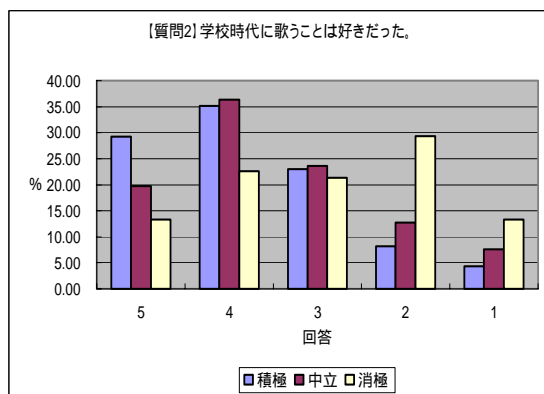
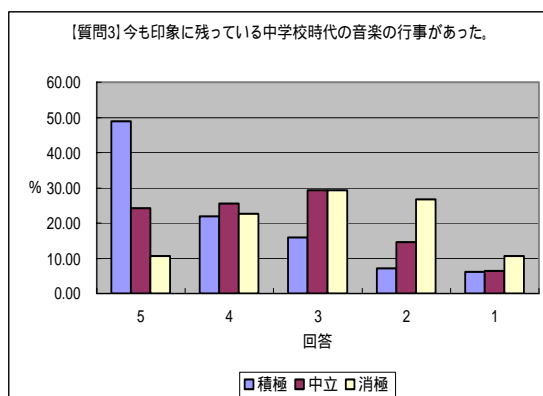
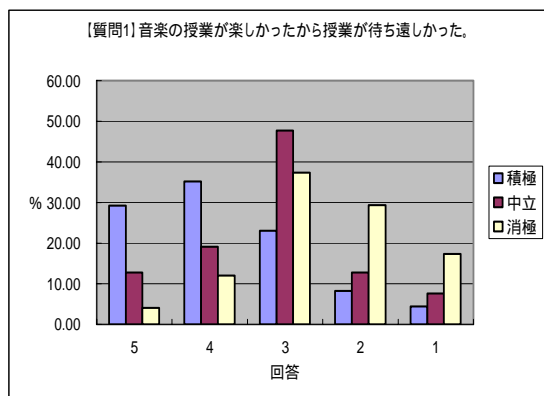
	消極的	中立
平均	3.12	4.019108
分散	1.593514	0.800915
観測数	75	157
プールされた分散	1.055925	
仮説平均との差異	0	
自由度	230	
t	-6.2335	
P(T<=t) 片側	1.08E-09	
t 境界値 片側	1.651506	
P(T<=t) 両側	2.16E-09 ***	
t 境界値 両側	1.970329	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
[質問19]

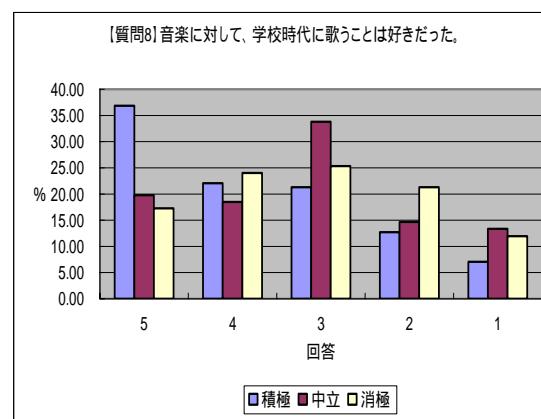
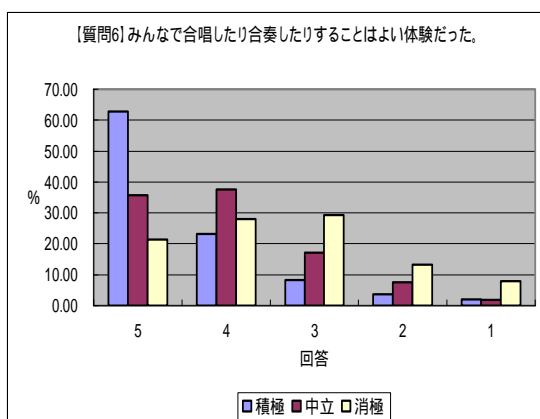
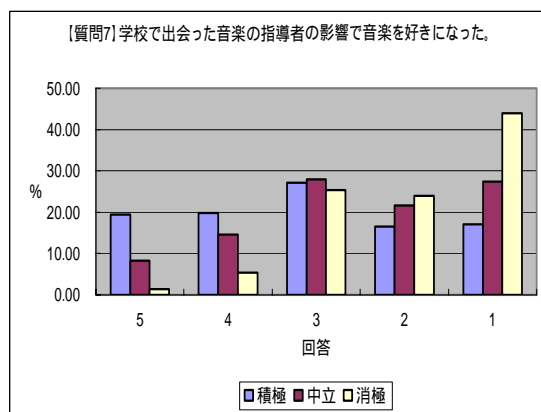
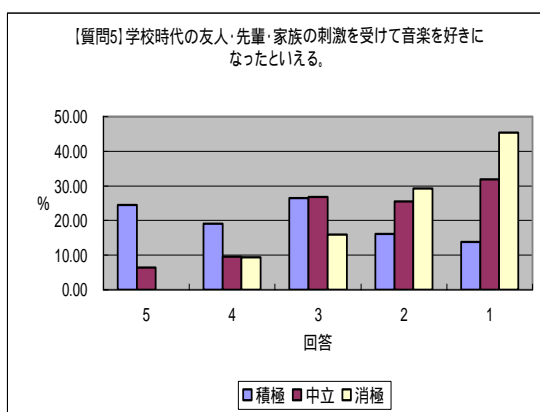
	消極的	中立
平均	2.733333	3.88535
分散	1.900901	0.94831
観測数	75	157
プールされた分散	1.254796	
仮説平均との差異	0	
自由度	230	
t	-7.32671	
P(T<=t) 片側	1.98E-12	
t 境界値 片側	1.651506	
P(T<=t) 両側	3.96E-12 ***	
t 境界値 両側	1.970329	

..... グループ間%比較表 .....

グループ間の%				
問	回答	積極	中立	消極
問1	5	29.28	12.74	4.00
	4	35.17	19.11	12.00
	3	23.00	47.77	37.33
	2	8.17	12.74	29.33
	1	4.37	7.64	17.33
問2	5	29.28	19.75	13.33
	4	35.17	36.31	22.67
	3	23.00	23.57	21.33
	2	8.17	12.74	29.33
	1	4.37	7.64	13.33
問3	5	48.86	24.20	10.67
	4	21.86	25.48	22.67
	3	15.97	29.30	29.33
	2	7.22	14.65	26.67
	1	6.08	6.37	10.67
問4	5	30.04	28.03	34.67
	4	21.48	17.20	26.67
	3	21.67	28.66	25.33
	2	15.40	15.29	6.67
	1	11.41	10.83	6.67

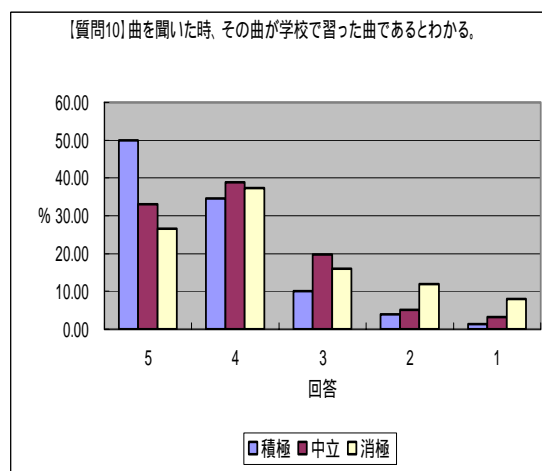
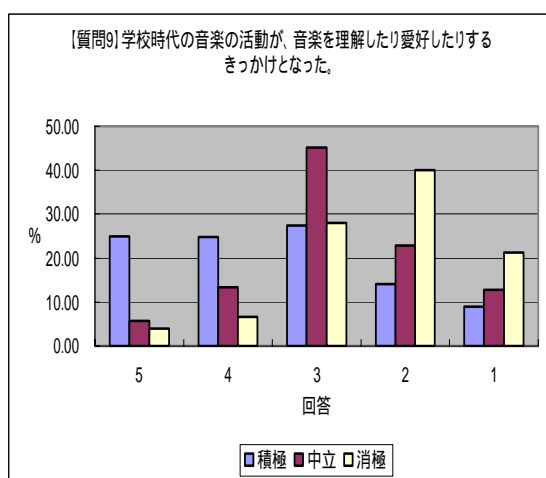


		積極	中立	消極
問5	5	24.52	6.37	0.00
	4	19.01	9.55	9.33
	3	26.43	26.75	16.00
	2	16.16	25.48	29.33
	1	13.88	31.85	45.33
問6	5	62.74	35.67	21.33
	4	23.19	37.58	28.00
	3	8.37	17.20	29.33
	2	3.61	7.64	13.33
	1	2.09	1.91	8.00
問7	5	19.39	8.28	1.33
	4	19.77	14.65	5.33
	3	27.19	28.03	25.33
	2	16.54	21.66	24.00
	1	17.11	27.39	44.00
問8	5	36.88	19.75	17.33
	4	22.05	18.47	24.00
	3	21.29	33.76	25.33
	2	12.74	14.65	21.33
	1	7.03	13.38	12.00

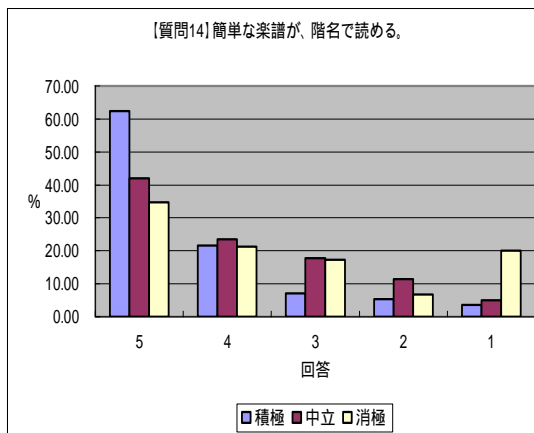
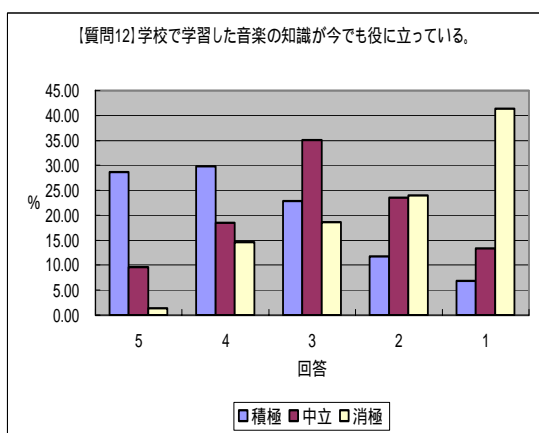
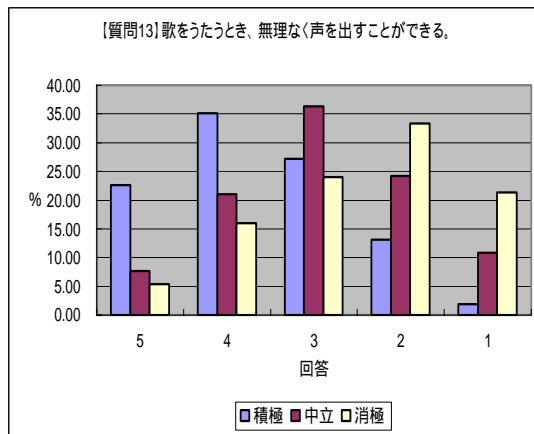
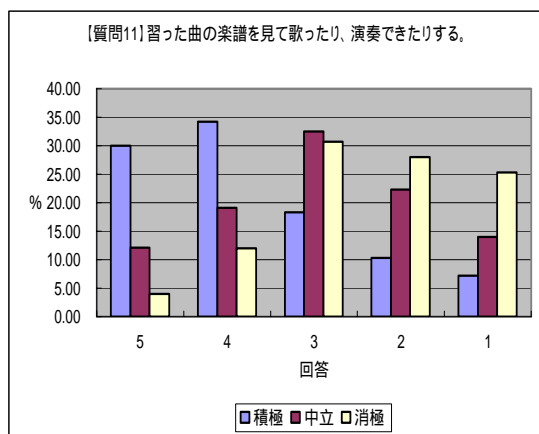




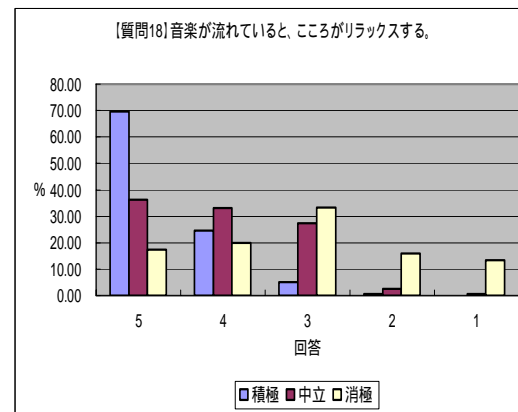
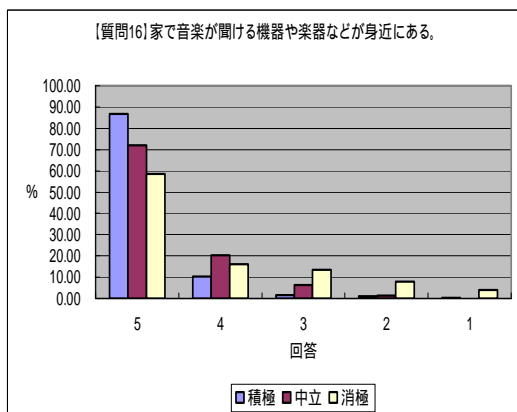
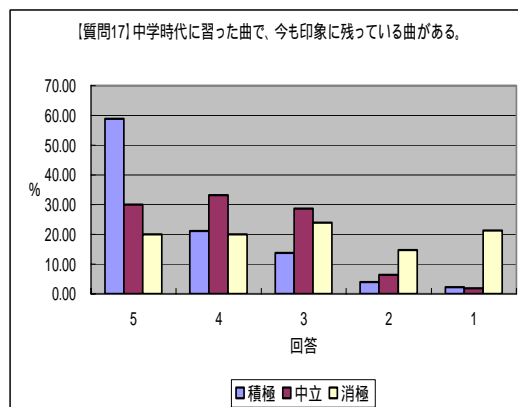
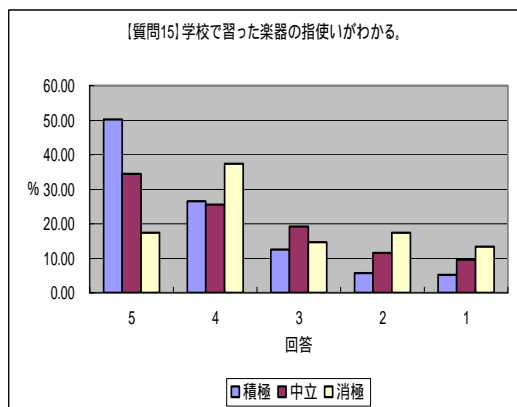
		積極	中立	消極
問9	5	24.90	5.73	4.00
	4	24.71	13.38	6.67
	3	27.38	45.22	28.00
	2	14.07	22.93	40.00
	1	8.94	12.74	21.33
		積極	中立	消極
問10	5	50.00	33.12	26.67
	4	34.60	38.85	37.33
	3	10.08	19.75	16.00
	2	3.99	5.10	12.00
	1	1.33	3.18	8.00



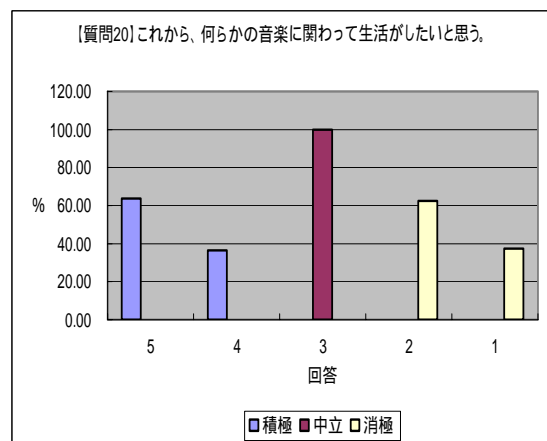
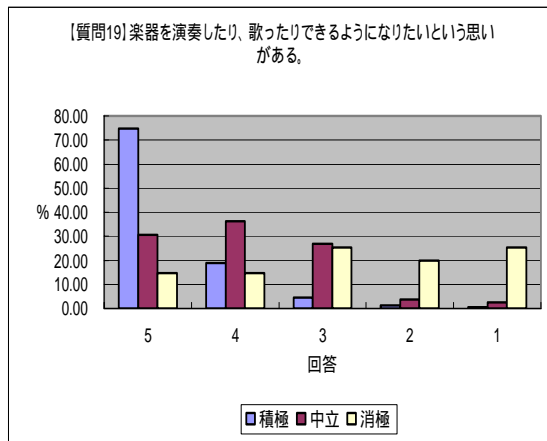
グループ間の%				
	回答	積極	中立	消極
問11	5	30.04	12.10	4.00
	4	34.22	19.11	12.00
	3	18.25	32.48	30.67
	2	10.27	22.29	28.00
	1	7.22	14.01	25.33
		積極	中立	消極
問12	5	28.71	9.55	1.33
	4	29.85	18.47	14.67
	3	22.81	35.03	18.67
	2	11.79	23.57	24.00
	1	6.84	13.38	41.33
		積極	中立	消極
問13	5	22.62	7.64	5.33
	4	35.17	21.02	16.00
	3	27.19	36.31	24.00
	2	13.12	24.20	33.33
	1	1.90	10.83	21.33
		積極	中立	消極
問14	5	62.36	42.04	34.67
	4	21.67	23.57	21.33
	3	7.03	17.83	17.33
	2	5.32	11.46	6.67
	1	3.61	5.10	20.00



		積極	中立	消極
問15	5	50.19	34.39	17.33
	4	26.43	25.48	37.33
	3	12.55	19.11	14.67
	2	5.70	11.46	17.33
	1	5.13	9.55	13.33
問16	5	86.88	71.97	58.67
	4	10.27	20.38	16.00
	3	1.71	6.37	13.33
	2	0.95	1.27	8.00
	1	0.19	0.00	4.00
問17	5	58.94	29.94	20.00
	4	21.10	33.12	20.00
	3	13.69	28.66	24.00
	2	3.99	6.37	14.67
	1	2.28	1.91	21.33
問18	5	69.58	36.31	17.33
	4	24.71	33.12	20.00
	3	5.13	27.39	33.33
	2	0.57	2.55	16.00
	1	0.00	0.64	13.33



		積極	中立	消極
問19	5	74.90	30.57	14.67
	4	18.82	36.31	14.67
	3	4.56	26.75	25.33
	2	1.33	3.82	20.00
	1	0.38	2.55	25.33
		積極	中立	消極
問20	5	63.69	0.00	0.00
	4	36.31	0.00	0.00
	3	0.00	100	0.00
	2	0.00	0.00	62.67
	1	0.00	0.00	37.33



..... グループ内男女 t 検定結果 .....

**積極的グループ男女間 t 検定結果**

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問1】

	女子	男子
平均	3.908840	3.457317
分散	1.069229	1.329455
観測数	362	164
プールされた分散	1.1501774	
仮説平均との差異	0	
自由度	524	
t	4.472810782	
P(T<=t) 片側	4.73635E-06	
t 境界値 片側	1.647766763	
P(T<=t) 両側	9.47271E-06 ***	
t 境界値 両側	1.964501432	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問2】

	女子	男子
平均	4.359116	3.926829
分散	0.8734485	1.319767
観測数	362	164
プールされた分散	1.0122841	
仮説平均との差異	0	
自由度	524	
t	4.564614	
P(T<=t) 片側	3.121E-06	
t 境界値 片側	1.6477679	
P(T<=t) 両側	6.241E-06 ***	
t 境界値 両側	1.9644995	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問3】

	女子	男子
平均	4.176796	3.615854
分散	1.220734	1.869931
観測数	362	164
プールされた分散	1.422679	
仮説平均との差異	0	
自由度	524	
t	4.996291	
P(T<=t) 片側	3.99E-07	
t 境界値 片側	1.647768	
P(T<=t) 両側	7.98E-07 ***	
t 境界値 両側	1.964499	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問4】

	女子	男子
平均	3.469613	3.353659
分散	1.789933	1.960048
観測数	362	164
プールされた分散	1.84285	
仮説平均との差異	0	
自由度	524	
t	0.907458	
P(T<=t) 片側	0.182291	
t 境界値 片側	1.647768	
P(T<=t) 両側	0.364582	
t 境界値 両側	1.964499	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問5】

	女子	男子
平均	3.331492	3.042683
分散	1.812247	1.832523
観測数	362	164
プールされた分散	1.818554	
仮説平均との差異	0	
自由度	524	
t	2.275258	
P(T<=t) 片側	0.011647	
t 境界値 片側	1.647768	
P(T<=t) 両側	0.023293 **	
t 境界値 両側	1.964499	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問6】

	女子	男子
平均	4.571823	4.04878
分散	0.59455	1.322759
観測数	362	164
プールされた分散	0.821073	
仮説平均との差異	0	
自由度	524	
t	6.132387	
P(T<=t) 片側	8.53E-10	
t 境界値 片側	1.647767	
P(T<=t) 両側	1.71E-09 ***	
t 境界値 両側	1.964501	

(この項目においては積極グループ内であっても、男女間の有意差はなかった。)

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問7】

	女子	男子
平均	3.143646	2.932927
分散	1.835264	1.76848
観測数	362	164
プールされた分散	1.81449	
仮説平均との差異	0	
自由度	524	
t	1.661923	
P(T<=t) 片側	0.048563	
t 境界値 片側	1.647767	
P(T<=t) 両側	0.097126 *	
t 境界値 両側	1.964501	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問8】

	女子	男子
平均	3.762431	3.530488
分散	1.566673	1.747531
観測数	362	164
プールされた分散	1.622932	
仮説平均との差異	0	
自由度	524	
t	1.934259	
P(T<=t) 片側	0.02681	
t 境界値 片側	1.647767	
P(T<=t) 両側	0.053619 *	
t 境界値 両側	1.964501	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問9】

	女子	男子
平均	3.486188	3.292683
分散	1.519199	1.643873
観測数	362	164
プールされた分散	1.557981	
仮説平均との差異	0	
自由度	524	
t	1.647002	
P(T<=t) 片側	0.050079	
t 境界値 片側	1.647767	
P(T<=t) 両側	0.100157	
t 境界値 両側	1.964501	

(男女間の有意差はなかった。)

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問10】

	女子	男子
平均	4.356354	4.109756
分散	0.656594	1.092174
観測数	362	164
プールされた分散	0.792089	
仮説平均との差異	0	
自由度	524	
t	2.943642	
P(T<=t) 片側	0.001694	
t 境界値 片側	1.647767	
P(T<=t) 両側	0.003388 ***	
t 境界値 両側	1.964501	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問11】

	女子	男子
平均	3.941989	3.152439
分散	1.090808	1.835515
観測数	362	164
プールされた分散	1.322463	
仮説平均との差異	0	
自由度	524	
t	7.29409	
P(T<=t) 片側	5.59E-13	
t 境界値 片側	1.647767	
P(T<=t) 両側	1.12E-12 ***	
t 境界値 両側	1.964501	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問12】

	女子	男子
平均	3.834254	3.140244
分散	1.191289	1.728677
観測数	362	164
プールされた分散	1.358454	
仮説平均との差異	0	
自由度	524	
t	6.325966	
P(T<=t) 片側	2.7E-10	
t 境界値 片側	1.647767	
P(T<=t) 両側	5.4E-10 ***	
t 境界値 両側	1.964501	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 【質問13】 【質問14】 【質問15】

	女子	男子		女子	男子		女子	男子
平均	3.649171	3.603659	平均	4.560773	3.847561	平均	4.209945	3.884146
分散	1.031703	1.136428	分散	0.645881	1.823246	分散	1.180178	1.526373
観測数	362	164	観測数	362	164	観測数	362	164
プールされた分散	1.06428		プールされた分散	1.012122		プールされた分散	1.287868	
仮説平均との差異	0		仮説平均との差異	0		仮説平均との差異	0	
自由度	524		自由度	524		自由度	524	
t	0.468693		t	7.531575		t	3.049977	
P(T<=t) 片側	0.319742		P(T<=t) 片側	1.11E-13		P(T<=t) 片側	0.001202	
t 境界値 片側	1.647767		t 境界値 片側	1.647767		t 境界値 片側	1.647767	
P(T<=t) 両側	0.639484		P(T<=t) 両側	2.21E-13 ***		P(T<=t) 両側	0.002404 ***	
t 境界値 両側	1.964501		t 境界値 両側	1.964501		t 境界値 両側	1.964501	

(この項目についての有意差は見られなかった。)

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 【質問16】 【質問17】 【質問18】

	女子	男子		女子	男子		女子	男子
平均	4.845304	4.786585	平均	4.411602	4.067073	平均	4.665746	4.560976
分散	0.247471	0.279328	分散	0.796873	1.375842	分散	0.328408	0.456382
観測数	362	164	観測数	362	164	観測数	362	164
プールされた分散	0.257381		プールされた分散	0.976972		プールされた分散	0.368217	
仮説平均との差異	0		仮説平均との差異	0		仮説平均との差異	0	
自由度	524		自由度	524		自由度	524	
t	1.229618		t	3.703122		t	1.834297	
P(T<=t) 片側	0.109696		P(T<=t) 片側	0.000118		P(T<=t) 片側	0.033588	
t 境界値 片側	1.647767		t 境界値 片側	1.647767		t 境界値 片側	1.647767	
P(T<=t) 両側	0.219392		P(T<=t) 両側	0.000236 ***		P(T<=t) 両側	0.067177 *	
t 境界値 両側	1.964501		t 境界値 両側	1.964501		t 境界値 両側	1.964501	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 【質問19】

	女子	男子
平均	4.748619	4.481707
分散	0.332754	0.631565
観測数	362	164
プールされた分散	0.425705	
仮説平均との差異	0	
自由度	524	
t	4.346065	
P(T<=t) 片側	8.33E-06	
t 境界値 片側	1.647767	
P(T<=t) 両側	1.67E-05 ***	
t 境界値 両側	1.964501	

中立グループ男女間 t検定結果

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 【質問1】 【質問2】 【質問3】

	女子	男子		女子	男子		女子	男子
平均	3.229166667	3.0655738	平均	3.5208333	3.409836	平均	3.53125	3.360656
分散	1.167982456	1.0289617	分散	1.5153509	1.145902	分散	1.451645	1.36776
観測数	96	61	観測数	96	61	観測数	96	61
プールされた分散	1.114167989		プールされた分散	1.3723383		プールされた分散	1.419173	
仮説平均との差異	0		仮説平均との差異	0		仮説平均との差異	0	
自由度	155		自由度	155		自由度	155	
t	0.946541829		t	0.5786719		t	0.874576	
P(T<=t) 片側	0.172672792		P(T<=t) 片側	0.2818252		P(T<=t) 片側	0.191579	
t 境界値 片側	1.654743774		t 境界値 片側	1.6547438		t 境界値 片側	1.654744	
P(T<=t) 両側	0.345345583		P(T<=t) 両側	0.5636505		P(T<=t) 両側	0.383158	
t 境界値 両側	1.975387096		t 境界値 両側	1.9753871		t 境界値 両側	1.975387	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問4】

	女子	男子
平均	3.3125	3.442623
分散	1.775	1.75082
観測数	96	61
プールされた分散	1.76564	
仮説平均との差異	0	
自由度	155	
t	-0.59807	
P(T<=t) 片側	0.275332	
t 境界値 片側	1.654744	
P(T<=t) 両側	0.550665	
t 境界値 両側	1.975387	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問5】

	女子	男子
平均	2.322917	2.344262
分散	1.484101	1.396175
観測数	96	61
プールされた分散	1.450065	
仮説平均との差異	0	
自由度	155	
t	-0.10826	
P(T<=t) 片側	0.456965	
t 境界値 片側	1.654744	
P(T<=t) 両側	0.91393	
t 境界値 両側	1.975387	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問6】

	女子	男子
平均	4.09375	3.786885
分散	0.864803	1.203825
観測数	96	61
プールされた分散	0.996037	
仮説平均との差異	0	
自由度	155	
t	1.877846	
P(T<=t) 片側	0.03114	
t 境界値 片側	1.654744	
P(T<=t) 両側	0.062281 *	
t 境界値 両側	1.975387	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問7】

	女子	男子
平均	2.583333	2.491803
分散	1.824561	1.254098
観測数	96	61
プールされた分散	1.603737	
仮説平均との差異	0	
自由度	155	
t	0.441416	
P(T<=t) 片側	0.329764	
t 境界値 片側	1.654744	
P(T<=t) 両側	0.659527	
t 境界値 両側	1.975387	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問8】

	女子	男子
平均	3.052083	3.344262
分散	1.734101	1.462842
観測数	96	61
プールされた分散	1.629097	
仮説平均との差異	0	
自由度	155	
t	-1.39806	
P(T<=t) 片側	0.082046	
t 境界値 片側	1.654744	
P(T<=t) 両側	0.164092	
t 境界値 両側	1.975387	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問9】

	女子	男子
平均	2.84375	2.639344
分散	1.059539	1.034426
観測数	96	61
プールされた分散	1.049818	
仮説平均との差異	0	
自由度	155	
t	1.218391	
P(T<=t) 片側	0.112463	
t 境界値 片側	1.654744	
P(T<=t) 両側	0.224927	
t 境界値 両側	1.975387	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問10】

	女子	男子
平均	4.041667	3.770492
分散	1.008772	1.013115
観測数	96	61
プールされた分散	1.010453	
仮説平均との差異	0	
自由度	155	
t	1.647563	
P(T<=t) 片側	0.050734	
t 境界値 片側	1.654744	
P(T<=t) 両側	0.101468	
t 境界値 両側	1.975387	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問11】

	女子	男子
平均	3.197917	2.508197
分散	1.46568	1.187432
観測数	96	61
プールされた分散	1.357971	
仮説平均との差異	0	
自由度	155	
t	3.61475	
P(T<=t) 片側	0.000203	
t 境界値 片側	1.654744	
P(T<=t) 両側	0.000406 ***	
t 境界値 両側	1.975387	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問12】

	女子	男子
平均	3.041667	2.606557
分散	1.240351	1.375956
観測数	96	61
プールされた分散	1.292843	
仮説平均との差異	0	
自由度	155	
t	2.337094	
P(T<=t) 片側	0.010357	
t 境界値 片側	1.654744	
P(T<=t) 両側	0.020714 **	
t 境界値 両側	1.975387	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問13】

	女子	男子
平均	2.854167	2.983607
分散	1.199561	1.18306
観測数	96	61
プールされた分散	1.193174	
仮説平均との差異	0	
自由度	155	
t	-0.72371	
P(T<=t) 片側	0.235166	
t 境界値 片側	1.654744	
P(T<=t) 両側	0.470332	
t 境界値 両側	1.975387	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問14】

	女子	男子
平均	4.15625	3.393443
分散	1.270066	1.542623
観測数	96	61
プールされた分散	1.375572	
仮説平均との差異	0	
自由度	155	
t	3.972135	
P(T<=t) 片側	5.44E-05	
t 境界値 片側	1.654744	
P(T<=t) 両側	0.000109 ***	
t 境界値 両側	1.975387	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問15】

	女子	男子
平均	3.927083	3.180328
分散	1.584101	1.650273
観測数	96	61
プールされた分散	1.609716	
仮説平均との差異	0	
自由度	155	
t	3.594632	
P(T<=t) 片側	0.000218	
t 境界値 片側	1.654744	
P(T<=t) 両側	0.000436 ***	
t 境界値 両側	1.975387	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問16】 【質問17】 【質問18】

	女子	男子		女子	男子		女子	男子
平均	4.6875	4.540984	平均	3.833333	3.819672	平均	4.041667	3.983607
分散	0.364474	0.552459	分散	0.814035	1.283607	分散	0.840351	0.749727
観測数	96	61	観測数	96	61	観測数	96	61
プールされた分散	0.437242		プールされた分散	0.995805		プールされた分散	0.805271	
仮説平均との差異	0		仮説平均との差異	0		仮説平均との差異	0	
自由度	155		自由度	155		自由度	155	
t	1.353243		t	0.083609		t	0.395146	
P(T<=t) 片側	0.088974		P(T<=t) 片側	0.466738		P(T<=t) 片側	0.346639	
t 境界値 片側	1.654744		t 境界値 片側	1.654744		t 境界値 片側	1.654744	
P(T<=t) 両側	0.177948		P(T<=t) 両側	0.933475		P(T<=t) 両側	0.693278	
t 境界値 両側	1.975387		t 境界値 両側	1.975387		t 境界値 両側	1.975387	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問19】

	女子	男子
平均	3.947917	3.786885
分散	0.934101	0.970492
観測数	96	61
プールされた分散	0.948188	
仮説平均との差異	0	
自由度	155	
t	1.009983	
P(T<=t) 片側	0.157039	
t 境界値 片側	1.654744	
P(T<=t) 両側	0.314077	
t 境界値 両側	1.975387	

#### 消極的グループ男女間 t検定結果

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問1】 【質問2】 【質問3】

	女子	男子		女子	男子		女子	男子
平均	3.037037037	2.2916667	平均	3.5555556	2.583333	平均	3.296296	2.770833
分散	1.037037037	0.9343972	分散	1.1794872	1.524823	分散	1.216524	1.371897
観測数	27	48	観測数	27	48	観測数	27	48
プールされた分散	0.970953831		プールされた分散	1.4018265		プールされた分散	1.316559	
仮説平均との差異	0		仮説平均との差異	0		仮説平均との差異	0	
自由度	73		自由度	73		自由度	73	
t	3.144450079		t	3.4134244		t	1.90368	
P(T<=t) 片側	0.00120332		P(T<=t) 片側	0.000525		P(T<=t) 片側	0.030447	
t 境界値 片側	1.665996479		t 境界値 片側	1.6659965		t 境界値 片側	1.665996	
P(T<=t) 両側	0.00240664 ***		P(T<=t) 両側	0.00105 ***		P(T<=t) 両側	0.060894 *	
t 境界値 両側	1.992998477		t 境界値 両側	1.9929985		t 境界値 両側	1.992998	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問4】 【質問5】 【質問6】

	女子	男子		女子	男子		女子	男子
平均	3.296296	4.020833	平均	2.185185	1.729167	平均	3.62963	3.291667
分散	1.60114	1.16977	分散	0.925926	0.967642	分散	0.780627	1.785461
観測数	27	48	観測数	27	48	観測数	27	48
プールされた分散	1.323408		プールされた分散	0.952784		プールされた分散	1.427575	
仮説平均との差異	0		仮説平均との差異	0		仮説平均との差異	0	
自由度	73		自由度	73		自由度	73	
t	-2.6181		t	1.942035		t	1.175822	
P(T<=t) 片側	0.005372		P(T<=t) 片側	0.027996		P(T<=t) 片側	0.121743	
t 境界値 片側	1.665996		t 境界値 片側	1.665996		t 境界値 片側	1.665996	
P(T<=t) 両側	0.010745 **		P(T<=t) 両側	0.055991 *		P(T<=t) 両側	0.243487	
t 境界値 両側	1.992998		t 境界値 両側	1.992998		t 境界値 両側	1.992998	



t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 【質問7】 【質問8】 【質問9】

	女子	男子
平均	2.222222	1.8125
分散	1.102564	0.964096
観測数	27	48
プールされた分散	1.013413	
仮説平均との差異	0	
自由度	73	
t	1.691874	
P(T<=t) 片側	0.047467	
t 境界値 片側	1.665996	
P(T<=t) 両側	0.094935 *	
t 境界値 両側	1.992998	

	女子	男子
平均	3.111111	3.145833
分散	1.25641	1.871897
観測数	27	48
プールされた分散	1.652683	
仮説平均との差異	0	
自由度	73	
t	-0.11228	
P(T<=t) 片側	0.455457	
t 境界値 片側	1.665996	
P(T<=t) 両側	0.910913	
t 境界値 両側	1.992998	

	女子	男子
平均	2.481481	2.229167
分散	0.566952	1.286791
観測数	27	48
プールされた分散	1.03041	
仮説平均との差異	0	
自由度	73	
t	1.03326	
P(T<=t) 片側	0.152447	
t 境界値 片側	1.665996	
P(T<=t) 両側	0.304893	
t 境界値 両側	1.992998	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 【質問10】 【質問11】 【質問12】

	女子	男子
平均	3.888889	3.479167
分散	0.948718	1.786791
観測数	27	48
プールされた分散	1.488299	
仮説平均との差異	0	
自由度	73	
t	1.396099	
P(T<=t) 片側	0.083458	
t 境界値 片側	1.665996	
P(T<=t) 両側	0.166916	
t 境界値 両側	1.992998	

	女子	男子
平均	3	2.083333
分散	1.461538	0.843972
観測数	27	48
プールされた分散	1.063927	
仮説平均との差異	0	
自由度	73	
t	3.69426	
P(T<=t) 片側	0.000212	
t 境界値 片側	1.665996	
P(T<=t) 両側	0.000423 ***	
t 境界値 両側	1.992998	

	女子	男子
平均	2.62963	1.8125
分散	1.242165	1.134309
観測数	27	48
プールされた分散	1.172723	
仮説平均との差異	0	
自由度	73	
t	3.136643	
P(T<=t) 片側	0.001232	
t 境界値 片側	1.665996	
P(T<=t) 両側	0.002464 ***	
t 境界値 両側	1.992998	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 【質問13】 【質問14】 【質問15】

	女子	男子
平均	2.62963	2.4375
分散	1.165242	1.442819
観測数	27	48
プールされた分散	1.343956	
仮説平均との差異	0	
自由度	73	
t	0.688928	
P(T<=t) 片側	0.246526	
t 境界値 片側	1.665996	
P(T<=t) 両側	0.493053	
t 境界値 両側	1.992998	

	女子	男子
平均	4.037037	3.104167
分散	1.652422	2.393174
観測数	27	48
プールされた分散	2.129344	
仮説平均との差異	0	
自由度	73	
t	2.657481	
P(T<=t) 片側	0.004833	
t 境界値 片側	1.665996	
P(T<=t) 両側	0.009666 ***	
t 境界値 両側	1.992998	

	女子	男子
平均	3.703704	3.041667
分散	0.985755	1.998227
観測数	27	48
プールされた分散	1.63762	
仮説平均との差異	0	
自由度	73	
t	2.15054	
P(T<=t) 片側	0.017412	
t 境界値 片側	1.665996	
P(T<=t) 両側	0.034824 **	
t 境界値 両側	1.992998	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定 t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
 【質問16】 【質問17】 【質問18】

	女子	男子
平均	4.592593	3.9375
分散	0.789174	1.591755
観測数	27	48
プールされた分散	1.305904	
仮説平均との差異	0	
自由度	73	
t	2.382972	
P(T<=t) 片側	0.009889	
t 境界値 片側	1.665996	
P(T<=t) 両側	0.019778 **	
t 境界値 両側	1.992998	

	女子	男子
平均	3.444444	2.791667
分散	1.794872	2.04078
観測数	27	48
プールされた分散	1.953196	
仮説平均との差異	0	
自由度	73	
t	1.94162	
P(T<=t) 片側	0.028021	
t 境界値 片側	1.665996	
P(T<=t) 両側	0.056043 *	
t 境界値 両側	1.992998	

	女子	男子
平均	3.407407	2.958333
分散	1.481481	1.615248
観測数	27	48
プールされた分散	1.567605	
仮説平均との差異	0	
自由度	73	
t	1.490979	
P(T<=t) 片側	0.070138	
t 境界値 片側	1.665996	
P(T<=t) 両側	0.140276	
t 境界値 両側	1.992998	

t-検定：等分散を仮定した2標本による検定  
【質問19】

	女子	男子
平均	3.148148	2.5
分散	1.592593	1.957447
観測数	27	48
プールされた分散	1.827499	
仮説平均との差異	0	
自由度	73	
t	1.993047	
P(T<=t) 片側	0.024997	
t 境界値 片側	1.665996	
P(T<=t) 両側	0.049994 **	
t 境界値 両側	1.992998	

## 中学校音楽科の本質的意義

21世紀に向けて、新しい時代の教育の在り方が問われている今、**中学校音楽科の教科の目標は、次の通りである。「表現および鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う。」**前提として「表現および鑑賞の幅広い活動を通して」行われることとある。その中での3つのねらいは、生活を明るく豊かにするための「**音楽を愛好する心情を育てる**」、教科の特性にかかわる「**音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばす**」、人間形成をめざす「**豊かな情操を養う**」である。

「幅広い活動」とは、生徒が楽しく音楽とかわるために多様な音楽活動を求めているからであり、「音楽を愛好する心情」とは、音楽の価値を理解した上に成り立つ、音楽への永続的な愛好心であり、感情的な動きの中を感じとる中で、生涯にわたって音楽を愛好する心情が身に付いていく。

「音楽に対する感性」とは、**刺激を聴覚から感覚的に「感じる」音や音楽を「知覚」する雰囲気や特質を「感じ取る」**こうした単なる刺激として受け入れた音や音楽を、経験や学習を積み重ねることによって、自分にとって美しい音とはこういう音、こういう響きは豊である、という意味付けが心の中にできあがる。結果、音楽の豊かさや美しさをそれぞれの感じ方で味わうことができるようになる。

**したがって、音楽科において感性を働かせようとするには音楽の豊かさや美しさを感じ取らせる経験を通して音や音楽を知覚する能力を育成することが必要であるといえる。**

したがって、音楽科は生徒のさまざまな感情を中心とした活動を行うことから、美的情操に限らず、生涯におけるあらゆる精神活動を支えるための幅広い情操を、音楽によって育成していく教科であると言える。

中学校という多感な時期に、音楽がわかることの楽しさ、できることの楽しさ、音楽との新鮮な出会いから生まれる楽しさなど、学校であるからこそ得られる音楽の感動体験を通して、感得させることが音楽科教育の原点である。それが生涯にわたっての「生きる力」の育成を図ることに繋がるものと考えられる。

## 戦前の音楽教育

日本の学校教育での音楽は、昭和 16 年 3 月 1 日 国民学校令により、第 1 章目的 第 4 条に「芸能科ハ之ヲ分チテ音楽、習字、図画及工作ノ科目トシ（略）」あるように、唱歌は「芸能科音楽」となる。

同年 3 月 14 日の国民学校令施行規則 第 1 章 教則及編制 第 2 節 教科及科目 第 13 条に「芸能科ハ国民ニ須要ナル芸術技能ヲ修練セシメ情操ヲ醇化シ国民生活ノ充実ニ資セシムルヲ以テ要旨トス（略）」とあり、第 14 条に芸能科音楽の目的は、「歌曲ヲ正シク歌唱シ音楽ヲ鑑賞スルノ能力ヲ養ヒ国民的情操ヲ醇化スルモノトス（略）」と示される。なお歌唱教材も単旋律の曲の他に輪唱、合唱の採用、また鑑賞、器楽、楽典等の指導も挙げている。

初等科の時数は 2 時間、内容は歌唱、鑑賞、基礎練習となっている。高等科は 1 時間となっている。当時、義務教育は尋常小学校 6 年で、高等小学校 2 年は義務教育ではなかった。

## 戦後の音楽科教育の流れ

昭和 20 年 8 月、日本は終戦をむかえ、教育をとりまくあらゆる面で大改革に向けて動き出した。9 月 15 日、「新日本建設ノ教育指針」の教科書の訂正削除により、音楽教材（「君が代」「兵隊さん」「ももたろう」など）にも適用される。

昭和 21 年 3 月 30 日、米国教育使節団が、報告書を提出した。その中には新教育指針で、太平洋戦争中の音楽・芸能文化が軍国主義と結びついていたことを反省し、新しい芸能文化の振興を明記した。暫定音楽教科書の発行国家主義、軍国主義に相当する曲目の削除、原則としてドレミ階名唱法に則るとの方針であった。

## 学習指導要領音楽科（中学校）の変遷

昭和 22 年・26 年に試案として発刊された学習指導要領は、33 年からは文部省告示として法的拘束力をもつようになり、43 年・52 年・平成元年・10 年と改訂された。

### 「試案の時代」

\* 昭和 22 年 3 月 教育基本法・学校教育法が公布され、4 月には 6・3 制が発足した。

\* 昭和 22 年 6 月 13 日には文部省から、学習指導要領音楽科編（試案）が発行された。

芸術としての音楽の本質が問われ「音楽は、音を素材とする時間的芸術である（略） 独自のことばとは何かというに、それは、音そのものであり、音の運動である。しかも、それらは、世界ただ一つの普遍語である」と明示された。

また、音楽教育においては、音楽の表現技術や、音楽に関する理論的知識並びに鑑賞法の習得や、音楽の創造力の育成などが目ざされ、それらに対する、正しく系統的な独自の学習指導法が立てられた。そして音楽教育の目標を

1. 音楽美の理解・感得を行い、これによって高い美的情操と豊かな人間性とを養う。
2. 音楽に関する知識及び技術を習得させる。
3. 音楽における創造力を養う（旋律や曲を作ること）
4. 音楽における表現力を養う。（歌うことと楽器をひくこと）
5. 楽譜を読む力及び書く力を養う。
6. 音楽における鑑賞力を養う。

として、第12章 第7学年から第9学年までの音楽指導についても、中等科において生徒は青年期に入り、自我の自覚とともに精神の成長は著しくなり、芸術に対する欲求も次第に本格的となる。したがって、音楽教育も各分野にわたって芸術的に深めるとともに、体系的に行うことが大切である。(略)特に表現力の方面では合唱・合奏に力を注ぐとともに、創作力の伸長をはかることを指導目標とした。

昭和26年(1951)6月25日に中学校 高等学校学習指導要領音楽科編(試案)改訂版が、文部省から発行された。

指導要領は、各学校で教育課程を作る場合、音楽科のあり方について、一つの基準を示したものであり、音楽の教師が実践する学習指導の手引きとなるとし、音楽の教育課程における地位を明示した。音楽教育の一般目標を(略)音楽経験をとおして、深い美的情操と豊かな人間性とを養い、円満な人格の発達をはかり、好ましい社会人としての教養を高めるとした。

昭和26年12月1日 中学校学習指導要領音楽編(試案)改訂版発行

この中では、音楽教育の一般目標をより具体的に示した。

(略)音楽経験を通じて、深い美的情操と豊かな人間性とを養い、円満な人格の発達をはかり、好ましい社会人としての教養を高める。(略)

#### 「基準の時代」

昭和33年(1958)10月1日 『中学校学習指導要領』告示、

共通教材の提示

文化・科学・産業などの急速な進展に即応して、国民の教育水準を一段と高めなければならないとし、中学校の教育においては、それぞれの教育目標の達成にいつそう努力し、教育課程の改訂を行う必要があったとした。

中学校音楽科では、目標を

- 1 音楽の表現や鑑賞を通して美的感覚を洗練し、情操を高め豊かな人間性を養う。
- 2 音楽を表現する喜びを味わせるとともに、音楽表現に必要な技術に習熟させ、音楽によって創造的な表現ができる能力を伸ばす。
- 3 わが国および世界のすぐれた音楽に親しませ、よい音楽を愛好する心情を養い、鑑賞する能力を高める。
- 4 わが国および世界の音楽文化に対する正しい理解を得させ、すぐれた音楽を継承し、わが国の音楽文化を向上させようとする基礎的な態度を養う。
- 5 音楽の表現や鑑賞によって得た美的情操や音楽的能力をもって音楽を生活に生かし、生活を豊かにする態度や習慣を育てる。

以上の目標の各項目は、相互に密接な関連をもって、全体として音楽科の目標をなすものであるから、指導にあたっては、この点を常に考慮しなければならない。とされた。

昭和44年(1969)4月14日 『中学校学習指導要領』告示(「基礎」領域を新設)

### 「基礎の重視」

中学校音楽科では、目標を「音楽の表現や鑑賞の能力を高め、鋭敏な直観力と豊かな感受性を育て、創造的で情操豊かな人間性を養う。」としたこのため、

- 1 歌唱、器楽、創作の喜びを味わわせるとともに、それらに必要な技能に習熟させ、音楽によって創造的な表現ができる能力を伸ばす。
- 2 わが国および諸外国のすぐれた音楽に親しませ、よい音楽を愛好する心情を養い、音楽が鑑賞できる能力を高める。
- 3 音楽の諸要素について感得し理解させるとともに、楽譜に関する知識や技能を高め、自主的、創造的な音楽活動の基礎的な能力を伸ばす。
- 4 わが国および諸外国の音楽文化を理解させるとともに、よい音楽を生活に生かし、生活を明るく豊かにする態度や習慣を育てる。

昭和 52 年（1977）7 月 23 日 『中学校学習指導要領』告示

（「君が代」を国歌として規定）

領域の統合、内容の精選

中学校音楽科では、目標を「表現及び鑑賞の能力を伸ばし、音楽性を高めるとともに、音楽を愛好する心情を育て、豊かな情操を養う。」とした。

昭和 64 年（平成元年）（1989）3 月 15 日 『中学校学習指導要領』告示

豊かな感性、個性的・創造的な学習活動。

中学校音楽科では、目標を「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽性を伸ばすとともに、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育て、豊かな情操を養う。」とした。

平成 10 年（1998）12 月 14 日 中学校学習指導要領告示

愛好する心情、内容の厳選、小学校唱歌を除く共通教材曲目指定の廃止。

目標設定の背景

学習指導要領に示されている、中学校音楽科の目標は次の通りである。

「表現および鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う。」

「音楽」という教科は、必修教科及び選択教科の一つとして位置づけられている。（学校教育法施行規則、第 53 条 同、第 54 条の 2）このように法的根拠と並んで、現代の社会的・文化的状況の変化に対応する音楽科教育への期待という社会的背景が「音楽」という教科・科目の重要な存在理由となっている。

すなわち、これからの学校教育に求められる社会的期待とは、人間像、学力観、教育観であり、そうした期待を実現する教科の一つとして「音楽」は中等科教育において欠くことのできない教育過程の構成要素となっている。

音楽活動の中には、感動体験の共有、知性と感性の融合、精神の集中と意志の持続、人間感情の純化、感性による現実認識といった教育的価値が本来的に含まれており、これらの価値の実現を通して、これからの学校教育に求められる人間像、学力観、教育観の実践的追求において音楽科は、重要な役割を担っている。

感性（sensitivity 英）とは・・・対象からの刺激を感受する直感的能力を指す。

音や音楽を単に刺激として受け入れるだけでなく、それらの価値を鋭く知覚して自らの音楽活動にフィードバックしていく源となる鋭敏な直観力を意味する。

- \* 広辞苑では  
 外界の刺激に応じて感覚・知覚を生ずる感受性。  
 感覚によって呼び起こされ、それに支配される体験。したがって、感覚に伴う感情や衝動・欲望も含む。 とある。

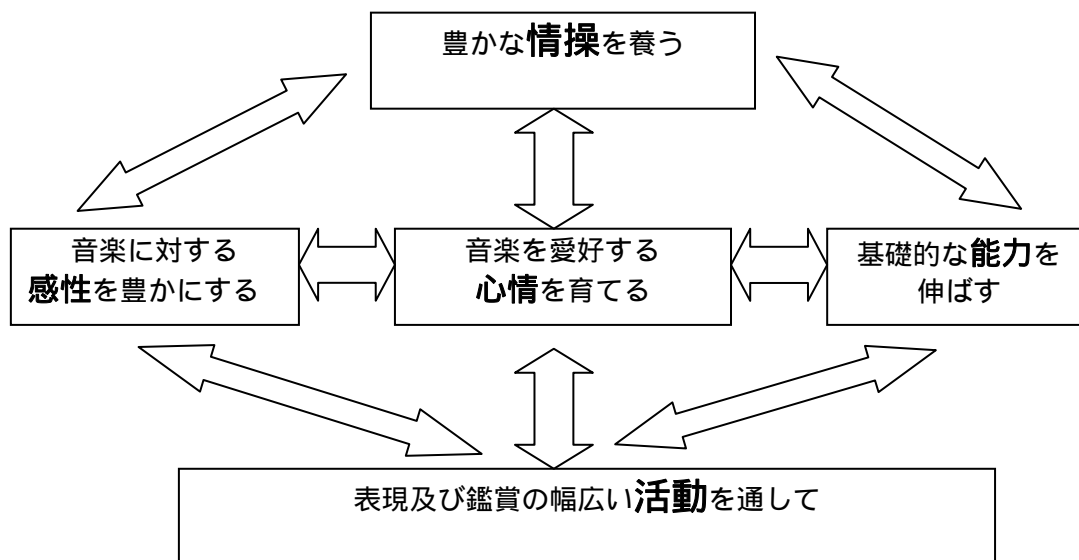


図 中学校学習指導要領・音楽科の目標の構造図

音楽科の目標は、活動・心情・感性・能力・情操の5つのキーワードが含まれているので、上記のように構造化してみると理解しやすい。感性 心情 能力 は不即不離の相互関係を保ちながら、常に 具体的活動を通して の究極目標に限りなく近づいていく。(収れんされていく)

\*平成14年4月1日 実施

昭和50年代以降は、中央教育審議会が「生涯教育について」答申を行い、社会の変化に対応できる学習社会を提唱し、学校教育も詰め込み方式の教育から、ゆとりある生徒の側に立つ教育へと転換が図られた。

引き続き、平成年代の教育は、自己教育力 国際理解 生涯教育 などのキーワードとして改革が進められ、音楽教育にも「創造的音楽学習」「民族音楽学習」などが導入された。

今日の学校音楽教育は、子どもたちの内発的動機を重視しつつ、それなりの表現技術のうえに立って行われる自己表現を助け、様々な音楽との出会いを用意してやることが求められている。

心の廃墟が叫ばれ重大課題となっている今、音楽教育に携わる者たちの責任はきわめて重いといえることができる。

## 音楽に関するアンケート

あなたの中学校時代の音楽の授業や活動、現在の音楽に関する生活の様子、音楽に対する考えなどについて、質問をいくつかします。このアンケート結果については、研究以外の目的で使用したり、公表するようなことはありません。思った通り、感じた通りをお答え下さいますよう、ご協力をお願いします。

最初にあなたの年齢、性別、学校、職業を教えてください。

年齢 (                      )                      性別 ( 男 ・ 女 )

学校 ( 高校 ・ 大学 ・ 社会人 )

これから質問をさせていただきます。全部で20問あります。途中ぬけないように、すべての質問に答えて下さい。

答えは、5つの回答項目から当てはまると思われる数字に をつけてください。

なお、5つの項目は以下のようになっています。

( 5	4	3	2	1)
大	少	ど	あ	全
変	し	ち	ま	く
よ	あ	ら	り	あ
く	て	で	あ	て
あ	は	も	て	は
て	ま	な	は	ま
は	る	い	ま	ら
ま			ら	な
る			い	い

それでは、お願いします。  
質問の右側の該当する番号に  
をつけて下さい。

( 裏面 【質問1】へ )

中学校時代のことでお聞きします

- 【質問1】音楽の授業が楽しかったから、授業が待ち遠しかった。(5 4 3 2 1)  
 【質問2】学校時代に歌うことは好きだった。(5 4 3 2 1)  
 【質問3】今も印象に残っている中学校時代の音楽の行事があった。(5 4 3 2 1)  
 【質問4】学校時代に、音楽で恥ずかしい思いをしたことがあった。(5 4 3 2 1)  
 【質問5】学校時代の友人・先輩・家族の刺激を受けて音楽を好きになったといえる。(5 4 3 2 1)  
 【質問6】みんなで合唱したり合奏したりすることはよい体験だった(5 4 3 2 1)  
 【質問7】学校で出会った音楽の指導者の影響で音楽を好きになった(5 4 3 2 1)  
 【質問8】音楽に対して、学校時代に苦手な意識や劣等感があった。(5 4 3 2 1)

今の気持ち、思いはどうですか？

- 【質問9】学校時代の音楽の活動が、音楽を理解したり愛好したりするきっかけとなった。(5 4 3 2 1)  
 【質問10】曲を聞いた時、その曲が学校で習った曲であると分る。(5 4 3 2 1)  
 【質問11】習った曲の楽譜をみて歌ったり、演奏したりできる。(5 4 3 2 1)  
 【質問12】学校で学習した音楽の知識が(記号や、音符など)今でも役に立っている。(5 4 3 2 1)  
 【質問13】歌をうたうとき、無理なく声を出すことができる。(5 4 3 2 1)  
 【質問14】簡単な楽譜が、階名で(ドレミ～)で読める。(5 4 3 2 1)  
 【質問15】学校で習った楽器(リコーダー・鍵盤ハーモニカ等)の指使いがわかる。(5 4 3 2 1)  
 【質問16】家で音楽が聞ける機器(テレビ、ラジオ、CD,MD)や楽器などが身近にある。(5 4 3 2 1)  
 【質問17】中学校時代に習った曲で、今も印象(心)に残っている曲がある。(5 4 3 2 1)  
 【質問18】音楽が流れていると、こころがリラックスする。(5 4 3 2 1)  
 【質問19】楽器を演奏したり、歌ったりできるようになりたいという思いがある。(5 4 3 2 1)  
 【質問20】これから、何らかの音楽にかかわって、(音楽にふれた)生活がしたいと思う。(5 4 3 2 1)

**以上で質問を終わります。ご協力ありがとうございました。  
 今後の音楽教育の実践に役立てていきたいと思いを。**



## 音楽に関するアンケート

あなたの学校時代の音楽環境や生活、現在の音楽に関する生活の様子、音楽に対する考えなどについて、質問をいくつかします。このアンケート結果については、研究以外の目的で使用したり、公表するようなことはありません。思った通り、感じた通りをお答え下さいますよう、ご協力をお願いします。

最初にあなたの年齢、性別、職業を教えてください。

年齢 (            )            性別 ( 男 ・ 女 )

これから質問をさせていただきます。全部で20問あります。途中ぬけないように、すべての質問に答えて下さい。

答えは、5つの回答項目から当てはまると思われる数字に をつけてください。

なお、5つの項目は以下のようになっています。

( 5   4   3   2   1 )

大	少	ど	あ	全
変	し	ち	ま	く
よ	あ	ら	り	あ
く	て	で	あ	て
あ	は	も	て	は
て	ま	な	は	ま
は	る	い	ま	ら
ま			ら	な
る			な	い

それでは、お願いします。  
質問の右側の該当する番号に  
をつけて下さい。

( 裏 面 【 質問1 】 へ )

学校時代のことでお聞きします

- 【質問 1】歌を歌う時間が楽しかったから、その時の事をよく覚えている。  
(5 4 3 2 1)
- 【質問 2】学校時代に歌うことは好きだった。・・・・・・・・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問 3】学校時代に歌った曲で今も歌える曲がある。・・・・・・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問 4】学校時代に、音楽で恥ずかしい思いをしたことがあった。(5 4 3 2 1)
- 【質問 5】学校時代の友人・先輩・家族の刺激を受けて音楽を好きになったといえる。・・・・・・・・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問 6】みんなで歌ったり音楽を聞いたりすることはよい体験だったと思う。・・・・・・・・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問 7】学校で出会った音楽の指導者の影響で音楽を好きになった(5 4 3 2 1)
- 【質問 8】音楽に対して、学校時代に苦手な意識や劣等感があった。  
(5 4 3 2 1)

今の気持ち、思いはどうですか？

- 【質問 9】学校時代の音楽の活動が、音楽を理解したり愛好したりするきっかけとなった。・・・・・・・・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問 10】曲を聞いた時、その曲がかつて覚えた曲であると分る。・・(5 4 3 2 1)
- 【質問 11】習った曲の楽譜をみて歌ったり、演奏したりできる。・・(5 4 3 2 1)
- 【質問 12】かつて教えてもらったり、知っていた音楽の知識が(記号や、音符など)今でも役に立っている。・・・・・・・・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問 13】歌をうたうとき、無理なく声を出すことができる。・・(5 4 3 2 1)
- 【質問 14】簡単な楽譜が、階名で(ドレミ～)で読める。・・・・・・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問 15】何か楽器が演奏できる(ピアノ・笛・三味線・尺八・箏など(5 4 3 2 1)
- 【質問 16】家で音楽が聞ける機器(テレビ、ラジオ、CD,MD)や楽器などが身近にある。・・・・・・・・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問 17】学校時代に習った曲で、今も印象(心)に残っている曲がある。・・・・・・・・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問 18】音楽が流れていると、こころがリラックスする。・・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問 19】楽器を演奏したり、歌ったりできるようになりたいという思いがある。・・・・・・・・・・(5 4 3 2 1)
- 【質問 20】これから、何らかの音楽にかかわって、(音楽にふれた)生活がしたいと思う。・・・・・・・・・・(5 4 3 2 1)

**以上で質問を終わります。ご協力ありがとうございました。  
今後の音楽教育の実践に役立てていきたいと思ひます。**

p 116 資料4.....本調査質問紙(中学生配布用).....

## 音楽に関するアンケート

あなたの中学校の音楽の授業や活動、音楽に関する生活の様子、音楽に対する考えなどについて、質問をいくつかします。  
このアンケートの結果については研究以外の目的で使用したり、公表するようなことはありません。思った通り、感じた通りをお答え下さいますよう、ご協力をお願いします。

最初にあなたの年齢、性別、学年を教えてください。

年齢 (            )      性別 ( 男 ・ 女 )

中学校 (            ) 年

これから質問をさせていただきます。全部で 20 問あります。  
途中ぬけないように、すべての質問に答えて下さい。  
答えは、5つの回答項目から当てはまると思われる数字に をつけてください。  
なお、5つの項目は以下のようになっています。

( 5   4   3   2   1 )

それでは、お願いします。  
質問の右側の該当する番号に  
をつけて下さい。

全くあてはまらない	1
あまりあてはまらない	2
どちらでもない	3
少しあてはまる	4
大変よくあてはまる	5

( 裏 面 【質問1】 へ )

- 【質問1】音楽の授業が楽しいから、授業が待ち遠しい。……(5 4 3 2 1)
- 【質問2】歌を歌うことは好きだ。……(5 4 3 2 1)
- 【質問3】学校の音楽の行事が印象に残っている。……(5 4 3 2 1)
- 【質問4】授業や、部活動、行事などの音楽で恥ずかしい思いをしたことがある。……(5 4 3 2 1)
- 【質問5】友人・先輩・家族の刺激を受けて音楽を好きになったといえる。……(5 4 3 2 1)
- 【質問6】みんなで合唱したり合奏したりすることはよい体験だと思う。(5 4 3 2 1)
- 【質問7】学校で出会った音楽の指導者の影響で音楽を好きになった。(5 4 3 2 1)
- 【質問8】音楽に対して、苦手な意識や劣等感がある。……(5 4 3 2 1)
- 【質問9】音楽の活動が、音楽を理解したり愛好したりするきっかけとなった。……(5 4 3 2 1)
- 【質問10】曲を聞いた時、その曲が学校で習った曲であると分る。(5 4 3 2 1)
- 【質問11】習った曲の楽譜をみて歌ったり、演奏したりできる。(5 4 3 2 1)
- 【質問12】学校で学習した音楽の知識が(記号や、音符など)将来、何かの時に役に立つと思う。……(5 4 3 2 1)
- 【質問13】歌をうたうとき、無理なく声を出すことができる。…(5 4 3 2 1)
- 【質問14】簡単な楽譜が、階名で(ドレミ～)で読める。……(5 4 3 2 1)
- 【質問15】学校で習った楽器(リコーダー・鍵盤ハーモニカ等)の指使いがわかる。……(5 4 3 2 1)
- 【質問16】家で音楽が聞ける機器(テレビ、ラジオ、CD,MD)や楽器などが身近にある。……(5 4 3 2 1)
- 【質問17】習った曲の中で、印象(心)に残っている曲がある。(5 4 3 2 1)
- 【質問18】音楽が流れていると、こころがリラックスする。……(5 4 3 2 1)
- 【質問19】楽器を演奏したり、歌ったりできるようになりたいという思いがある。……(5 4 3 2 1)
- 【質問20】これから、何らかの音楽にかかわって、(音楽にふれた)生活がしたいと思う。……(5 4 3 2 1)

以上で質問を終わります。

ご協力ありがとうございました。